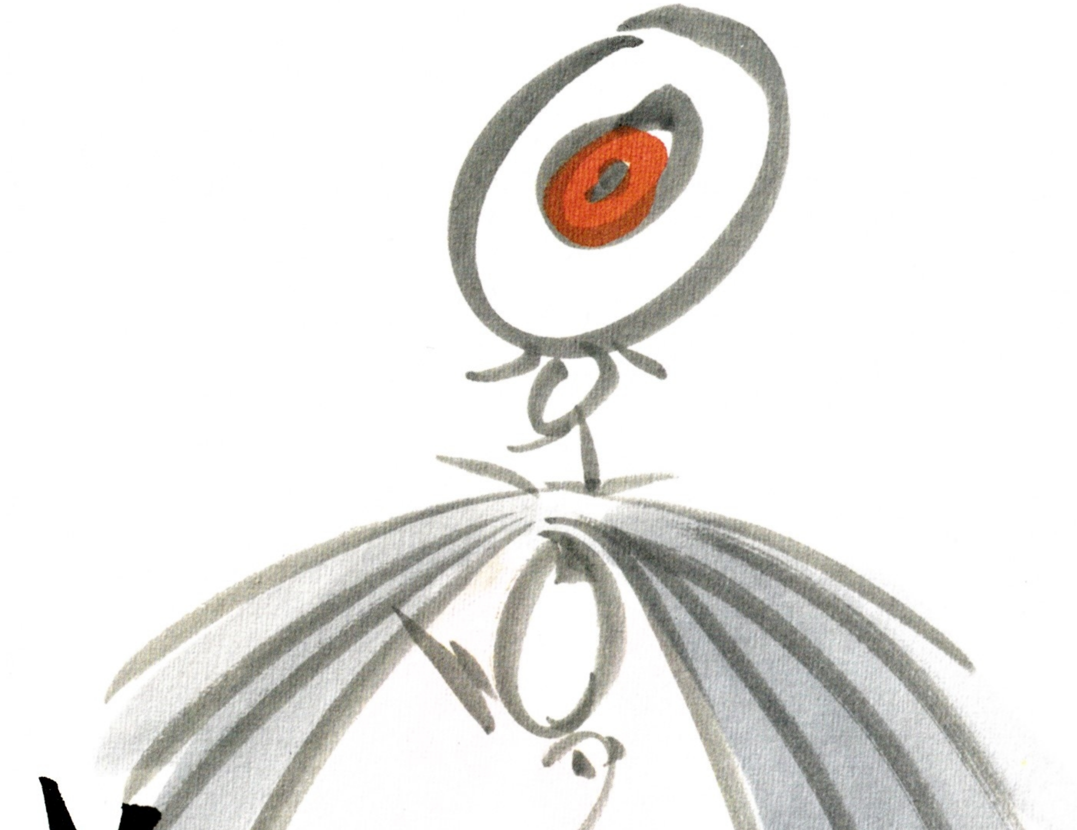
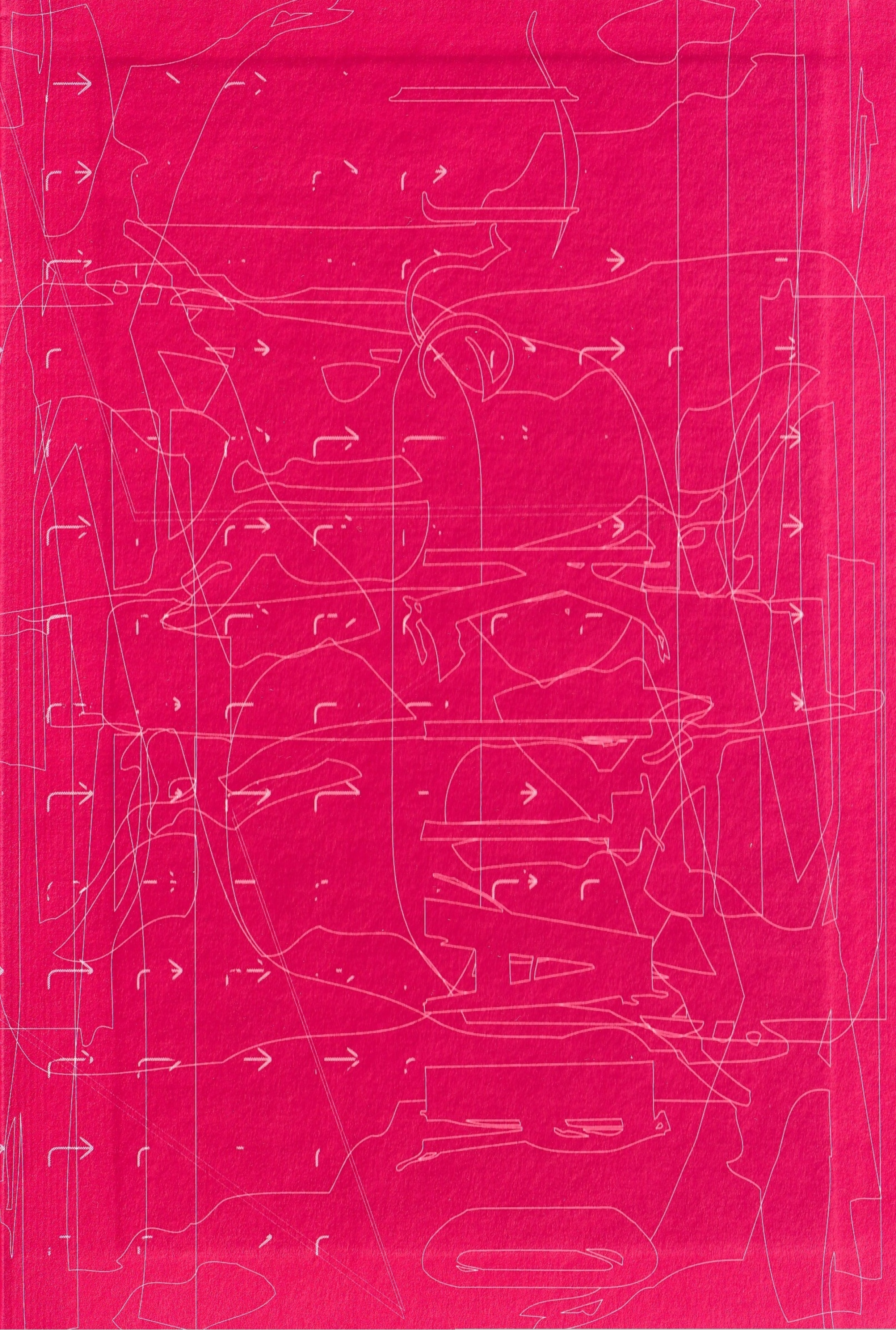
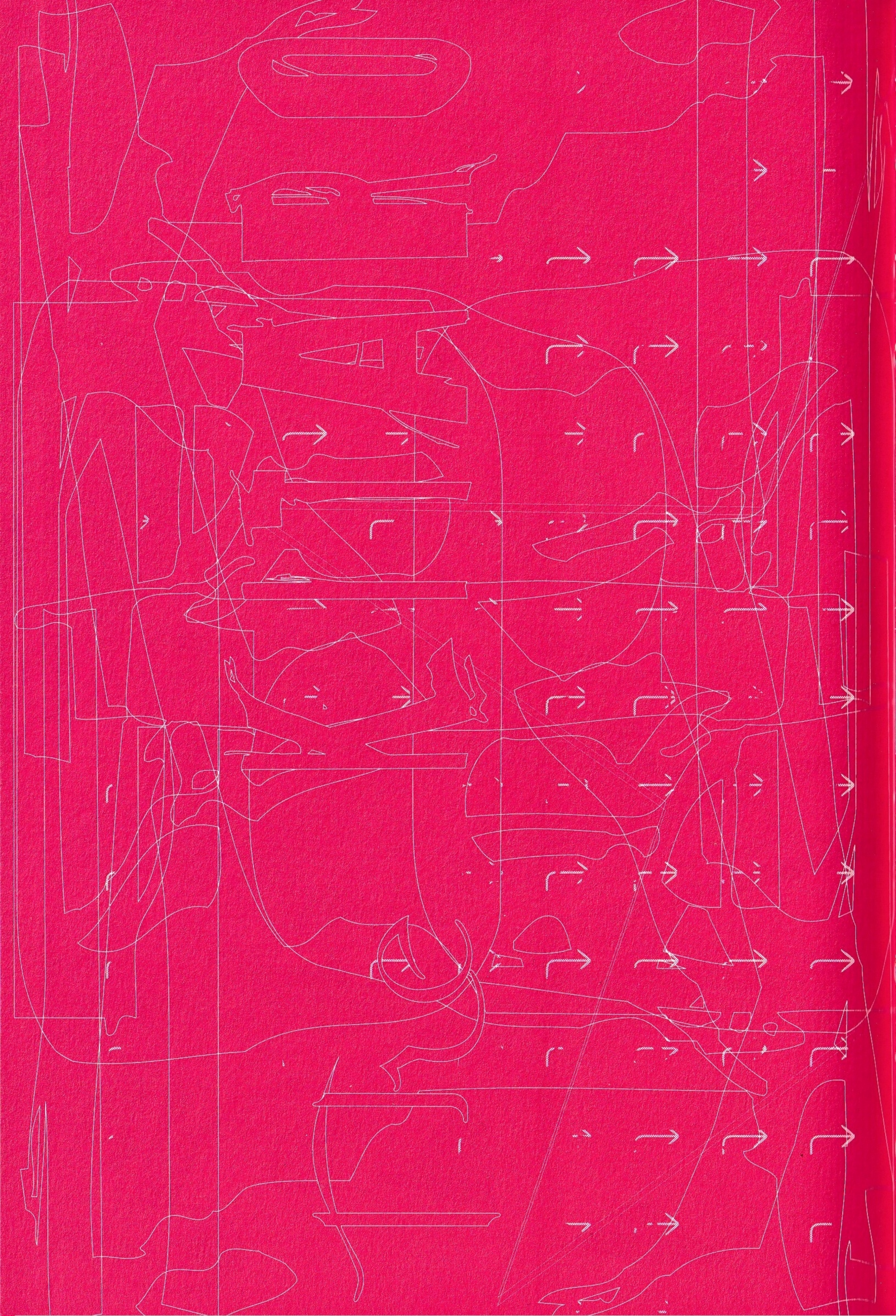
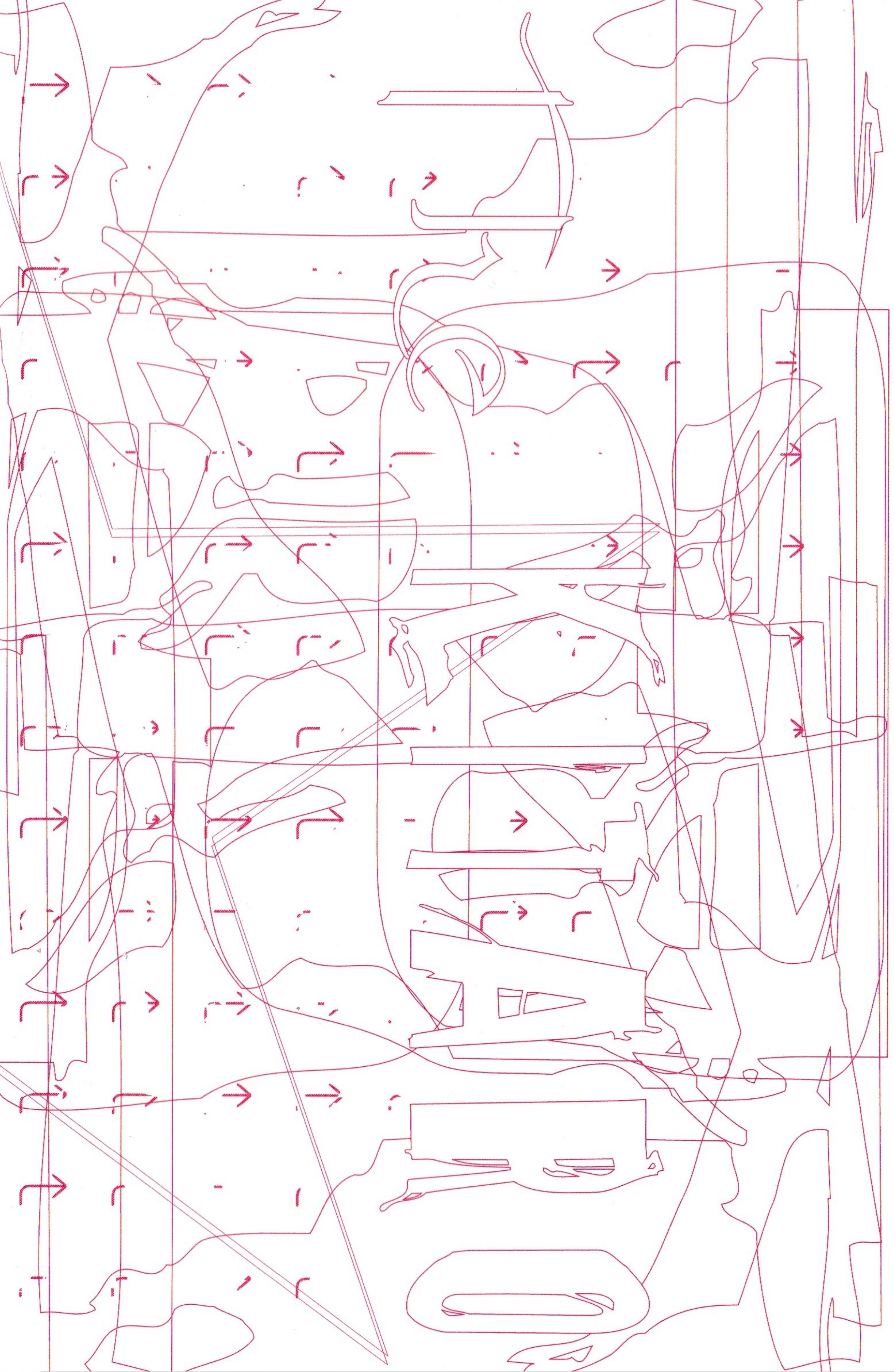
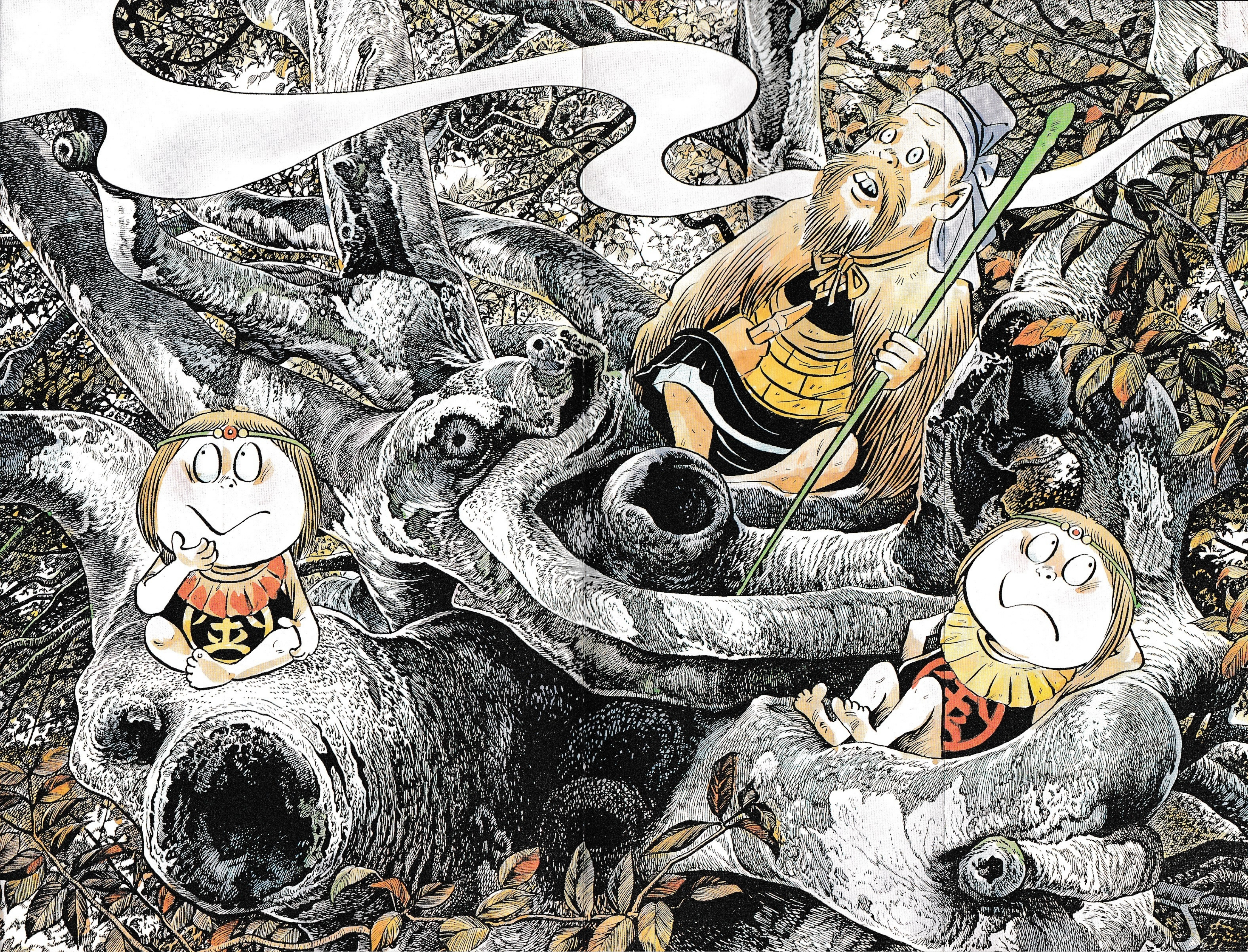

水木しげる











The KITARO

ゲゲゲの鬼太郎

水木しげる vs. 京極夏彦

MIZUKI SIGERU vs. KYOGOKU NATSUHIKO

【解体新書】

Tabulae Anatomicae.

講談社



IKKOKUDO VS KITARO

「ゲゲゲの鬼太郎」第101話［'97.12.28放映］VTR再現

「言霊使いの罠!」

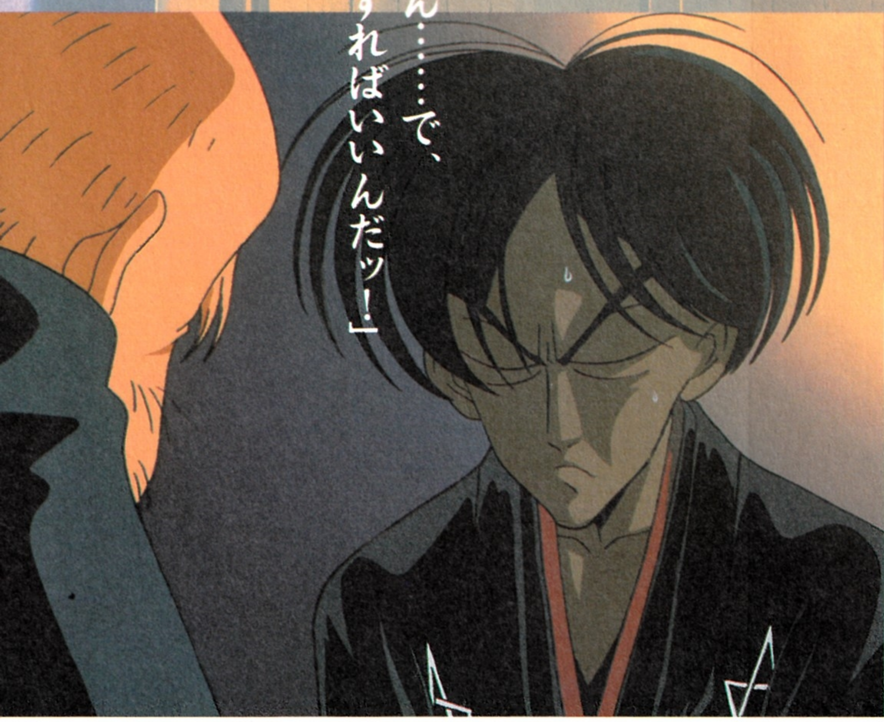


〝妖怪の天敵〟一刻堂の術に、
鬼太郎危機一髪！



▶ぬらりひょんは500年前の先祖との約束を理由に、陰陽師の一刻堂に助太刀を強要する。

ぬらりひょんと一刻堂、五百年前の約束とは!?



▲「妖怪を４～５匹祓い落としてもらいたいんです。鬼太郎といういや～な子どもとそいつの仲間をね」ニヤリと笑うぬらりひょん。ここに鬼太郎最強の敵が動き出した。



▲夜な夜な学校に現れる火輪に乗った妖怪。その正体は一刻堂が呼び出した鬼神――護法童子だった。うち続く怪異に、翔太たちは妖怪ポストへと手紙を入れる。



▲「罠だぜ……仲間を集めていかねえと」鬼太郎を追うねこ娘を、ねずみ男はけしかける。背後で糸をひいていたのは一刻堂だった。



▲やって来た鬼太郎。夕暮れの学校はシンと静まりかえっている。

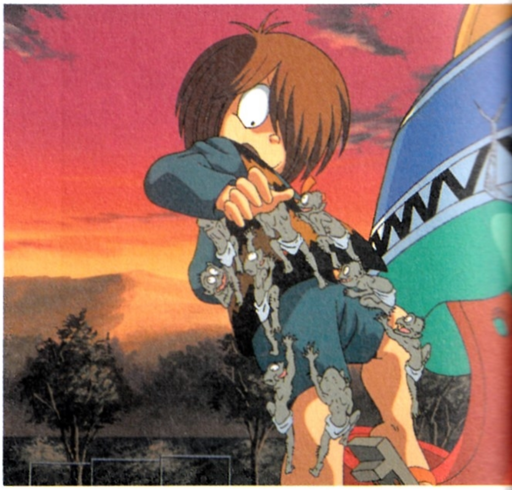


◀ようやく目玉の親父たちも追いついた。子なき爺が、埋められていた茶碗を壊すと——。



◀もろくもくだけ散る瀬戸大将。妖気がないのも道理、その正体は術によって生み出された幻覚だったのだ。

▼妖怪アンテナにも反応しない敵——むらがる小鬼たちに鬼太郎は防戦一方。



現れた瀬戸大将！はたしてこいつの正体は!?



鬼太郎の前にとつじょ現れた〝瀬戸大将〟こそ、一刻堂があやつる式神だった。

「なぜ！なぜこいつ、妖気がないんだ！」



▲すべては一刻堂の計算通りだった。描かれた巨大な五芒星が鬼太郎たちを金縛りにする！

▼ついに現れた一刻堂──「君達のようなものはいらない」



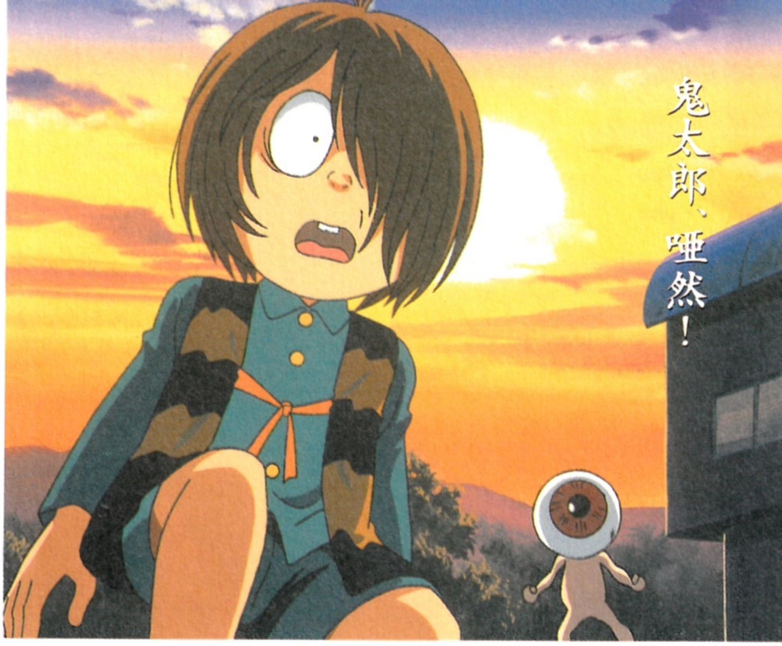




▲「君達は名前がない！……だから君達は存在しない！」すべてが真実になるという一刻堂の言葉、砂かけ婆はたちまち砂山になり──。



▲ねこ娘はねこを抱いた少女へと──。



▶おそるべき言霊の威力。かつてない恐怖に鬼太郎は立ちすくむ。

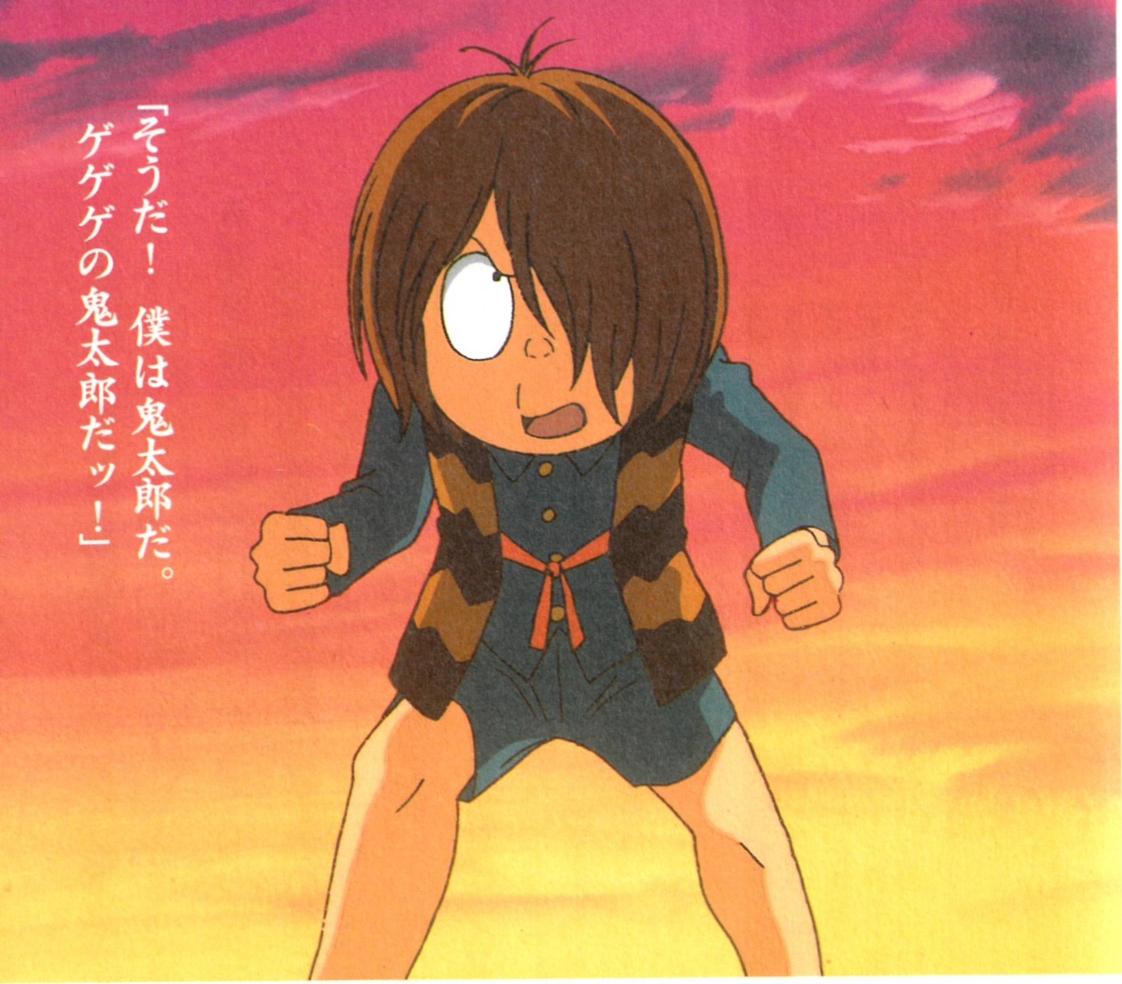
▼そしてついに目玉の親父までが！　鬼太郎、絶体絶命!!



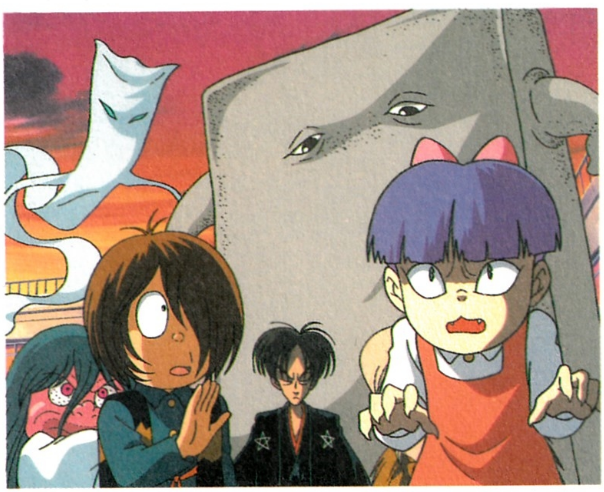
「すべて——作りごとだ」言霊の前に、鬼太郎なすすべなし!?

▼「見ろ。あそこにはきれが一反！　そこには朽ちた壁！」仲間達が次々に消えていく——。





▲「さよなら鬼太郎！」ぬらりひょんのうかつな一言で術はとけた。さあ、反撃開始だ！



▲「私はあなた方を消してしまうことを好まない」術を破られ、鬼太郎たちと和解する一刻堂。「ないと思えば何もない。あると思えばすべてある」自らの存在に悩むわが子に、目玉の親父はやさしく言い聞かせるのだった……。



CONTENTS

京極夏彦「鬼太郎の罠」に挑む！

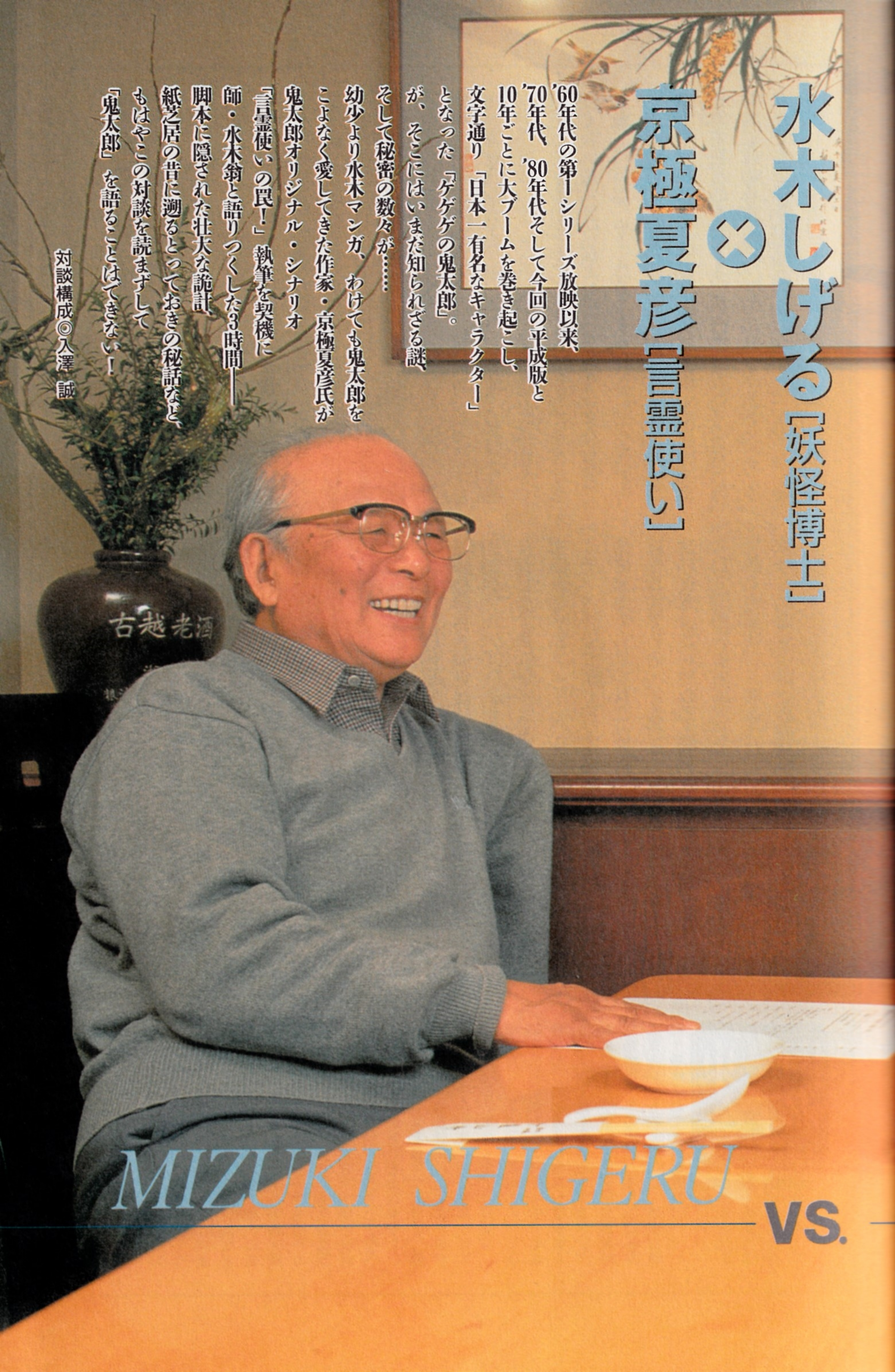


KYOGOKU NATSUHIKO

水木しげる［妖怪博士］×京極夏彦［言霊使い］

'60年代の第1シリーズ放映以来、
'70年代、'80年代そして今回の平成版と
10年ごとに大ブームを巻き起こし、
文字通り「日本一有名なキャラクター」
となった「ゲゲゲの鬼太郎」。
が、そこにはいまだ知られざる謎、
そして秘密の数々が……。
幼少より水木マンガ、わけても鬼太郎を
こよなく愛してきた作家・京極夏彦氏が
鬼太郎オリジナル・シナリオ
「言霊使いの罠！」執筆を契機に
師・水木翁と語りつくした3時間――
脚本に隠された壮大な詭計、
紙芝居の昔に遡るとっておきの秘話など、
もはやこの対談を読まずして
「鬼太郎」を語ることはできない！

対談構成◎入澤 誠



MIZUKI SHIGERU VS.



鬼太郎の土台というのは実に計算されているんです。

――初めに、なぜ今回一刻堂というキャラクターが登場したのか。というのも、まだ今回の鬼太郎に登場していない妖怪もたくさんいるなかで、あえて妖怪アンテナにひっかからない敵ですね。しかも、それは小説でいう京極堂[1]の分身ともいうべき存在であると。それについて、シナリオご執筆にいたる経緯なども含め、冒頭お話をいただければと思います。

京極　東映の方からいきなりアニメのシナリオを書きませんか、と打診がありまして、それは吃驚(びっくり)したんですけど、仕事も過密につまっていたし、普通ならお断りするところなんですが、よくよく聞くと「鬼太郎」だという。これでは断れないですね（笑）。

周知のことですが、僕は「関東水木会」[2]のメンバーですから、水木先生に失礼があっては仲間に粛清(しゅくせい)されてしまう――というのは冗談ですが、自他共に認める水木ファンであり、水木作品のマニアであり、水木本のコレクターであり、弟子を勝手に名乗っている僕としましては、これは何を横にどけてもやらねばなるまいと。

ただ、戸惑いがなかったわけではないです。敬愛する水木作品を勝手につくっちゃっていいのかというためらいですね。マニアというのは時に偏狭(へんきょう)なものですが、「関東水木会」のスタンスというのは非常に懐(ふところ)が深くて（笑）、アニメシリーズも水木作品としてちゃんとカウントしている。コレクターズアイテムをコレクターがつくっちゃっていいのか。これは冒瀆(ぼうとく)ではないのか――というような、一般的には理解しにくい葛藤(かっとう)があって（笑）。まあこれは光栄なことなんだと素直に受け止めて、結局書いちゃったんですが、今までは「推薦文もらったファンはいるまい」[3]というのが自慢だったんですが、これからは「脚本書いたマニアもいるまい」ですね。

で、内容ですが、僕は鬼太郎作品は、もうつぶさに読んでます。雑誌から単行本から、暗記するほど読んでいる。どのコマがどこでヴァージョン違いになったかわかる（笑）。だから原作は熟知している。のみならず、過去3回のアニメ[4]も全部見ているんです。

水木　（のけぞって）全部見たんですか。すごいですね。

1　本名・中禅寺秋彦。言わずと知れた京極ワールドの中心的人物。趣味同然の古書店「京極堂」を営むかたわら、代々の家業である「武蔵晴明社」の神主をつとめる。やせぎすで常に仏頂面を崩さず、希代の偏屈、皮肉屋。量子力学から民俗・宗教、はてはLSDまで分野を問わぬ博覧強記で、怪異な謎と犯罪に対峙。しかしその立場は従来の探偵小説における探偵とは微妙に異なっており、事件を覆う〝憑物〟を落とす――いわゆる〝憑物落とし〟によって、謎そのものの解体・無効化をはかるという――。

2　'93年11月に創立メンバー6名で結成された、水木作品と水木しげる本人をこよなく愛する者たちのファンダム。数ある同種の団体のなか、「世界妖怪会議」への参加、水木しげる作品完全リストの作成など、地道な研究・奉仕活動で光彩を放つ。



京極氏意匠による同会マーク

京極　全部録画していますから。

水木　かなり時間がかかるでしょう。

京極　かかりますね。10年前にやったやつでも115本あるわけですよ。その前にやったのが合わせて110本ですから、200本以上あるわけです。放映中のものと映画を入れると大変な量です。

水木　いやね、ずっと前に東映動画のプロデューサーの清水さんが言っていたんですよ。「タネに困っているんだけど、京極先生に……」と言うから、「それはいい、ぜひ頼んでごらんなさい」と。

――　そうなんですか、それがおおもとだったんですね。天の声だ。

水木　いい考えですよと言ったんです。困っていたんですよ、東映動画さんは。

京極　そういうわけで、僕はどういう傾向のものがどのくらいあって――というパターンのヴァリエーションはすっかり把握している。そこでまた困ってしまった。シリーズものというのはパターンが大事なんです。お約束があってこそ掟(おきて)破りも効く。だから鬼太郎物語の王道パターンというのは捨てがたいわけです。それは鬼太郎の良さが一番出せるパターンなわけですから。未登場の妖怪もまだいっぱいいますし。

でも自分が指名された以上は、他の方では書けないようなものにしないと意味がない。そのほうが先生も喜んでくれるのじゃないか。王道パターンは、妖怪さえ決めれば他の方でも書けるし、むしろ本職の脚本家の方のほうがうまいだろうと。

そこでですね、まあ僕も物書きなんで、僕の作品をサカナにしようかと思ったんですね。それでまあ「ルパン対ホームズ」[5]とか、最近では「スーパーロボット大戦」とか、異なった作品世界が交差するようなものって、それなりに魅力的じゃないですか。ただ、小説世界をそのまんま出すわけにはいきませんからね。

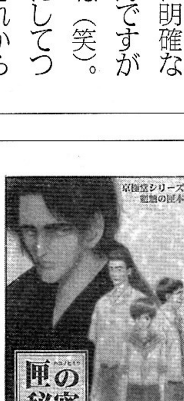
誤解のないようにいっておきますが、一刻堂というキャラクターは京極堂じゃないんです。ちょっと似てますが(笑)。小説を読まれて全然違うイメージを持たれている方もたくさんいらっしゃる訳で。だから、あれは別物だと思っていただきたい。小説の場合は読者が抱いたイメージが常に正しいんです。だから僕は作者として作中人物に明確なビジュアルを与えないように心掛けてるんですが……。でもアニメなんで絵はいるんですね(笑)。で、一刻堂は同人誌[6]の京極堂などを参考にしてつくった(笑)。オリジナル新キャラです。それから

3　京極堂登場の第3作『狂骨の夢』には、「オモチロクてたまらない……全日本妖怪ファン必読の書である。」との水木氏による推薦文が寄せられている。

4　過去のアニメ化全リストについては、本書114～117ページを参照のこと。

5　ルパンとホームズ、このミステリ史を代表する古典的スターの競演は、ルパンの作者であるモーリス・ルブランの手で数篇書かれている。日本のファンには「明智小五郎対ルパン」が読める例のアレも面白いかも。

6　京極作品をテーマにした同人誌は数多く、総じて絵や文章、造本のレベルが高い。ファンは作家を知る、か。



同人誌「匣の秘密」

〃瀬戸大将〃[7]はなんだか無性に出したかった(笑)。

水木　〃瀬戸大将〃ねえ。あれは〃瀬戸物〃の精ですかねえ。

京極　付喪神[8]系の妖怪はたいてい〃物を粗末にするな〃的な話になっちゃうんで、今回は式神[9]になってもらおうと。陰陽師[10]系のキャラの手先だし。ついでに護法童子[11]も出してしまえと。茶碗を粗末にしたから化けて出たじゃあ、化けぞうりの話と変わらないですから。

水木　本数も余計やると、うっかりすると似たものができてしまったりするね。

京極　うっかりすると(笑)。だから難しい。

先生がマガジンで鬼太郎の連載を始めた頃のことを振り返られて、あれは対決がないとウケなかったとおっしゃっていましたでしょう？　それも奇妙な対決。

その〃奇妙な〃というところが大切ですね。妖怪というのは二項対立的な価値観には馴染まなくって、無理矢理やると「もののけ姫」みたいな形になってしまうでしょう。あれはあれで別にいいんだけれども、テーマとしては妖怪と離れてしまう。自然対人間という近代的な構図はやはり日本的ではないし、もはや時代に沿ったものでもないでしょう。

妖怪は共生するものです。その枠を崩さずに対決を描くのは、実は簡単なことではないんですが、鬼太郎世界においては可能なんです。この辺を語ると長くなるんですが(笑)。とにかく対立しない対決という矛盾を解決しなくては正当な鬼太郎ものにならんのです。そのせいなのか、アニメでは最近、和解したり説得したりする話が多い(笑)。コテンパンにやっつけません。まあ時代の要請というのもありますが。ただ、そうすると危機一髪にならないんですね。やはり対決ものなんだから危機一髪は欲しいかなあと。

水木　危機一髪はエネルギーがいりますよね。これは本当にだめじゃないかという場合は、2本分ぐらいのエネルギーがいりますから、みんな避けるのかな。キツイんだよね。2～3本分のエネルギーが必要なんだよ。じゃあ、どういうふうにして蘇生させるかとか、いろいろな問題が出てくるから。

京極　原作で危機一髪の場合は、テレビでは前後編になりますね。いわく「大海獣」[12]だとか「妖怪獣」だとか「吸血鬼エリート」[13]とか。今回のシリーズではエリートはそういう話にはならなかったで

7　鳥山石燕の瀬戸大将は、三国志の豪傑・関羽になぞらえて描かれている。



『画図百器徒然袋』より

8　つくもがみ。無生物である道具類が、年を経て霊を宿すようになったもの。「つくも」は「九十九」とも書き、非常に古いという意味をもつ。

9　しきがみ。陰陽師が使役する鬼神のこと。「式」とは「もちいる」の意味。そもそもは「神をもちいる」行為であり、式神という特定の神がいるわけではなかった。大きくは安倍晴明(あべのせいめい　921～1005　平安期を代表する大陰陽師)がもちいた十二神将をはじめとする神霊的存在と、紙片や器物が操られる道教呪術系に分類され、101話に登場した〃護法童子〃は前者に、〃瀬戸大将〃は後者に該当するといえる。

すけれど。

だから、そういう意味では前後編並みの危機一髪で、でも時間がないのはわかっていますから、危機一髪にはなるんだけれど、スッと助かっちゃう話（笑）。それと、鬼太郎に「僕はゲゲゲの鬼太郎だ」とはっきり言わせる話をつくりたかったんです。

―― 確かに今回30分のなかで、淡々とした前半から後半の学校での対決のシーンへとたたみかけるあたり、本当に間然（かんぜん）することなく、やはり研究しつくされてる感じですよね。

京極　きょう（'97年10月3日）絵コンテが上がってきたんですけど、僕のシナリオは僕の小説と同じでせりふが長いので、全部入らなくて1シーンカットされているんですね。ねずみ男がお社に行くシーン[14]がカットされているんですが、絵が付くとまたずいぶん違いますね。わりと思いどおりにやっていただいたので、楽しみです。

今回のシリーズでいうと、ねずみ男が過去の作品と違って、初めて先生のタッチに近いねずみ男になっていたり、とくに初期には秀作が何本かあるんですよ。都市にうごめく妖怪の感じがとてもうまい。ラストの「カランコロンの歌」のところなんかも、百鬼夜行の様子などが結構……。

―― ああ、ビル街のですね。

京極　うん、戦いを見せるだけの活劇アニメーションじゃなくて、雰囲気があったんですよね。

―― たとえばどのエピソードあたり？

京極　（考えて）そうですね、いくつかあげろといわれれば、初めのころ……第3話あたりにやった「夜叉」[15]とか、「地獄流し」とか……。あと、原作に忠実という点では「さざえ鬼」だとか……。ただ最近は、前回のシリーズとコンセプトが近くなって来ている気がして。差別化がむずかしい。

で、やってみるとやっぱり鬼太郎物はおもしろいですね（笑）。先生がつくられた鬼太郎の土台というのは実に計算されているんですよ。なんというか、そのつくられた世界のなかで、何をどう動かそうと、みんな水木しげるの世界に収まってしまうような大きな器がつくられていて、実に巧みなんですね。

その中で、よく知った鬼太郎とかねずみ男とかいうキャラクターを動かすというのは、これは一種快感なわけです。本当を言うと、たとえばもっとやりたいとか、小説に書きたいという意欲をかき立てるほど魔力がある。

10
おんみょうじ。古代天文術と易、森羅万象を木火土金水の五行で説明する五行論に起源をもとめる思想――陰陽道をつかさどる特殊技能者たち。そもそも大陸で発祥し、わが国に受容された陰陽道は、とりわけ占術・呪術面で重くもちいられ、日本的秘教・オカルティズムの源流として深く浸透。とくに奈良・平安の時代には、国家の呪的防衛に数多くの陰陽師が任用され、安倍晴明をはじめとするビッグネームが輩出した。ちなみに、一刻堂の家紋（同じものをかの京極堂がつけているのはごぞんじの通り）で、101話のシンボルともいえる五芒星は別名〝晴明桔梗〟（せいめいききょう）〝ドーマンセーマン（陰陽師・蘆屋道満と晴明の名が命名の由来）〟ともいい、陰陽における魔除けの呪符とされている。

11
荒俣宏氏原作のSFX映画「帝都物語」には、かのギーガーがデザインした護法童子が登場。愛らしささえ感じさせる水木版に比べ、その凶悪なたたずまいが印象に残った。



鬼太郎は、実際は形なんかなしでやったほうがいいんです。

――おっしゃるところの〝鬼太郎サーガ〟[16]というか、要するに最初の段階からすでにそういったことが完全にでき上がっているとお書きになって[17]いるのを拝読したんですが、今回おやりになってみて、なおさらお感じになったということですか。

京極　そうですね、先生がおつくりになった「鬼太郎の罠」というのがあるわけですよ。先生自身でおっしゃることはたぶんないと思いますが、読み手側として読みといていくと、作品のなかに仕掛けられたいくつかの〝罠〟がある。今回はその一つをはずしてやろうという試みもちょっとあって……。

　鬼太郎世界というのは複層構造になってるんです。まず自然科学的に整合性を持つ世界というのがある。幽霊も妖怪もいない世界ですね。そこに出て来る妖怪は一種の生物としてとらえられる。これは生物ですから鬼太郎に殺されてしまう。しかしそのSF的世界の背後に得体の知れない世界が控えている。これは作品の外にある。妖怪は本来そちら側の住人なわけで、つまり死を超越した存在なんです。ただこちらの世界では死ぬ。だから理屈で割り切れる世界なんだと安心して読んでいると、いきなり作品の外側から理屈の通じない世界観が混入して来る。で、読む者はぐらぐらと揺れる。それが奇妙な感じですよ。鬼太郎はそちら側とこちら側を行き来するトリックスター[18]なんですね。で、さらにその作品の外側の世界を囲い込むように現実というのが用意されている。理屈の通じない世界というのはつくりごとなんだよ、とひっくり返す。ところが(笑)、その現実も実は作品の中に取り込まれているんですね。そうするとその外側に……ということになる。ぐらっと来る(笑)。これは無限にループする。そこまで計算されているんです。そして鬼太郎はどの階層にも属しているんですよ。いるんだけれどもいない、またはいないんだけどいるという。

――ということですが、いかがですか、水木先生。構造としての話がいま出ましたが、物語としての鬼太郎世界というか。

水木　鬼太郎ねえ……。

京極　いちばん最初は、「妖奇伝」[19]に描かれた「幽霊一家」。あれでは幽霊というのは幽霊族の見まちがいであるという説明がありますね。ただヒュー

12 鬼太郎が太古の大海獣ゼオクロノドンに変身させられる話。その原形については本書32ページを参照。

13 今シリーズでは57話、水木ファンでもある俳優・佐野史郎氏がエリートの声を演じ話題になった。

14 別冊シナリオ7～8ページ参照。

15 本書70ページからの演出家インタビュー参照。

16 アイスランド語で物語の意。転じて、さまざまに枝分かれしつつ、統一されたひとつの物語世界をさす。

17 「マンガ名作講義」朝日新聞、'96年12月7日付掲載、など。

18 神話や民話に登場し、世界の既成秩序をかき乱す〝いたずら者〟。文化を活性化させたり、社会関係・構造を再認識させる役割がある。

ドロドロと化けて出るのは間違いで、そもそも生物としての先住民が先にいて、それが幽霊の正体だと。そういう世界観[20]だから、「じゃ、幽霊というのはここではいないんだ」とみんな思うわけです……。

水木　霊的人類みたいなものが先で、それの子孫になってるわけですよね、いろいろ煎じ詰めると結局。マンガでは形を描くけれども実体がない。

京極　だから、みんなそう思って読んでいると急に「鬼太郎は地獄へ行ける」という話になる。じゃあ、幽霊族は生物としての先住民ではないんだということになり、読者は戦慄する。

水木　だから、あまり理屈でやっているとどうしても矛盾するんです、形で描くと。実際は形なんかなしでやったほうがいいんですけれど。だから、大人ものでやるならそうなるわけでしょうね。

京極　最新作の「鬼太郎霊団」[21]は……。

水木　そうそう、だから「鬼太郎霊団」の場合は形なし。

京極　いないんだけれど、いるという形。私の論でいくと、誕生から40年[22]で初めて本来の形の鬼太郎が……。

水木　本来の形にかえりかけたんだけど……。

京極　残念ながら連載のほうはちょっと頓挫してしまいましたが、すごくそれは読みたかった。鬼太郎の霊界案内みたいな感じで。

水木　それよりも、最近は実感としてそういうあれを感じますよ。目に見えない支援とか何かいろいろ。また〝目に見えない世界〟はまったくすごい、ということは最近感じて非常におどろいているんです。

京極　逆に言うと、（連載の頓挫は）彼らが「出すのはいいけど、本当のこと書くのはやめてくれ」と言ったんですかね。



水木しげるという偉人がいたから妖怪は生きている。

――一刻堂という、これは陰陽師で言霊[23]使いという設定のゲストキャラクターですが、この言霊、言葉というか文字のもっているある種の力について少しお話しいただけますか。

京極　先生は妖怪を本質的につかまえてるんです。形でつかまえる、音でつかまえる、あるいは皮膚で、においでつかまえる。その正体は霊的なものであると先生はおっしゃる。

　僕らは、本質ではなく現象として、いまこの世

19　「鬼太郎」貸本時代の第1作。'60年、兎月書房より刊行される。本書118ページ参照。

20　これについては、水木ワールド全般に関する労作「妖怪まんだら～水木しげるの世界」（世界文化社）収録の、京極氏自身の論文「地獄へ行かぬ鬼太郎」に詳しい。

21　「ビッグゴールド」（小学館）'96年2月号に1度だけ掲載。その後「週刊漫画サンデー」（実業之日本社）に掲載された「ゲゲゲの鬼太郎・セクハラ妖怪いやみ」（2回分載）は、実質この続編にあたる。



ここにいたり、鬼太郎ははっきり"霊"として描かれている

22　本書118ページからの「全表紙絵ギャラリー」参照。

の中にワッといる、あるいは過去にいた妖怪というのをつかまえていく仕事をしている。僕や多田[24]克己さんなんかはそういう仕事をしているわけですね。

そうすると、妖怪というのはやっぱり名前なんですね。たとえば「カッパ」と言ってしまうと、ただのよくある清水崑[25]さんの描くカッパだけれど、実は〝ガタロ〟だったり〝河太郎〟だったりするだけで全然違うわけですね。〝ひょうすべ〟だとか〝ひょうずんぼ〟、あるいは〝カシャボ〟とかで、形[26]も違うし性質も違う。それはやはり、そういう名前で言わないと、カッパだと言ってしまうとわからないんですよ。

水木　そう、妖怪というのは本来、目に見えぬ世会の住人だから、この世のものではないから、どんなものかつかみにくいわけですね。だから、昔の人は言葉でつかまえて説明しているわけだけれど、カッパでもかなりの種類がいるわけですね。

やはりはっきり目に見えないし、性質もわかりにくいから、そうなると思うんですけど、名前を付けたというのは、ある程度成功だと思いますね。自然になんとなく価値もわかるし。



profile

MIZUKI SHIGERU

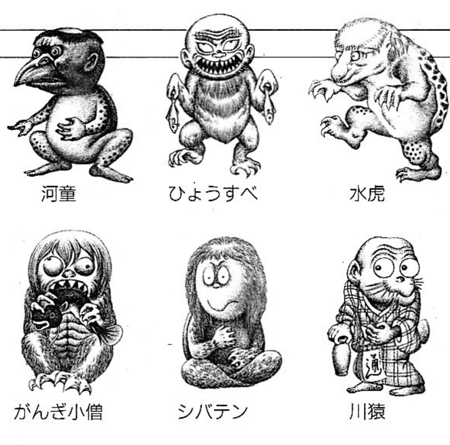
1922年鳥取県生まれ。太平洋戦争に従軍、ラバウル戦線で左腕を失う。武蔵野美術学校中退。戦後、紙芝居から貸本漫画を経て「ロケットマン」でデビュー。代表作に『ゲゲゲの鬼太郎』『悪魔くん』などがあり、『日本妖怪大全』『昭和史』全8巻などの著作も数多い。妖怪を求めての世界冒険旅行、妖怪博物館の建設準備と、疲れを知らぬその行動力はまさに超人的。

23 古来、言葉や文字に宿ると考えられた呪力。

24 ただ・かつみ（1961〜）　新進の妖怪研究家として注目の存在。

25 しみず・こん（1912〜74）画家・イラストレーター。とりわけカッパの絵をよくし、その愛らしさは幅広い層に親しまれた。

26 水木氏描く数々の〝カッパ〟たち。



水虎　ひょうすべ　河童

川猿　シバテン　がんぎ小僧

私は石燕[27]（鳥山）の絵を見て非常に安心したんです。私は70％ぐらいわかりましたからね。やっぱり同じようなことを感じる人が昔もいたんだということで、ものすごく元気づいたんです。だから、石燕は河鍋暁斎[28]とか芳年[29]（大蘇）みたいに……あれは怖がらせて、人間を扱うように妖怪を扱って結構おもしろがらせているわけでしょう。私は石燕の見方をそのまま頂戴しているわけです。普通のものとして、何も怖がらせずに見る。そういう見方で見ているんです。

怨念とか――暁斎とか、北斎[30]なんかでも怖がらせている。あまり怖がらせすぎると妖怪は逃げるような感じがするんですよね。もともと、そういう死霊とか怨霊というのが怖いのはいいことですけれど、全体の7割とか8割は怖くないのもいるわけですから。また神霊[31]も多様にいるわけですから、その場合はやはり、人間を見るように静かに観察して出すほうが、みんなもおもしろいと思うんです。

まあ、初めは妖怪から入っていって、結局は神霊とか精霊の類ともつきあうようになって、死ぬときはもう「死は存在しない」というような考え



profile

KYOGOKU NATSUHIKO

1963年北海道生まれ。'94年『姑獲鳥の夏』で衝撃のデビュー。'96年には2作目の『魍魎の匣』で第49回日本推理作家協会賞受賞。このほか京極堂登場の『狂骨の夢』『鉄鼠の檻』『絡新婦の理』はファンにとって聖典ともいうべき存在になっている。'97年には『嗤う伊右衛門』で第25回泉鏡花文学賞も受賞した。熱烈な水木フリークで、関東水木会の会員でもある。



27 とりやま・せきえん（1714〜88）江戸中期の絵師。『画図百鬼夜行』『今昔画図続百鬼』『今昔百鬼拾遺』『百器徒然袋』などで数多くの妖怪を描いた。

になって、ゆったりと死んだらいいと思うね。要するに霊になるわけですから。霊になって生きているわけですから。

　あまりに唯物（ゆいぶつ）的な教育を受けすぎているから、肉体が死ぬと本当にすべてがなくなってしまうと考えるんですね。教育自体おかしいと思うんですよ。宗教教育なんていうと、またゴタゴタして大騒ぎになりますが、あまり霊を否定しすぎてもおもしろくなくなると思うんです。私は霊が存続すると考えるようになってから、かなり胸のへんが楽になりましたよ。

京極　言葉で表すのはとても難しいことを先生はおっしゃってるんですね。水木流スピリチュアリズムでいう〝霊〟は、近代以降の唯物的というか、即物的教育の中から出てきたいわゆる〝霊〟とは違うんです。霊魂ですら物質としてとらえないと気がすまない擬似科学的な霊魂観[32]とは一線を画していて、むしろそうした見方はするな、という立場で。

　それから先生のおっしゃるとおり、石燕の仕事というのはたいへん意義があったと思いますね。石燕以前にも、たとえば狩野派[33]に伝わる妖怪図だとか土佐光信[34]の百鬼夜行図だとか、妖怪の絵は連綿と描かれていたわけですが、石燕はそれらの先例を実によく研究していて、その中から「これだ」と思う形を拾って名前をつけ、整理していった。それまでは混沌（こんとん）ですよね。百鬼夜行図だって、たしかに奇妙な形の一団はそれなりに妖怪的なんだけど、独立性がない。説明できない不安だとか恐怖だとか、奇妙な感覚だとか、そうしたものをひとつひとつ切り離して分類したとき初めて妖怪になるわけだけれども、百鬼夜行図では未完成なんです。石燕はそれをポイとひとつとって〝わいら〟[35]なら〝わいら〟と名前を与えて完成させたんです。それ以降それは〝わいら〟と呼ばれるようになる。だから石燕は名付けた人なんです。

　逆に桃山人[36]、竹原春泉なんかは、もっと全国の片田舎とかに伝わる話をとってきて描いているんですね。それは形はないわけです。名前だけ。〝白蔵主〟とか、〝ねぶとり〟とか、名前だけで形はない。それに絵をポンとはめて、それで完成させている。

水木　桃山人はうまいですよ。色もいい。

京極　うまいですね。桃山人のほうが画力はあるかもしれない。だから、石燕は昔からパターンをポンととってくるという選定眼のある人だったん

28　かわなべ・ぎょうさい（1831～89）　幕末・明治期の絵師。狩野派と浮世絵を混交した特異な画風で、多くの風刺画や妖怪画を描いた。



暁斎画『百鬼画談』　暁斎の絵には常に風刺の趣がつきまとった

29　たいそ・よしとし（1839～92）　幕末・明治期の絵師。写実的な画風で一世を風靡。とりわけ、実際の死体を写生したとも言われる血みどろの無残絵は他に類を見ない。

ですね。この形はいいという。

水木　なるほど。

京極　竹原春泉のほうは、たとえば「小豆洗い」の絵なんか見ると、〝小豆洗い〟という妖怪は全国にいたわけですが、それまではどんな形をしているのかなんて誰も知らなかったわけです。姿がないという妖怪ですから。それをあの、ジャラジャラという絵を描くでしょ。それで「ああ〝小豆洗い〟というのはこれだよな」とみんな思うわけです。以降、その絵を見ると〝小豆洗い〟とわかる。

つまり、形があって、名前があって、妖怪というのは初めて機能するわけですね。それを取っ払っちゃうと、もう霊ですからわからないわけです。奇妙な感じとかいうのはわかるけれど。

水木　よけい集めると見えてくるという感じがするわけですね。春泉みたいにたくさん集めると、なんとなくわかっていそうな気がする。

京極　水木先生の仕事というのは、その石燕のやった仕事と桃山人がやった仕事の両方なんですよ。世界中の奇妙なものを見て歩いて、奇妙な話を集め、奇妙な形や絵を集めて妖怪を完成させている。

そういう仕事って妖怪を感じる感度がないとだめなんですよ。形も、先ほど先生がおっしゃっていましたが、怖い形じゃないんですね。ピタッとくる形というのは普通の人にはなかなか見つけられないんですよ。先生の場合は、たとえば、セノイ[37]の像でも、善し悪しがパッとわかりますからね。

水木　だから、石燕は師匠に当たるわけですよ。

京極　たくさんの像のなかから、本当にその妖怪の形をしたものをパッと見分ける目を先生はもっていらっしゃる。それはほかの人には真似ができないんです。

水木　子供のときから、多少シャーマン[38]的なものがあったのかもわからないね。最近になってそれを強く感じています。

京極　やはり妖怪アンテナがついているんですよ。

――そうすると、一刻堂がやっていることは、水木先生がずっとやっていらっしゃることの逆方向、たとえば〝系〟を戻しているみたいな考え方になるわけですか。

京極　逆ではないですね。むしろ補完的な役割かな。先生はこう、妖怪の首根っこをつかまえて見せてくれるわけだけれども、枝葉末節の言葉の上では誤解されることも多いわけですね。たとえば先ほど言った心霊科学でも、また宗教でも、霊と

30
かつしか・ほくさい（1760～1849）江戸後期の浮世絵師。生涯を通じ、世界レベルの作品を描き続けた文字通りの〝画狂人〟。

31
ここでは神および、その眷属に類する存在をさす？

32
「僕の嫌うのは心霊科学だの超能力だの云う胡散臭い擬似科学やそれを前提に置いた誤った怪異認識のほうであって……」（『鉄鼠の檻』における京極堂の言葉）

33
かのうは。日本画の一流派。漢画様式を基調とし、安土桃山・江戸期を通じて画界の主流をなした。

34
とさ・みつのぶ（生没年不詳）室町期の画家。狩野派に対し、大和絵系の土佐派の画風を確立した。

いう言葉は使いますね。目に見えない知性体なんて言葉は、ＵＦＯ関係の方だって使う。それを方便として使っている者もいれば、よくわからずに使っている者もいる。わかる人にはその違いがわかるのでしょうが、わからない人には同じにしか聞こえませんから。子供向けだからこそ、そのへんは厳密にやらなきゃいけないような気がしまして。ただ時間[39]が20分だし（笑）。だからまあ、逆方向ではないのだけれど逆説的ではあるのかな。

――ある種、逆説的なスタンスという形で一刻堂はあると？

京極　そう。だから最後に和解しますね。最初から対立項ではないからです。

それから、妖怪達が次々姿を変えられちゃうところがありますが、あそこもね、別にこれが妖怪の正体だ、という意味ではないですよ。まあ、〝児啼き爺〟に関しては、重いのを拾って帰って鍋に入れ、一夜明けたらカボチャだったって伝承があるんですが、他のは違う。たとえば砂をまき散らすのは、たぶんつむじ風かなんかなんですね。「妖怪なんかいないんだ」といっちゃえば、そりゃいないんです。でも、それでも妖怪はいるわけです。なぜなら、名前があるからですよ。

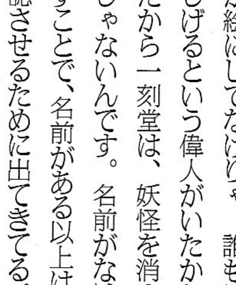
子なき爺も砂かけ婆も、柳田國男[40]が書き留めてなけりゃ、誰も知らないですよ。水木先生が絵にしてなけりゃ、誰も知らないですよ。水木しげるという偉人がいたから妖怪は生きている。だから一刻堂は、妖怪を消すために出て来たわけじゃないんです。名前がなければいないんだと示すことで、名前がある以上はいるんだと、それを確認させるために出てきてる。

ですから妖怪というのは、ほっとくと死んじゃうんです。でも名前と形があれば生き延びることができる。時代に合わせて変わっちゃいますけどね。それでもいいんです。たとえば、〝ぬらりひょん〟[41]ですね。あれ、漫画では冴えないただの中年ですが……。

――あちこちに爆弾を仕掛けたりするんですよね。

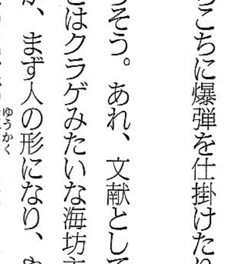
京極　そうそう。あれ、文献としては何もありません。もとはクラゲみたいな海坊主の一種でしょう。それが、まず人の形になり、やがて石燕によってタコ頭の親父が遊廓に乗り込んでいく絵が描かれる。これも名前からの連想ですね。色里の隠語とのごろ合わせらしい。それが明治になって説明が失われて、黙って家に入って来る妖怪とされる。そのうえ、偉そうなせいか怪物の親玉という

35　石燕の描いた〝わいら〟。



『画図百鬼夜行』より

36　とうさんじん、たけはら・しゅんせん（生没年不詳）江戸後期の絵師。その「絵本百物語～桃山人夜話」は妖怪研究資料として近年注目を集めているが、文を寄せた桃山人については同一人説、別人説など諸説ある。



『絵本百物語』より〝小豆洗い〟

37　マレーシア奥地の部族名。自由自在に夢をコントロールする夢見の達人。水木氏は'94年かの地を訪れ、数百体の〝妖怪〟の像を持ち帰っている。

説明がつく。それで、映画の「妖怪百物語」[42]なんかでもすごく偉そうにしている。そして決定的なのが鬼太郎の前回のシリーズですね。妖怪総大将にして鬼太郎の宿敵。で、いまの〝ぬらりひょん〟がある。「地獄先生ぬ〜べ〜」（真倉翔・岡野剛作）なんかではマレビト神まで出世しちゃったらしい。先日多田（克己）さんと、この場合、どこで切るべきかという話をしたんですが、まあ文献学者は文献がないから未詳、民俗学者は海坊主の一種どまりですね。しかし妖怪を生きた文化としてとらえるなら、全部イキなんじゃないか、ということになった（笑）。だから今回も、全部の特性を入れて登場してもらいました。

妖怪というのは、先生の言うように、目に見えない、形のないものなんだから、それが人にわかるように、名前や形が与えられているわけで。それだったら、たとえば昔はこうだったけど、いまはこうだというので全然構わないんじゃないか。

――　なるほど。逆に言うと、文献学的にいじくり回すよりは、そういうちゃんと生きている形で、絶えずとらえ直しがされることがすごくいいんだと。

京極　そう。「いまはこうだけど、昔はこうだったよ」ですむわけでしょ。消えてしまったら、昔どうだったかもわからない。

水木　マレーシアなんかの彫刻でもそうらしいですよ。同じような曖昧なものだけれども、大体の形が決まっていて、ある程度は作者が変えるらしい。

京極　だから、後世に残っているものは、創作であっても霊が認知したわけですよね。先生のつくられた妖怪の形も、たとえば〝ぬりかべ〟なんていうのは、もともと形がなかったものですから。いまはあれでなきゃもういかんでしょうからね。いま違う〝ぬりかべ〟を描いたら、間違いだと言われる。



ある程度霊の認識をしないと幸せになれないですよ。

水木　（突然）文部省に〝霊魂大学〟[43]をつくるようもっていかないといかんわけですよ。それにはまず啓蒙しなきゃならんわけですよね。そういう不思議なことっていうのはあるんだというような感じをみんなに……。静かに眺めればいいんですよ。新興宗教みたいに必ずそれを信じろというわけじゃないですから。

38 神霊・精霊などと直接的に交わる能力をもった人々。ミコ、イタコなど。

39 「鬼太郎」1話分は19分22秒。

40 やなぎた・くにお（1875〜1962）日本民俗学の創成者。各地の民話・伝承を収集。なかでも『妖怪談義』は水木ファン必読。

41 描かれた〝ぬらりひょん〟2態。





上：水木氏描く妖怪画
左：石燕『画図百鬼夜行』より

京極　本来の形に戻れば見えるんですよね。

水木　みんな、喜びながらそういうものを復活させないといかんのですよ。地球上、変になりますよ。昔は霊を尊びすぎるケースもあって変になったけれど、幸せになれないですよ、ある程度霊の復活とか霊の認識をしないと。なかなか幸福になれませんよ。

　どの宗教だって、霊と関係がある。仏教なんかも、趣旨は否定しても日本ではちゃんと「魂を入れる」とか「霊が仏様に入る」とか、かなり日本的になっていますよね。そんなふうに、やはり霊は静かに研究すべきものですよ。それを排斥してしまうのはおかしいですよ。

京極　ええ、もっと静かにやるべきで、何もいたずらに騒ぐことはないんですよ。

　僕の小説に「世の中に不思議なことは何もない」[44]というセリフが必ず出てくるんです。それは、よく読んでもらうとわかるんですが、近代合理主義的発言じゃないんです。世の中というのは、もともと全部不思議なものなんだから、全部不思議なんだと思えば、不思議なものなんかないという意味なんです。

水木　（目をむいて）われわれが思っているより、さらに不思議ですよ。それが歳をとってわかって、それにびっくりするんです。私は毎日おどろきながら生活してます。

京極　『百物語評判』[45]という江戸の本があるんですけど、その本は当時の最新の知識を使って、百物語の妖怪を論じるという本なんです。その作者がなかなか粋な人で、「世に不思議なし、世すべて不思議なり」と言うんです。

　これは僕がすごく好きな言葉で、まさにそうだと思うわけです。たとえば自分がここに生きていること自体不思議なんだと思う気持ちにならないと、世界なんてわからないし、そうだと思ったら、あれが不思議だとか、これが不思議だとか、要するにつまらないことでワーワー騒ぐことはないんで。

――たしかに京極さんの小説を読んでいると、解釈することもおかしいし、信仰してしまうこともおかしいし。水木先生も前にどこかで、理屈で霊の存在を信じよう納得しようとしてもだめで、理性ではまったく置き換えられないから無意識ですよと、そんなことおっしゃっておられましたが……。

水木　生まれたときは何もわからないでしょう。

42　'68年、大映系公開。当時の宣伝パンフレットには、なんと水木氏の超レアな原作漫画も収録されていた！



宣伝パンフレットより

43　この対談後、水木氏は念願のメキシコ旅行へと旅立たれた。帰国後、あらためて〝霊魂大学〟の主旨についておたずねしたが、「メキシコ行って帰って来たら、前のことは全部忘れてしまったですよ」とのご返事……さすがである。

44　ごぞんじ、京極堂のキメぜりふ。座右の銘ともいうべきこの言葉のバリエーションは、作品のあちこちに登場する。

それがだんだんわかってきて、存在の不思議に目覚めるわけだけれど、教育が唯物主義のために、人間は死ねば無だというような感じの教育になっているから、逆に苦しいわけでしょう。
　そうじゃなくて、生まれたときには不思議も何もない。だんだん気づいていくけれど。それと同じ過程で霊の世界に入れると、私は思うんです。想像を絶しているわけですよね、宇宙は。我々人間が今まで知っていることだけでは計れない世界ですよ。

京極　不思議だということがわからなければ、不思議じゃないですよね。いまおっしゃったように、赤ん坊のときには……。

水木　そう、だから霊魂大学をつくることがね、今なにより必要なわけです（笑）。



原風景はモノクロの暗い、陰湿な世界の鬼太郎なんです。

——京極さんご自身の鬼太郎の初体験というと……。

京極　それは以前何かに書いたけど、結局テレビ……テレビをやっていたんですよ、小さいころから。4歳ぐらいじゃないですか、そのころから見ていたのは確かです。

——そうですね。アニメ第1作は5歳のころから[46]ですね。

京極　だから確実に見ていたんです。僕はテレビっ子ですから、テレビは見ていました。鬼太郎は間違いなく見ていたんです。そのころは字もろくに読めないですよね、5歳ですから。で、小学校に入って、少年マガジンを見たと。
　一方、僕は小さいころからバケモノというか（笑）、そういうのが好きで、民話・伝説の類が好きだったというのがあって、すごい子供のころから民俗学の本を読んだりしていたんです。これも有名な話なんですけど、柳田國男あたりを小学校の中学年、4～5年ぐらいから読みはじめていたんで、それでハッと思ったんです。
　〝子なき爺〟や〝砂かけ婆〟が『妖怪談義』を読んでいたら出てくるんです。「先生の本にも出ている。これ知ってる。ああ、なるほど」と。つまり、いい加減な創作じゃない。古伝のやつが出ているじゃないか、というのがわかったわけですね。
　たとえば楳図かずお[47]さんも「猫目小僧」[48]みたいなものを描いていますが、あの妖怪は全部創作、オリジナルですよね。「ああ、水木しげるは本格妖

45
作者は山岡元隣。現在は『江戸怪談集』下（岩波文庫）で読むことができる。

46
アニメ第1作のスタートが'68年1月。京極氏の生年が'63年。

47
うめず・かずお（1936～）漫画家。恐怖漫画、特異なギャグ漫画で独自の地位を築く。代表作に「漂流教室」「まことちゃん」「おろち」など。

48
楳図氏描く〝もうひとりのダークヒーロー〟「猫目小僧」。



©楳図かずお　スプラッターでフリークな展開が恐ろしかった

怪モノか」と思った。全部そうなわけです。

水木　柳田國男は温かいですよ、妖怪に対して。井上円了[49]は案外キツイんです、詳しいけどね。柳田國男は温かい。それで気に入ったんです。

京極　それでびっくりしたわけですよ。ああ、全部本物だと。この人は妖怪のことがわかっていると。

それでマガジンの古いやつがうちにあったので、あらためてそれを読んで……。

――ということは、本格的にハマったのは柳田体験のあとということですね。

京極　マガジンもちょこちょこ見てはいたんですよ。柳田に触れるまでは、絵が好きだった。絵が抜群によかったから、奇妙な絵だったから絵が好きだったというのももちろんあったけど、とりこになるほどというのは、やはり小学校の3年、4年ぐらいですね。

そのころはまだちょうど朝日ソノラマから短編集がいっぱい出ていたんですよ。『死者の招き』[50]だとか『日本奇人伝』だとか……。だから僕は、これを言うとマニアがびっくりするんだけど、この歳で先生の本は全部新刊で買っているんですよ。

水木　（驚いて）ほう、そうですか。

京極　ですから、本来で言えば鬼太郎はテレビなんですよ……だけど僕のなかでの最初の鬼太郎は、やはりモノクロの暗い、陰湿な、密に描き込まれた世界の鬼太郎で、それが言ってみれば原風景ですね。

「吸血鬼エリート」[51]の表紙の洋館の前に立っている鬼太郎とか、ああいうやつを見て、僕はとても懐かしかったんです。もちろん初めて見ているわけですよ。でも懐かしいんです。これは、血がどうとかという話は僕はあまりしたくないんだけれど、やはりそういう見たことのない記憶というものを刺激するわけですね、先生の絵は。

実際見たことはないはずなのに懐かしいということは、もちろん記憶が錯乱しているんでしょうけど、もともともっていたものなのか、という錯覚を与えますね。ユング[52]の言うところの集合的無意識[53]みたいなものを引っ張りだすまでもなく、「ああ、僕はこういう世界で生きていたんだ」と思うわけですよ。

水木　結局、偶然から霊を頂戴（ちょうだい）したわけですよね。祖先の霊を頂戴したわけです。そのときは無意識だったけれど。非常に好意をもったとか、祖先のそういうものに対する敬意とかで、私は偶然

49　いのうえ・えんりょう（1858〜1919）　明治・大正期の仏教哲学者。大著『妖怪学講義』は、じつは「妖怪なんかいない」をいわんとするために書かれたという。

50　当時刊行されていた短編集。



『死者の招き』



『日本奇人伝』

51　エリートは、貸本時代には「霧の中のジョニー」の名で登場。表紙絵は本書119ページに掲載。

52　カール・G・ユング（1875〜1961）　スイスの精神病理学者。フロイトから出発し、のち独自の分析的心理学を提唱。UFOやオカルトにも接近した。

頂戴したという感じなんです。それをずっと生かすという。
　結局、鬼太郎はある種の依代[54]としての役割を果たすわけですね。そういうものを活躍させるための依代ですよ。マンガの場合の依代は、人を引きつける主人公で、あとはついてきますからね。
京極　あの感じは、ほかのどの作品でも絶対出せない。
　たとえば神社に行って落ちつく人っているじゃないですか。僕もそうなんですが。それからお盆に提灯(ちょうちん)を出すと落ちついたり。僕も法事というと結構喜んじゃったりするような子供だったんです。
　寺や神社や墓場に行って心が安らぐというのは一瞬変だけれど、あることだと思うんです。そういう気分って、ほかに表現できないじゃないですか。「墓場に来て心が安らぐなんて変だ」と言われると確かにそうなんですけど、その奇妙な感じが、絵を見て感じられるというのは、やはりちょっと普通じゃないな、と。
　鬼太郎は筋も確かにおもしろいですよ、荒唐無稽(こうとうむけい)で。でも、あれは筋がなくても、絵だけでも十分おもしろいんです。グッとくるものがありますよね。それですよ、ショックは。それで僕の人生観が決まっちゃったみたいなところが、実はあるわけです。
水木　まあ、それがうまくいったのは、水木さん[55]についた背後霊[56]がよかったのか何か……。
――京極さんにとっての鬼太郎ベストセレクションというか、ちょっと決めづらいでしょうが。
京極　ああ、それは難しいんですよ。たとえば鬼太郎物語といっても、貸本時代[57]があって、初期マガジン版があって、初期マガジン版も別冊版と本編の連載版で全然質が違う。それから少年サンデー版[58]があって、それから「続鬼太郎」[59]「新鬼太郎」[60]なんていうのもあるし、「大ボラ鬼太郎」[61]なんていうのもあるんですよ。それから「国盗物語」[62]がありで、全部これは違う本なんですよ。媒体(ばいたい)も対象も違う。
　実にびっくりすることだけれど、たいがいは媒体が違って対象が違っても、同じものを描いてくれというと同じように描きますよね。先生のやつは全部違うんですよ。一概(いちがい)に鬼太郎といっても、いろんなものがあって。だから、このなかでと言われるとまた選びようがあるけれど、漠然と鬼太郎というと、もう千差万別で……。
　たとえば「鬼太郎のベトナム戦記」[63]なんていう

53
ユングの術語。個人的な意識の領域を超えた、民族・集団・人類など人人の集合のもつ無意識。

54
よりしろ。神や霊が現れるときに宿る、樹木・岩石・動物・人物など。

55
本名である「武良茂」氏と区別して、内なるもう一人の自分を水木氏はこう呼ぶ。

56
最近、水木氏は自分の背後霊が変わったと感じている。メキシコ旅行も広島県・三次（みよし）の奇書「稲生物怪録（いのうもののけろく）」との出会いも、すべてはその霊に導かれてのことなのだという。

57
貸本、初期マガジン版の表紙・扉絵については、本書118ページからの「扉絵全集」を参照のこと。

58
アニメ第2シリーズ（カラー版、'71年スタート）の原作を意図して連載。その期間は13回と短かった。

のもあるわけですよ。あれはシナリオを書いている人が別にいるんだけれど、やはりものすごいものですよ。それと、たとえば「大ボラ鬼太郎」なんていうのは一緒には論じられない、違うものだから。でも鬼太郎は鬼太郎なんですね。さっき言ったように、枠組みは崩していない。それだけいろんなものが実はあるので、選ぶのはとても難しいんです。

ただ、僕がいちばん最初に読んだという意味では、初期のマガジン版の濃密な感じというのは捨てがたいものがある。最近連載されたやつは、先生自身がお描きになっている部分が少なくなっているので、そういう意味では絵のすごさが若干パワーダウンしているのは否めない。あのころのものはものすごいですからね。

そのすごくいい絵を、ポンポンポンポン、カットするんですよ、単行本にするとき。それがもう腹がたちますね（笑）。



目玉の親父は苦戦して偶然できたんですよ。

京極　じつは鬼太郎について、先生ご自身にぜひお聞きしたいことがいくつかあるんです。もともと鬼太郎は紙芝居[64]ですが、先生は「ハカバキタロー」[65]の原作の伊藤正美[66]さんとは面識があったわけではないんですか。

水木　1回面識はあります。加太こうじ[67]さんの出版記念会で会った。非常にいい人です。

京極　そうすると、僕らは紙芝居がいま残っていないのでわからないんですが、もともとあった「ハカバキタロー」と先生が最初に描かれた「蛇人」[68]の関係ですね。似ていたのかどうか。「蛇人」は蛇から生まれたとなっていますが、やはり形は目が一つで、いまの鬼太郎というか、初期の鬼太郎に近い顔の子どもだったんですか。

水木　そうね。ちょっとごつくてグロテスクだねえ、決して可愛くなかった。それに私はほかの人のキタローは見たことがなかった。話にきくだけだから形とか感じはわからない。

京極　そうですか。それで蛇から生まれて復讐する話なんですか、いじめられて。

水木　それは、紙芝居のジャンルには因果物があるでしょう。「親の因果が子に報（むく）い」というので、陰惨な話なんですよ。それを加太こうじさんはやれと言うわけです。それでキタローの話をするんです。陰惨でいやなんですね、いわゆる因果物と

59
'77年「週刊実話」（日本ジャーナル出版）に「続ゲゲの鬼太郎」として連載開始。全23回。成長し、上京した鬼太郎が〝墓の下高校〟に入学。後に学校はつぶれ、鬼太郎は放浪の旅に出る。ちゃんちゃんこがセーターになり、目玉の親父がボケているなど、独自の設定が興味深い。

60
'78年「週刊実話」に「新ゲゲの鬼太郎」として連載開始。「スポーツ狂時代（「相撲の巻」「野球狂の巻」の長編2話）」の副題がついた全23回と、従来路線の23回。後者ではちゃんちゃんこ姿に戻った鬼太郎が、妖怪でなくUFOや宇宙人とからむ物語で印象深い。

61
'80年「月刊DONDON」（日本ジャーナル出版）にシリーズ連載開始。全6回?。水木氏のアイロニカルな視線が生きた風刺的内容で、ねずみ男が〝快傑黒頭巾〟なる一種のアンチヒーローとして活躍する番外篇。他の作品にくらべ、白っぽい背景や味のあるペンタッチなど、氏自身が楽しんで描いた印象が強い。

いうのが。

京極 タイトル「蛇人」はそういう雰囲気がありますね。

水木 それで、それなら私は墓場にして、あれは片仮名の〃ハカバ〃なんですよ。で、私は「墓場鬼太郎」にしましょうと。鬼にしましょうと。

しかし、因果物は苦手だからやらないと。それで、「蛇人」で「墓場鬼太郎」という名前にしてある程度約束を果たした感じになったわけです。

京極 （うなずいて）で、「蛇人」の筋というのは……。

水木 多少因果物めいているけれど、まだ救いがあるんです。

京極 のちの先生の作品には、その紙芝居時代のストーリーのものがいくつかありますよね。そうすると、たとえば「空手鬼太郎」[69]なんていうのは、あとあと描かれたものに影響していないんですか。あれにはギチン[70]という悪党が出てきますよね。

水木 ギチンね。あれは、あのころ東映の映画で空手の映画がありましたよね。あんなのを見て、これを鬼太郎に使ってみようかなというわけで……。

京極 ああ、それで鬼太郎が空手の弟子入りをしていじめられちゃうわけですね。あそこで目玉の親父が初めて出てきたんですね。

水木 目玉の親父は、苦戦して偶然できたんですよ。初めからああいうのを出そうという考えは全然なかった。

とにかく紙芝居というのはつづきもので、最後どうなるかで終わりですからね。たいていの話は谷へ落ちたらそこに川があったり（笑）、もうそればかりなんですよ。「ワアーッ」とかいって。

たとえば鬼太郎がそういうギチンみたいのに追われて、親父は殺されて、舟で逃げたと。ところが親父の声が聞こえる。しかも近くに聞こえる。それはなんだろう、で終わったわけです。そうすると、みんなびっくりするからね。いままでの紙芝居の終わり方と違うから。

ところが、明くる日それをどのようにするかというので、ものすごく苦しくなってくる（笑）。締め切り時間は迫るしね。それで、結局それは親父の子を思う心が目玉に宿って、それでポケットの中に入っていたということにしたんです。

声がするので鬼太郎がハッとポケットから出して、「あっ、お父さん、どうしたの！」（フハッ、と目を見張る）とやったのが、恐らく成功しない

62 '90年「月刊コミックボンボン」（講談社）に「鬼太郎国盗物語」として連載開始。当初はアニメ第4シリーズの原作を意図していたようだ。

63 '68年「月刊宝石」（光文社）に「ドキュメント劇画ベトナム戦記」として連載開始。全6回。原作つき。鬼太郎を狂言回しに描いた一種の戦記漫画であり、目玉の親父の親戚という「毛目玉」の頼みでベトナムへ渡った鬼太郎たちが、ベトコンとともに米軍へ宣戦布告する内容。子なき爺がその重みで原潜を沈めたり、ねずみ男扮するゲバラが登場するなど、独特の水木ワールドはここでも健在だ。





連載第1話の冒頭ページ

と思ったんだけれど、それが非常にウケたわけです。情緒的に認定してもらえたんです、存在を。親の子を思う心がそういう形になったということを認定してもらえたわけです。

京極　なるほどね。でも、あれはもう日本のマンガの歴史に残る名キャラクターですね。

水木　あれは結局、偶然からなんです。偶然はオソロシイ。

京極　その時点では、のちの鬼太郎の親父のように、目がトロッと溶けて出てくるというのは……。

水木　そう、溶けて出てくる。あれが親父の執念なんです。

京極　あのシーンは紙芝居ではない？

水木　1枚ぐらいはあったかな……なかったね。目玉が溶け出るところはなかったです。

あのシーンとかがはっきりするのは、貸本からです。貸本マンガの要求というのがあるでしょう。それ以前はメチャクチャなんです。それこそ毎日毎日考えられないですから、鬼太郎のことなんか。

そこで初めて、「これは鬼太郎のことを考えなきゃならんな」ということになって、で、要するに目玉とか、母親が幽霊だとかいうことは全部、貸本マンガのときにできたんです。

京極　「妖奇伝」のときにできたんですね。

水木　うん、だから貸本マンガが本来の鬼太郎の誕生でしょうね。紙芝居のときは、自分でも何を描いているかはっきりわからなかったから。

京極　ただ、「人間ゴジラ」[71]とかありますよね。あれが『怪獣ラバン』[72]とか「大海獣」になる原型ではあったんですね。

水木　「人間ゴジラ」はものすごくウケたんですよ。

京極　あれは、考えてみれば名作ですよ。名作というか、先取りしているんですね。

水木　紙芝居の元締めだった鈴木勝丸さんもほめてくれるしね。これは傑作ですということで。（紙芝居が）だめになったときも、ラバンとかやったりしてね。それで大海獣……。

京極　『怪獣ラバン』。『ないしょの話』[73]をやって「大海獣」。だから都合4回やるわけですね。それでも全然色あせないんですね。むしろだんだんよくなるんです。

水木　あのころはとにかく毎月1冊描いて原稿料をもらわないと食えないですからね、必死ですよ。もう寝る時間も何もなかった。ただ1ヵ月に

64
「蛇人」「空手鬼太郎」「ガロア」「幽霊の手」の4作。いずれも「墓場鬼太郎」を主人公に、'54～'55年にかけて水木氏の手で描かれた。

65
戦前、関東地域で人気を呼んだ因果色の強い紙芝居作品。「ハカバキタロー」「ハカバ奇太郎」（表記には異説あり）のタイトルで、原作は伊藤正美氏、作画は辰巳恵洋氏だった。紙芝居当時、水木氏は神戸に在住。元締めだった鈴木勝丸氏の助言によって「墓場鬼太郎」を自らのタイトルにしたというが、このころまで関東とは縁のなかった水木氏は、実際に戦前の伊藤版「ハカバキタロー」の絵を見たことはない。その点で、基本設定等たしかに多少のいただきはあるものの、以後の水木版「鬼太郎」はリメイクではなく完全なオリジナル作品というべきだろう。

66
いとう・まさみ（1911～84）作家。「ハカバキタロー」の原作者。

67
かた・こうじ（1918～）戦前戦後を通じ紙芝居作家として活躍。

1冊描くということを至上命令にしてね。

京極　そこからひねり出してくるものがあれだけのものというのが、やはりすごいですよね。普通はもうだめな作品ができちゃうんですけど（笑）。

水木　もう半分ヤケみたいな感じで。

京極　それで紙芝居の最後が「ガロア」[74]ですよね。宇宙物だったんですね。

水木　「ガロア」は私から見ると失敗作だと思う。宇宙とかあまり広いところに場面をもっていくと苦しいんですよ。

　そんなにロケットを飛ばすわけにもいかないし、苦しいですよ。

京極　「ガロア」は、宇宙物というと、たとえば「ベビーZ」[75]とか、ああいう感じのものなんですか。

水木　「ガロア」というのは妙な宇宙人が出てくる話で、40巻で終わりましたけれど、苦しかったなあ。最後のころでしたからね。あのころは紙芝居がもうだめになるんじゃないかと。それで、いったいどうしてこれからメシを食うかということが重要な問題でしたからね。これは早く東京に逃げなきゃいかんのじゃないかとか。その心配のほうが……。

京極　なるほど。なかなか貴重なお話で……。それで「妖奇伝」の鬼太郎ができるわけですが、そのころは戦記物が主にウケていたんですよね。

水木　そう、戦記物がウケていたということで、「少年戦記」[76]をやったわけです。いまから考えると、そのころはわからなかったけど、水木さんには多少編集の才能があったわけです。

京極　1冊全部やられていたんですからね。

水木　ちゃんと小松崎茂[77]さんに表紙を頼んで。あのころはそういうことはないわけでしょう。だれそれとページを割り振りして、それがごく自然にできたんです。

　だから、私には編集の才能があったんです。それまで気づかなかったものの、考えてみると子供の頃一人でよく本をつくっていた。

京極　「少年戦記」は本当にいい本ですよ。

水木　原稿まで取りにいったんですよ、小松崎さんのところへ。それで、1冊5万円でやっていて、小松崎さんは私に1万円は貴重だというわけです。こんなに安く描いたことはないと。それで小松崎さんは一生懸命描いてくれたわけです。それからずっと小松崎さんが表紙をやって……。

　で、「少年戦記」が2年ぐらいしてだめになったとき、鬼太郎をやりたいといったら、「なんといっ

68
蛇の腹から生まれた鬼太郎が、周囲の人間に執拗にいじめられ、ついに蛇の本性を現し復讐をとげる怪奇談。

69
沖縄空手の親玉ギチンにいじめられた鬼太郎が、超人的な努力と訓練のすえ、これを倒すという物語。

70
沖縄空手の達人・船越義珍氏が、そのモデルか。

71
水木氏の紙芝居時代、もうひとつの代表作。人間が巨大な怪獣に変身してしまう悲劇を描き、のちの「大海獣」の原形となった。

72
「人間ゴジラ」のコンセプトを活かした'58年刊行の貸本初期の名作。



SFタッチの表紙が新鮮だ

てもあんたは戦記物だよ、変なことを言ったらいかんよ」と言われたんですよ。「いや、私はもともと怪奇ものなんです」と言ったんですけどね（ハッハッハァと豪快な笑い）。

京極　もう一つだけ質問があるんですが、兎月書房でやった「妖奇伝」、あれは都合5つ話があります[78]よね。あのなかで鬼太郎の目が右左と変わるんですね。あれがなぜだろうというのは、昔からみんな考えているんですよ。

最初は、兎月版は全部復刻されていなかったから、諸説フンプンで。それが最近、角川書店の復刻で読めるようになって、みんな思うらしいんですよ。なぜでしょうか。

水木　（こともなげに）水木さんが間違えたんですよ（笑）。

というのはね、まだはっきりした規定がなかったから。私は右左とかいうのはあまり気にしないんだよね。靴下なんかでも（笑）。

京極　いや、「エヴァンゲリオン」並みに解剖する人がいるんです。アニメでもモノクロのときの鬼太郎で1カットだけ、右目がないカットがあるんですよ。

――どうしてそうなるのかと、それで一つ論文ができますね（笑）。

水木　疲れると間違うんだね（笑）。その頃は生活がタイヘンでしたから。

京極　ちょうど目玉の親父が[79]「どこに隠れようか」「こっちの目があいてるよ、おとっつぁん」とか言って入るところがあるんです。で、すごい印象的なんですよ。そうなんですか。たとえばそこだけ何か別稿があって、それを入れたのかとか、憶測がいろいろ成り立っていたものですから、そこだけはお聞きしたくて。

水木　疲れですよ。

京極　アハハ、疲れたんですか。



小説作法の手本は水木マンガだと思ってるんです。

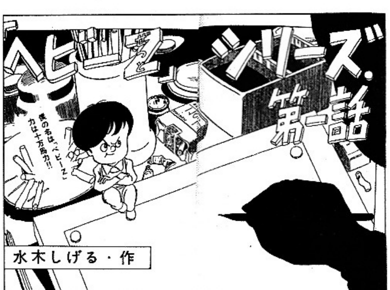
――実は以前、京極さんの小説のことを、「鬼太郎を知ることが京極ワールドを知ることである」というような書き方をしている記事があったんですね。で、鬼太郎ワールドと京極ワールドとのある種の関係性みたいなもの。あるいは憑物落としとのアナロジーみたいなものというのは、やはりかなりあるんでしょうか。

京極　鬼太郎と限定しちゃうことはできないんで

73
兎月書房刊の『霧の中のジョニー』（'62年）に「鯨神という男」のタイトルで予告されていた「墓場鬼太郎」シリーズの作品。兎月の倒産により'64年、東考社から刊行された。作中の鯨神は既に「大海獣」のゼオクロノドンそのものに描かれている。

74
鬼太郎を主役にした宇宙ものの作品。この後、水木氏は「幽霊の手」なる作品も手がけるがうまくいかず、紙芝居での鬼太郎は中止されることに。

75
超能力をもった「ベビーZ」が主人公のSF作品。



こんなに小さいのに10万馬力!?

すけど、僕の小説作法の手本というのは水木マンガだなあと、思っているんですけどね、自分では。

―― それはどういうところでですか。

京極　水木先生がマンガをつくられるように、小説を書きたいなと思っているわけで。わかりますかね。

―― それはただ単にドラマツルギーとかいうのとは関係ないんですね。

京極　全然関係ないです。ドラマツルギーなんていうものはそもそもないです、僕の小説には。たぶん先生もそうでしょう。だからそのへんを見習いたいということですよ。

―― たとえば世界観のとらえ方みたいなことは?

京極　それとも関係ない。単純にその言葉どおり、額面どおり「作品のつくり方」。

ただね、貸本マンガの後ろに読者のおたよりコーナーというのがありますでしょ。あそこに「いろいろ質問コーナー」というのがあって、水木先生の答えが載っているんです。

「先生のマンガがおもしろいのはなぜですか」という質問があったんですが、それに対して先生のお答えは、「人間がマンガを描いてもおもしろくない。私はマンガを描くときは神だから」と。まあ「私はお話をつくる天才なんです」とか、いろんな答え方をされているんですけど、まあ見習うべき姿勢かと（笑）。

―― 先ほど水木先生のほうから、鬼太郎は依代だというようなお話が出ましたが、それとは別に、京極さんのなかで鬼太郎というのは何者なのかという問いが出た場合、どんなふうに答えというか……。

京極　それもまた何とも答えようのない話で、鬼太郎は鬼太郎ですけどね。

ただ言えるのは、鬼太郎ほどヒーローに似つかわしくないヒーローはいないわけですね。でも、水木作品を読んで育った者にとって、鬼太郎がいないということは考えられないわけですよ。たとえるなら「あなたにとって食事は何ですか」と問われているようなものです。「食べなきゃ死んじゃいます」と答えてもいいんでしょうか。

水木　それはおもしろい（ハァハァハァとうれしそうに笑う）。

京極　まぁ、ほんとなら、たとえば「鬼太郎は僕の青春です」とか、そういうふうに言えばかっこいいんでしょうけど……（苦笑）。

76 兎月書房刊行の戦記漫画専門誌。水木氏が執筆・責任編集を担当した。

77 こまつざき・しげる（1915〜）挿絵画家。細密なタッチでSF・冒険ものを得意とし、少年たちに絶大な人気を博した。

78 貸本「妖奇伝」は〝怪奇専門誌〟と銘うたれ、「幽霊一家」「墓場鬼太郎」「下宿屋」「あう時はいつも死人」の5作（後半3作の誌名は「墓場鬼太郎」）が刊行された。

79 問題のシーンはこれだ！



コラム 発見！幻の鬼太郎グッズ①

妖怪バスに乗って、さあ行こう霊界ツアー



屋根がはずれ、鬼太郎たちを乗せることができる。

「へぇ、妖怪バスだ。こんなものまでオモチャになってるのか」と思われた方、残念ながらこれは試作品——メーカーで商品化直前までいった〝幻の一品〟なのだ。開発担当のバンダイ・太田健介さんにご登場願おう。

「いや〜、残念です。ここまでこぎつけていながら採算があわなくて……（泣）」

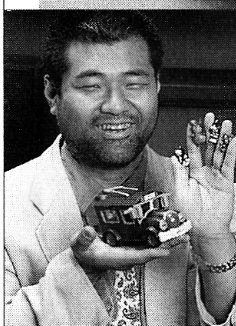
じゃあ、この試作品は？

「オールハンドメイド。工作用のプラスチック板を使って、わずかに数台だけが作られました。鬼太郎や夜行さんのフィギュアもいい味出してるでしょ」

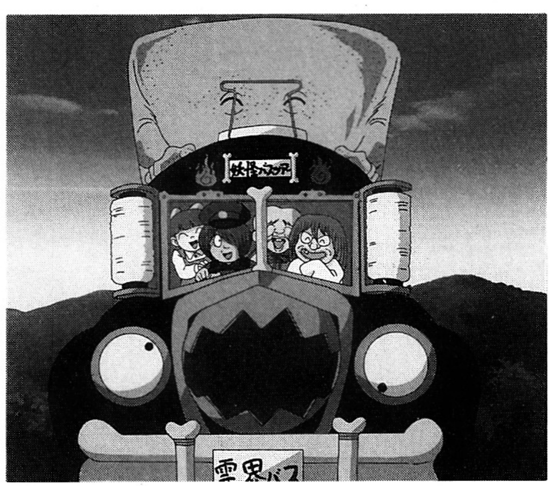
うんうん。で、これがもし完成していたら。

「『ゲゲゲハウス』なんかと同じマグネットギミックで、鬼太郎を運転席に置くと数秒後にバスが走り出すはずだったんです。同時に、目玉が上下したり、口がパクパクしたり……ね、楽しそうじゃないですか」

鬼太郎のオモチャ関係、それも自動車というと'60年代に今井科学から出ていた「妖怪自動車」（今シリーズ登場のガイコツ型とは異なる）のプラモが垂涎（すいぜん）の的。が、こっちは文字通り〝究極のお宝〟だ。なにせ世界に数台、この写真でしか見ることができないのだから。



▲試作品を手にする太田さん。「商品開発をしてるうち、すっかり鬼太郎に魅せられてしまいました」——映画「おばけナイター」では〝畑おんりょう〟役で声優デビューも果たした。



▲第70話「怪気象！妖怪ぐわごぜ」に登場した妖怪バス。

第2章

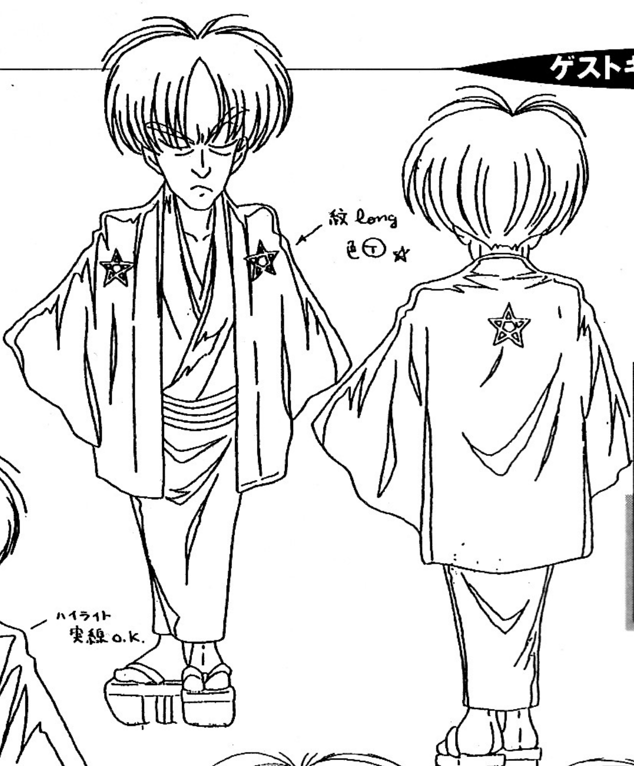
メイキングof「言霊使いの罠！」

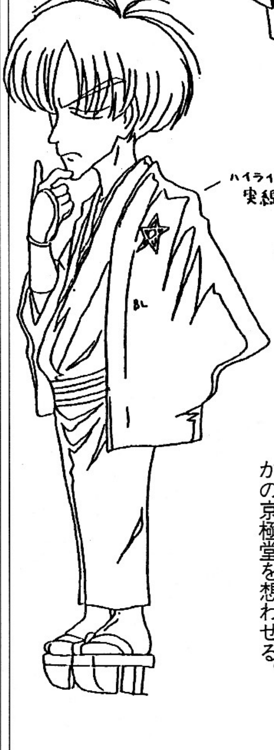
KYOGOKU meets KITARO

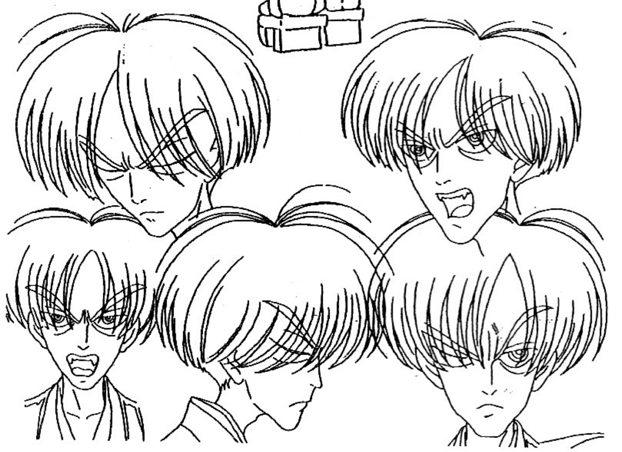
Guest Characters ①

一刻堂　声＝京極夏彦

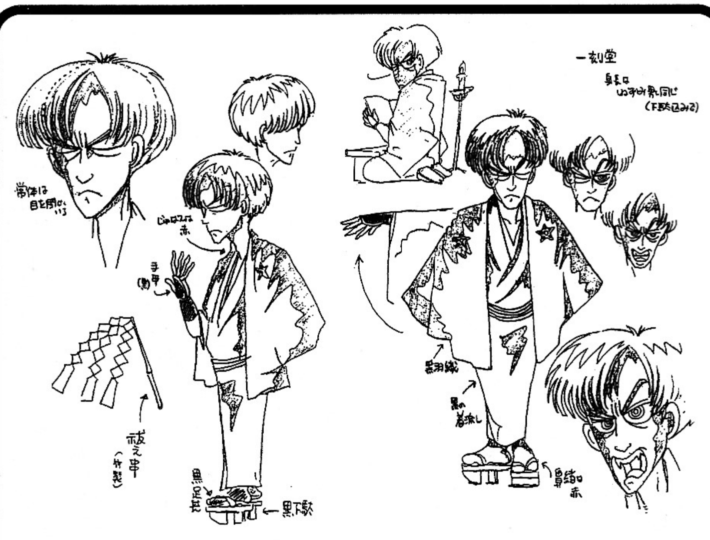
〝憑物落としの拝み屋〟を自称する陰陽道いかるが流の当主。言霊を操る妖怪の天敵。



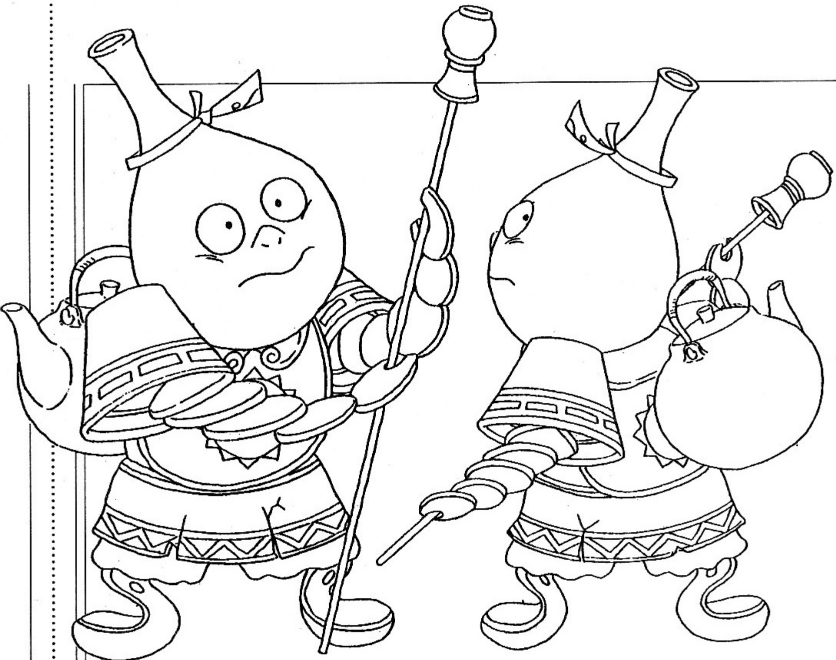




▶キメぜりふ「この世に不思議なものなどない」は、かの京極堂を想わせる。



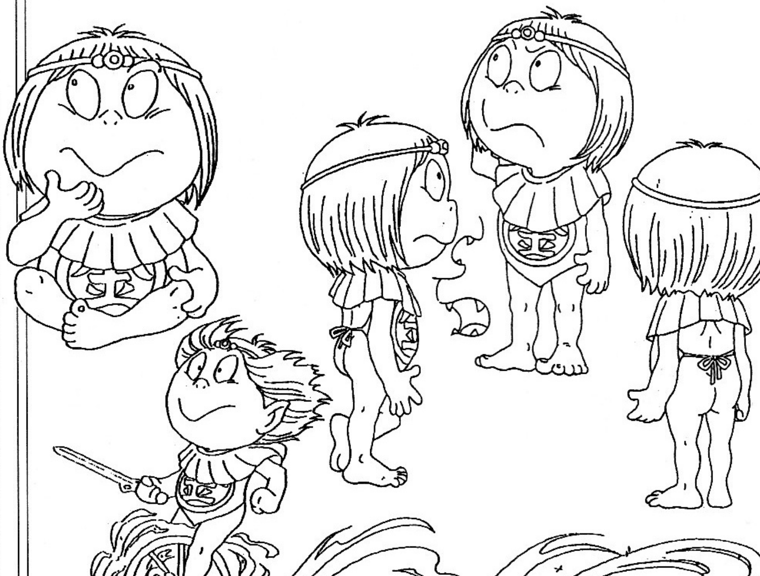
◀一刻堂のデザインは京極夏彦氏自らが手がけた。その完成度は、総作監の荒木氏が「手をくわえる必要はほとんどなかった」というほどのもの。その、見るからに不機嫌そうな表情、黒の着流しに晴明桔梗、手甲、黒足袋に鼻緒の赤い黒下駄――とくれば誰もが京極堂＝中禅寺秋彦のことを連想するだろうが、京極氏自身は両者を別物と考えてもらいたい由。「小説の場合は読者が抱いたイメージが常に正しいんです」



Guest Characters②

瀬戸大将

一刻堂が操る式神。いわば実体をもつ幻覚で、妖怪アンテナにも反応しない。本体は茶碗や壺などの古い瀬戸物だった。



Guest Characters③

護法童子

一刻堂の求めに応じ、異界から出現した童子姿の鬼神。陰陽師を守護する一種の式神といえる。

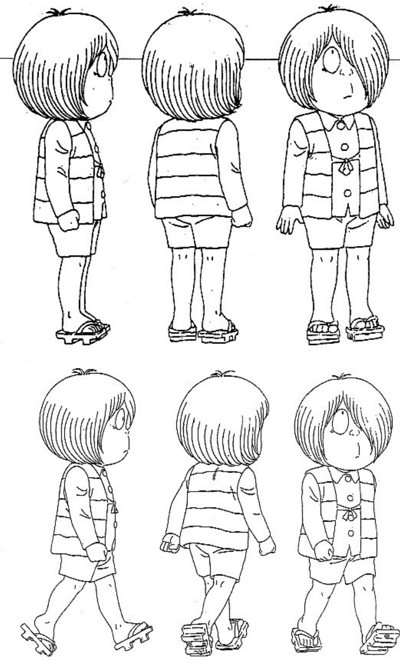


Guest Characters④

小鬼

一刻堂が操る式神。その本体は校庭に埋められた古道具だった。

レギュラーキャラクター



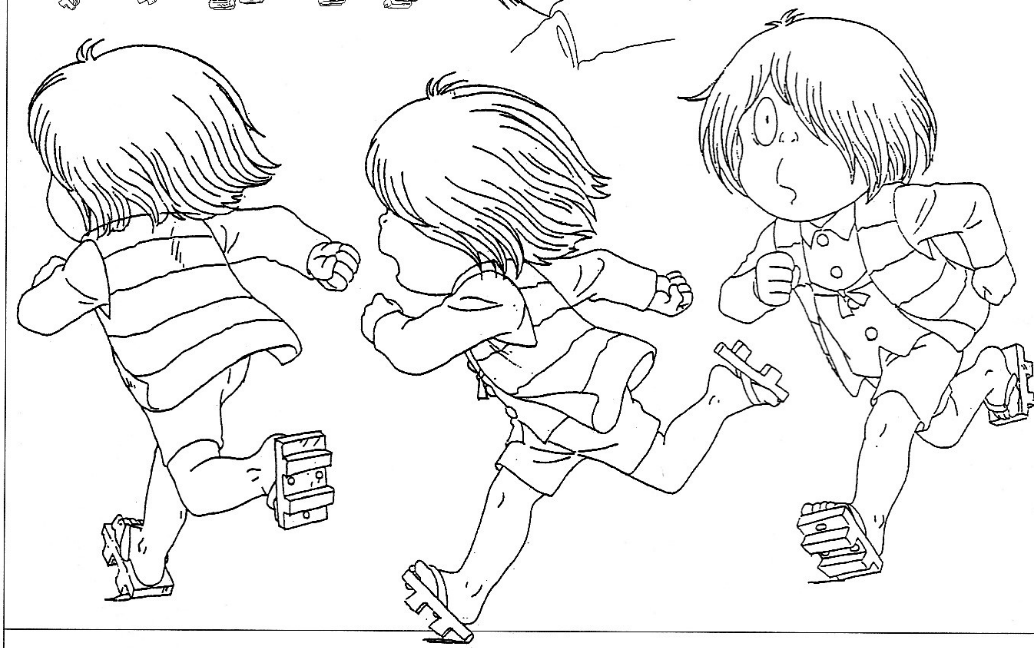


Regular Characters①

鬼太郎

声＝松岡洋子

崇高なる幽霊族の血をひく少年。人間と妖怪が共存共栄できる平和な世界をつくるべく、日夜、努力している。



松岡洋子さんにインタビュー

― 松岡さんの鬼太郎初体験は？

今回鬼太郎役のお話をいただいて初めて出会いました。もちろん、キャラクターの名前や主題歌は知ってたのですが……。ただ、そのおかげで、かえって変に影響されず自分なりの鬼太郎を演じられたと思います。

― 鬼太郎の声を演じられるうえで、特に注意されている点は？

「はい、父さん！」というセリフ、とっても好きな響きで、緊迫した感じ、優しい感じ、困った感じなど、けっこうこだわって演じています。

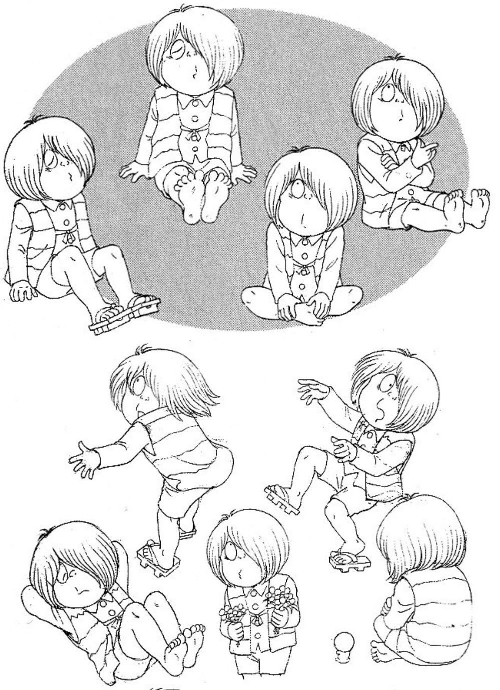
― 今回〝鬼太郎ファミリー〟に参加されてのご感想は？

声優の皆さんが、どなたもまるで絵からぬけ出てきたようなキャラクターそのままの方たちばかりで、おかげさまでのびのび楽しくお仕事させていただいています。

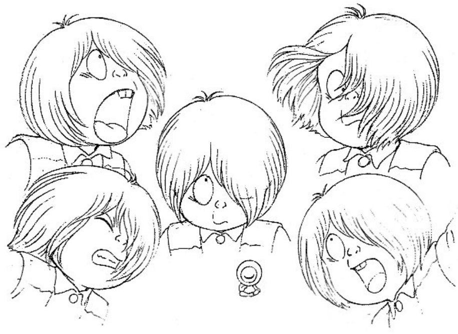
― 松岡さんにとって、鬼太郎とはどんな存在ですか？

鬼太郎に出会ってから、なんとなく毎日が楽しくて……鬼太郎の噂を街で耳にするとついホホがゆるんだり、いつも優しい気持ちでいられたり、もしかしたら私の中に鬼太郎がほんのちょっぴりのりうつってるんでは……私にとって本当に宝物です。

●ポーズ参考

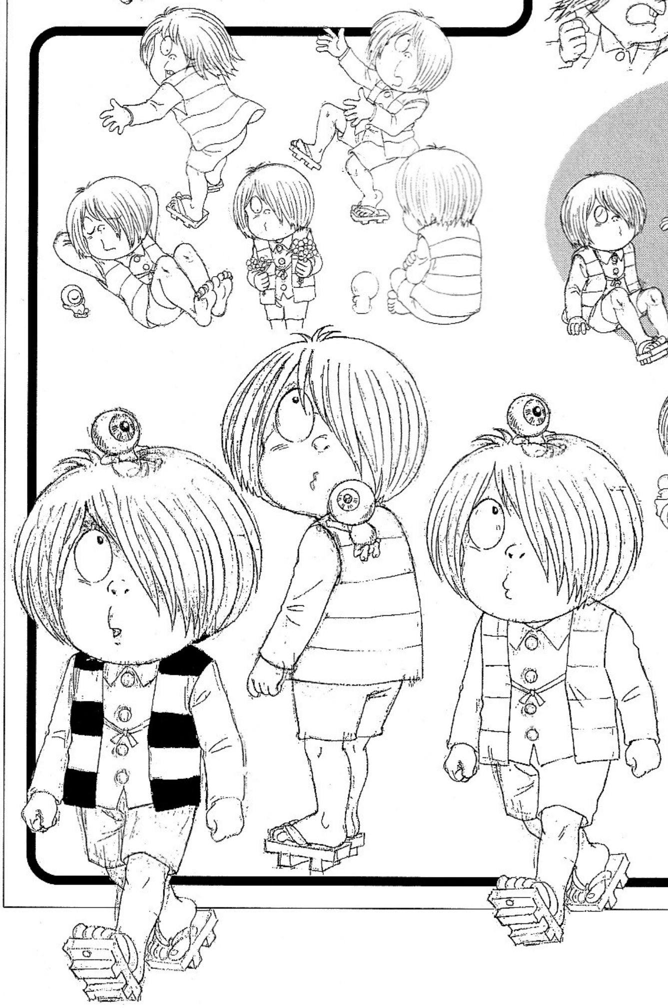


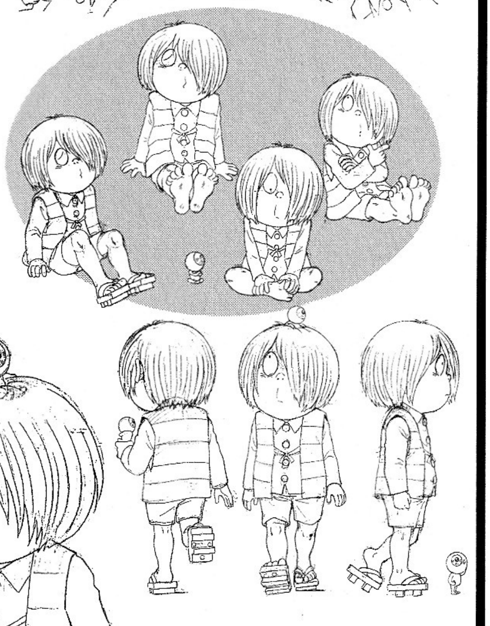
●表情参考



●NGデザイン







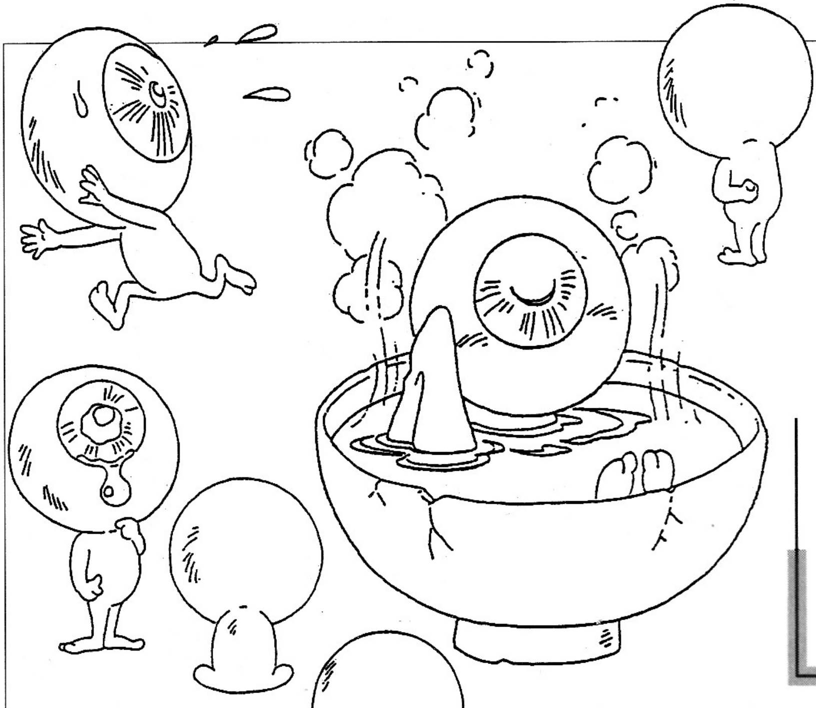
初期のデザイン画では特に、表情やヘアスタイル、頭身のバランスなどの点で、水木氏の原作に近い造形が試みられていた。上に掲げた表情・ポーズ参考と比較すれば、その違いがよくわかるはず。

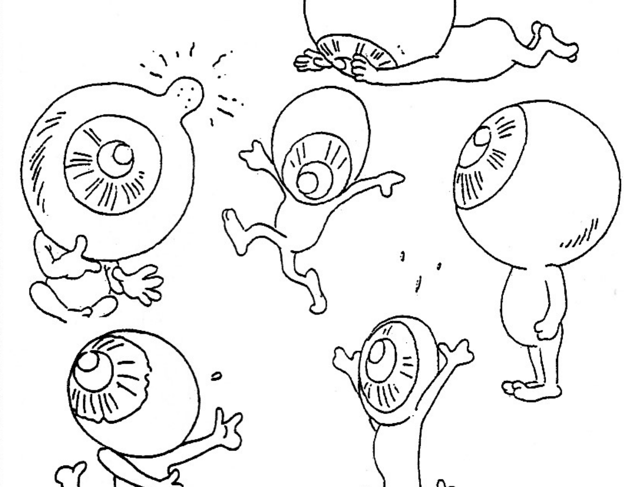
*Regular Characters*②

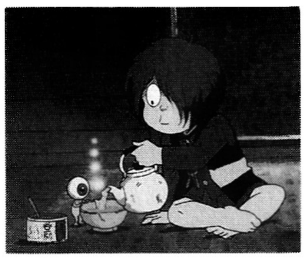
目玉の親父

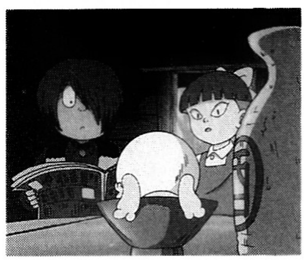
声＝田の中勇

息子への愛情から目玉だけとなって生きている。鬼太郎の知恵袋として、そのピンチを救う場面も多い。









◀大好きな茶碗風呂も、今シリーズでは〝温泉の素〟入り（第2話）や酒風呂（第11話）も登場するなど、バリエーションが豊かになった？

田の中勇さんにインタビュー

— 田の中さんの鬼太郎初体験は？

最初の白黒のアニメシリーズで目玉の親父役をさせていただくまでは、まるで知らなかったんです。

— 目玉の親父の声を演じられるうえで、特に注意されている点は？

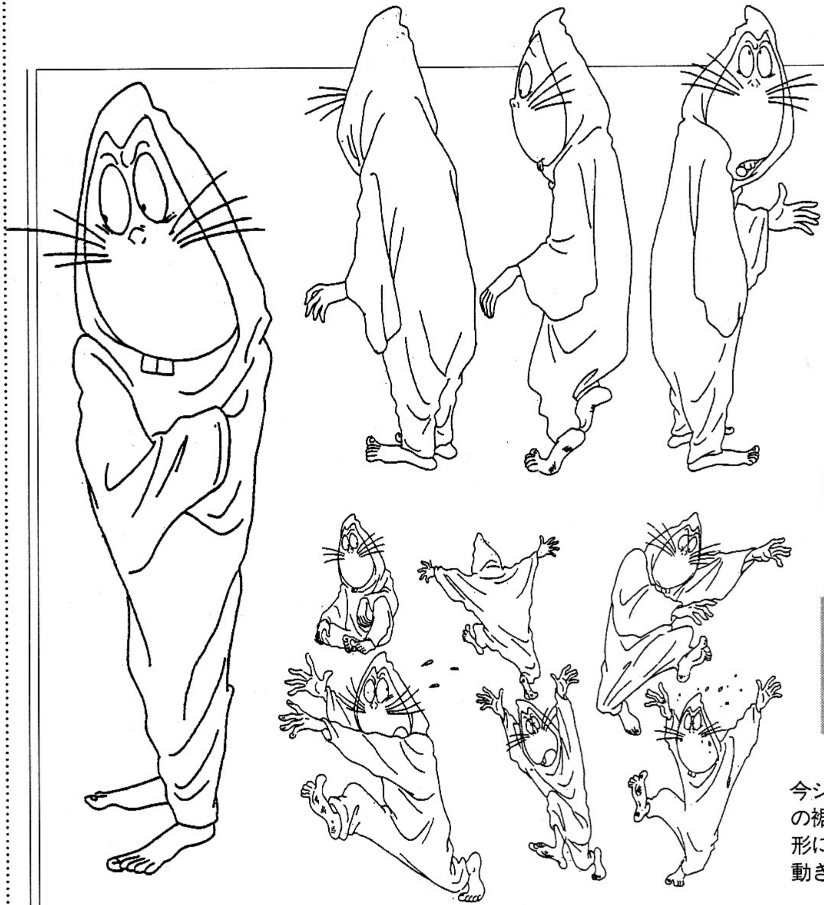
この声そのものは、もともとあった〝ひきだし〟で、それほど苦労するということはありませんでした。口パクにあわせる必要もありませんし……ただ、透明できれいな高音を出すように気をつけてはいます。甘い飲み物や喉飴は欠かせませんね。

— 今回〝鬼太郎ファミリー〟に参加されてのご感想は？

30年もやっていると、もう目玉の親父は分身ですね。進歩がなさすぎるのではないかとさびしくなる半面、シリーズごとにずいぶん声が違っているのに驚かされます。自分でいうのはなんですが、今が究極の目玉の親父になっているのでは。

— 田の中さんにとって、鬼太郎とはどんな存在ですか？

4シリーズ全て同じ役をやらせていただき、自然とライフワークになったことに愕然とする今日この頃です。たぶんこのシリーズが自分の出演する最後になると思いますので……。



Regular Characters ③

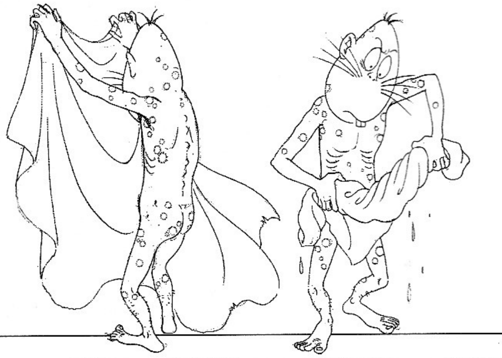
ねずみ男

声＝千葉 繁

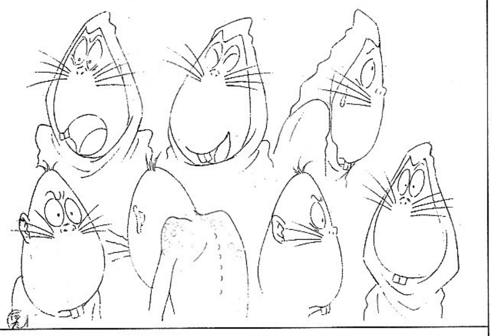
半分人間の半妖怪、金もうけのためなら平気で裏切るドライな性格。今シリーズの造形が最も原作の味に近い？

今シリーズでは、着物の裾がズボンのような形になり、より自由な動きが可能になった。

●ポーズ参考



●表情参考



千葉繁さんにインタビュー

— 千葉さんの鬼太郎初体験は？

まだモノクロで放映されていたころの「ゲゲゲの鬼太郎」が最初の出会いです。とにかく怖くて、観た後にトイレに行けなかったという記憶がありますね。

— ねずみ男の声を演じられるうえで、特に注意されている点は？

最初お話があったとき、このキャラクターは自分自身の個性のまま演じたほうがいいと直感しましたね。というのも、この役は初代が大塚周夫さん、二代目が富山敬さんという芸達者な方々が個性豊かに演じてこられたという歴史がありますから。で、三代目として千葉繁自身をねずみ男というキャラに投射できればと毎回演じています。

— 今回〝鬼太郎ファミリー〟に参加されてのご感想は？

こう言ってはなんですが、すばらしい遊び場を与えていただき感謝していますっ！

— 千葉さんにとって、鬼太郎とはどんな存在ですか？

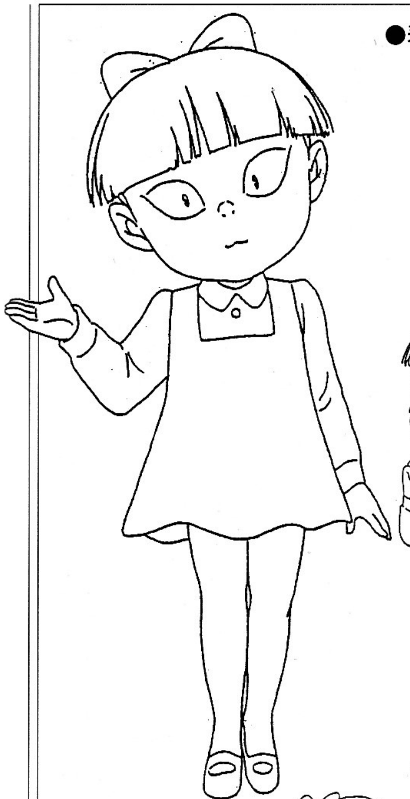
すべての人間の魂に、鬼太郎が潜んでいると思います。

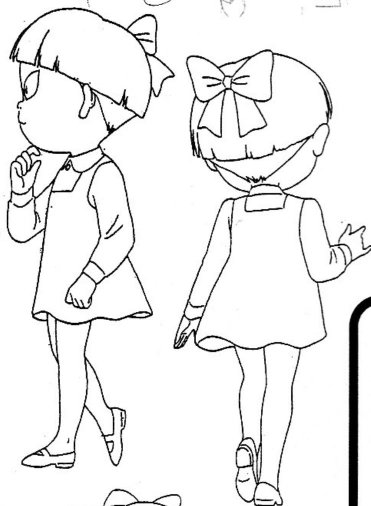
*Regular Characters*④

ねこ娘

声＝西村ちなみ

怒るとねこの本性が現れる。鬼太郎のピンチには身体をはって立ちむかう、たのもしくもけなげなガールフレンド。





●表情参考







●NGデザイン

胸元のリボンタイ、えり首のはえぎわ処理に注意。

西村ちなみさんにインタビュー

— 西村さんの鬼太郎初体験は？

こわがりの私は、みんなが大好きだった鬼太郎を一度も観たことがなかったんです。音楽だけはよく知っていましたが……なので、私の鬼太郎初体験はまさに〝今〟なんです。

— ねこ娘の声を演じられるうえで、特に注意されている点は？

ねこ娘は、ふだんはフツーの女の子で、たまに化けねこに変身するので、フツーの女の子の時は、甘えん坊のねこのようなイメージで、変身後は、するどさを出すよう気をつけています。あと、ねこ特有の〝あまのじゃく〟な感じも、かな。

— 今回〝鬼太郎ファミリー〟に参加されてのご感想は？

ベテランの方たちといっしょにお仕事ができて本当に光栄です。みんなが知ってる作品ですし、友だちの子供がねこ娘を見て「ちなちゃん」と言ってくれると思わずにこにこしちゃいます。こわがっていた鬼太郎が、こんなにすばらしい話だと知って、今では大ファンになりました。

— 西村さんにとって、鬼太郎とはどんな存在ですか？

どこにでも、いそうでいない……ヒーローかなぁ。

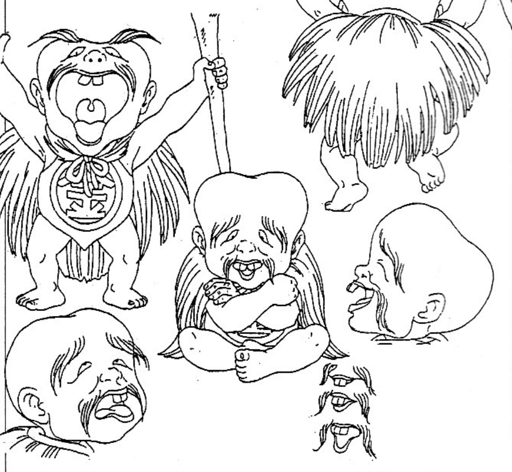


Regular Characters ⑤

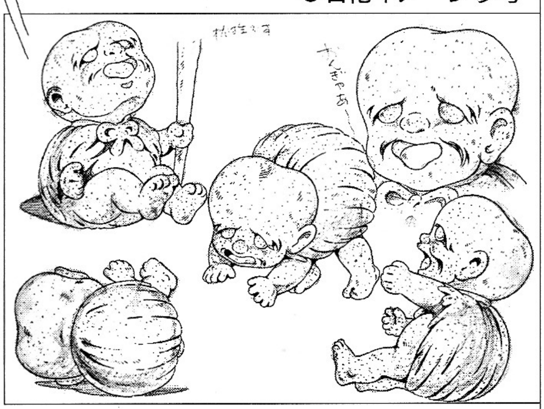
子なき爺

声＝塩屋浩三

もとは四国の山中にすむ妖怪。赤ん坊のような泣き声で、抱き上げるとどんどん重くなっていく。



●石化イメージ参考



塩屋浩三さんにインタビュー

― 塩屋さんの鬼太郎初体験は？

「墓場の鬼太郎」のタイトルで少年マガジン誌上で読んだ記憶があります。アニメーションは初代モノクロ作品を毎回楽しみに観ていました。あとこれは個人的な話ですが、小学5年生のときに実写版「悪魔くん」の〝情報屋〟を演じさせていただき、40歳を越えたところで子なき爺に巡り合えました。水木先生との不思議な因縁を感じています。

― 子なき爺の声を演じられるうえで、特に注意されている点は？

先代の永井一郎さんが作り上げてこられたイメージを壊すことなく、自分なりの役作りを活かせたら最高だと思います。何百年生きていてもカワイイ子なき爺でありたいです。

― 今回〝鬼太郎ファミリー〟に参加されてのご感想は？

近年、アニメーションのスタジオでは自分より若い人に囲まれるのが常でした。今回は、ちなみちゃんの次に若い！ということで、リラックスして先輩たちに甘えています。

― 塩屋さんにとって、鬼太郎とはどんな存在ですか？

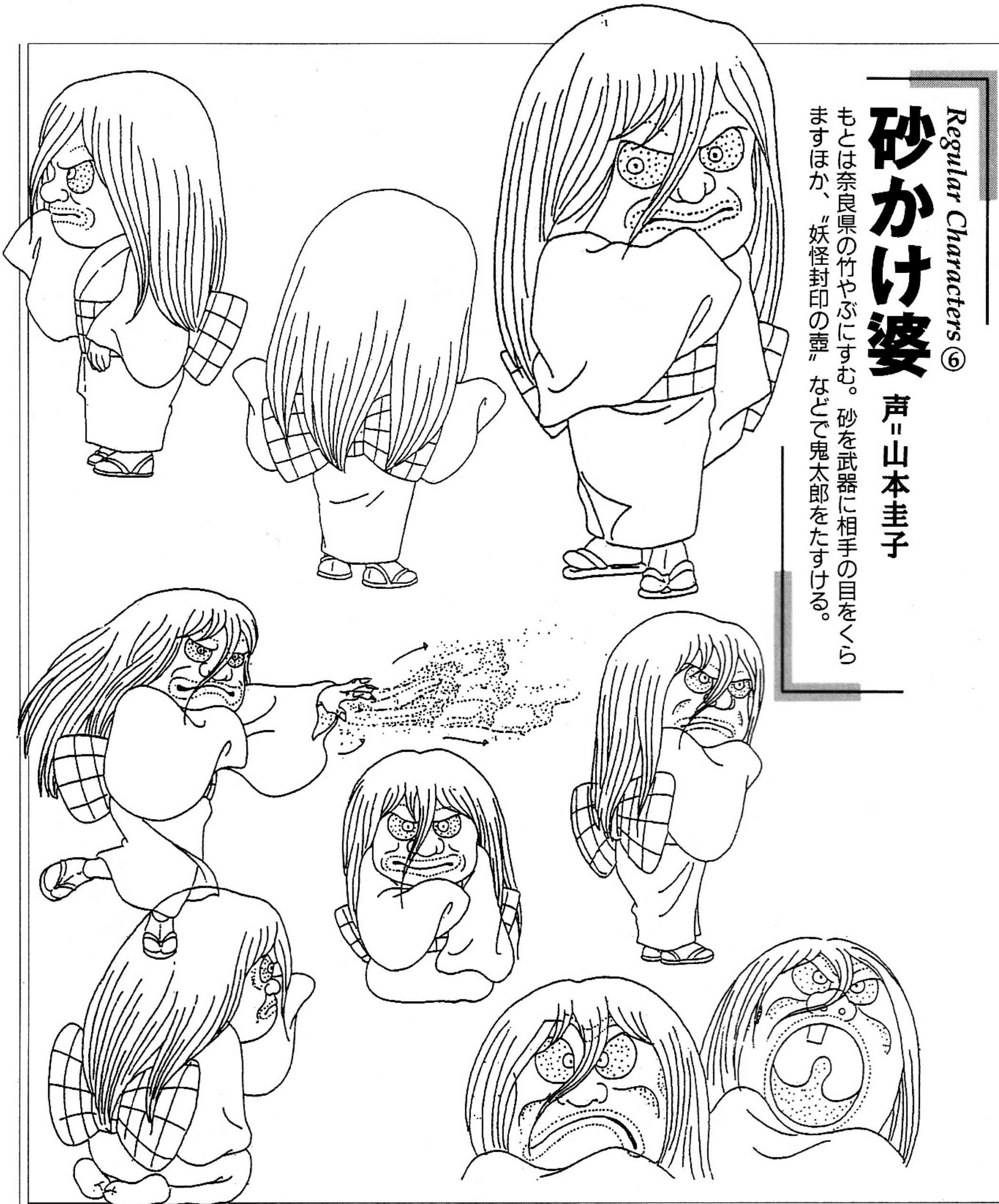
リバイバルだからという意味でなく、〝懐かしさ〟を感じますね。

Regular Characters ⑥

砂かけ婆

声＝山本圭子

もとは奈良県の竹やぶにすむ。砂を武器に相手の目をくらますほか、〝妖怪封印の壺〟などで鬼太郎をたすける。



山本圭子さんにインタビュー

― 山本さんの鬼太郎初体験は?

第一シリーズの砂かけ婆の声です。それまで男の子役の声ばかりだった私が女役もできるようになった記念すべき役で、初登場の「ようこそ鬼太郎」というセリフがなかなかうまくいかず、苦労した記憶があります。

― 砂かけ婆の声を演じられるうえで、特に注意されている点は?

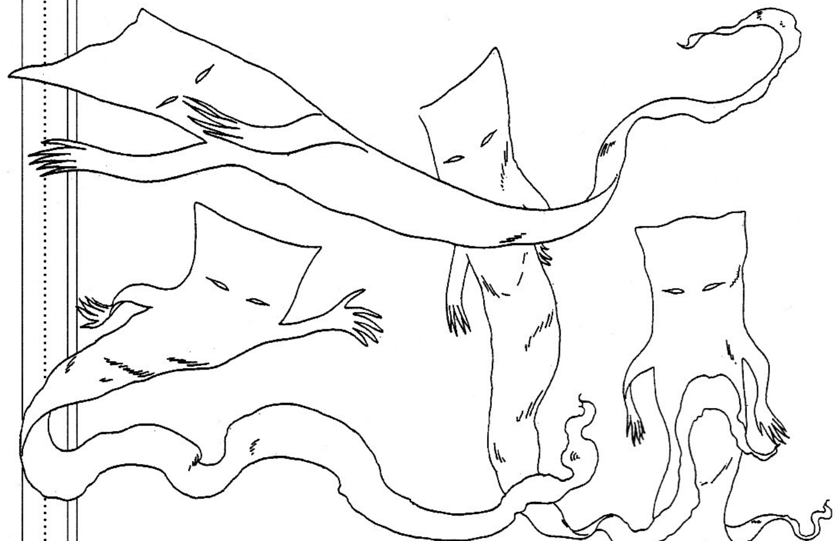
鬼太郎に対しては母のような気持ちをこめて、戦うときは迫力をこめて、というのを心がけています。

― 今回〝鬼太郎ファミリー〟に参加されてのご感想は?

第1シリーズで砂かけ婆を、第3シリーズではシーサーを、そして今回また砂かけをやらせていただき、30年におよぶ鬼太郎の歴史の重み、スタッフの皆さんの熱意をひしひしと感じ、感謝しています。

― 山本さんにとって、鬼太郎とはどんな存在ですか?

今までのシリーズでは鬼太郎の世界すなわちアニメの妖怪の世界の話と思っていましたが、今回は日本の現代の本当の話じゃないかと思うことが驚くほどいっぱいあります。鬼太郎たちの力を借りて住みよい日本になると良いですね。



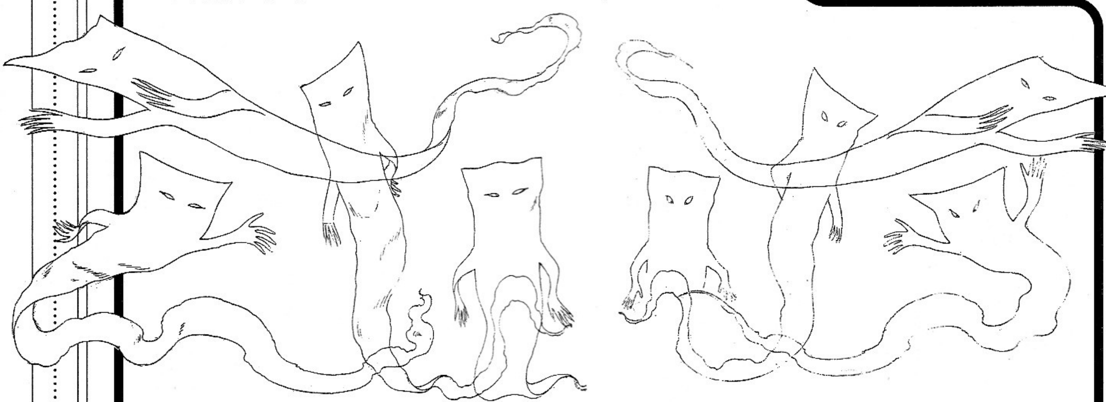
Regular Characters ⑦

一反木綿

声＝龍田直樹

もとは鹿児島県の妖怪。文字通り木綿の布で、ひらひらと空を飛ぶ。鬼太郎の空中戦には欠かせない存在。

●NGデザイン



表情の少ないキャラクターだけに、その造形はかえって難しい。目の位置の決定はもちろん、初期には黒目のあるデザインも検討された。

龍田直樹さんにインタビュー

―龍田さんの鬼太郎初体験は？

最初のアニメの時だったと思います。なんともおどろおどろしいような、でもちょっとコミカルなような……こわいもの見たさ的感覚でテレビの前にいたことをおぼえています。テーマソングもメロディーに加え、歌詞にインパクトがあって、いつも頭の中をグルグル回っていました。

―一反木綿、ぬりかべの声を演じられるうえで注意される点は？

特にこだわっている点はありませんが……ただ、一反木綿はたんなる乗り物ではないのだ！ということ、ぬりかべの場合ほとんどヌとリとカとべしか発音しませんが、あいつにはあいつなりの生活と思いがあるのだ!!ということでしょうか。

―今回〝鬼太郎ファミリー〟に参加されてのご感想は？

歴代のファミリーを演じられた諸先輩のお仕事を汚さぬよう……楽しくやっています。

―龍田さんにとって、鬼太郎とはどんな存在ですか？

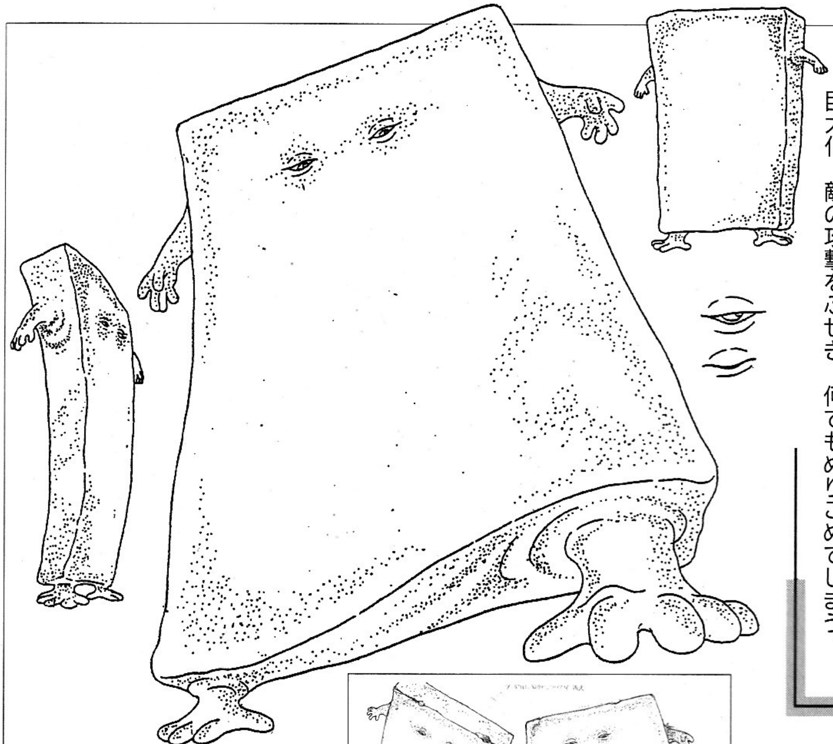
ほんとうにいたらコワイ……ちょっと気持ち悪いかな……でもいたら心強いし……楽しいかも……でも……やっぱりいて欲しい……そんな存在。

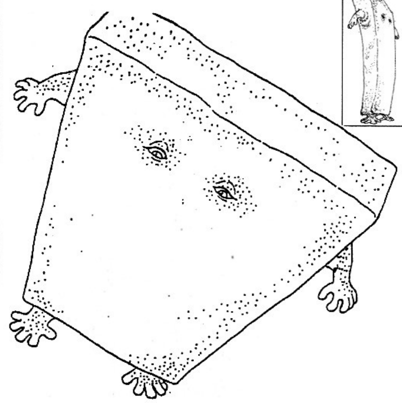
Regular Characters ⑧

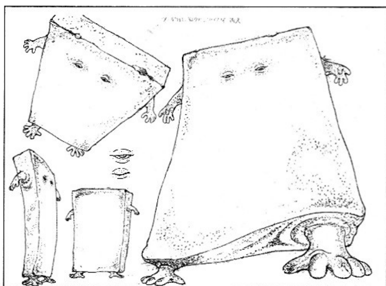
ぬりかべ

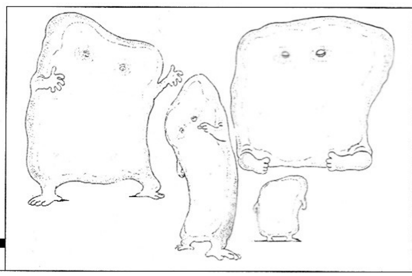
声＝龍田直樹

もとは九州北部の山中にすむ。突然地面から現れて自由に巨大化。敵の攻撃をふせぎ、何でもぬりこめてしまう。









●NGデザイン

初期のデザインでは、よりやわらかい質感の造形も試みられた。また、土壁の感じを強調するため、エッジを剝落させたバージョン(左)もある。

西村知道さんにインタビュー

— 西村さんの鬼太郎初体験は？

声優の仕事をしているからには一度は出演したいと思っていた作品でした。今回念願がかない、それもぬらりひょんという役で、感激です。

— ぬらりひょんの声を演じられるさい、特に注意されている点は？

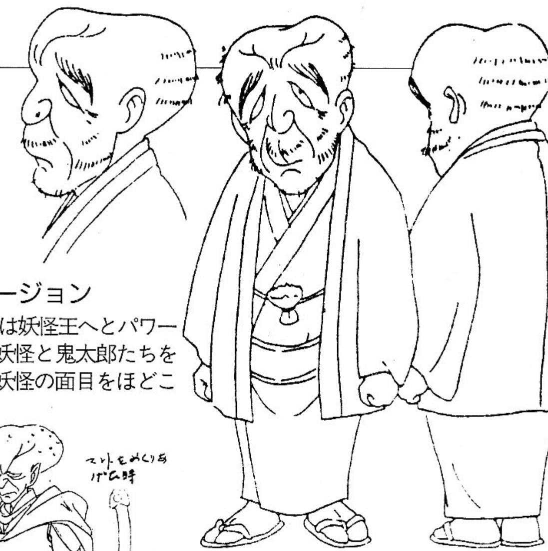
ぬらりひょんは強いのか、弱いのか、なかなか表現しにくいところがありますので……ただの悪者ではなく、心は良い妖怪じゃないのかな？という感じで演じています。

— 今回、敵役で〝鬼太郎ファミリー〟に参加されてのご感想は？

まさかぬらりひょんを演じられるとは思っていなかったので驚いています。あずきとぎの声もやりましたが、どちらも何か自分にぴったりの役のような気がしておもしろいです。

— 西村さんにとって、鬼太郎とはどんな存在ですか？

いつもそばにいて、困ったときにすぐ助けてくれる……そんな心の友だちです。



Regular Characters ⑨

ぬらりひょん

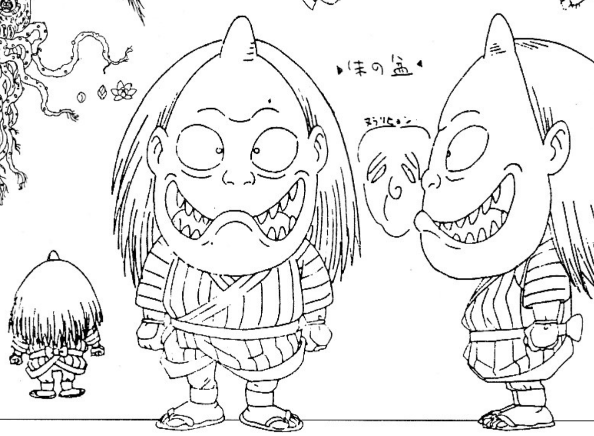
声＝西村知道

鬼太郎の宿敵。さまざまな妖怪を陰で操る悪玉だが、今シリーズでは朱の盆同様、どこかコミカルな味わいも……。

●妖怪王バージョン

第96〜99話では妖怪王へとパワーアップ。西洋妖怪と鬼太郎たちを苦しめ、悪玉妖怪の面目をほどこした。





Regular Characters ⑩

朱の盆

声＝郷里大輔

赤い盆のような大きな顔をもつ。ぬらりひょんへの献身と、滑稽な失敗ぶりはシリーズ後半をおおいに盛り上げた。

郷里大輔さんにインタビュー

— 郷里さんの鬼太郎初体験は？

ずっとずっと昔のかわいい子供のころです。鬼太郎、目玉の親父、ねずみ男などの強烈なキャラクターが大好きでしたし、気がつくと熊倉一雄さんの唄っていた主題歌を口ずさんでいたこともしょっちゅうでした。

— 朱の盆の声を演じられるさい、特に注意されている点は？

朱の盆はぬらりひょん様の頼りない手下というよりも、悪党ぬらりひょん様が大好きで何をやっても失敗ばかり、そしてお人好し。愛すべきドジな小悪党として演じています。目下の心配は、あの大きな顔に、演じる私までがだんだん似てきたということでしょうか……。

— 今回、敵役で〝鬼太郎ファミリー〟に参加されてのご感想は？

とにかく観ていて楽しい……スタジオではすっかり観客になりきってスクリーンに見入っています。

— 郷里さんにとって、鬼太郎とはどんな存在ですか？

妖怪の世界は怖いばかりでなく、素敵な世界であることが鬼太郎のおかげでわかった気がします。

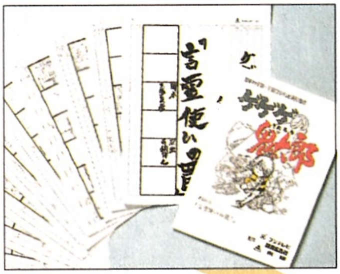
全図解!アニメーション制作プロセス

一刻堂が動くまで

「アニメ鬼太郎」はどのような手順をへて制作されているのだろうか? 絵コンテ(P91参照)B-No.24冒頭のカットを例に、作画作業から、コンピュータによる仕上げ、編集までのプロセスを追いかけてみよう!



レイアウト・原画・動画・背景、タイムシートや色指定まで、アニメでは、1カット(ひとつの動き)にこれだけ多くの材料が必要になる。



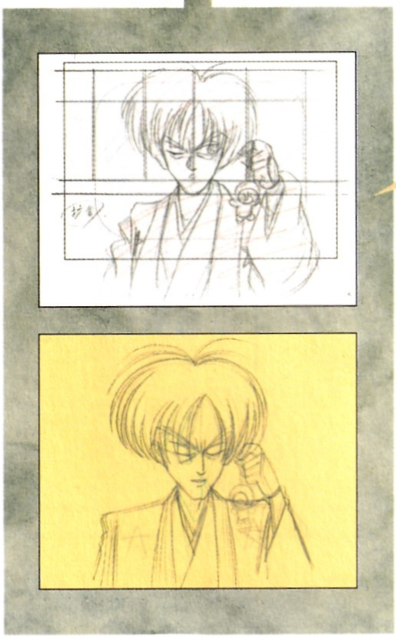
プロデューサー、脚本家、演出家による打ち合わせをへて、シナリオおよび絵コンテが作成される。

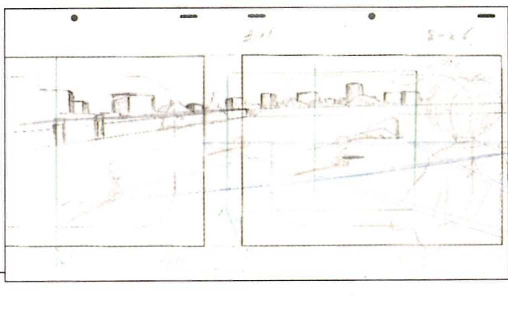
❶ シナリオ・絵コンテ

❷ レイアウト

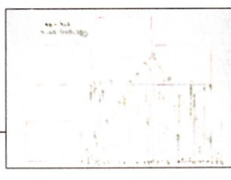


各原画マンは、まず担当シーンのレイアウトを作成する。これはおおまかな背景とキャラの動きのポイントをラフに描いたもの。演出および作画監督は、背景とキャラの関係、カメラアングルなどの問題を、この段階で入念に検討・修正する(上の写真)。これをレイアウトチェックという。ここでは、黄色い紙の方がレイアウトチェックである。





レイアウトはパノラマやズームのフレーミングも指定する。左はコンテB-No.22、下はB-No.19のカメラの動きを表している。



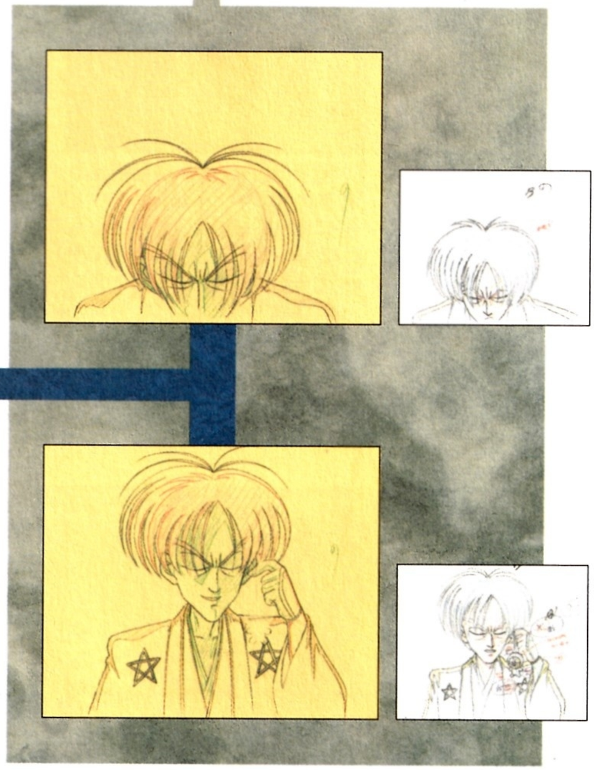


原画で指示された動きをもとに、動画マンは「中割り」と呼ばれる途中の一連の動きを描きこみ、スムーズな動きとして作画する。テレビ作品1本あたりの平均動画作画枚数は3000枚程度である。



表情のみ、会話のさいの口の動きのみの場合など、必要な部分だけを動画にする。

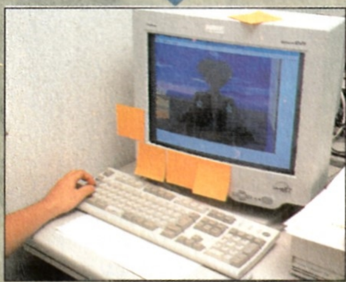
❸ 原画・動画



レイアウトチェックをもとに、キャラの動きのポイント、節目となるポーズを原画にする。この時、動きや芝居のタイミングをタイムシートに書き込んでおく。ここでも作監による作画チェックが行われる（上図の黄色い紙の方）。

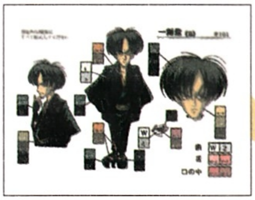




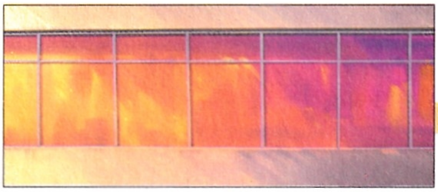


❹ トレス・彩色・撮影

かつては純粋な手作業に頼っていたトレス（動画の線描を写しとる）、彩色、撮影のプロセスも、現在劇的にデジタル化が進んでいる。その工程としては、まずスキャナで動画の線描をとりこみ、これに彩色用ソフトで色をつける。これに別進行で描かれた背景を重ねてひとつのファイルにし（これがかつての撮影に相当する）、続く編集の段階へとまわすわけである。
当初は手作業だった今回の「鬼太郎」も、第64話からは本格的にデジタル仕上げを導入。輪郭線がギザつくなど、なお残された課題はあるものの、つねに水準以上の完成度を見せている。アニメから〝セル画〟の概念が消える日もそう遠い話ではない。



彩色は定められた「彩色指定表」にそって行われる。



背景作画マンは、各話担当の美術デザイナーがレイアウトにそって描いた背景原図をもとに、背景を描く。兼用で使える部分は多いものの、テレビ作品1本あたりで、背景の枚数は150枚くらいになる。

❺ 編集



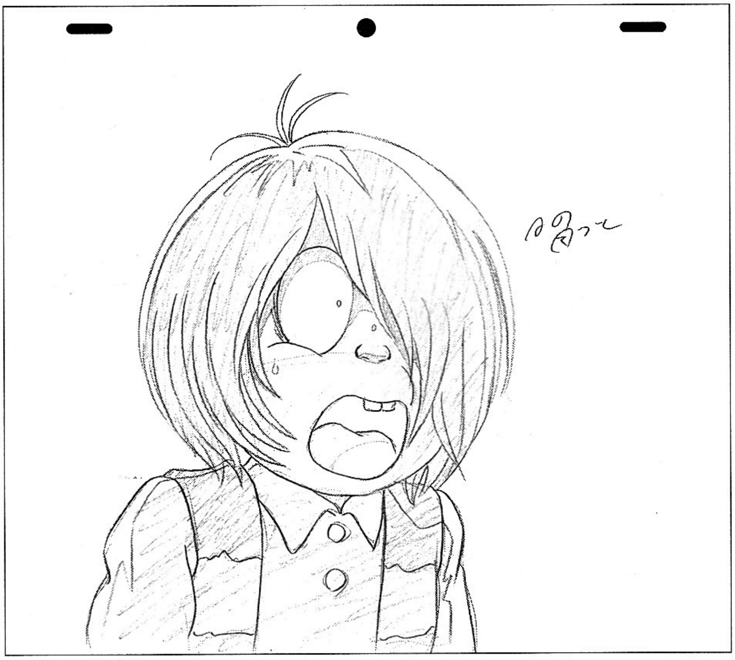
仕上げの終わった画像ファイルは、コンテをもとにカットごとにまとめられ、さらにシーンごとにつながれて1話分の動画映像となる（これを棒つなぎという）。これに放送用フォーマットに合わせたセリフや音楽・効果音をダビングすれば、放送用ビデオは完成する。

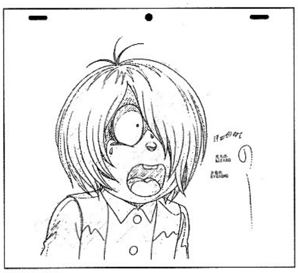


原画&作画チェック

文字通りキャラクターの〝演技〟を決める原画作業。そこでは絵の完成度はもちろんキャラの心情・性格へのつっこんだ理解が要求される。







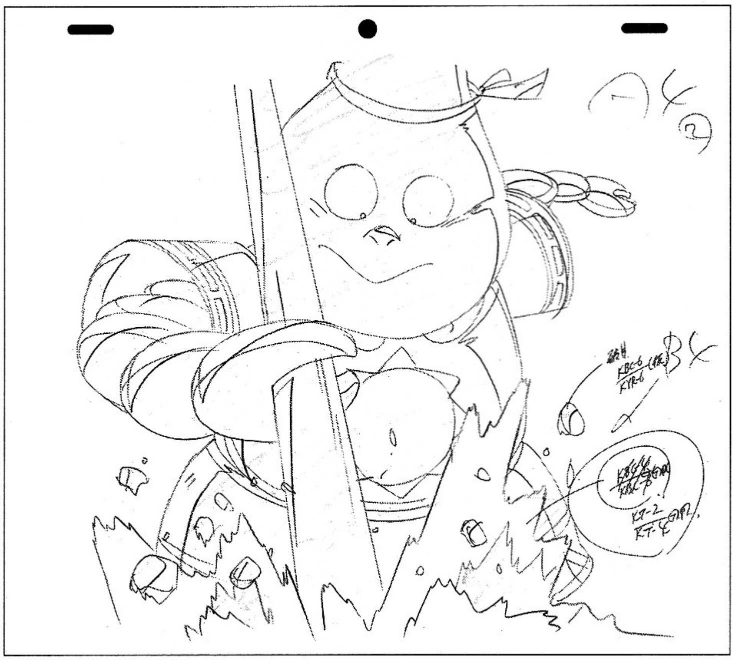
上は絵コンテNo.8（本書P84参照）の一刻堂。見開いた目、確信に満ちた口もとが印象的だ。
下はB-No.27（P92参照）、鬼太郎あぜんの図。左の大きい絵が、原画マンからの第1稿。これに101話担当の作画監督・木下女史が修正を加えたのが小さいほうの作画チェック。シャドウ部を強め、鬼太郎の恐怖をきわだたせている。



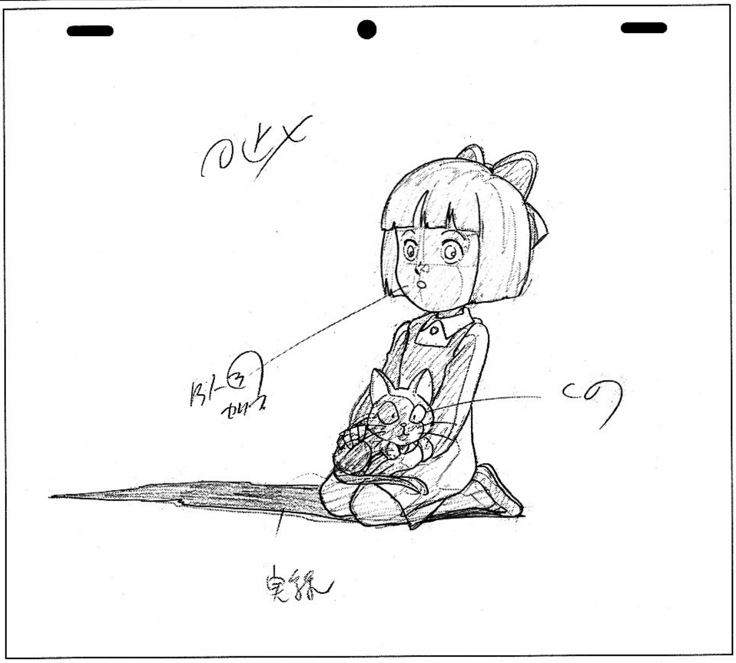
◀以下81ページまでの鬼太郎パラパラアニメ（フリップ・ブック）は動画への展開例。絵コンテのB-No.33（P92参照）に描かれたカットで、原画のあるものには＊を付してある。

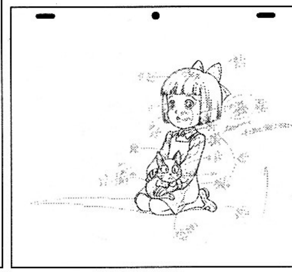


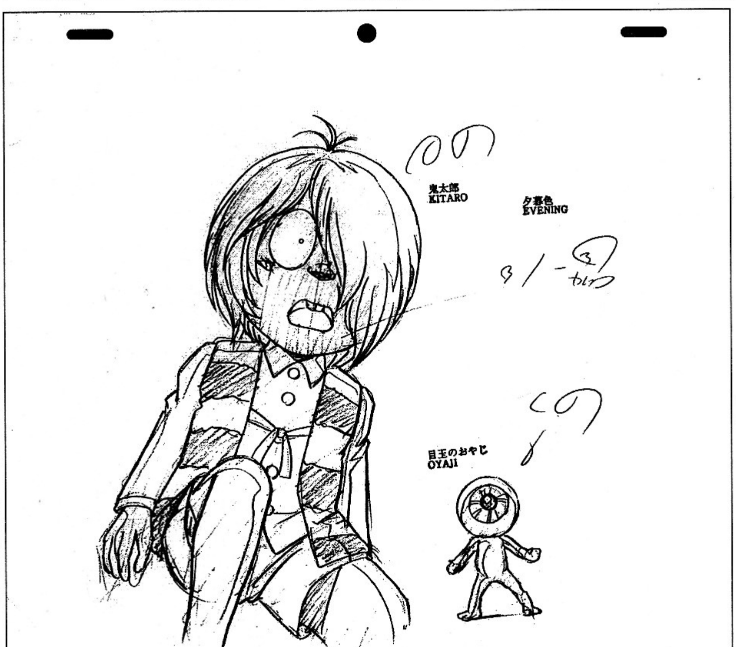


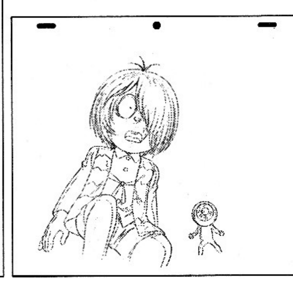


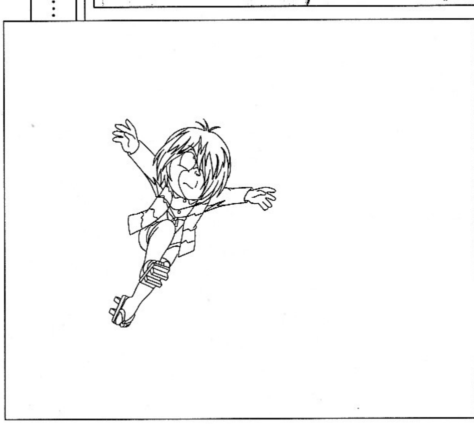
上は絵コンテB-No.28（P92参照）の、祓え串をかまえる一刻堂。もとの原画（大）では、いかり肩で表情にも動きがある。これに対し、作画チェック（小）では真正面をピタリと見すえ、微動だにしないその表情が、かえって一刻堂の底知れぬすごみを感じさせる。
下は絵コンテNo.31（P87参照）の瀬戸大将。鬼太郎の視線で、見上げるようなアングルが効果的だ。



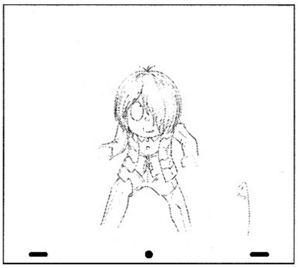


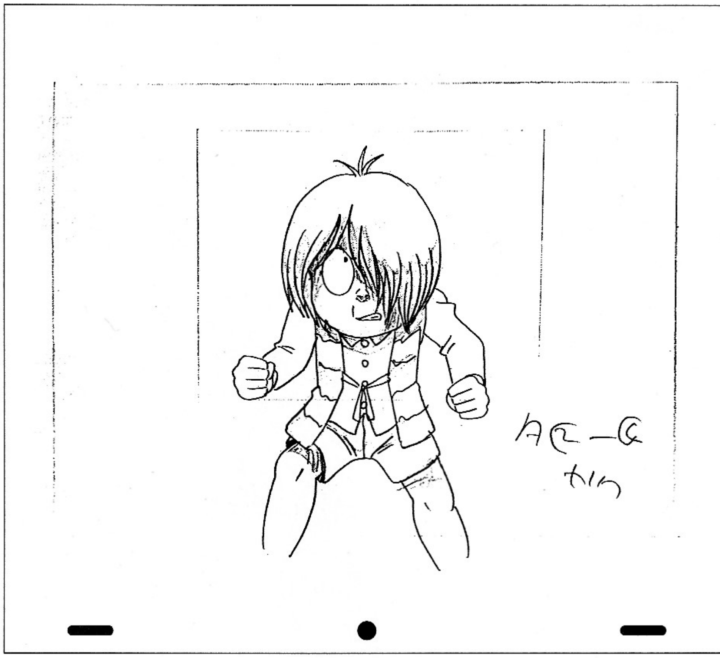


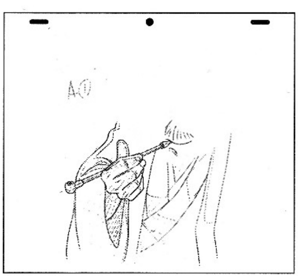




上は絵コンテB-No.23（P91参照）の、ねこ娘だった少女。登場カット数が少ないため、作画チェック（小）が彩色のための色指定をかねている。
下は同じくB-No.23の鬼太郎と目玉の親父。作画チェック（小）で、目鼻のバランスや陰影の調子に修正が加えられた。顔の描き方には作監により、微妙なクセがあるという。



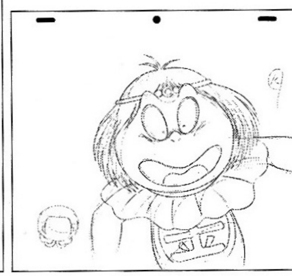




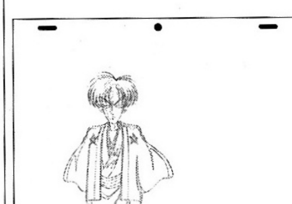


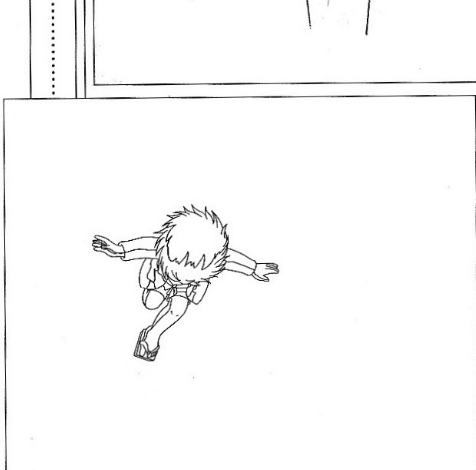
上は絵コンテB-No.30（P92参照）の、反撃にでる鬼太郎。もとの原画にはTB（トラックバック＝カメラが被写体に対し後退しつつ撮影する）のためのフレーミングが書きこまれている。
下はNo.4（P83参照）のぬらりひょん。作画チェック時に、京極氏の希望で演技の修正が指示され、キセルは口にくわえることになった（その背景についてはP69参照）。











上は絵コンテB-No.33(P92参照)の護法童子。頭の形、目鼻の造作などが、作画チェック（小）で大幅に修正された。下はB-No.18(P90参照)の一刻堂。骨格やヘアスタイル、顔の造作に修正が加えられている。
なお修正の際は、金具で原画と修正用紙の端の穴を固定、位置がずれぬようライトテーブル上で作業が行われる。

スタッフインタビュー①

キャラクターデザイン&総作画監督
荒木伸吾×姫野美智

——平成版のシリーズ総作画監督として、キャラのデザインなど、どんな点に留意されたのでしょうか？

荒木　これまで3回のアニメシリーズでは、キャラクターはいずれも水木先生のお描きになったものと少しずつ違っていました。

特にかわいらしさと不気味さのバランスがちょっと違うんじゃないかということで、今回はできるだけ原作の色合いを残そうと。アニメの場合、みんなに好かれるキャラづくりに努力するんですが、そういう意味でも鬼太郎は水木さんの原作に近づいた方がいいのではないでしょうか。

初期マガジンの頃の鬼太郎なんて、今よりもっと愛くるしいし、鬼太郎をつくるなら、その不気味さと可愛さの両方を出したいと思ったんです。

——京極先生も同じご感想でした。



あらき・しんご　アニメーター。主な仕事に「ジャングル大帝」など。

それと、ゲストキャラでいうと、これまでより敵の妖怪と和解して終わるという話が多くて、それが絵にもあらわれている感じがするんですが。

荒木　たとえば前のシリーズでは、アニメのもてる力をフルに使っていますよね。ただ、それが逆に他のふつうのアニメと似かよった印象を与える理由にもなっている。

今回は美監の浦田さんの美術が非常に美しいんです。森の中なんかうっそうとしてるんだけど居心地がいい。それと姫野さんの絵の世界が鬼太郎の中に入ってきている。絵の透明度というか、観ている人が抵抗感なくスッと鬼太郎の世界に入りこめるんです。水木先生の妖怪はユーモラスなところがあって、演出の西尾さんも妖怪はおもしろい奴なんだと言ってますし……。

姫野　人間みたいな妖怪が多いんですよね。妖怪におきかえられているけど、話自体は人間世界と変わるところはない。すごくファンタジックでもあるし、これは子供にわかりやすいだけでなく、大人にも愛される作品なんだと理解できたんです。

——キャラのデザインはお二人どのような分担でなさるんですか？

荒木　まず自分でデッサンを描きます。こういう方向でやろうと……それに姫野さんがいろんなものをつけ加えながらつくりあげていくんです。二人が別別につくったものを合わせるというのではなく、ひとつのものにのせていくという感じです。

姫野　そう、ちょうどバウムクーヘンをつくるような感じですね。だんだんと積層されていくんです。

荒木　こちらがまだあやふやで、こうなんじゃないかなという探りで起こしたデッサンに、姫野さんがハッキリ形をつけてまとめる、と。

姫野　鬼太郎に出てくるキャラクターはどれもアニメ化しやすい特徴をもっていますね。

長く親しまれているせいなのか、たとえば子なき爺や砂かけ婆といったレギュラーの役割や特徴も整然としているんです。

——でも、過去のシリーズとまるで同じではものたりないし、違いすぎてもまずい……その点、キャラを見せていくのに苦労はありませんか。

姫野　幸いにというか、私の場合は前回のアニメを観ていなくて、そういった意識がなかったんです。今ちょうど再放送で前のを観てますけど、やっぱり全然違いますね。

荒木　すでに3回もアニメ化されているから、はじめはもう新たに見せられるものなんて残ってないんじゃないかと思いましたよ。で、水木先生の絵を見たら、今までに使われていなかったキャラの魅力がまだいっぱいあるんですね。

ちゃんちゃんこひとつでも、アニメは縞模様なんかピピッと簡単に横の線1本で描いちゃってますけど、水木先生の絵ではちゃんとシワが寄っている。それを今回入れるだけでも、前とは違った質感が出たと思います。そういう魅力は、他にもねずみ男なんかにたくさん残ってますし……。

姫野　今回の鬼太郎は各話の作画のレベルが安定しているし、登場するいろんな妖怪で演技も変わってとても楽しいんです。その点、スタッフのノリが画面におもしろさとしてあらわれてるんじゃないかと思います。



ひめの・みち　アニメーター。主な仕事に「聖闘士星矢」など。

美術デザイン
浦田又治

――鬼太郎も今回で第4シリーズ、美術監督としてはどんな点を?

鬼太郎というキャラクターは日本一有名だし、視聴者の皆さんも水木先生の原作をよく知っておられる。そうすると背景・美術の面でも、自分のものを出すというより、原作のいい部分をいかにしぼりこめるかということが重要になりますね。僕としては、そのいい部分をメインに、〝絵ざま〟から自分なりの解釈を加えていく……ここはこうした方がいいんじゃないか、とかね。

――具体的にはどこをメインに?

鬼太郎の家、これは家の中はもちろん、家をとりまくゲゲゲの森もすべてひっくるめての意味ですが……。たとえば家の中では、原作にはない太い自然木の木組みを入れたことで、いかにも鬼太郎たちの手作りの感じを出せたと思いますし、ちゃぶ台ひとつとっても、脚の部分のたたみ方を図面にしてみたり……。

――わざわざ図面を⁉

当然ですよ。それだけじゃなく、天井は細かく全部ロープでしばった構造になってますし……ほとんど画面には出てこないと思うけど、ちゃんと家の隅にはカマドだってある。たとえ画面に出なくてもいいんです。そういう部分があってこそ、初めて家と呼べるわけですし、どんなアングルで撮っても絵になりますから。

――ゲゲゲの森にも東西南北がちゃんとあるとか?

ええ、ほかにもゲゲゲの森は人里離れて人間が足を踏み入れてない場所ですから、普通の森とは木のはえ方も違う。枝だって剪定されてませんし、ツタもからまってたりする。倒れた木のウロにはトカゲなんかも住んでる――初期の設定にはそこまで描いたものもあります。

――すごいディテールへのこだわりですね。

ええ、ただここが美術という仕事の難しいところであり、肝に銘じておかなきゃならない点でもあるんですが、背景・美術というのはただ細かく描けばいいというものではないんです。キャラクターというのは基本的に線でできていますから、これに急にマチエールの強い面や描きこまれた立体なんかをくっつけると、キャラを喰ってしまう。どんどん細かく描けば描くほど、キャラは死んでしまうんです。その意味で殺すのは楽(笑)。この仕事やってる人はみんな絵が好きだから、放っとくとキャラはみんな死んじゃう(笑)。で、自分の〝我〟を殺すことでキャラをたてる――殺さず自分が生きるよう考えて描かなきゃならない。

でも、それはけっして手を抜くということじゃない。たとえばさっきのちゃぶ台のような見えない部分、細かい部分へのこだわりがないとウソがウソとバレちゃうんです。

――それには、徹底した取材や研究が必要と?

ええ、ですから鬼太郎でいえば、古い民家の建て方や、家具、食器……これについては形や構造はもちろん、材質的なことも知っておかなきゃならないし、植物についての知識も馬鹿にはできません。

ただ、取材も研究もすべてはいい背景を描くためにすることです。時には絵づくりのために、あえて矛盾を承知の設定もしなけりゃならない。

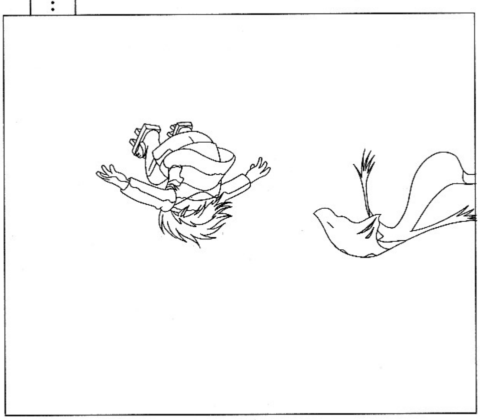


うらた・またはる　美術デザイナー。主な仕事に「長靴をはいた猫」など。

お気づきになったかどうか、鬼太郎の家の壁は外から見るとシュロでおおってあり、タテの流れを強調しているのに、中へ入ると壁材が横に組まれているんです(P61―62参照)。これはキャラの大きさや、立ったり座ったりの動きをわかりやすくするためで、たとえ間違いでもそうしないといけない。

――う〜ん、奥が深いですね。

ええ、といって、ただ悩んでるだけじゃなく、僕の場合はまず描いてみる。描いて描いて描きまくれば、おのずと一番いい答えは見えてくるんです。ですから、設定の段階ではすごい枚数描きましたよ。真夜中でも思いつけば起き出したりして、家族には笑われましたけどね(笑)。

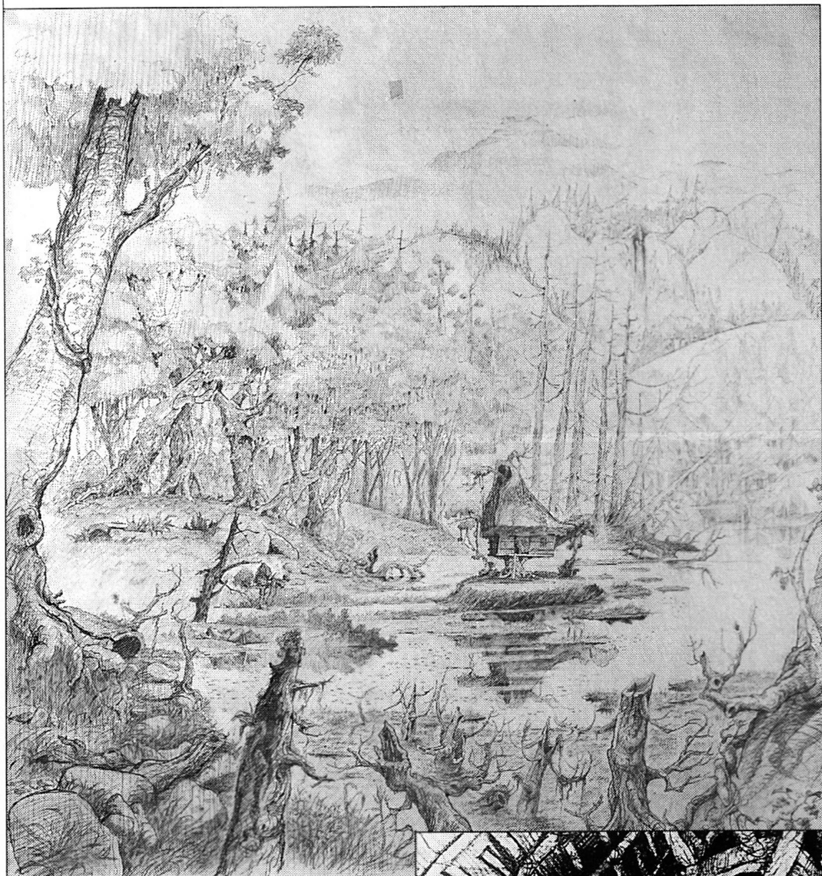


*

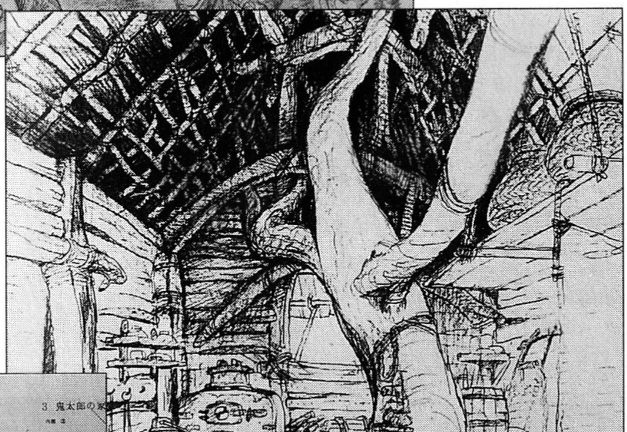
鬼太郎アートギャラリー②

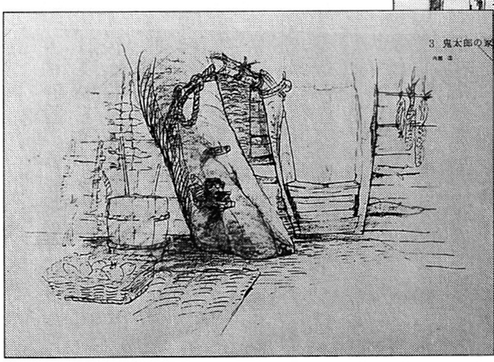
美術ボード&美術デザイン

【美術設定】鬼太郎ワールドの基本設計図を初公開!



背景など美術設定は、キャラが演技する舞台の基本設計。シリーズの雰囲気やテーマ性を決定する重要な作業だ。美監の浦田氏によれば、ゲゲゲの森についてはその植生や方角にまでこだわったという。





浦田氏によるゲゲゲハウス内部の設定図（2点とも)。こうした設定図を各方向から、ときには十数枚も描くことで、作品世界は厚みと奥行きを見せ始める。この絵など、実際の建築用パース顔負けの完成度ではないか。

【美術ボード① ゲゲゲの森】

彩色を施され、作品世界はいよいよ輝き始める

主要な舞台については全て、彩色された美術ボードを用意する。各話の美術担当は、これを基本資料に各カットの美術デザイン（背景作画）を行う。





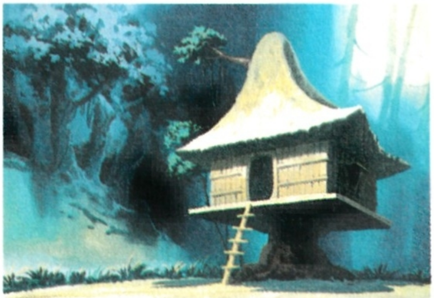
夜になれば当然暗くなる。このほか、季節や天候による変化もボードにしておく必要がある。

必要に応じ、妖怪ポストなど、ディテールについての美術ボードを用意する場合も……。



前ページの設定をもとに描かれたゲゲゲの森のボード。光の方向、樹木や草の葉の描き分けに注目。







森の中心にあるゲゲゲハウスについては、さまざまな向き、いろいろなアングルから何枚も美術ボードが用意された。



ポイントとなる風景についてもボードを作る。樹木の枝ぶり等は、図鑑や資料を基に考証、決定する。



【美術ボード② ゲゲゲハウス】

壺ひとつ、縄1本に徹底してこだわる



屋根のてっぺん、ケムダシ部分の構造がよくわかる。美術監督には、こうした点についても深い知識が要求される。

内側から見た屋根・柱の構造。部材の組み方、しばり方など綿密な考証のあとがうかがえる。



壁面の構造にも遺漏はない。家1軒の設定は、これを建てるにおとらぬエネルギーが必要だ。



何気ない壺ひとつ、縄1本にもこだわりが。日常の観察、資料の収集が重要になる部分だ。



P60の設定資料をもとに完成したハウス内部の美術ボード。各方向からの全体図、数多くの部分図により、共通の立体像が把握される。





窓の位置、そこからの風景など、検討すべき要素には限りがない。美術設定の完成度は、ときに絵コンテにも影響するという。

【美術デザイン①　一刻堂の家】

101話の冒頭、いざなうは闇に浮かぶ五芒星





101話の美術デザインは松宮正純氏。五芒星の提灯に導かれ、観る者はいつしか物語のなかへ（P83絵コンテNo.1）。



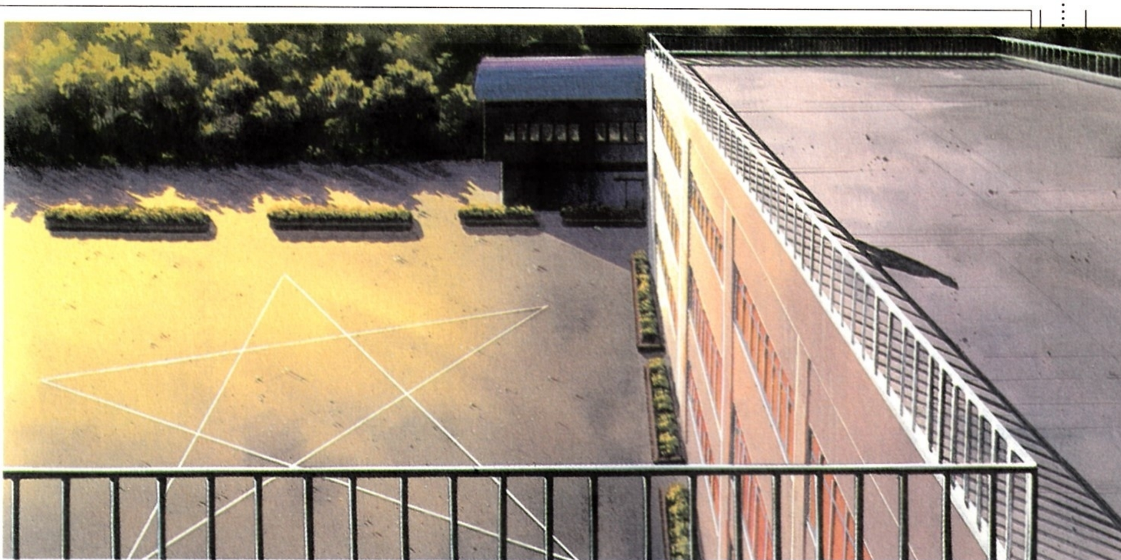
床の間、違い棚、さしこむほのかな月の光に注目。軸に描かれたのは一刻堂の先祖？　もしや安倍晴明か？



両脇を白茶けた油土塀に挟まれただらだら坂──この風景は「眩暈坂」のパロディか？



*



絵コンテB-No.12(P90参照)、ぬらりひょんの位置から見下ろした五芒星。右手に描かれた一刻堂の影からは、夕日の沈む方向がみてとれる。

【美術デザイン② 小学校】

一刻堂の秘術が巨大な五芒星を描いた！



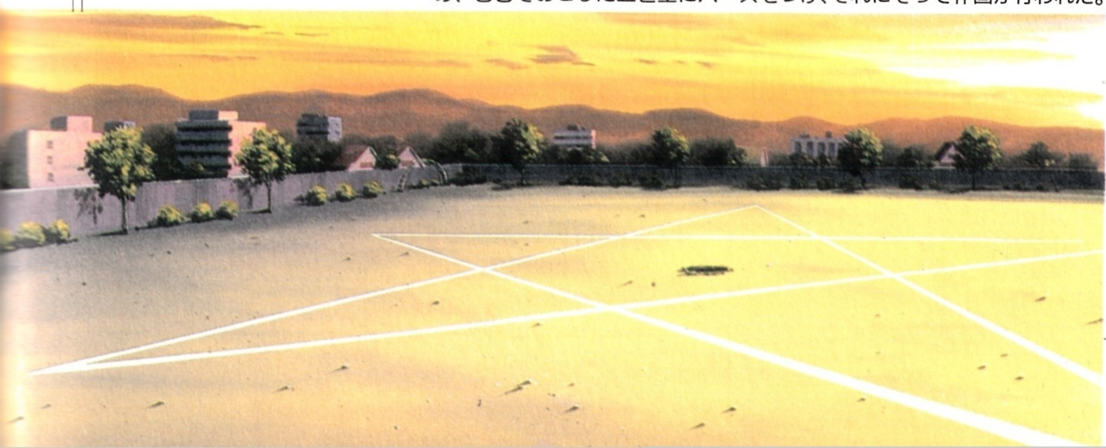






小学校については、周辺の町並みもふくめた詳細な設定が存在。太陽の位置や他の建物との関係、まわりに見える風景など、すべてはあらかじめ決められていたのである。

絵コンテB-No.22(P91参照)の五芒星。ここでは、正確な透視図を描くため、CGでおこした五芒星にパースをつけ、それにそって作画が行われた。



アフレコレポート

京極夏彦、一刻堂役でアフレコに挑戦！

「一刻堂の声を京極夏彦自身が演じる!?」ウワサはまたたく間に（？）広がった。時は動画作業が一段落した'97年11月19日、ところは東京・大久保の録音編集スタジオ「タバック」で――果たしてその成り行きや如何に！　アシプロ有原嬢の制作日誌をもとにその模様を完全レポート!!

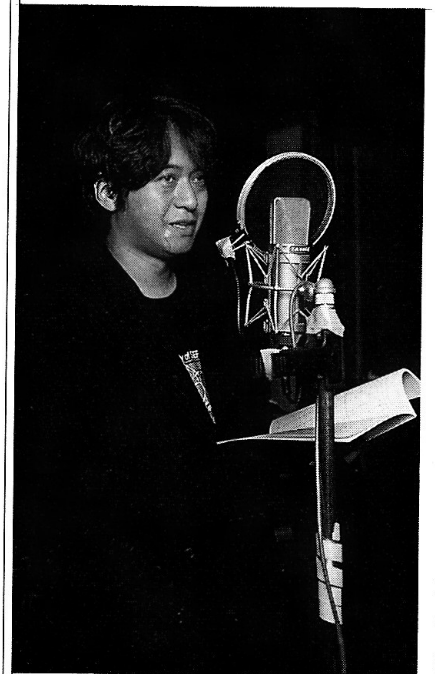
〈午前10時過ぎ　京極夏彦氏、待ち合わせていた清水さんとともにタバックにはいる。

京極氏に演出の角銅さんを紹介し、作画監督の木下さんにも京極氏を紹介し、声優さんが揃ってから1スタへ京極さんを案内し、読売広告社の木村さんが現れ、清水さんが声優さんに京極氏を紹介し、角銅さんが声優さんと京極氏を相手に台本直しを始め、通しで101話の絵をスクリーンに流し……何か、夢でも見ているみたいに、物事が進んで行く〉

有原日誌はかくのごとく、興奮の極みからか、いささか放心の体で始まっている。

若干補足をしておけば、当日の京極氏はご自身の意匠になる「関東水木会」のロゴ入りTシャツに黒いジャケット、「（緊張のため前夜はほとんど寝ていない」（寝ておられないのはいつも同じだが……）とおっしゃりながらも気力充実。淡々とした表情がたのもしい。

そして、テストは始まった――。



▲見よ、このりりしい声優ぶり！　これが初体験とはまるで信じられない。

「何の用かな」

ああ、その声！　堂々と、そして朗々とした京極氏の第一声に、スタジオ内をさざ波のように驚きが広がっていく。

〈……そう、京極氏の声――何というか、文士劇（「ぼくらの愛した二十面相」'97年9月27日上演）での京極氏の活躍も見ていたのだが……予想以上に素晴らしい!!　とにかく声がよく通る。若干早口になって口パク（口の動き）と合わなくなる箇所も少しあったが、それを補って余りある演技力がある……まわりのレギュラー声優陣もそれを感じているようで、スタジオ内の雰囲気はすこぶる良い〉

有原日誌も書いている現場の心地好い疾走



感──それを敏感に感じた演出・角銅氏は本番テスト（テープをまわすが、まだ本番ではない、いわば再テスト）をはさむことなく本番へとGO。あれよという間にリテイクもふくめ、Aパート（前半）の収録は完了した。

　そもそも、今回のアフレコ話は当時「鬼太郎」のプロデューサーだった東映動画・清水氏と京極氏の何回めかの打ち合わせがきっかけだったという。

「いえね、京極先生に『アフレコやりません?』って言ったの、僕のほうから。もちろんそのときはやって頂けるなんて夢にも思わなかったし、学校の先生とか、そういうチラッとした形のつもりだったんだけど……次に何かのパーティーでお会いしたときかな、『この前のあの話、やってみたいんです』って。で、一刻堂の声うんぬんについて話を始められたんで、こりゃスゴイってことに」（清水氏談）

　話をスタジオに戻そう。前後半の間の10分間の休憩、レギュラー声優陣と京極氏による記念の寄せ書き（!）が行われた。Aパートの収録がスムーズに進んだこともあって、京極氏と声優陣は、すっかり打ち解けたムード。

　そしていよいよBパートの収録。再び有原日誌を読んでみる。

〈……後半はかなり濃厚な会話劇になっている上に、カットの切り替わりのテンポが速いので、アフレコ初体験の京極氏のことを考慮して、Bパートをさらに前半・後半に分けて録ることにする〉

　補足をしておくと、スタジオ内のマイクは3本。その3本に声優陣がかわるがわる近づいて、セリフを言うわけだが、カット割りのテンポが速いと、そのぶん動きは非常にめまぐるしくならざるを得ない。さらに一刻堂の長ゼリフの部分（別冊シナリオ20ページや27ページ）で、口パクと京極氏の声が微妙にズレるところもあり（それだけ京極氏のセリフまわしがなめらかなのだ!）、Bパート前後半はそれぞれ、テスト→本番テスト→本番の手順で行われることになった。

　ひと通りの収録が終わったところで、最後にBパートのリテイク。ここでは京極氏にも何度か声がかかった。といっても、そのほとんどは〝ペーパーノイズ〟すなわち台本のページをめくるときの紙のスレる音が入ってしまったことによるもの。ちなみにページをまたがる長ゼリフの場合、プロの声優さんは次のページのセリフをあらかじめ写しておくらしい。

　こうして録音は終了した。終わってみれば約3時間、通常の角銅演出よりほんのわずか長いだけの終始順調な進行。京極夏彦はアクターとしてもスゴい──特に後半、松岡洋子さんの鬼太郎と演じる静かなる闘いは、見て



▲異色の脚本に、スタジオ内を心地好い緊張が支配していく……。



◀声優陣と記念撮影。〔前列左から〕山本圭子さん、松岡洋子さん、京極氏、田の中勇氏、淳役の沼田祐介氏、翔太役の松井摩味さん。〔後列同じく〕郷里大輔氏、千葉繁氏、塩屋浩三氏、龍田直樹氏、西村知道氏、西村ちなみさん、祐子役の前田このみさん、木場先生役の坂本正吾氏。

いるほうが手に汗握るほどだった。

「こんな言い方したら大変失礼かもしれませんが、ほんとに初めてとは思えないほどマイクの使い方、口パクのあわせ方、そして何より演技がすばらしかったです」

その松岡さんの言葉をひきとって、目玉親父役の田の中勇氏も京極氏の演技を激賞する。

「何も申し上げることはありません。実に堂堂たる声優ぶり。過去にそうとうの演劇活動をなさっていたようにお見うけしました」

さてBパート収録の間、有原嬢は数々の用事で席を離れることが多く、日誌には〈気が付けば午後2時、アフレコは終了〉とあっさり書かれている。ただ、彼女にとって本編録音終了後に行われた101話用予告編収録（100話放映時にオンエア）に立ち会えなかったのは痛恨のきわみだったろう。通常「君の後ろに黒い影」なる鬼太郎のセリフでシメる予告編を、「この世に不思議なものなどないのだよ！」で終えるというアイディアを出したのは、ほかならぬ彼女だったのだから……。

その後、スタジオのロビーでは集まったマスコミ各社むけの簡単な記者会見。席上、「しまった、という感じ。自分が声をアテるとわかっていれば、こんな長いセリフにはしませんでした」「目玉の親父の田の中さんが、なんの発声練習もなくあの声をお出しになるのに驚き。もはや人間国宝ですね」などなど矢継ぎ早の質問にもていねいに答えられた京極氏は、会見後も別室に用意されたたくさんの色紙に一枚一枚サイン（妖怪画&お祓い済み朱印つき）。にこやかに車上の人となる。

「僕は今日のアフレコまるで心配してませんでしたよ。なんたってシェークスピアが『ハムレット』に出てるようなもんですからね」

見送る角銅氏の言葉が印象的だった――。



◀アフレコ時にはセリフとト書きの入ったアフレコ台本が使用される。



シリーズ・ディレクター
西尾大介

── アニメ4作目のシリーズ演出として、どんな点にご苦心を?

やりつくしちゃってるんですよね(笑)。特に前回、'80年代のシリーズでは現代性を強く打ち出した最もスマートな鬼太郎でしたから……ここでまたそれを踏襲すると同じもの作ってるみたいなことになっちゃう。

で、今も正直「この作品はこうです!」とはなかなか言えない部分があるんですけど……ただひとつ、空を飛んでなくても、光を発しなくても、鬼太郎はカッコいいんだと。立ってるだけ、歩くだけでカッコいい──ちゃんちゃんこ着て、下駄はいて、ボ～ッとした(笑)あの感じがカッコいいというのはありましたね。

その意味で、一番悩んだのは第1話の鬼太郎登場シーン。ほんとはもっとあざとくいろんなことやんなきゃいけないんだろうな、と思いつつ、高架下のトンネルから何気なく現れるあの形に落ちついたんです。

── それはノスタルジーの面から?

というより、日常性ですね。子供たちが普段から歩いているガード下の暗がりから鬼太郎がひょいと現れるという。このシーンをやって初めて「あ、鬼太郎ってこういう感じかも」というのがつかめたような気がしたんですが……実際シリーズを通してやるとなるとやっぱり難しい。

ただ、方向としてはそういうことをやってかないと、最初の一番オーソドックスな鬼太郎と、この前の一番カッコいい鬼太郎との間で差別化ができなくなっちゃう。同時代としての現代は意識しつつ、妖怪自体は完全にオリジナルに戻すという……その象徴が鬼太郎のあの立ち姿なんですよ。変にポーズをつけるのではなく、ただ〝絵になる〟立ち姿──ある種ハードボイルドな感じかな。

── ストーリー的な面では?

ふつうは、シナリオやプロットの段階でわかりにくい点をできるだけ鮮やかにしてくんですが、今回はアヤフヤなところをもっとアヤフヤにしようと(笑)。たとえば「そんな善悪のハッキリしたセリフはちょっと」とか……これが他の作品ですと話をまとめようまとめようとするんですけどども。ですから、各話の演出はみんな悩んだと思いますよ(笑)。

── あえてメリハリを捨てる、と。

ええ、僕自身それでもカッコよくなるはずだと、ずっと思っていました……。特にアクション物は、メリハリをつけすぎて話がウソっぽくなっちゃうことがままあるんです。あらかじめ戦いが用意されていて、そこへ向かって予定調和的に話が進むというのはやりたくなかった。


にしお・だいすけ　主な演出作に「ドラゴンボールZ」など。

── 話はちょっとそれますが、本書にお寄せいただいた描き下ろしの絵コンテ(P94～99)について一言。

今回京極先生の脚本を拝読して、「しまった! これは僕らがやらなきゃいけない話だった」とショックを受けたんです。妖怪とは何か、鬼太郎とは何か……それらがすべて盛り込まれている。で、ここはぜひアンサーをしなきゃいけない──と、清水プロデューサーにも言われて。

── 舞台は広島県の三次(みよし)から始まりますね?

はい。水木先生が最近、〝日本のピラミッド〟といわれる三次のとなりの葦嶽(あしたけ)山に興味をお持ちだとうかがったんで。それに偶然というか、三次は母の田舎で、僕の生まれた所なんですよ。冒頭、妖怪たちが通り過ぎる「富士屋ランドリー」というのは僕のおジイちゃんがやっていたんです(笑)。

── テーマとしては?

前から一度、百鬼夜行はやってみたかった。僕らの世界と隣り合わせにある別の世界──それを一瞬かいま見るというか、交錯するというか。で、その双方を見つめる存在として一刻堂はいるんじゃないかと……。モチーフになったのは「のびあがり」の出てくる「吸血木」の話で、前からあたためてきたものなんです。

── それでは最後、シリーズ全体をふりかえってのご感想を。

鬼太郎ってのは奥が深いです。自分たちにとってのあるレベルまで、もう一歩かなと思うと、まだふところが深くってやりきれてない。もちろんトータルに見ればグレードも高いし、その点ではスタッフ全員自信もっていいと思うんですが……あと、これは個人的な話ですが、東映動画のスタッフ編成という意味ではこれまであまりなかったことで、貝澤君や佐藤君、芝田君といった同期の人たちと一緒に仕事ができたことも、とてもうれしかったですね。

第101話「言霊使いの罠！」演出

角銅博之

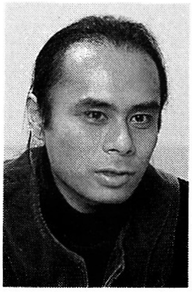
——今回、101話の演出をおやりになった経緯は？

もともとは89話「髪の毛地獄！ラクシャサ」1本しかやらせてもらえないはずだったのですが。僕は「姑獲鳥の夏」が出たばかりの頃から読んでいて、「もし京極さんが脚本を書いたら面白いんじゃないの」なんて言ってましたんで……。やると大変なのはわかってましたけどね（笑）。

——具体的にコンテを描くという段階になって、どの辺が大変でした？

脚本からコンテを切るというのは、いつも大変なんです。でも、今回は大変の質がちょっと違いました。

というのも、京極さんが文章で表現される際の〝ビジュアル〟をまんまコンテにした場合、インパクトが薄れちゃうおそれがあるわけです。具体的には、鬼太郎の仲間たちがかぼちゃとかになっちゃうところ——アニメーションですから、あそこは実際にかぼちゃに〝なる〟ところを描けるわけ。ただ、そうするとただのアニメーションになって、なんのインパクトもなくなってしまう。



かくどう・ひろゆき
主な演出作に「地獄先生ぬ〜べ〜」など。

で、今のような展開（絵コンテB—№19〜B—№21参照）——実写でいうと特撮を使わないでやったような形になったわけですが、そのへんの見きわめが難しかったですね。ですから今回は、特に後半、アニメだからできる表現をすごくおさえてある。

——たしかに、思いきり特撮の瀬戸大将や護法童子をのぞいては……。

おさえているんです。アニメって本来、絵が動くとか、ありえないものが動くとかいう部分が持ち味なんで、そういう部分をぜんぶ封じちゃったとこでやんなきゃいけないってのは大変でしたね。

まぁ、そもそも京極さんの脚本は、文章としてすごく完成してるんで、逆にこちらは行間を読んでコンテにふくらますということができない。というより、すべて書き込まれているんで、追いつくのが精一杯で……。

——時間的にもかなり？

考える時間がかかりましたね。あと、物理的な面では脚本が長かったというのが……。渡された段階で、すでにシナリオのシーン7（別冊シナリオP7〜8参照）はケズってあったんですが、僕自身のコンテの平均にくらべて、実質6分は長かったですから（笑）。しかも当然のことながらセリフがケズりにくい（笑）。なのに、プロデューサー段階でケズったセリフを復活させて、自分の首をしめたりしてね（爆笑）。

——アフレコの時、映像をご覧になった京極先生が個人的にすごく喜ばれた部分があったとか？

冒頭のぬらりひょんのキセルのシーン。あれは必殺シリーズの熱烈なファンの京極さんなら、ああいう雰囲気を考えていらっしゃったんじゃないかと、コンテ段階であえてしたんです（編集部注＝冒頭、ぬらりひょん登場の一連の演技は、必殺シリーズ『助け人走る』のキセルの殺し屋・辻平内にささげるオマージュとなっている）。あと、後半の夕陽のシーン（必殺シリーズのエンディングバックとして、沈む夕陽は最もポピュラーだった）なんかも。

——一刻堂の絵的な演技は？

これはもう、目の演技。祓え串もあるけど、あれはキメの場面になるから。で、京極さんのキャラ設定（P38参照）にも「常体は目を閉じている」としてあったんで、目の演技を効果的に、と。

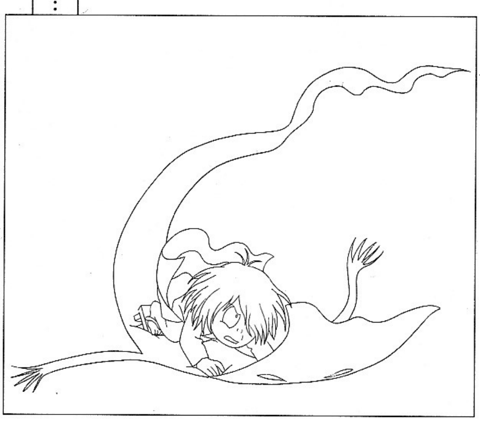
——あの赤い虹彩がスゴイですね。

ええ、あれは一刻堂の色としては、赤と黒以外あまり使いたくなかったからですが、結果としてうまくいったと思っています。

——では最後に、今回の演出をふりかえられての感想を。

できた作品が、京極ファンの皆さんにどう受けとめてもらえるかが楽しみであり、不安でもあります。「こんなのは京極さんの世界じゃない」と言われるんじゃないかとね。

と同時に、水木先生のファンも納得させなきゃいけないし——そのあたりがとても難しかったと思います。



＊

各話演出【五十音順】

明比正行

―― 明比さんの鬼太郎初体験はいつのことですか？

モノクロの第1シリーズの演出をしてました。そう、「妖怪獣」とか……これは今回もやらせてもらいましたけど。で、前の第3シリーズもやらせてもらって、4シリーズのうち、3回声をかけてもらえたのは自分だけじゃないかなと思います。

―― 鬼太郎を演出されるうえで、特にご注意、ご苦心された点は？

アニメの場合たしかに、水木先生の原作のもつ原点、テーマを土台にしながら、現代の時流にそったやり方にしていかなきゃならない部分もあるとは思うんです。ただ、根っこにある、そういう〝日本の心〟みたいなエキスは今の流行に沿いながらもしっかり訴えていかないと。

たとえば今回やったなかでは「妖花」。妖怪が出てくるわけじゃなく、ただ南方にある妖花という花だけで戦争批判を訴えていくんですが……戦前・戦後・現在を通じて戦争というものを見つめ、「みんなそういうことじゃだめなんだ！」と警鐘を鳴らしたという部分で、あの話はやってよかったと思ってますね。

―― 明比さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか？

またやれれば鬼太郎をやってみたいと……。これはもう永遠だと思うんですよね、日本人にとって。

宇田鋼之介

―― 鬼太郎を演出されるうえで、特にご注意、ご苦心された点は？

暴れる妖怪を前に、鬼太郎はいきなりゲタを投げたりはしません。まず「なんで？」ということをたずねます。で、人間に非があれば、これをこらしめますし、妖怪が悪ければこれを説得しようとする。たんなる妖怪の退治屋ではないんです。なにせ僕の話では、「オバリヨン」の回のように、鬼太郎が何もしないことさえあるんですから（笑）。

水木先生の世界観でいえば「妖怪には妖怪の生活があり都合がある」。それを、科学万能をふりかざす人間が一方的に排除しようとするという構図。これをあくまで説教臭くならないよう、子供たちに気づき、考えてもらえれば。

もっと言えば、僕は「鬼太郎も万能ではない」とさえ思ってるんです。生い立ちなどからたまたま人間と妖怪の間に立っているというだけ――鬼太郎だって人間を攻撃することがなしとはいえないだろうと。「地獄流し」や「幽霊電車」で言いたかったのはその部分なんですね。

―― 宇田さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか？

鬼太郎そして妖怪のなかには我々と違う価値観がある、そう思っています。たとえば人間を喰う妖怪がいるとして、そいつにとって人間はただ食い物にすぎないわけで、それがいいか悪いかではなく、そういう価値観もあるんですよと……。

貝澤幸男

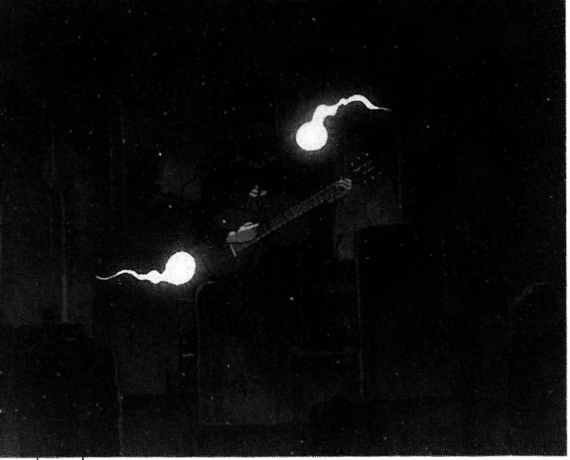
―― 鬼太郎を演出されるうえで、特にご注意、ご苦心された点は？

鬼太郎は人間界と妖怪たちの世界の間に生きている存在で、「妖怪が悪いか、人間が悪いか」を決めつけるんではなく、問題点をはっきり見つめて考え、行動するキャラだと思うんです。映像の中で「これはどういった問題なんだろうな」というのをうまく提示するのが一番大事じゃないでしょうか。鬼太郎の視線を通して視聴者の方にも身の回りに隠された問題点を真剣に考えてもらえれば、というのがありました。

たとえば僕がやらせていただいた「夜叉」の話。地下鉄とか、夜の墓場とか、街なかの人がウジャウジャいるシーンなんか描いてみたんですが、そういったごく普通の風景のなかで、人が知らない何か恐ろしいことが起きつつある。そういうことに鬼太郎が気づく、あるいは誰かが気づいて巻き込まれていく。そんな身近なこと。テレビを見てる人がふと気づくとテーブルの下にとんでもない物があったというような現実。みんなが「あ、こういう考え方、視点もあるんだ」と発見できるような番



▶無邪気な妖怪の優しさに胸を打たれる59話「妖怪オバリヨン！」



◀闇に潜む怪異を描く屈指の名作
「ギターの戦慄！夜叉」（第3話）

組が面白いんじゃないのかな、と。

あと、演出の作業的な面では、僕の作品はコンテだけでは雰囲気が煮つめられないので、映像があがるまでのチェックの段階で大幅な修正を入れ、少しずつ固めていくことが多いんです。絵作りよりドラマに重点を置くほうが多いですね。その点、表現方法が難解だったり、作画の皆さんには迷惑かけてるんだろうと（頭かく）。

―― 貝澤さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか？

人間でなく妖怪でない存在として、子供ながらにこの世界に生きていく鬼太郎は感動的ですよね。もう少しつきあって、鬼太郎の、キャラ自身の「こういう風にやって」というのがわかればよかったんですが。

勝間田具治

―― 勝間田さんの鬼太郎初体験はいつのことですか？

私が大昔「レインボー戦隊ロビン」というアニメにかかわっていた頃、レコード屋さんで偶然見つけたＬＰ盤レコード。これに「巨人の星」なんかと一緒に、例の『ゲ、ゲ、ゲゲのゲ～』という歌い出しの「墓場の鬼太郎」も入ってたんです。こりゃ面白い、なんとかアニメにできないもんかと考えてたら、その時はもう計画中だった（笑）。

で、私自身スタッフに入れられて、「天邪鬼」と「妖怪ラリー」だったかな、手がけたのが初体験ということでしょうか。

―― 鬼太郎を演出されるうえで、特にご注意、ご苦心された点は？

まず、子供の目から見なきゃいかんと。それから、これは水木先生のテーマでもあるんですが、妖怪が人間界の汚い部分を正していく、この2つにはいつも注意してますね。

たとえば僕がやったなかでは63話の「妖怪ホテル」の話、古風でみんなに馬鹿にされている支配人を、恩を受けたシーサーやキジムナーたちが助ける。「実は正しいのは妖怪なんだ」ということで現代社会の矛盾点につっこめたかな、と。

―― 勝間田さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか？

僕は田舎出身なんで、故郷を思わせる感じでしょうか。子供の頃の墓場での肝だめしとか――これは特に第1シリーズのときに感じたんですが、懐かしさみたいなものがいつもありますね。もしかすると前世は妖怪だったのかもしれません（笑）。

川田武範

―― 川田さんの鬼太郎初体験はいつのことですか？

貸本時代の「墓場鬼太郎」ですね。4つ下の弟と借りて読んでましたが、他のマンガとは絵の違う暗ぁい感じが印象的でした。

―― 鬼太郎を演出されるうえで、特にご注意、ご苦心された点は？

鬼太郎は怖い怪談話あり、ホッとする人情話あり、アクションありで非常に幅広い。で、それぞれのメリハリをつけることと、あまり暗く残虐な感じにならないよう気をつけてます。テレビアニメはちっちゃい子が観ますし、僕自身アニメへの想いは「家族で観る」というものですから。ただ、今回、ホラー系の話には大人でも夜中に観れば怖いかな、というのは何本かありますね。

―― お好きなキャラクターは？

ねずみ男ですね。どうとでも楽しくあつかえる。逆に、あつかいにくいのはねこ娘かな？

―― 川田さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか？

こう言うとなんですが、この年齢になると破壊して新しいものを、というより古いものを残さなくちゃという気分になるんです。で、鬼太郎みたいな存在があらわれて、「ちょっと待て」と、人間と妖怪の共存できる世界を作ってくれないかなぁと思っ



たりはしますね。

境　宗久

――境さんの鬼太郎初体験はいつのことですか?

昔のアニメ、2作目ぐらいが一番古い記憶ですけど、その頃はまだ小さかったですからやっぱり3作目かな……。ただ、原作は高校ぐらいの時、マンガが好きで読んでました。

――鬼太郎を演出されるうえで、特にご注意、ご苦心された点は?

地味ななかにも情緒ある日本的な雰囲気をできるだけ出していこうと――たとえば、91話の「百鬼夜行」の回、鬼太郎が魂を追って歩くシーンは「これは佃島だな」とピンときたので、自分でロケハンした下町の雰囲気を意識して盛り込んだりしてるんですよ。

――お好きなキャラクターは?

やはりねずみ男ですね。鬼太郎より共感できますし、人間的(?)な幅もあって、演出しやすいんです。

反対にあつかいにくいのは鬼太郎。クールな彼が、事件に首をつっこむという流れを作るのに苦労します。

――境さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか?

ずばり「警告者」です。人間の側にいて、暴れる妖怪をやっつけてはいるけど、別に助けてくれるわけじゃない。むしろ、実際に事を起こすのは人間の側だと言ってくれる。

鬼太郎がキレて「もう知らん!」と言う話もアリじゃないか。そんなことを話したこともありますね。

佐藤順一

――鬼太郎を演出されるうえで、特にご注意、ご苦心された点は?

具体的なエピソードで「笠地蔵」の話。最後の方で、鬼太郎たちが米俵を老夫婦のとこへ持っていく。あの部分、妙にアップで「ヨ~イサ、ヨイサナ」とすごく迫力があるんです。絵的にはアップでソリをひいてる手を入れたり、全カットリピートなしで動いていたりで、作画の力も出せたと思いますし、そこまでが全編雪のシーンで音楽もなくシンシンとした感じだったことが、かえって反復するかけ声に演劇的な高まりをもたらしたような気がして……プラン以上にうまくいったと思いますね。

あと、一気に不気味なものをというんでやったのが「蛇骨婆」の話。特に鬼太郎の誕生シーンの扱いでは結構モメました。ま、入れるんなら一瞬チラッと、あまり見せすぎても味わいがないということで、あんな風にまわりの風景なんかも黒でつぶして舞台っぽくしてみたんです。

――お好きなキャラクターは?

やり残し感があるんで、ねこ娘かな。角銅君に「ラクシャサ」とられちゃったし(笑)。彼女の良さって野性的なねこの部分のカッコよさと、少女チックな面とのギャップでしょ。で、ねこ娘のバトルシーンをずっとやりたくて、最後に担当した84話でムリヤリ入れたんだけど、結局バランス悪くなっちゃって(苦笑)。

――佐藤さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか?

いろいろとチャレンジの目標がぶら下がってる作品です。人のを見ても刺激になりましたし、貝澤君、西尾君なんかの同期生と、同じワク内でやれたのはうれしかったですね。

芝田浩樹

――芝田さんの鬼太郎初体験はいつのことですか?

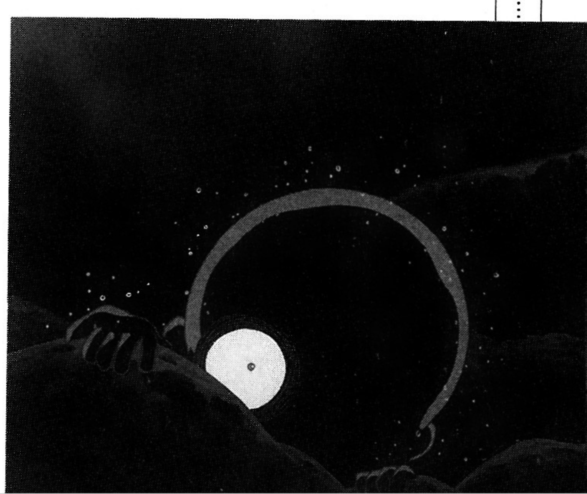
幼児の時、白黒のテレビを観て、非常に怖かったけどやっぱり観たいというのが最初の思い出ですね。

当時はそんな感じだったんですが、東映動画に入って5年目くらいに前シリーズの鬼太郎が始まって、「ぜひチームに入れて欲しい」と希望。チーフディレクターのアシストとして、オープニング、エンディングなんかをやらせてもらいました。

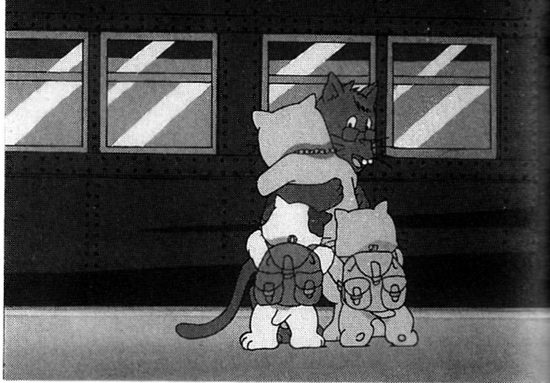
――鬼太郎を演出されるうえで、特にご注意、ご苦心された点は?

具体的には「釜なり」と「影女」の回で、それぞれ鬼太郎と妖怪が対決する異空間の描写にこだわってみたり……。とりわけ「影女」の異空間では、多少思いきったことをやろうと、ほとんど黒だけのモノトーン的な世界をねらってみたんですが。

これには、前シリーズと差別化したいというのと、演出12~13年めで自分がちょっと保守的になってる気



▶第78話「ぬらりひょんと蛇骨婆」では鬼太郎誕生シーンが描かれた。



▶シリーズ随一の不思議な味わい
「幻想譚・猫町切符」（第28話）

がしたもんで、たまには変化球もいいかな、という感じですね。

――お好きなキャラクターは?

なんかみんな、ねずみ男って言ってるみたいで、それはダメだと（爆笑）。じゃ、「ユメコちゃん」って、それは第3シリーズだろっ（……と、自分にツッコむ）。

でも、前シリーズでは、ほんとユメコちゃん嫌われてまして。そんなんで、当時アシスタント・チーフディレクターだった僕としては「守ってやんなきゃ」「大事に扱ってあげなきゃ」というのがありました（笑）。

細田 守

――細田さんの鬼太郎初体験はいつのことですか?

カラー版アニメの第1作。メチャメチャ怖かった印象があります。ただ、僕の場合、妖怪が怖かったというんではなかった。鬼太郎は、もちろん妖怪退治もするんだけど、人間の悪い面もこらしめる。で、出てくるヤクザなんかが、人間の悪い部分のリアリティを感じさせるんですね。

大人ってのは、世界ってのはこんなに怖いのか、と。ですからホラーっていうより、アイデンティティにかかわる恐怖――悪い連中に感情移入して「自分もああなるんじゃないか」みたいなね。

――鬼太郎を演出されるうえで、特にご注意、ご苦心された点は?

やっぱり怖い話、それで世界をかいま見させるような話をやりたかったんです。宇田さんの「地獄流し」みたいな。それができるのは今のアニメでは鬼太郎だけだと思いますし。

でも、僕はギャグ担当みたいで、94話「鬼太郎魚と置いてけ堀」とか105話「迷宮・妖怪だるま王国」とかコミカルな話ばかりまわってくる（笑）。そのなかでなんとかそういうテイストを入れようとはするんですが、作品のトーンもありますから（笑）。

――お好きなキャラクターは?

ヤクザ3人組（笑）。彼らがもっとひどい目にあうのを見たいなぁ、と。基本的に水木キャラだし、感情移入がしやすい。僕としてはサブレギュラーにしたいくらいです（笑）。

吉沢孝男

――吉沢さんの鬼太郎初体験はいつのことですか?

貸本時代に手にとって、非常に怖い感じがしたんですね。

特に鬼太郎の誕生するシーンなんか、お墓とか稲光とか雨だとかの間で、目だけがギョロっと光ってる。そういう絵の怖さみたいなのがありましたね。

――鬼太郎を演出されるうえで、特にご注意、ご苦心された点は?

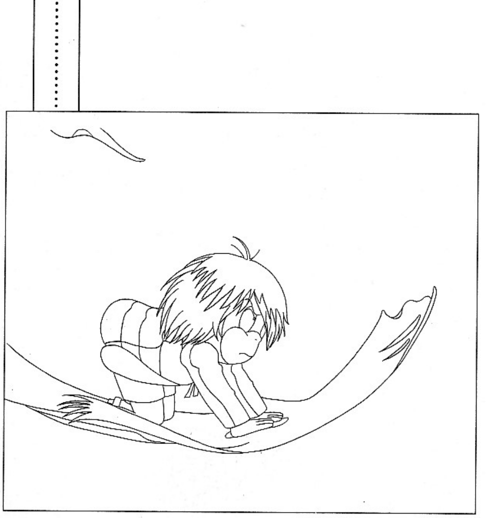
まず「ねこ娘のパンツを見せないこと」（爆笑）――これはシリーズ・ディレクターの西尾さんから言われまして、今シリーズの一種ハードボイルドな部分とパンツが相いれないということなんじゃないかと（笑）。

あと、僕のやった話は、同じような性格の同じようなサラリーマンものっていうのが多くて――疲れたお父さんだとか、目がさめたら死んでたお父さんとか（笑）。

行き場のないお父さんたちが黄泉の世界に行ったり（19話）、猫町へ行ったり（28話）、蓬来島へ渡ったり（14話）……そういう心情が現実逃避として近い部分があるんじゃないでしょうか（笑）。

――吉沢さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか?

鬼太郎ね、どっかにいたらいいよね。お墓じゃなくて、そのへんの暗がりとか、安っぽい飲み屋街の片隅とか……焼き鳥屋で酒飲んでて、目の端を黄色と黒のちゃんちゃんこがフッと通り過ぎるみたいな、ね。



脚本家対談

武上純希×大橋志吉

―お二人は前回'80年代のシリーズに続いて今回も脚本を担当されたわけですが、その辺からまずお話を。

大橋　第3シリーズは「今の時代に妖怪が現れたら」ということで、オープニングなんかも新宿副都心が出たりしてたんですけど、今回は原作のもつ'60年代の雰囲気――農村や漁村の懐かしい風景なんかも〝時代劇〟としてあつかっちゃおう、あまり〝今〟を入れないでいこう、と。

武上　シリーズ演出の西尾さんの段階で「なるべく原作に近づけよう」というのがありましたね。特に前シリーズでは人間であるユメコちゃんとねこ娘の鬼太郎をめぐる三角関係や、砂かけ婆と子なき爺の関係なんかを入れて、原作にない部分で話をふくらませたとこがありましたので。今回はアニメ的な設定を排して、極力原作の面白さと雰囲気を出そうと。



おおはし・ゆきよし
脚本家。主な仕事に「北斗の拳」など。

大橋　そう、その意味で、第3シリーズは鬼太郎たちと人間が、かなり親しい印象があったけど……今回はまず「ゲゲゲの森」に人間が入ってこない。あそこは完全に妖怪の〝聖域〟になっています。

武上　ストーリー的にも、前は多少原作の雰囲気をはみ出してもエンターテインメントとして面白ければなんでもオッケー。それこそ推理物でもコメディでもよかったんで、それが怖いかどうかは別にして、とにかくいろいろなことを――。

大橋　うん、やったよね。ただ今回は、そうじゃなくってやっぱり原作のテイストを前面に出していこうと。

―手がけられた話やゲスト妖怪が、前とダブったりということは?

大橋　それは、プロデューサーさんが気をつかってくださったのか……。

武上　うん。なかったよね。だいたい僕は今回「牛鬼」とか「笠地蔵」とか、これまでだとベテランの方がおやりになってた話が多かったから。

大橋　そりゃ武上さんが長老になったってことなんじゃない(笑)。

武上　そんな(爆笑)。ただ「笠地蔵」なんかでいうと、原作がキチッとあって、そうは変えようのない話なんだけど、その変えられない話を変えてほしい、という要望がありまして(笑)……新しいプロットに原作のエッセンスを盛っていくという点で苦労しましたね。あれは有名な話だけに、かえってプロデューサーさんは新しい何かを盛り込んでほしかったんだと思いますが。

―「この話にはこの妖怪を登場させよう」というのは脚本の方が?

大橋　前のシリーズではプロデューサーさんから「やりたい妖怪ある?」みたいな感じだったんですけど、今回はどちらかいうと「この妖怪でお願いします」みたいに渡されることが多いですよね。

武上　「こんな話を、この妖怪でどうですか」みたいな、ね。といっても、別に強制っていうんじゃなく、こっちで別な妖怪にしたり。



たけがみ・じゅんき
脚本家。主な仕事に「木曜の怪談」など。

大橋　ときには「もっと怖い妖怪出して下さいっていう声が多くて」なんてリクエストもらって、『日本妖怪大全』調べたりして。

武上　でも、今回のスタッフは皆さん〝参加したがり〟だったよね。打ち合わせのときにプロットがぽろっと出てくることも結構あったし。

大橋　そうそう、僕の場合も「あずきとぎ」とか「がんぎ小僧」なんかプロデューサーさんからけっこうはっきりしたプロットが出ましたよね。あと面白いとこでは「吹き消し婆」の話、あれは当時のプロデューサーの清水さんから「クリスマスだから、ケーキのロウソクで吹き消し婆あうと思うんだよ」って(爆笑)。

武上　そうだったの!?(笑)

―それでは最後、「鬼太郎」のお仕事を振り返られてひとこと。

大橋　「鬼太郎」はキャラクターがすごくしっかりしてるし、放っておいてもどんどん動いてくれる。その点ですごく楽しいし、正直な話、苦労したという感じがありませんね。

武上　そうそう、こっちがどんな話を書いても「鬼太郎」は「鬼太郎」っていうのかな。その分、ストーリーを自由に作っていける楽しみがある。こんな作品は珍しいですね。

各話脚本【五十音順】

おおいとしのぶ

——おおいさんの鬼太郎初体験はいつのことですか?

たぶん幼稚園児だった頃にテレビアニメを夢中で観てたみたいです。その頃のオープンリールテープ(!)に僕が唄った「ゲゲゲの歌」の歌声が残っていますから。

——これまでのアニメシリーズと同じゲストキャラを登場させる場合、差別化のために意識された点は?

僕の場合、子供の頃からコミックスがバラけるくらいまで読んだ原作が頭にしみついていたので、キャラクターというより、どうしても捨てがたいシーンやセリフなんかが出しゃばってきてしまうんです。ま、ほとんどはご遠慮願いましたが(笑)。

——ご執筆のエピソードで、特にご苦心なさった箇所は?

これは「モウリョウ」の話ですね。死体にのりうつるのがウリの妖怪なのに、朝の放送ということもあり、死体を出すのはマズいという注文で(笑)……苦戦の末いっそ落語にして笑いとばすことにしました。

あと、これは余談ですが、最初は原作に近い展開で死体の指が出てくる展開だったのを、むき出しじゃグロだということで、小箱に入れる設定にしたんですが、京極先生の「魍魎の匣」とダブるということで没にした思い出があります(笑)。

——おおいさんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか?

鬼太郎はいないはずがない(キッパリ)。水木先生ではありませんが、妖怪感度があれば出会えるのではないか……そんな気がします。

小中千昭

——小中さんの鬼太郎初体験はいつのことですか?

初ではないですが、ソノラマのコミックスが出た頃にハマりました。かろうじて記憶にある昭和30年代の匂いをあれほど感じさせてくれたマンガはなかったですね。

——ご執筆のエピソードで、特にご苦心なさった箇所は?

私は「ラクシャサ」の回しか担当していないんですが、それに関して言えば、演出の角銅さんがホラーに造詣深い方で、怖さの感覚、言語が共通していて、苦労どころか昨年では一番愉しんで書けた作品だったかもしれません。

細かい点では、〝純喫茶〟〝コーヒーとショートケーキ〟〝いきなり解決する印度人〟といったアイテムには、原作の昭和30年代なテイストを、テレビ版にもちこみたいというねらいがありました。

——小中さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか?

ホラー専門を自称するライターとしては、水木先生の原作には深い畏敬を抱きますし、叙事的なあの語り口は、無意識にマネをしている時があるかもしれないですね。

小林千賀子

——小林さんの鬼太郎初体験はいつのことですか?

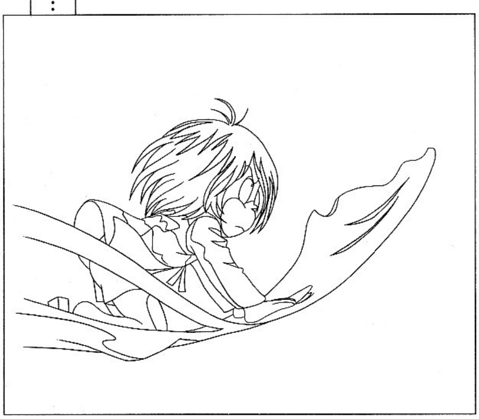
子供の頃、鬼太郎は観てないんです。漫画もアニメも知りません。ただ、なぜかあのテーマ曲だけは知っていました。怖い話が大の苦手で、じつは今でも幽霊や妖怪はとっても怖いんです。

ですから今回、鬼太郎のシナリオを書かせていただくというありがたいチャンスも、妖怪と向き合わなければならないという恐怖との闘いだったんですね。ホント、妖怪の本が部屋にあるだけでも怖かったんですから(笑)……ということで、私の鬼太郎初体験は、あのメロディーです。あの楽しい歌詞が恐怖と闘う私を勇気づけてくれたのでした。

——ご執筆のエピソードで、特にご苦心なさった箇所は?

私はステレオタイプの女性ではないので、女性の目から見たねこ娘のかわいさを——というお話を48話でいただき、心底悩みました。ほんとは〝ねこ娘危機一髪!〟的な力強くアクション満載のねこ娘が書きたかったんですが……求められているのは一般常識の女性の目から見たねこ娘なのだと言い聞かせて書きました。

女怪「うぶめ」のお話も女性である私にいただいたお仕事だと思い、この時は今の社会現状にも踏み込ん



*

で書いてみました。

―小林さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか?

記念すべきテレビデビュー作です。女性の手による少女、女性のための、そして男の子にも楽しんでもらえるアニメシナリオが書きたくてチャレンジした世界。鬼太郎に出会えて本当にうれしく思っています。

島田　満

―島田さんの鬼太郎初体験はいつのことですか?

今を去る30年ほど前、小学生の頃にテレビで観ました。妖怪ポストに手紙を入れれば、本当に鬼太郎が来てくれるのだろうかと真剣に考えていました。

―ご執筆のエピソードで、特にご苦心なさった箇所は?

私はつねづね自分のつくったストーリーにのめりこむあまり、泣きながら原稿を書くという大バカなクセがあるんですが（笑）、「妖花」の話を書いたときは特に凄かったんです。まずプロットを作る段階から大泣きに泣き、最後は涙でワープロ文字がにじんだほどで……それを読んだプロデューサーもオイオイと男泣きに泣いたという噂があるんですよぉ。

―島田さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか?

今回、あらためて原作を読み、感慨深いものがありました。長年シナリオを書いていますが、『文学してるな』と思う漫画原作は鬼太郎だけだと感じます。

田村　竜

―これまでのアニメシリーズと同じゲストキャラを登場させる場合、差別化のために意識された点は?

鬼太郎のシナリオがワープロで書かれたのは今シリーズが最初でしょうから、おのずとかつてとは違う話ができあがるのでは、と自分勝手に考えてます（笑）。

―ご執筆のエピソードで、特にご苦心なさった箇所は?

78話「ぬらりひょんと蛇骨婆」の時は、鬼太郎誕生秘話を盛り込んだり、ゲタの音のみで鬼太郎の姿をはっきり見せなかったりと、原作のムードに近いダークなエピソードにしようとがんばりました。

―田村さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか?

バットマンに匹敵する日本のダークヒーローといえば、これはもう鬼太郎以外ないでしょう。

橋本裕志

―橋本さんの鬼太郎初体験はいつのことですか?

小さい頃、熊倉一雄さんが、あのねばっこい声で『おばけは死な〜ない、病気もなんにもない』と唄うのを聴いて、なぜか夜トイレに行くのが怖くなったのをおぼえてます。

―これまでのアニメシリーズと同じゲストキャラを登場させる場合、差別化のために意識された点は?

できるだけ新しいアイディアを加えようとはこころがけました。その方がやってても楽しいですし……。

特に「だるま」のエピソードは、どうやっても原作どおりにやるしかない話だろう、と言われてましたので、無理にでも違う話の構造にしてやるぜ！と燃えましたね。

―ご執筆のエピソードで、特にご苦心なさった箇所は?

「化け鯨」を書いた人間は、呪われるという噂がありましたので（水木先生もこの絵を描いたとき熱を出された）、「化け鯨」の回の依頼を断るのに全力をそそぎました。

それはまんまとうまくいったのですが、最近98話の設定で、大海原で鬼太郎を助けてくれる巨大な妖怪がどうしても必要になり、とうとう「化け鯨」を出さなければならないハメになって（笑）……おかげでそのあいだ、熱はでるわ、財布は落とすわ、時計はなくすわ、階段でころぶわ、馬券ははずれるわ、さんざんなメにあいましたよ。

原稿提出後はピタリと災厄は消えましたが、今も馬券だけは当たりません。鬼太郎、助けて（笑）。

矢島大輔

―矢島さんの鬼太郎初体験はいつのことですか?

私にとっては鬼太郎といえば、熊倉一雄さんの『ゲツ、ゲツ、ゲゲゲ



▶戦争の悲惨を淡々と訴えた名作「妖花！夏の日の記憶」（第30話）



◀これを描く者にたたりがあるという18話「深海の奇跡！化け鯨」

のゲ～』ですね。今でも熊倉バージョンの主題歌を聴くと、子供の頃住んでいた家、食卓に並んでいたおかずのことまで思い出します（笑）。

――ご執筆のエピソードで、特にご苦心なさった箇所は？

65話ははじめ「逆柱」の予定で書いてたんですが、どうしても面白くならなくって急きょ「マンモスフラワー」になったんです。その後、「逆柱」はまったく違う設定で83話に復活しましたが、そのとき最初に私がつけていたタイトルが「逆柱の逆襲」

――もちろんこの〝逆襲〟は内輪ウケねらいです。

大変というのでは、96話からの4話連続エピソード、「妖怪王・ぬらりひょん」のあれですね。4話連続というんで、橋本裕志さんと私が前2本か、後2本かを選ぶことになったんですが、何を隠そう私は「話を広げるのは好きだけど、まとめるのは苦手」という性格なので『ここは橋本さんに後半を押しつけて、俺は前半をおいしく……グヒヒ』などと考え、まんまと前半をゲット！

しかし、それは浅はかなサル知恵だったんですねぇ（笑）。このエピソードは原作のないまったくのオリジナル。ということは、前半を書く人間が4話全体の設定――登場するゲストキャラや物語の舞台、大きなストーリーの流れといったことを最初にやらなければならないっつうのをまるで勘定に入れてなかったんですよ！　まったくぅ（笑）。

――矢島さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか？

やっぱり、近所のゲタばき小僧でしょ（笑）。近くに鬼太郎がいたって不思議じゃない。フツーなんです。ゲタばき小僧なんです。

もっとも、ゲタをはいてる小僧がフツーかと言えば、それはそうですが（笑）……。

雪室俊一

――雪室さんの鬼太郎初体験はいつのことですか？

モノクロの第1シリーズテレビ化の時、脚本として参加しました。

原作もそのとき初めて読みました。当時は「墓場の鬼太郎」のタイトルで、現在のものより怪奇的要素が強かったように思います。

――これまでのアニメシリーズと同じゲストキャラを登場させる場合、差別化のために意識された点は？

個人的には、重複した妖怪はないように記憶しています。なにぶん20年以上の空白があるので不確かですが（苦笑）……。

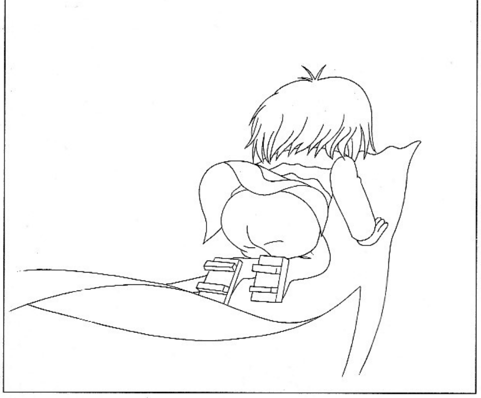
――ご執筆のエピソードで、特にご苦心なさった箇所は？

今のシリーズでなくて恐縮ですが、私としては第1シリーズの「笠地蔵」の話がいちばん苦心しました。

なにしろ妖怪との対決がいっさいないエピソードですので、盛り上げるのに苦労したおぼえがあります。

――雪室さんにとって鬼太郎とはどんな存在ですか？

よき時代のよきヒーロー。こうしたキャラクターが現代の子供たちにも支持されているというのは、よろこばしいと思います。



記録
小川真美子

―「記録」というのは、具体的にはどのようなお仕事なんですか？

映像になってから、つまりアニメーターの描いたものがデジタル処理されて動く絵になってから、間違っているところがないかチェックするんです。具体的には、演出さんが「ここはこう直して」と指示したことを記録してそれをリテイクに回し、戻ってきたものがちゃんと直っているかとか、絵的な間違いをチェックするのが主な内容です。

ほかに、アフレコやダビングに立ち会ってセリフや音のチェックをしたり……そうそう、雑用もふくめて演出さんの全般的な補佐という側面もありますね（笑）。

―うかがうと、映画でいう記録の仕事と似てますね。

そうなんです。実はアニメの世界でも記録という職種は、この東映動画にしかないんです。もともと映画の流れからできた仕事で、それで他のアニメ会社にはないんでしょうね。

ただ、自分としては記録という職種はやはりアニメ制作に欠かせないものだと思ってますし、演出さんに頼りにされると何よりの励み、やりがいになります。

―記録の方はある意味、作品の最初の厳しい鑑賞者であると……。

ええ、ですから自分では世界で一番熱心に今度の鬼太郎を観てるんじゃないかと思ってます。もう、いつも緊張の連続……おかげで間違い探しのクイズはメチャメチャ得意になりましたけどね（笑）。

―最近はどんなミスチェックを？

鬼太郎のちゃんちゃんこの色の塗り違い。肩のところが黒で、次に黄色、黒、黄色、黒となるはずが、肩が黄色から始まってた。で、「このちゃんちゃんこ、逆じゃない！」って（笑）。シリーズの初めの頃ならありがちなミスなんですけど……。

あと、ありがちなのが鬼太郎の下駄。一反木綿の上から鬼太郎がカッコよく飛び上がって、相手に下駄を飛ばしたりするでしょ。それが着地するときもなぜか下駄ばきで（笑）。

―放送されてから気づくことは？

ありますよ。ねずみ男のヒゲがぬけてたとか、鬼太郎の家のはしごがなかったとか。だいたい間違いがある場合は、その絵を初めて見た時に何か気持ち悪いんです。身体でおぼえた感覚っていうのがあるんですね。

色指定
板坂泰江

―鬼太郎に使われている色数は？

200〜300色です。デジタルになってからは、色の数はある種無限ですが、使う色は作品によって限られてくるんで……。

鬼太郎の世界で使う色については、最初の段階で美術さんとご相談して決めておきますし、水木先生のイラストを参考にすることもあります。

―前のシリーズと比べて色の面ではどんな違いが？

使ってる色数は違いませんが、今シリーズでは、作風がより水木先生の世界に近づいてるんで、それに近い、抑えた色を主に使っています。

―今シリーズの途中でデジタル彩色に変わったわけですが？

デジタルへの切り替えにあたって、まずはこれまでの絵の具の色に一番近い色を探して、作る作業があったんですが、これが大変でした。ただ、これは基本の作業としてどうしてもはずせませんでしたから……。

調色にしても、ある色とある色をまぜてVTR上でどんな発色になるかはカンでおぼえるしかない（笑）。モニターごとのクセもありますし。

ただ、一度作ってしまった色はパソコン上でパレットにして自在に使えますから、レギュラーメンバーなんかはそれを使えばよくなりますね。

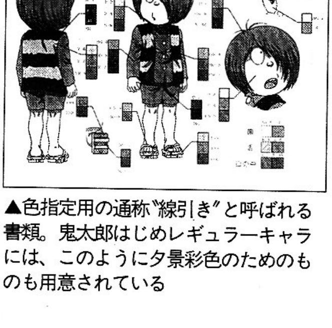
―ところで、ゲストキャラなど、もとの水木先生の絵に色がない場合、色指定はどうするんですか？

想像と、自分の感覚と、演出さんの意見を参考に決定しています。

―では最後に、101話、一刻堂の色については？

京極さんの方から色の指定をいただいてましたので、ほぼそれに忠実に色指定をしました。

ただ、目の虹彩の部分だけは、一刻堂は人間ではあるけれど特殊な人なので、その異形な雰囲気を出そうと、私の段階であのように赤くしました。自分ではうまくいったと思ってるんですが。いかがでしょう？



▲色指定用の通称〝線引き〟と呼ばれる書類。鬼太郎はじめレギュラーキャラには、このように夕景彩色のためのものも用意されている



◀「夜叉」のギター、鬼太郎の吹くオカリナも和田氏の演奏だ。

音楽 和田 薫

――今回の鬼太郎の音楽には、サントラとしては珍しい楽器が使われているとか。

鬼太郎は日本を代表する妖怪で、たんなるモンスターとは違うんです。その妖怪というイメージに、日本の音と日本人のもつ感性を取り入れてみたかったんですね。

で、エキセントリックな音楽というのではなく、日本の楽器や素材を使って、鬼太郎の世界観に日本的な恐ろしさを盛り込みたかった。そのため、今回のシリーズでは尺八や能管、篠笛、薩摩琵琶といった和楽器や、変わったところではミュージカル・ソー（西洋ノコギリの背をバイオリンの弓で弾いて音を出す楽器）なんかも使っています。

――アコースティックな音にかなりこだわられたようですが。

シンセサイザーなどとは違い、生音には微分音的な不安定な味わいや不思議な雰囲気、不確かな妖しさがあって、恐怖ややさしさなど人の感情に直接刺激を与えるんです。

たとえば尺八のひと吹きや琵琶をバチーンと打っただけのその一音で、いきなり恐い世界に入ってしまう。今回の音楽でいうと、尺八のムラ息。

――ある種のノイズですね、これが観ている人に恐怖感を呼び起こす。

西洋的にはノイズといわれる音でも、竹林に吹く風に情緒を見いだす我々の感性は想像力を働かせるんですね。

日本の楽器って、音楽で演出を助けるのに効果的で、鬼太郎の世界に色をつけるいい役割を果たしてくれます。実際には、こうした生音中心の和楽器の音とオーケストラ、エレクトリックも含めた西洋の音をうまくかみあわせて作品を構成していくんですが……。

――鬼太郎の音楽を作曲されるうえでご苦労される点は？

今回の鬼太郎では、最初に100曲くらい書いたんです。鬼太郎をカッコよく見せる音楽や、ぬりかべが登場しても似合う音楽とか、ねずみ男がおちゃらける音楽など、いろんなシチュエーションを想像しました。

サントラというのは、映像がどういう音楽を求めているのかってことがたいせつで、極端な話、そのフレーズを聴くと、このシーンというふうに思い出してもらえなきゃならない。それには世界観というのももちろんですが、キャラクターとしての鬼太郎と寄り添っていけるような音楽も書けないと――。

その点、鬼太郎は小さい頃から観て知っている作品ですから、自分の中に親近感もあって……。むしろ目玉の親父やねずみ男はこういう音楽で表現したらおもしろいんじゃないかなとか、時間がないのにどんどんイメージがわいてくる（笑）。

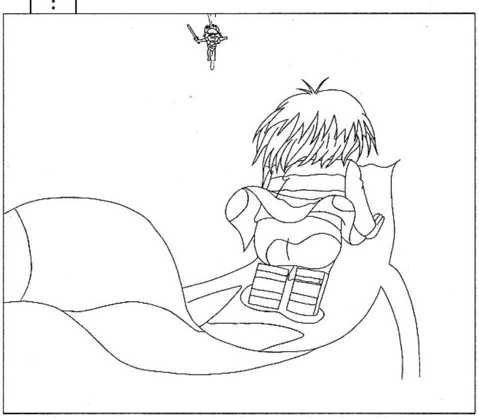
苦労より楽しく書かせてもらったという感じで、そういう意味ではぼくが鬼太郎の音楽を書くまでに、初めて観た子供の時から30年以上、十分すぎるほどの準備段階があったという感じですね。

――では、和田さんにとっての鬼太郎世界とは？

僕たち現代人は、環境破壊や大量消費が進んで、大人も子供もどこか後ろめたさを背負って生活していますよね。時にはその後ろめたさをちょっとハケでさするような感覚も、鬼太郎の世界はもっている。鬼太郎のもつ世界観というのは奥深いと同時に、時代ごとにすぐ隣にある素材でもあると思いますね。



わだ・かおる　作・編曲家。主な仕事に「金田一少年の事件簿」など。



編集
片桐公一

― アニメも実写と同様、カットや尺は多めにとってあるんですか?

基本としては多めにとっておいて、動きのおかしいところなどをツマんで編集します。足りないと、どこかが兼用カットになってしまい、見ていて迫力に欠けますのでね。

鬼太郎の実際の放映時間は19分22秒。アクションありセリフシーンありで、編集的にはやりやすい内容ですが、20分弱の作品ですから全体が1分30秒以上長いとかなりキツイですね。

― アニメの編集では、特にどんな点でご苦労されますか?

アニメにはリテイクがあって、編集よりもカットの入れ替え調整に長くかかります。編集の時に絵がそろっていることがアニメのひとつの条件なんですが、実際は背景の絵がないとか、色がついてないとか(苦笑)。

それとアニメの場合、編集の個性が出しにくいですね。役者さんの演技がない分、アニメはある意味で計算されつくしている。で、作品を観てどこを活かしたら一番いいのか、そんな閃きを大切に自分なりのこだわりを出すようにしているんです。

録音
今関種吉

― 録音は、アフレコ、音楽、音効と、音全般に関わるお仕事ですが。

音に関する責任はすべて録音にきますし、全体のネタがそろってから変更することが多いんです。たとえば、ぼくがそんなに怖くないと思っていたシーンに、怖い音楽や効果音がついてくる場合もある。そうやってできてきたものを、演出家と話し合いながら変更して、盛り上げたり落としたりと流れをつくっていくんです。セリフ、音楽、効果音が入りすぎても絵がつぶれてしまうし、全体を見てどこを引っ込めるかですね。Aパート(前半)とBパート(後半)とあって、ぼくはだいたいBパートの後半をメインに考えています。

― 今回、第101話の録音で、特に意識された部分があれば。

音の少ない作品なんですね。音的な背骨というのは、実は京極さんの声。歌手でも、アカペラで歌ってるのに楽器のような歌い方をする人っているでしょ。あの感覚で、京極さん演じる一刻堂の声自体をひとつの音楽というか、このストーリーのメインの音として出しています。

音響効果
今野康之

― 護法童子のあの赤ちゃんの笑い声、かわいいけど不気味ですね。

それぞれの妖怪の雰囲気に合う音って必ずあって、そのアイディアを考えるのがこの仕事のおもしろみなんです。毎回ゲストとして登場する妖怪が変わるので、そのつど、絵の特徴を見て音をつくっていきます。

― 音づくりにはシンセを?

基本的には生音で、ありとあらゆる物を使ってとってます。瀬戸大将の〝コーン〟という足音には瀬戸物を使いましたし、小鬼はうちの社員3人に、それぞれ音程と調子を変えて「ケケケ」と言わせ、それにある動物の声を細工してのせました。

ただ一刻堂についていえば、音にしにくいキャラクターでしたね(笑)。で、冒頭、チラと登場する巫女さんから連想し、あのシャリーン!という鈴の音を入れたわけです。

― 音の入れどころっていうのは?

そう、そこが難しい(笑)。音の入ってない絵に、セリフが入り、さらに音楽と効果音が加わって、作品にテンポが出たり逆にスローテンポになったり。アニメは総合芸術だから。

選曲
西川耕祐

― 和田さんの手で100曲以上の曲が用意されているそうですが?

キャラのテーマは、鬼太郎とねずみ男の分だけで、あとはさまざまなテンポやムードにそって作っていただいた曲を、シーンごとのテンポやムードに合わせてノセていくんです。わざと絵のテンポとはずすこともありますし……。当然、一度も使ってない曲も2～3曲ですがあります。

その一方、鬼太郎のテーマのバリエーションなんかはうんと出てきますね。

― 選曲で一番ご苦労される点は?

普通は演出のほうから、ここは怖い音楽、ここは悲しい音楽というように指定があるんですが、僕の方で指定とは違うところに、絵を見てノセていくことはあります。ただ、作業手順の関係上で、僕のところにくるビデオはまだ効果音もセリフも入ってないんで、合うかなと思う曲が合わなかったり、その逆だったり。脚本からシーンの雰囲気を読み取ることも結構ありますね。曲の尺とシーンの尺が合わない場合は、つないだり、縮めたりの作業も必要になります。けっこうジミな作業なんですよ(笑)。

企画〔読売広告社〕 木村京太郎

―前回、そして今回のシリーズの“仕掛け人”ということで、その経緯をお聞かせください。

前回、'84年にぼくが鬼太郎をやりたいと言い出した当時、このハイテクの時代に妖怪なんて古いと、まわりの多くは大反対でした。ところがフジテレビさんだけはおもしろがってくださり、それで前回108本の作品ができたわけですが、自分の中にやり残したというかまだまだやりたい気持ちがあったんですね。

で、5年くらい前にもう一度やりたいと思ったんですが、その時はテレビやアニメ全体の事情からなかなか実現が難しかった。それに10年前の鬼太郎をフジテレビさんでは何度もリピートをかけていて、すでに6回も再放送している。それがまた、かなりいい視聴率なので、何もいま新たにつくる必要ないじゃないかってことになって（笑）。そんなわけで、今回のシリーズが実現するまでには丸3年かかりました。

―シリーズの変遷については、どうご覧になりますか？

前回の第3シリーズは、第1、2シリーズとはアニメのテクニックや絵の緻密さ、スピードなんかがまるで違いました。そんなわけで、時代とのシンクロでも非常にいいものができたんです。逆に今回は、10年前にあれだけちゃんとしたものがあるというのが、苦しいところでした。

たとえば同じ妖怪をとりあげても、こうしたら面白いというプロットが、それじゃ前のまんまじゃないかってことになる（苦笑）。演出家やライターの皆さんも、10年前と同じことはやりたくないという意識が働いて、変えなくていいとこまで変えちゃってる場合がありますし……。

―では最後に、テレビアニメとしての鬼太郎の魅力とは？

たとえば'71年版では、当時の社会問題だった公害についての作品がある。今は公害についての話はないですよ。ねずみ男がゴミ箱をあさるシーンでも、10年前のバブルの入り口の頃は「世のなか好景気でこんなに浮かれてんのに、何でオレはゴミ箱あさってんだ」というセリフだったのが、今回は「世の中不景気だね。ろくなもんねーな」になってる。

浮き世離れした妖怪を描きつつ、ちゃんと時代が出てるし、メッセージもあるってとこが面白いですよね。

企画〔フジテレビ〕 原田冬彦

―今回のシリーズを通じての視聴率面での評価、特に日曜朝という放映時間について、どうご覧になっていますか？

局として、圧倒的な人気を誇る日曜日午前のエンターテインメント、そのトップバッターとして鬼太郎は素晴らしい視聴率を記録しています。最近も、96～99話の4話連続シリーズで16％を記録するなど、その強さを存分に見せつけました。

それだけではありません。世代別調査でも、鬼太郎は時に大人の層で他局の情報番組を上回る視聴率をあげるなど、他のアニメにはない幅広い人気がその強みです。

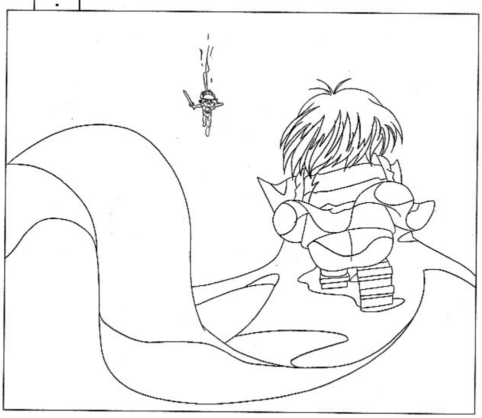
―今シリーズは「水木先生の原作に帰る」という方針にそって企画・制作されたとのこと。その点、局プロのお立場からどんな感想がおありですか？

それはもう、憂歌団の唄うブルース調のテーマソングに象徴されていると思います。

原作のもつ、ダークでどこか懐かしいその魅力を、20世紀末の現代風にアレンジして伝えたいという部分がはっきり見える作品、はっきり見えるシリーズになっているのではないでしょうか。

―今シリーズはまた、野心的で実験色の強いエピソードが多数ありますが、こうした新たな試みについて、どうご覧になりますか？

ええ、確かに今回の京極先生のシナリオをはじめ、「猫町切符」に見る奇妙な味わい、さらに「オバリヨン」の話のように鬼太郎がほとんど活躍しない話など、ストーリー面では野心的な試みがいくつもあり（特に「蛇骨婆」の回の鬼太郎誕生エピソードは大変話題になりました）、画面上でもCGなど新しい技術の効果で、画期的な新境地が開拓できたと思っています。



*

プロデューサー 清水慎治 × 蛭田成一

――現場のプロデューサー、いわゆるまとめ役としてのご苦労は?

清水　これがぜんぜん苦労してないんですよ(笑)。僕が考えたのはただ、みんなをその気にさせる……そのことだけですから。もともと、東映動画の人はみんな水木先生が大好きだし、どっか妖怪の血が流れてる(笑)。ですから今回、僕がやりたかったのもいい作品を作ることはもちろん、いろんな人と出会いたいということ。人と人との〝輪=和〟を広げていきたかったんですね。

――第33話の憂歌団、57話の佐野史郎さんなど、声優として異色の出演もそのあたりで?

清水　ええ、憂歌団の皆さんについては、ギターの内田勘太郎さんが水木先生のファンクラブに入ってるってのを聞いて、「それなら」と。佐野さんについても、テレビで水木先生の熱狂的なファンだっていうのを聞いてたんで、お願いしてみようと。

――その点、今回の京極先生も?

清水　同じなんです。やっぱり水木先生のマニアでいらっしゃるということで――水木先生のお口添えまでいただきましたから(笑)。ただ、それもこれも、出てくれればっていう短絡的なことじゃなくて、さっき言った輪を広げる、という意味でね。で、一度その輪の中に入ってしまったら、もう逃げられない(笑)。

――ストーリーというか、今回のシリーズ全体のカラーについては?

清水　そう。その点、反省のひとつが、このシリーズがエコロジーをテーマにしてるという教訓臭いイメージをかなり長い間――1年くらいかな、視聴者のみなさんに与えてしまったということ。あれはたまたま第1話がそうだったんですが……。

――で、たち上げから1年半で?

清水　ええ、僕は他の作品に移って、あとをここにいる蛭田くんが引き受けてくれたんですけど、「鬼太郎」とは全然違う「ドラゴンボール」のチームにいた彼の感覚が、後半すごくいきてると思いますし。

――その蛭田さんとしては今回、京極先生の脚本を読んで?

蛭田　やはりこれは普通に私たちが脚本を作っていくなかではできない話ですね。陰陽師、言霊、そして人間と妖怪の対決という点で。さすがに京極先生だなぁ、と。

――しかも先生自ら声優をおやりになるという……。

蛭田　ええ、たしかに不安がなかったわけじゃありません(笑)。でも、プロデューサーをまかされたばかりの仕事でしたから、とにかくやってみよう!と思いました。京極先生が出演した作品のプロデューサーなんて、めったにできませんし(笑)。

――96話からは、初の4話連続で「妖怪王」もおやりになりましたが。

蛭田　大作なので自分でも大丈夫かな、と思いつつ、「ドラゴンボール」はじめアニメ作品の多くは連続ドラマですので、鬼太郎でもきっとできるはずだと、結構安心してました。

――後半特に意識された部分は?

蛭田　前シリーズではある種禁じ手だった〝怖さ〟の追求をしたかったですね。78話の鬼太郎の誕生シーンなんか、子どもにはけっこうショックだったかもしれませんが、これまで描かなかった鬼太郎のもつ怖さを出せたんじゃないかと思ってます。

――では最後に、お二人にとって鬼太郎とはどんな存在かを。

清水　僕にとっては番組が終わっても終わらない。今回やっと出会えたんで、これからまた始まるんです。

蛭田　妖怪の世界はきっとどこかに広がっていると思います。で、鬼太郎はもしかしたらそのなかの自分自身かもしれない、そんな気がします。



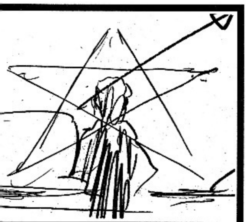
▲'96年夏には、清水氏の企画で「京都お化け旅行」が1泊で行われ、70人もの参加があった。写真は「太秦映画村」での記念撮影。キャラの着ぐるみと声優陣が並んでチーズ!

「ゲゲゲの鬼太郎」第101話





これが、「言霊使いの罠！」全絵コンテだ！







作／角銅博之（演出）

絵コンテは脚本をもとに描かれた、いわば作品全体の設計図。別冊シナリオ、巻頭VTRはもちろん、演出・角銅氏のインタビュー（本書69ページ）に解説された絵コンテ化にさいしてのポイントも要チェック。あわせてぜひお読みいただきたい。

NO.1



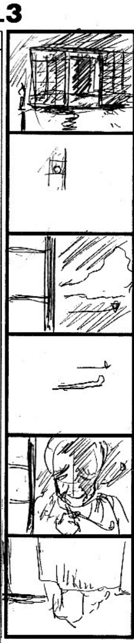
S.	C.	内容
		Aパート
1 夜 一刻堂の屋敷	1	坂道を PAN UP 一刻堂の家
		左右は雑木林？
	2	その家 正面
	3	門柱に 五芒星の 提灯

NO.2



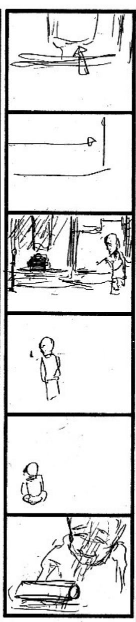
S.	C.	内容
1	4	「一刻堂」の 扁額
		玄関が 音もなく あく
	5	中で三方に のせた巻物 をはこぶ 男や巫女姿 の女
		手前 カゲ （ぬらりひょん） がとおり すぎる
		あら、 と見る女
	6	ろうか見るが だれも いない

NO.3



S.	C.	内容
1	7	奥の間 （外は暗い）
		障子ごしに ぽっと 灯りが ともる
	8	障子の向こ うから ふ〜と吐き だされる煙
		きせる in
		（ややTB） 姿をあらわす ぬらりひょん
	9	室内へ 入ってゆく 足もと

NO.4



S.	C.	内容
1	(9)	
		すーっと 障子が しまる
	10	室内の ぬらりひょん 床の間の
		前に
		すわりこむ
	11	床の間の 巻物を 見て にやり

PAN UP：PANはパノラマ撮影のこと。PAN UPはレンズを垂直方向に、見上げる動きとなる。
TB：トラックバック。被写体に対し、カメラを後退させる動きをさす。前進する場合はTU（トラックアップ）になる。

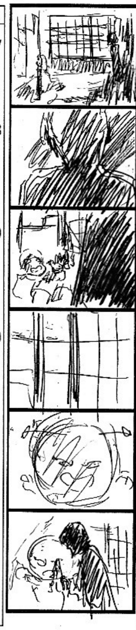
＊絵コンテ作業は企画の初期段階に行われるため、完成作品ではわずかにカットされた部分など微妙に異なる点があることに注意されたい。

NO.5



S.	C.	内容
1	12	黒い男の影
	13	びくっとなるぬらりひょん
	∫	ふりむく
	14	ろうそくなめ男
	15	ぬらりひょん
	16	男の紋五芒星

NO.6



S.	C.	内容
1	17	ぬらりひょんに近づく男
	18	男 祓え串をとりだす
	19	男なめぬらりひょん
	20	障子が
		ばっとあいて朱の盆
	21	男なめ朱の盆

NO.7



S.	C.	内容
1	21	とびかかってくる
	22	男の手もと祓え串を
		さっとふる
	23	(1-21同ポジ)男なめ朱の盆がただの盆になっている
	24	ぬらりひょん
		手前におちる盆

NO.8



S.	C.	内容
1	25	ぬらりひょんなめ
		男近づく
	26	さらに近づく顔に光あたって見えてくる(一刻堂)
	27	ぬらりひょん
		たもとで顔をかくす

NO.9



S.	C.	内容
1	28	男なめぬらりひょん
	29	一刻堂の目
	30	ぬらりひょんの目
	31	ぬらりひょん
		後ろ手に床の間の巻物をつかむ
	32	たたみにぱっとひろげられる巻物

NO.10



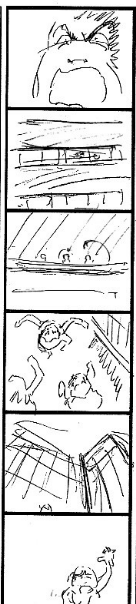
S.	C.	内容
1	33	巻物を指さしてるぬらりひょん
	34	しゃがみこんで見る一刻堂盆
		考えこむ一刻堂
	35	ぬらりひょんなめ考えこんでる一刻堂
	36	ぬらりひょん

NO.11



S.	C.	内容
		サブタイトル
2 夜の学校	1	学校
	2	ろうかを宿直の木場先生がやってくる
	3	木場 ←Follow
		?となる ろうかの奥から火を吹く車にのった護法童子がせまってくる
	4	

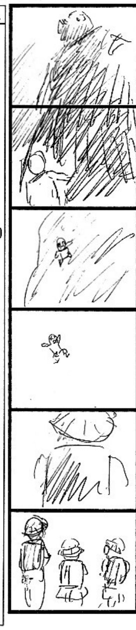
NO.12



S.	C.	内容
2	5	あ〜となる木場
	6	学校の窓をはしる護法童子の灯
	∫	PAN UP 屋上に小鬼がおどっている
	7	屋上でおどる小鬼たち
	8	アオリ 木場先生
		ほうほうのていで出てきてカゲがかかりあっとなる

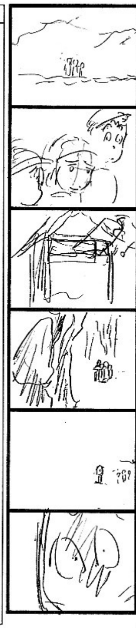
同ポジ:「同じポジション」の略。立ち位置などが同じことをいう。
Follow:被写体をカメラが付け回す動き。アニメの場合、背景を動かして表現する。←は被写体の動きの方向。

NO.13



S.	C.	内容
2	9	木場先生 なめ 黒い大きな シルエット ↑PAN UP
	10	フカン カゲの中の 木場先生
		気絶する
3 翌朝通学路	1	ランドセル から 学校へ向か う祐子・翔 太・淳

NO.14



S.	C.	内容
3	2	三人の ロング →
	3	ふと 立ちどまる
4	1	妖怪ポスト に手紙を いれる 祐子の手
	2	三人ポスト から去る
		見ている ねずみ男
	3	ねずみ男の 目

NO.15



S.	C.	内容
5 鬼太郎の家 夕方近く	1	鬼太郎の家
	2	手紙 みている 鬼太郎 逆光
	3	ねこ娘と 茶わん風呂 の目玉親父
	4	鬼太郎 こっち向く
	5	家の表

NO.16



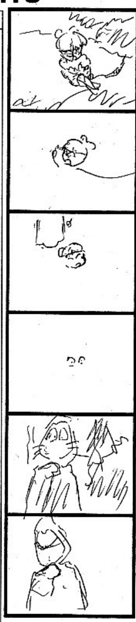
S.	C.	内容
5	(5)	出ていく 鬼太郎
	6	窓ごしに ねこ娘 リボンを なおして
		後を追う
6 森	1	森の中 歩く鬼太郎
	2	通りすぎる 鬼太郎の足
		草むらから のぞく ねずみ男

NO.17



S.	C.	内容
6	(2)	ねこ娘の 足音に 気づいて
		ひっこむ
	3	やってくる ねこ娘 ←PAN 草の中の ねずみ男
		ひょいと 手にした ロープを ひく
	4	つまずいて ころぶ ねこ娘

NO.18



S.	C.	内容
6	5	足にからま ったロープ をほどこうと している ねこ娘 一度鬼太郎 の方を見る
		ねずみ男の 足in
		ねこ娘 ん？と ↑UP 見あげる
	6	ねずみ男

NO.19



S.	C.	内容
6	7	ねこ娘
	8	ねずみ男
	9	ねずみ男 なめ ねこ娘
	10	ねずみ男

NO.20



S.	C.	内容
6	11	やっと立ち あがる ねこ娘
	12	ねこ娘 なめ ねずみ男
		あわてて ごまかす
	13	ねこ娘
	14	森の中の 二人

フカン：上から見下ろすカメラアングル。
ロング：被写体全体が写るよう遠写しにすること。

NO.21



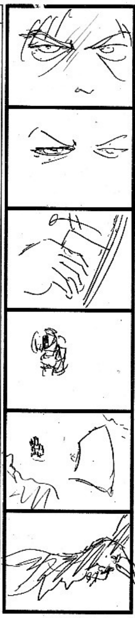
S.	C.	内 容
6	15	だんだん 本気に してくる ねこ娘
	16	ねずみ男
	17	ねずみ男 なめ ねこ娘２歩 あとずさり
		奥に向き なおって かけだす
	18	ねずみ男 そちら見て
		ひょいと 顔を向ける 奥に一刻堂 がいるのが わかる

NO.22



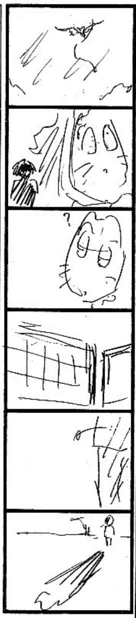
S.	C.	内 容
6	19	ねずみ男 ゆっくり ふりむく
	20	一刻堂
	21	あわてて あとずさる ねずみ男
	22	一刻堂 なめ 夕空

NO.23



S.	C.	内 容
6	23	一刻堂 遠くを見て 目を細め
	24	ふところから 紙をとりだし
	25	フカン さっと紙を なげる 紙がカラス になる

NO.24



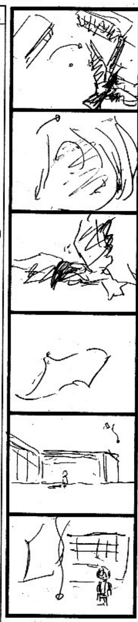
S.	C.	内 容
6	26	とび去る カラス
	27	ねずみ男 なめ
		一刻堂
7 学校	1	学校
		鬼太郎の 足in
	2	鬼太郎 カゲが長い

NO.25



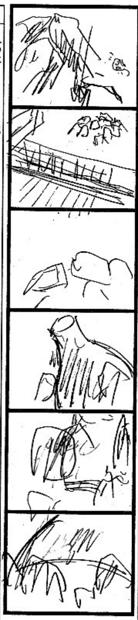
S.	C.	内 容
7	3	鬼太郎 髪を気に している
	4	フカン 歩きだす 鬼太郎
	5	夕陽
	6	鬼太郎 体育館
		見まわす
	7	カラス とんでくる

NO.26



S.	C.	内 容
7	8	フカン 旋回する カラス BG◠回転
	9	目で追う 鬼太郎
	10	カラス 旋回して きて
		紙に なる
	11	ひらひらと おちる 紙
	12	おちる 紙なめ 鬼太郎

NO.27



S.	C.	内 容
7	⑫	地面がわれ て もりあがる
	13	校舎なめ もりあがる 地面
	14	地面から
		姿を あらわす
		瀬戸大将

NO.28



S.	C.	内 容
7	⑭	PAN UP
	15	フカン 鬼太郎
	16	体育館なめ 鬼太郎 瀬戸大将
	17	ずんと ふみだす足
	18	瀬戸大将 鉾を ふりあげる

BG：背景画のこと。

NO.29



S.	C.	内容
7	19	鬼太郎 あやうくよける
	20	土けむり フカン
	21	鬼太郎
	22	瀬戸大将 鉾をふりあげながらせまる

NO.30



S.	C.	内容
7	23	鬼太郎 よける 地面にぶつかる鉾
	24	瀬戸大将足もとなめ鬼太郎
	25	鬼太郎UP
	26	鬼太郎なめせまる瀬戸大将

NO.31



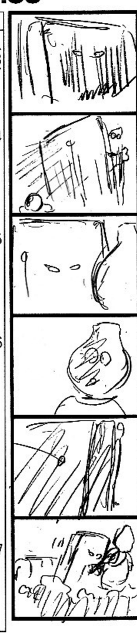
S.	C.	内容
7	(26)	あやうくよける鬼太郎
	27	フカン全景
	28	鬼太郎 あとずさる
	29	足もと 地面から小鬼がでて足をつかむ

NO.32



S.	C.	内容
7	30	鬼太郎 あっというまに 全身に小鬼がむらがり たおれる鬼太郎
	31	鬼太郎UP
	32	鬼太郎なめ鉾をふりあげる瀬戸大将
	33	鬼太郎

NO.33



S.	C.	内容
7	(33)	手前の地面からぬりかべ出てくる (7-32同ポジ)
	34	瀬戸大将の前にぬりかべ
	35	瀬戸太将なめぬりかべ
	36	瀬戸大将に どんと向かうぬりかべ
	37	(7-16同ポジ) 瀬戸大将を押すぬりかべ

NO.34



S.	C.	内容
7	38	鬼太郎 上を見る
	39	↖Follow 一反木綿に砂かけ婆子泣きねこ娘
	40	鬼太郎
	41	屋上なめぬりかべこちらにきて 旋回する一反木綿

NO.35



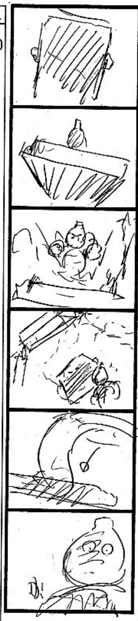
S.	C.	内容
7	42	学校の窓からとびでてくる護法童子
	43	一反木綿にきりかかる よけるが 波うって不安定に
	44	旋回してくる護法童子

NO.36



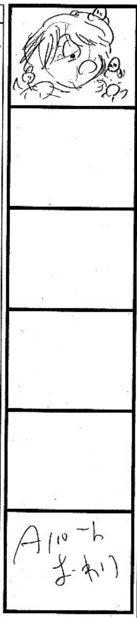
S.	C.	内容
7	45	またよける
	46	おちそうであぶないねこ娘
	47	鬼太郎髪の毛針を放つ
	48	また反転する護法童子 髪の毛針がきかない
	49	あっとなる鬼太郎

NO.37



S.	C.	内容
7	50	ぬりかべ
		瀬戸大将におされてたおれる
	51	フカン
	52	どんとぬりかべにのる瀬戸大将の足
		↗PAN UP 瀬戸大将

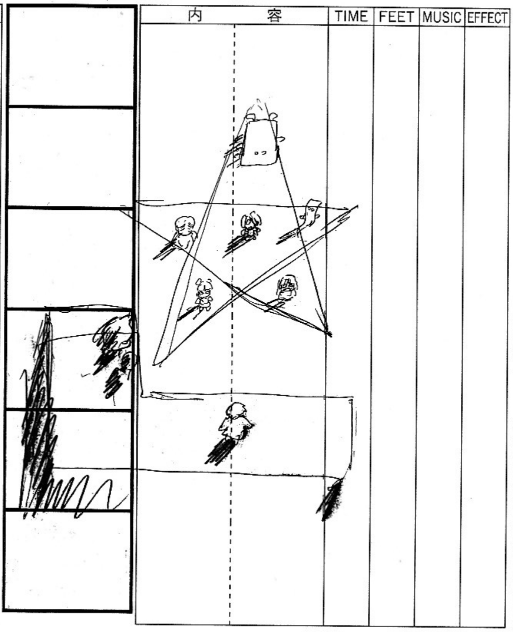
NO.38



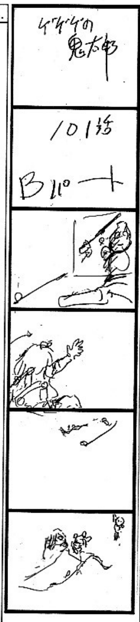
S.	C.	内容
7	53	そちら見てる鬼太郎
		Aパート おわり

NO.39

S.	C.	内容	TIME	FEET	MUSIC	EFFECT



B-NO.1



S.	C.	内容
		ゲゲゲの鬼太郎
		101話 Bパート
8	1	鉾ふりあげる瀬戸大将から TB
		なんとか身をおこす鬼太郎
		上空 護法童子に追われる一反木綿 in
	2	一反木綿とおそってくる護法童子



B-NO.2



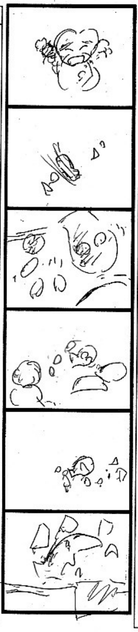
S.	C.	内容
8	②	よける一反木綿
		子泣きがふりおとされる
	3	はっと見る鬼太郎
	4	フカン おちる子泣き
		石に変化 (BGのみTU)
	5	地面におちる

B-NO.3



S.	C.	内容
8	6	鉾をふりおろそうとしていた瀬戸大将のうごきがとまる
	7	フカン 子泣きのおちた穴
	8	鬼太郎
	9	(8-5) 子泣きが欠けた茶わんをもって穴から出る
	10	欠けた茶わん
	11	子泣きにはいのぼってくる小鬼

B-NO.4



S.	C.	内容
8	(11)	子泣き身をよじって
		茶わんをたたきつける
	12	(8-6) 瀬戸大将がバラバラになって
	13	(8-1) 鬼太郎なめバラバラになった瀬戸大将
		おちて下の方からくだける
	14	頭部もくだける ぬりかべ

B-NO.5



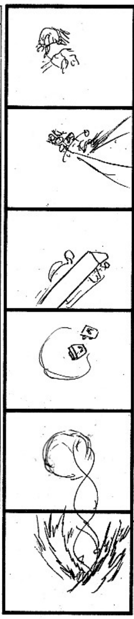
S.	C.	内容
8	15	鬼太郎（ぼーぜん）上空に一反木綿 in
	16	ねこ娘にしがみついてる目玉親父 ↖Follow
	17	鬼太郎（フカン）
	18	目玉親父
	19	おそってくる護法童子
	20	よける一反木綿 親父ふりおとされる

B-NO.6



S.	C.	内容
8	21	夕陽 鬼太郎
		あやうくダイビングキャッチ
	22	砂かけ ↖Follow
		また護法童子
	23	目玉親父と鬼太郎

B-NO.7



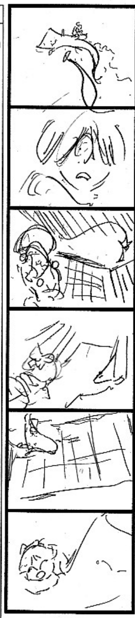
S.	C.	内容
8	24	鬼太郎（うつぶせ）
		反転してゲタとばす
	25	ゲタ
		とんでいって
		ぐるぐるとらせんを描きながら ↓ 急降下 地面をえぐる

B-NO.8



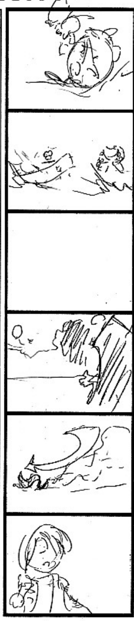
S.	C.	内容
8	26	穴の中に古道具
	27	穴の中からアオリ 鬼太郎 in してムチをふるう
		上空で一反木綿が護法童子におそわれ
	28	地面におちる砂かけ
	29	はっと見る鬼太郎
		小鬼が何匹かきえる

B-NO.9



S.	C.	内容
8	30	一反木綿に火がもえうつっている
	31	鬼太郎
	32	鬼太郎なめ迷走する一反木綿
	33	一反木綿なめ近づく地面
	34	ローアングル 地面に不時着する一反木綿

B-NO.10



S.	C.	内容
8	34	ねこ娘ふりおとされる
	35	
		鬼太郎の横を地面をずりずりーっと通りすぎる一反木綿
	36	なんとかとまる
		（火はやっときえる）
	37	鬼太郎

B-NO.11



S.	C.	内容
8	37	また穴を見ムチをにぎって
	38	穴の中古道具をくだくムチ
	39	鬼太郎にとりついていた小鬼がきえる
	40	子泣きからもきえる（ほっとする）
	41	ほっと顔をあげたねこ娘 地面が光り

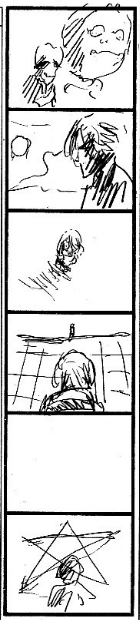
アオリ：下から見上げるカメラアングル。

B-NO.14



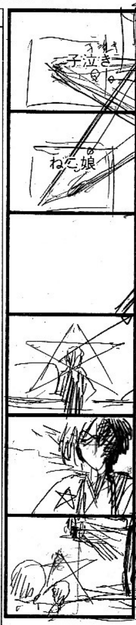
S.	C.	内容
8	50	一刻堂
	51	ねこ娘 鬼太郎 一反
	52	アオリ 一刻堂
	53	子泣き
	54	ぬりかべ
	55	砂かけ婆 砂をかける

B-NO.13



S.	C.	内容
8	45	ぬらりひょん 朱の盆
	46	一刻堂
	47	鬼太郎 見上げている
	48	鬼太郎 なめ 一刻堂
	49	(8-42) 一刻堂なめ 一同

B-NO.12



S.	C.	内容		TIME	FEET	MUSIC	EFFECT
8	42	子泣き ぬりかべ 反木綿 鬼太郎 ねこ娘 砂かけ 地面を光が走り五芒星をえがく PAN	(240)	660			
		TB 校舎屋上に 一刻堂 (後ろ姿) 一刻堂	ねこ娘 「なに！ やだ、動けない」	240			
	43	校舎 ←PAN ぬらりひょん 朱の盆	ぬらりひょん 「ほらよく見ろ。あれが五芒星の秘術じゃ。あいつら一歩も先へ進めんぞ。ざまを見ろ！」 朱の盆 「うわあ、すごいなあ。それにしても、またうまく星の形に落っこちたもんですねぇ」 ぬらりひょん 「馬鹿者。あいつらがどこに落ちるかも計算済みなんじゃ。鬼太郎を中央におびき出すように、式をあそこにうずめたんじゃろうよ」	160			
	44						

B-NO.18



S.	C.	内容
8	70	TB
	71	一刻堂なめ 砂かけ
	72	砂かけ 砂をかける
	73	いつのまにか砂かけの横にいる一刻堂 おどろく 砂かけ
	74	砂かけの方を向く 一刻堂

B-NO.17



S.	C.	内容
8	66	子泣き 自分でも思いだせない
	67	一刻堂 フッと そちら向き
	68	
	69	一刻堂なめ 一同 →PAN 鬼太郎
	70	鬼太郎 なめ 一刻堂

B-NO.16



S.	C.	内容
8	62	ねこ娘なめ 一刻堂
	63	ねこ娘 自分の名をおもいだせない
	64	一刻堂
	65	一刻堂と ねこ娘 ←PAN 子泣き ねこ娘 そちらを 見る

B-NO.15



S.	C.	内容
8	56	(8-52) 校舎 一刻堂 いない
	57	一同の近くにいる 一刻堂
	58	一刻堂 夕陽
	59	一刻堂 なめ ねこ娘
	60	ねこ娘の方を向く 一刻堂の目
	61	はっとなる ねこ娘

B-NO.19



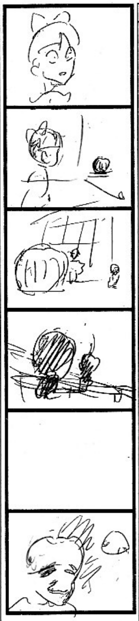
S.	C.	内 容
8	75	(8-73) 砂かけの いたところ つむじ風 ~ きえると 砂の山
	76	あ〜っとなる 鬼太郎たち
	77	指さす 一刻堂 PAN 一反 の布 さらに PAN くずれた 土塀

B-NO.20



S.	C.	内 容
8	78	ねこ娘と 子泣き 鬼太郎 なめ 土塀と布 はっと見る ねこ娘
	79	一刻堂
	80	子泣き おもい だせない
	81	一刻堂

B-NO.21



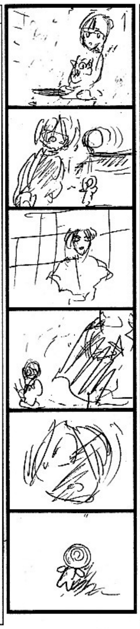
S.	C.	内 容
8	82	ねこ娘 はっと 子泣きの 方を見る ＴＢ かぼちゃが ある
	83	かぼちゃ なめ ねこ娘 一刻堂
	84	見おろして いる 朱の盆 ぬらりひょん 後ろ姿
	85	ぬらりひょん 朱の盆

B-NO.22



S.	C.	内 容
8	86	かぼちゃと 土塀 見ている 鬼太郎と 親父 泣く親父 一刻堂を にらむ 鬼太郎 ＴＢ 一刻堂 はっと ねこ娘を 見る ←PAN

B-NO.23



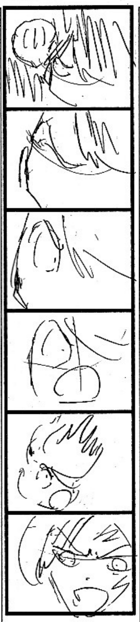
S.	C.	内 容
8	87	ねこを 抱いた 女の子
	88	あぜんの 鬼太郎 親父
	89	一刻堂
	90	一刻堂 なめ 鬼太郎
	91	下を見て はっとなる 鬼太郎
	92	目玉親父の ぬいぐるみ ひろい あげる 一刻堂の手

B-NO.24



S.	C.	内 容
8	93	一刻堂 と元親父
	94	元親父 なめ 鬼太郎
	95	なやむ 鬼太郎 髪の部分 ヌキにして 一反の方を 見る 一反の布 ←in 土塀の方を 見る →土塀in 砂山の方を 見る ←砂山in

B-NO.25



S.	C.	内 容
8	95	かぼちゃの 方を見る かぼちゃ →in 作画で ＴＵ はっとなり （ノーマル にもどる） 髪の毛 とばす
	96	一刻堂

B-NO.26



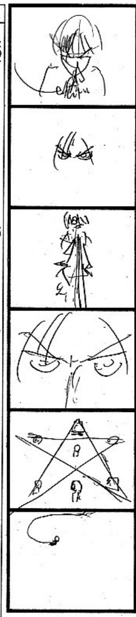
S.	C.	内 容
8	97	髪の毛針 ただの 髪になって はらはらと おちる
	98	鬼太郎 ゲタを とばす
	99	ぽーんと とんで おちる ゲタ 一刻堂 とりに いく

B-NO.27



S.	C.	内容
8	100	あぜんの鬼太郎
	101	鬼太郎なめ一刻堂
	102	一刻堂なめとんでくる護法童子
	103	↖Follow 護法童子
	104	鬼太郎 ぱっと←PAN 祓え串だす
	105	—一刻堂—

B-NO.28



S.	C.	内容
8	105	自分の前にかまえ(PAN→)
		かっと目をひらく
	106	串なめ鬼太郎
	107	一刻堂の目
	108	フカン全景
		護法童子とんでくる

B-NO.29



S.	C.	内容
8	109	屋上でうかれ
		おどるぬらりひょん朱の盆
	110	はっとなる鬼太郎
	111	!となってぬらりひょんたちを
		にらむ一刻堂
	112	ぎくっとなるぬらりひょん朱の盆

B-NO.30



S.	C.	内容
8	113	立ち上がる鬼太郎 TB
		上へ髪の毛針とばす
		↑PAN よける護法童子
	114	鬼太郎なめ一刻堂
	115	鬼太郎
	116	一刻堂の手の目玉親父(もうもとにもどってる)起きだし

B-NO.31



S.	C.	内容
8	117	一刻堂ゲタもうごきだし手をはなれる
		とびのる目玉親父
	118	
		鬼太郎のもとにもどる
	119	ねこをだいた女の子
	120	鬼太郎そっちにさけぶ

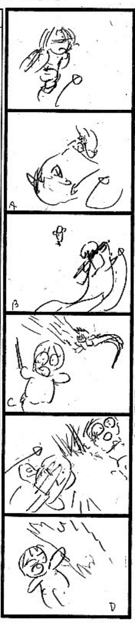
B-NO.32



S.	C.	内容
8	121	ねこ娘
	122	子泣きの方にふりむく 鬼太郎 TB ↙子泣き
	123	砂かけに叫ぶ TB 砂かけ
	124	ぬりかべに
		さらに一反木綿に向かってさけぶ
	125	

ぬりかべ→PANとびたつ一反木綿

B-NO.33



S.	C.	内容
8	126	鬼太郎
		とんできた一反木綿にとびのり
		空の護法童子へ向かい
		髪の毛針で攻撃 護法童子に
		石になった子泣きがぶつかり砂がかけられ

B-NO.34



S.	C.	内容
8	126	さらに ぬりかべに はじかれ
	127	フカン PAN UP 一刻堂 くるりと もどって いく 護法童子 小さくなって いって
	128	↓文字に なって PAN 一刻堂の ふところに

B-NO.35



S.	C.	内容
8	129	一刻堂の もとに せまる 砂かけ ねこ娘 さらに 子泣き 奥に ぬりかべ
	130	一反木綿 おりてきて とびおりる 鬼太郎
	131	一同

B-NO.36



S.	C.	内容
8	132	鬼太郎 なめ 一刻堂 目をあけ 呼ぶ はっと見る 鬼太郎
	133	東門に 逃げようと していた ぬらりひょん 朱の盆 ふりむく
	134	ぬらりひょん なめ 鬼太郎たち

B-NO.37



S.	C.	内容
8	135	一刻堂
	136	ぬらりひょん をにらんで 逃げだす
	137	追おうと する ねこ娘 とめる 鬼太郎
	138	一同　なめ ぬらりひょん 立ちどまる ふりむく
	139	一刻堂

B-NO.38



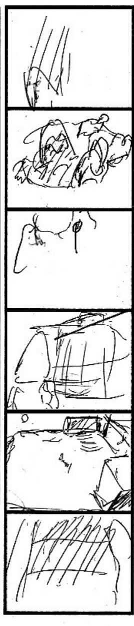
S.	C.	内容
8	140	ぬらりひょん 朱の盆 逃げだす
	141	一同 手前から ねずみ男 in 一同へ 向かう
	142	(8-137) ねこ娘 ふみだす

B-NO.39



S.	C.	内容
8	143	一同
	144	ねずみ男 思い出せ ない
	145	鬼太郎 なめ 一刻堂 串を かまえる
	146	ねずみ男 あわてて あとずさり

B-NO.40



S.	C.	内容
8	146	穴におちる
	147	穴に おちた ねずみ男 ぬけだす
	148	(8-146) ねずみ男 なめ 誰もいない 校庭
	149	フカン ねずみ男 だけ
9	1	鬼太郎 背中から

B-NO.41



S.	C.	内容
9	1	奥へ
	2	森 ↘Follow BGonly
	3	目玉親父 後ろ姿
	4	鬼太郎 後ろ姿 ↘そのカゲ ↘PAN
		おわり

BGonly：背景のみのカット。







［特別描き下ろし絵コンテ］

「一刻堂再登場！そして、真実は語りつがれる……」

作／西尾大介（シリーズ・ディレクター）

「しまった！　これは自分たちが書かねばならない物語だった」101話の脚本を読んで、スタッフはみなそう感じたという。以下の絵コンテは、シリーズ・ディレクターの西尾氏が京極氏へのアンサーとして描き下ろした本書だけの完全オリジナル。アニメ化されない〝幻の鬼太郎〟だ！　ぜひ68ページの西尾氏の解説と併読してもらいたい。



NO.1



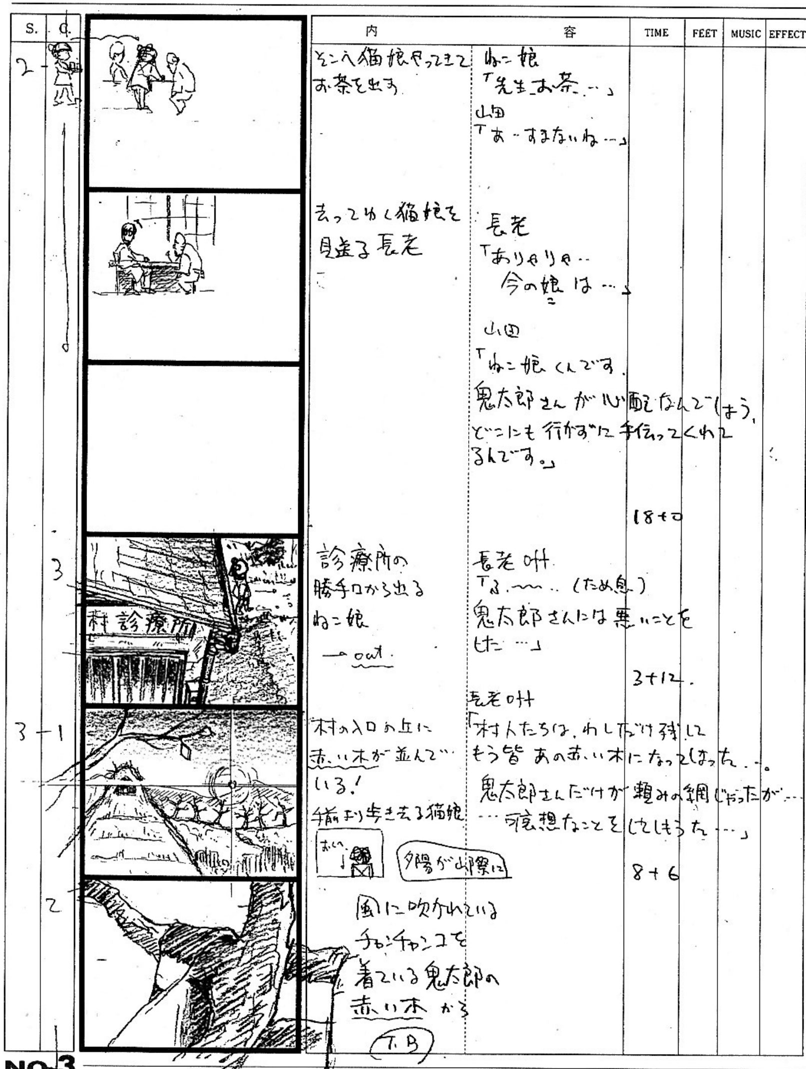
S.	C.	内容	TIME	FEET	MUSIC	EFFECT
1	1	小振りの小さな町 商店が並んでいる 一昭和16年の薄暗い夜明け（9月） 田舎の町．朝もや そこへ徐々に 現われてくる お化けの集団（半透明） スローで踊りながら 行進してくる （百鬼夜行）のイメージ	30+0			ゴォ～～ン…
	2	富士屋ランドリーの 硝子戸に向かいの 商店が映っている その前をよぎってゆく お化けたち（半透明） お化けたちは 硝子戸に映っていない	4+0			空気が震えてるかんじで
	3	小さな町のメインストリートを ねり歩くお化けたち PAN UP（うす暗い早朝） 奥に桜の木の堤がある その向こうは川だろう ちょうど広島県三次の町 今は桜の木はもうないそうだから要調査のこと 空はしらじらしてきた…	10+0			オオオオ：オオ～…

NO.2



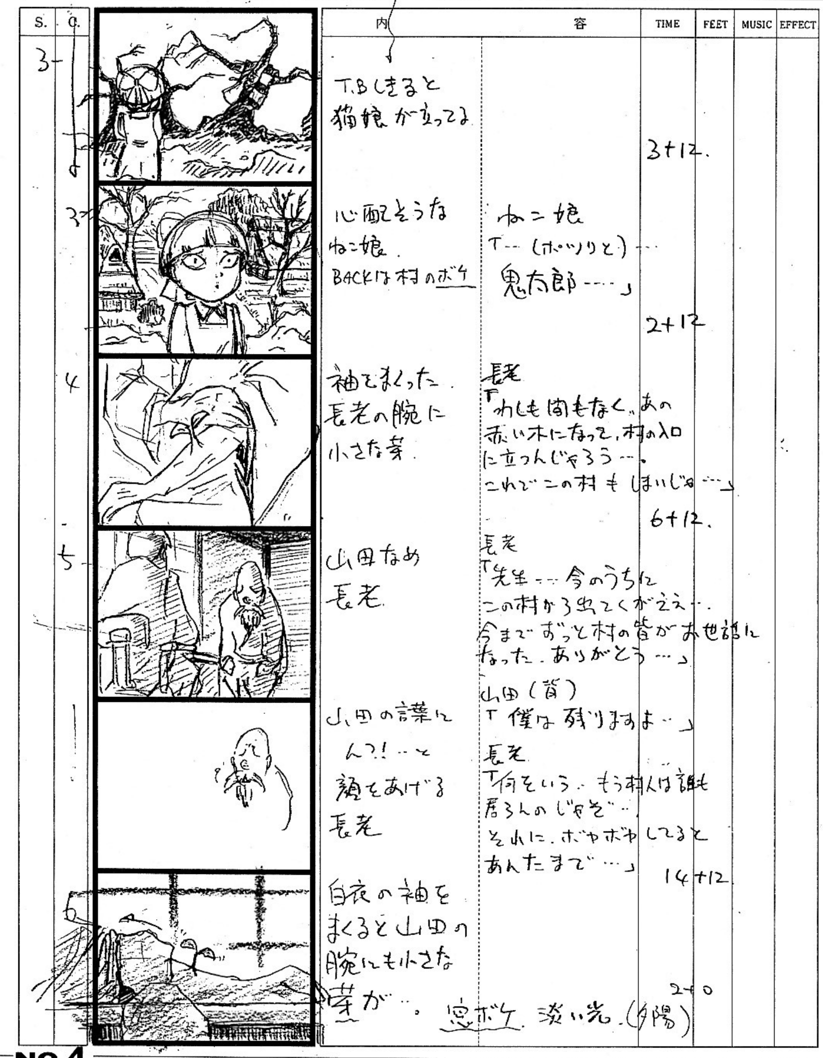
S.	C.	内容		TIME	FEET	MUSIC	EFFECT
1	4	ある家の中 着物姿の少女 目を覚まし おきあがり． ふと隣のフトンをみる		(2+12) 5+0			ミ——ン…
	5	隣に寝ていたであろう人が（父） 居ない．		3+0			
	6	障子	医師OFF 「昭和16年9月のことだったそうです…母が目を覚ましたらもう居なかったって…」 長老OFF 「真珠湾の前じゃから こっそり出ていったんじゃろう…」	8+0			
2	1	（現代）日本のどこか ファンヒーターが 静かに唸っている．	長老OFF 「で…その、あんたのじいさんは？…」 医師OFF 「昭和21年に帰ってきたそうです．でも早くに亡くなりました…」	7+12			ジ～～…
	2	診療所の中． ローアングル． ファンヒーターなめ 医師山田と長老 窓から淡い光．（夕陽の光）	長老 「わしの息子はついに帰ってこんかった．よくよくこの村は若いもんが居座らんようにできとるらしい……」				

NO.3



S.	C.	内容		TIME	FEET	MUSIC	EFFECT
2		そこへ猫娘やってきてお茶を出す	ねこ娘「先生お茶…」 山田「あ～すまないね…」				
		去ってゆく猫娘を見送る長老	長老「ありゃりゃ…今の娘は…」 山田「ねこ娘くんです。鬼太郎さんが心配なんでしょう。どこにも行かずに手伝ってくれてるんです。」	18+0			
3		診療所の勝手口から出るねこ娘 →out.	長老 off「ふ～～…（ため息）鬼太郎さんには悪いことをした…」	3+12.			
3-1		村の入口の丘に赤い木が並んでいる！ 手前より歩き去る猫娘 夕陽が山際に	長老 off「村人たちは、わしだけ残してもう皆あの赤い木になってしまった…。鬼太郎さんだけが頼みの綱じゃったが…可哀想なことをしてしもうた…」	8+6			
2		風に吹かれているチャンチャンコを着ている鬼太郎の赤い木から T.B					

NO.4



S.	C.	内容		TIME	FEET	MUSIC	EFFECT
3		T.Bしきると猫娘が立ってる		3+12.			
		心配そうなねこ娘 BACKは村のボケ	ねこ娘「…（ポツリと）…鬼太郎……」	2+12			
4		袖をまくった長老の腕に小さな芽	長老「わしも間もなく、あの赤い木になって、村の入口に立つんじゃろう…。これでこの村もしまいじゃ…」	6+12.			
5		山田なめ 長老	長老「先生…今のうちにこの村から出てくがええ…今までずっと村の皆がお世話になった。ありがとう…」				
		山田の言葉に んっ！…と顔をあげる長老	山田（背）「僕は残りますよ…」 長老「何をいう。もう村人は誰も居らんのじゃぞ…それに、ボヤボヤしてるとあんたまで…」	14+12			
6		白衣の袖をまくると山田の腕にも小さな芽が…。 窓ボケ、淡い光（夕陽）		2+0			

NO.5



S.C.	内容		TIME	FEET	MUSIC	EFFECT
3-7	ギョ…の 長老	長老「おお…芽が…！」 山田 OFF「ということです…」	3+6			
8	自分の左手見ている山田	山田「ずっと一緒です…」	(2+0)			
	長老の言葉に長老をみて	長老 OFF「あんたがこの村にふらっときて…どれ位たつかな…」	(3+0)			
	窓を見て山田	山田「もう…10年になりますか…」	8+12			
9	2-2 同ポジ 外をみている山田と長老	長老「…そうか…」 山田「やっと村の人間になれたような気がしますよ…」	6+0			
10	村の入口の赤い木なめ、ひっそりと寄りそうような集落		3+0			

NO.6



S.C.	内容		TIME	FEET	MUSIC	EFFECT
4-1	バサバサ！とおりてくる白い鳥の羽ばたき 逆光彩色	すかし	1+12			バサバサ…
2	と鬼太郎、赤い木にとまり		(2+0)			
	枝をつつき出す白サギ		(3+0)			コンコンコンコン…
	とチャンチャンコはす〜と木に吸いこまれ 枝に大きなチャンチャンコ模様の実がなる		8+0			
3	呆然とねこ娘 3-3 同ポジ 汗ジト そこへ後ろから一刻堂の声	ねこ娘「あ-あ-あ…」 一刻堂 OFF「私の術で妖気の通り道を開けたのです！」				
	その声に振り向くねこ娘		6+0			



S. C.	内	容	TIME	FEET	MUSIC	EFFECT
4-4	立っている一刻堂 ↑PAN UP	ねこ娘 叫ぶ「あ…あんた…」 一刻堂「キミの仲間が知らせに来たんです。以前、キミたちには少々迷惑もかけたことですし。それに、空気まで騒ぎはじめたんでね…。」	9+0			
5	目を開ける一刻堂	一刻堂「わたしにできることはここまでです。あとはキミ達のチカラ次第です。」	6+0			
4-6	4-6に 3+0 診療所の玄関前 立ち止まる着物姿の少女					オオオオオ〜〜…
5-1	診察室 〜 玄関の方へ歩いてゆく 山田 3-9 同ポジ	山田「ん？… 何だか表が騒がしいよ〜な…」	3+0			ミ〜〜ン…
2	ガラ・と 表の戸を開け					
	あ…と 一歩出てくる	山田「!?…」	3+0			

NO.7



S. C.	内	容	TIME	FEET	MUSIC	EFFECT
5-3	竹林BACKに 冒頭1シーンの女の子が立ってこっちみてる。	山田「あ…あ…」	3+0			ゴォ〜〜…
4	d-2 同ポジ兼用	山田「お…お…」 … 〜	2+0			
5	d-3 同ポジ 今度は復員姿のおじいちゃん。	「おじいちゃん…」	3+0			
6	呆然としている山田の傍で 何じゃ？…という風にやってくる長老 と、山田のみてる方をみて フハッ！と驚く長老	山田「……」 長老「…？…」 〜 …!!!… 〜	(3+0)			
	長老の言葉に えっ…と長老みて	「や…やすお… やすおなのか？…」 山田「えっ？…」				

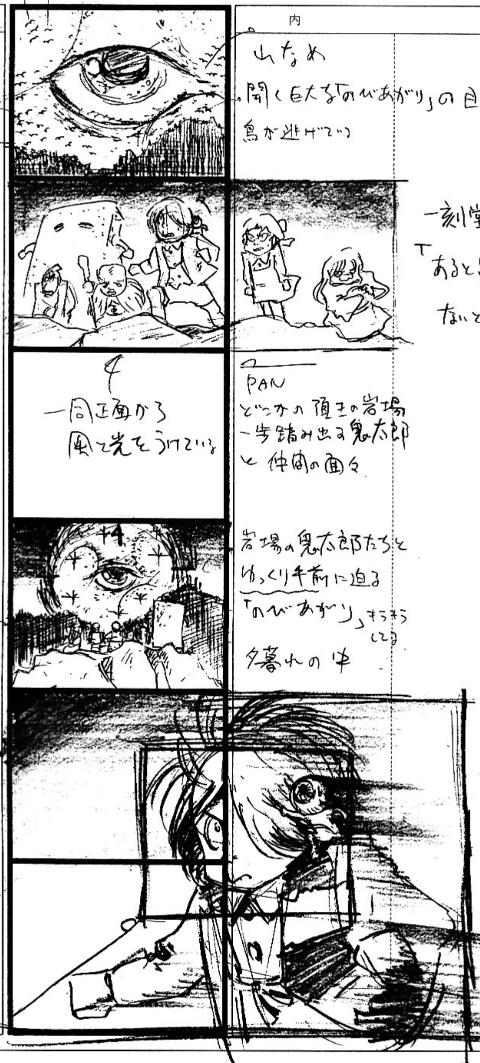
NO.8

NO.9



S. C.	内容		TIME	FEET	MUSIC	EFFECT
5-6	また前を見る 山田		6+0			
7	BACK 竹やぶボケ 立ってる 長老の息子 出征の時の姿		2+6			ゴォ〜〜ン……
8	思わず オエツの 長老 こみあげてくる	長老「うん、うん… わかったよ…、ずっと一緒じゃな…」	4+0			
9	(フカン) 診療所の前の道をお化けの大群が行進している。山田、長老は対面をじっと見ているまま、カメラには、おじいちゃんも、息子も映っていない… (12+0)	(SE) オオオオオ〜〜〜〜〜〜ン---				
6-1	(SE) カサカサ… (パシィ) バサバササ--- と 白鷺が降りながら折り紙に変化し、一刻堂の指の中へ (へんげ)	(SE) バサバサー…	2+12			

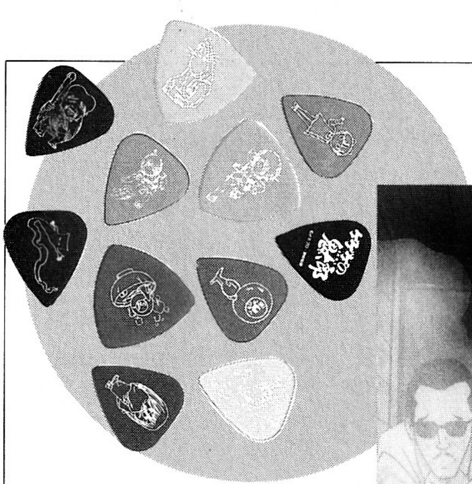
NO.10



S. C.	内容		TIME	FEET	MUSIC	EFFECT
6-2	山なめ 開く巨大な「のびあがり」の目 鳥が逃げてく		2+0			ゴ〜〜ン、ゴォーン、ゴォーン、ゴォーン、ゴォーン…
3		一刻堂 off「あると思えばある… ないと思えばない…」	5+6			
4	一同正面から 風と光をうけている / PAN どこかの頂きの岩場 一歩踏み出す鬼太郎と仲間の面々					
4	岩場の鬼太郎たちとゆっくり手前に迫る「のびあがり」(キラキラしてる) 夕暮れの中		3+0			ゴゴゴゴゴ
5		一刻堂 off「…そして… 真実は語りつがれる…」 鬼太郎にT.U.	8+0			〜〜〜〜

コラム　発見！幻の鬼太郎グッズ②

あのビンボーズも欲しがった謎の妖怪ピック




▲これが問題の「妖怪ピック」——これを使えば、さえないビンボーズ（右）もスター街道まっしぐら!?

上の写真をご覧いただきたい。見ての通りのギターのピック。が、ただのピックではない——表面に鬼太郎ファミリーの絵が箔押しされた、いわば妖怪ピックなのだ。

東映動画・清水プロデューサーの証言によると——。

「これさ、ウチのオフィスに見本としてあったものなんだけど、誰が作ったのかまるでわからないんだよね」

う〜ん、アヤしい、アヤしすぎるぞ妖怪ピック！　もしかして妖怪が作ったのか!?

そもそも「鬼太郎」には、音楽が重要な役割を果たす物語が多い。ごぞんじの通り、第33話「逆襲！妖怪さら小僧」では主題歌を唄う憂歌団の面々が〝ビンボーズ〟なる売れないバンド役で声優出演、挿入歌「ぺったらぺたらこ」のシングル発売まで行っている。

その時の感想を、熱烈な水木ファンであるギターの内田勘太郎さんはこう語ってくれた。

「キンチョーとよろこび、そして残ったビデオを時々観る楽しみ。素人ならではのうれしさです」

そして、ギターといえばもう一人。57話で「吸血鬼エリート」の声を演じた、同じく水木フリークの俳優・佐野史郎さんは、最初の打ち合わせに自作（佐野さんはミュージシャンでもあるのだ）の「エリートの歌」を3パターンの歌詞で用意してきたそうだ。

問題のピックは、その後、清水さんが憂歌団の面々と佐野さんにプレゼントしたという。近い将来、全員そろってのロックオペラ「ゲゲゲの鬼太郎」が実現されるかもしれない。



▲今シリーズの鬼太郎は音楽ソフトの面も充実。これぞビンボーズとエリート〝夢のカップリング〟CDだ！



▲「ゲゲゲの音頭」や「ゲゲゲの行進曲」のほかキャラごとの新曲も発売。「ロックだ、ねこ娘」は超キュート！

第3章

鬼太郎全史

KITARO CHRONICLE

アニメ30年フィルモグラフィー

『ゲゲゲの鬼太郎年代記』

金田益実

（鬼太郎アニメ前史）

30周年・4シリーズ

初めて水木氏と出会ったのは１９８１年、昭和56年だから既に17年も前のことである。

当時はレコードの企画や音楽構成、ライナー執筆等も行っていた。ちょうどアニメブームが盛りあがった頃だと思う。ＴＶキャラクターの音楽集、ドラマが各社でリリースされていた。

そんな時期にキングレコードで企画したのが「ゲゲゲの鬼太郎オリジナルＢＧＭ集」である。もちろん当時は鬼太郎の新作等まったくない頃だが、なぜか「あの歌と名曲の数々はアルバムにまとめておかなければ！」という衝動に駆られていた。それだけ〝鬼太郎の音〟は耳に残っていたのだ。

「ゲッ、ゲッ、ゲゲゲのゲー……」

一度聞いたら忘れられないメロディーである。キングレコードから即座にゴーが出た。そもそもキングレコードは30年前の鬼太郎アニメシリーズ第１作の仕掛け人でもあった。



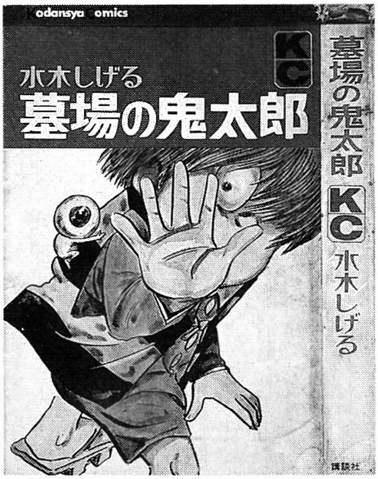
◀ＬＰ『少年マガジン・マンガ大行進』（キングレコード）に掲載されたイラスト。



▲少年マガジン初掲載「手」のラスト。

キングレコードといえば40年前の元祖TVヒーロー「月光仮面」を手がけ、「機動戦士ガンダム」を経て最近の「新世紀エヴァンゲリオン」まで、キャラクターレコードで数々のヒットを飛ばしたメーカーだが、あの「ゲゲゲの鬼太郎」主題歌のオリジナルも手がけていた。作詞／水木しげる、作曲／いずみたく、編曲／大柿隆、歌／熊倉一雄。

4シリーズに及ぶTVアニメは、編曲や歌手を変えながらも常にこの主題歌が使われている。今年でシリーズ第1作放送から30周年の鬼太郎アニメが妖怪のように不滅なのは、CMにも歌い継がれる主題歌あってのことだろう。



▲アニメ化前の講談社コミックス（昭和42年）。



▲『少年マガジン・マンガ大行進』には10タイトルの歌が収録。

レコードからアニメへ

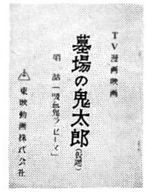
ところがこの歌は、当初は講談社とのタイアップレコード（写真上）用に作られたものだった。昭和42年の同誌連載漫画にオリジナルの歌を設けた『少年マガジン・マンガ大行進』は、石ノ森章太郎作詞、川口真作曲、ボニー・ジャックス歌の「幻魔大戦」という珍品も収録されている。鬼太郎が貸本から『週刊少年マガジン』に移行した際に、ラストに添えられた「ゲゲゲ」がそのまま歌詞となってレコード用の曲が作られた。アニメ化以前だから主題歌名は「墓場の鬼太郎」だ。いずみたく&熊倉一雄コンビによる味わい深いメロディー。それがアニメ化への大きなステップになった。

'60年代に放送されたシリーズ第1作、'70年代に放送されたシリーズ第2作、'80年代に放送されたシリーズ第3作、そして'90年代放送のシリーズ第4作にわたるこの主題歌は、いかなる流行歌をも凌ぐ国民的愛唱歌ではないだろうか。生みの親のキングレコードとしても自慢のヒットソングであり、音楽集の企画にゴーが出たことは言うまでもない。鬼太郎アニメの生命力、30周年・4シリーズの偉業の秘密は水木漫画を包み込んだあの主題歌にあるのだ。



▲鬼太郎が初めて表紙を飾った昭和42年6月18日号（第25号）。

●シリーズ第1作（全65話・1968年1/3～69年3/30放送）
（鬼太郎アニメ放送開始）



当時『週刊少年マガジン』と東映は、何とか鬼太郎のテレビ化を考えていたが、思うようにいかなかった。タイトルも「墓場の鬼太郎」だし、ムードも暗い。しかしそれを一気に解決し、テレビ局に企画を通したのが好感の持てる「主題歌」と歌詞の「ゲゲゲ」であった。



▲シリーズ第１作は、モノクロで製作された。

「墓場の鬼太郎」から「ゲゲゲの鬼太郎」へ。東映としても初のフジテレビ放送作品だ。今から30年前の昭和43年正月番組である。

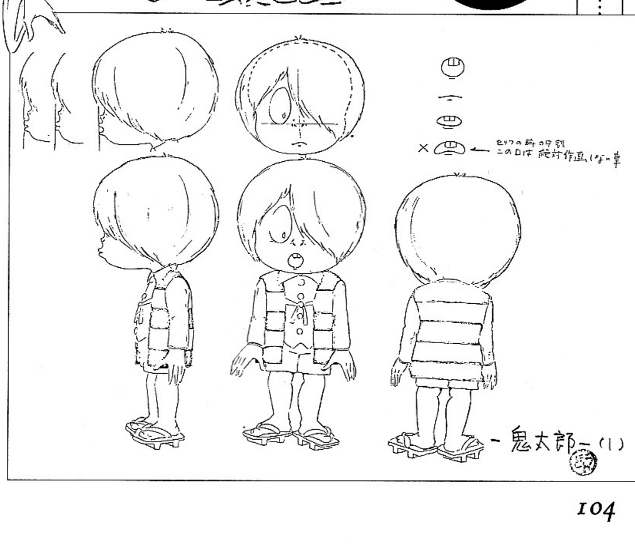
スポンサーはシスコ

「シスコーン」でお馴染みのシスコ（現・日清シスコ）が提供。毎週水曜日夜6時代のオンエアである。当時流行のアングラソングよろしく、レコードの回転を速めた主題歌が「シスコ・鬼太郎チョコレート」のCMに使われていたのも懐かしい。

ここでは資料としてシリーズ第１作の製作意図を初期台本「TV漫画映画・墓場の鬼太郎（仮題）」から再録しておこう。

＊





▶シリーズ第１作のキャラクター設定。それまでにない独特の味わいだ。



▲シスコでは色々な景品を設けた。

「毛虫とあそび、ミイラとかたる不思議な少年――墓場の鬼太郎は、現代の科学では解決出来ない、奇々怪々な事件を次々と解決して行く。
　奇怪な事件をひき起こすのは妖怪たちだ。これら正邪の妖怪たちを相手に、世の中の平和を守るために活躍する鬼太郎を主人公として、現実と幻想を交錯させたファンタジックな世界を描き、ユーモアとスリルを、リリシズムとヒューマニズムを盛り込んだ、民話的なテレビ漫画映画とする」

鬼太郎夏の陣

一月からスタートした「ゲゲゲの鬼太郎」はたちまち人気となり、同時期のキャラクターメディアにも大きな波紋を呼んだ。放送時間枠も4月の番組改編期から日曜夜6時30分に昇格(現在の「サザエさん」の時間)。業界ではいつしか〝妖怪ブーム〟と言われ始め、妖怪漫画、妖怪特集、妖怪アニメ、妖怪特撮が続々生まれていく。



▲朝日ソノラマのソノシートも大ヒット。



▶イベントを報告した『週刊少年マガジン』の記事。



◀昭和43年7月公開『東映まんがパレード』の貴重なポスター。

やがて〝夏はお化け〟の例にもれず、夏休みをピークにして妖怪が子供たちのアイドルになった。シスコの妖怪自動車列島縦断、新宿京王デパートの鬼太郎展、そして『東映まんがパレード』による初の劇場公開が実現(5～6話「大海獣」前後編の再編集版)。「太陽の王子ホルスの大冒険」「魔法使いサリー」「ウルトラセブン」と同時上映された(このラインナップは、現在でも名を残す名作揃いである)。


▲京王デパート鬼太郎展で配られた色紙。

お化けは死なず……

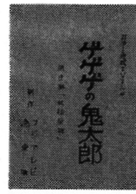
ベトナム戦争、全共闘、そしてメキシコ五輪とサイケに明け暮れたアングラ時代の昭和43年は、まさに百鬼夜行が駆け抜けた年だった。
「鬼太郎」のアニメは翌年3月までに全65本を放送完了。その間、水木氏は昭和41年の「悪魔くん」に次いで2度目の東映特撮テレビ映画「河童の三平妖怪大作戦」を実現。いずみ氏は「恋の季節」が大ヒット、『週刊少年マガジン』は100万部の大台へ。鬼太郎人気は本や商品で継続した。



▼放送終了後の『たのしい幼稚園』昭和44年8月号。



▲ソノシートは息の長い商品となった。



鬼太郎復活!

●シリーズ第2作（全45話・1971年10/7～72年9/28放送）

日本万国博を境にして高度成長時代も終わりを告げようとしていた'70年代初頭。公害問題の世相を反映した大衆の願いが再び鬼太郎を呼ぶ。シリーズ第1作終了から2年半のブランクを経て、再びゲゲゲの歌が聞こえてきたのだ。


▲シリーズ第2作のオープニングタイトル。

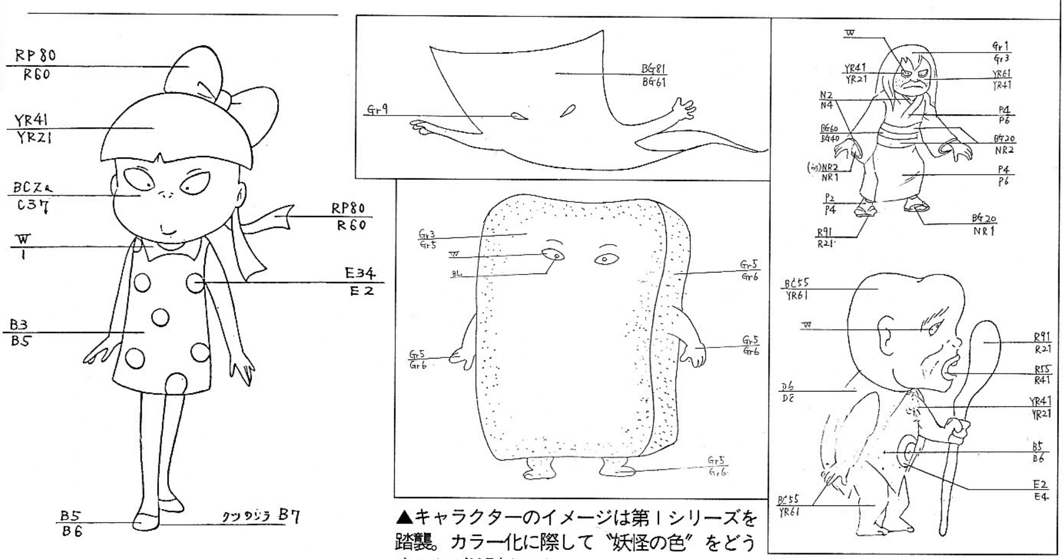
モノクロからカラーへ

カラー作品となった続編、シリーズ第2作の登場である。テレビ局もフジテレビ、映像製作も東映（東映動画）と同じだが、雑誌連載は小学館の『週刊少年サンデー』及び学習雑誌となった。

「タイガーマスク」を製作していた第1作のアニメスタッフも帰ってきた。「タイガーマスク」といえば社会派テーマを盛り込んだ名作劇画アニメ。だからシリーズ第2作の鬼太郎も重厚なテーマをはらんだ傑作エピソードが続出した。



▲加藤みどりが主題歌を歌うソノラマレコード版。


▲キャラクターのイメージは第1シリーズを踏襲。カラー化に際して"妖怪の色"をどうするかが検討された。



▲各社から鬼太郎のカバーレコードが発売。これはケイブンシャ版。

主題歌と副主題歌「カランコロンの歌」も変わらず。レギュラー声優の3人（鬼太郎＝野沢雅子、目玉親父＝田の中勇、ねずみ男＝大塚周夫）も変わらない。

レギュラーヒロイン猫娘

ブランクの短さによって生まれた理想的なリメイク版がこのシリーズ第2作である。「タイガーマスク」の後とあって作画、演出もレベルアップ。前シリーズで一度だけゲスト出演した猫娘を今回は新しくレギュラーに設定した。



▲初めての単独ＬＰ（ユニオンレコード）。

さらに特筆すべきことに優れた脚本があげられる。毎回のストーリーは『週刊少年マガジン』時代にアニメ化されなかった旧作と『週刊少年サンデー』の新作をベースにしてもすぐに底をつくことがわかっていた。そこで考えたのが鬼太郎とは別に描かれていた水木氏の短編漫画である。プロデューサーとシナリオライターは様々な水木短編からチョイスして脚色。それによって鬼太郎原作よりも深みのあるテーマ性の高い名作の数々が生まれたのだ。



▲朝日ソノラマの『ゲゲゲの鬼太郎妖怪図鑑』（解説／木谷梨男、脚色／辻真先）。

その後の鬼太郎

シリーズ第2作は放送回数45本＋リピート7本を消化した1年後の昭和47年9月に終了。以後、シリーズ第1作も含めた100本以上の鬼太郎アニメが長期にわたって再放送されていく。



▲昭和56年にビデオが発売。



▲映画「ゲゲゲの鬼太郎・地相眼」が掲載されたパンフレット。



▲企画・構成したLP。いずみ氏の寄稿文も掲載された。

しかし、その間にも鬼太郎復活の動きは水面下で進められていた。『少年ポピー』（少年画報社）における「雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎」等の新連載や、'80年代の鬼太郎復活を予感させる昭和55年夏休みの『東映まんがまつり』におけるシリーズ第2作の上映（水木短編を鬼太郎エピソードにした第37話「地相眼」を短縮版にて上映）もあった。

時代は変われど水木漫画は変わらない。そして鬼太郎も変わらず、また歌もそのまま次の世代へと歌い継がれていく……。



●シリーズ第3作（全108話・1985年10/12～88年2/6放送）
13年ぶりの新作 ゲゲゲの鬼太郎大ブーム

鬼太郎3度目のTVアニメ化。それは'80年代中期の昭和60年に実現した。シリーズ第2作放送以来13年ぶりのことだ。

鬼太郎を知る様々な人たちによって歌い継がれたあの主題歌が、新作の誕生にも力を貸したのである。



▶鬼太郎の声は野沢雅子から戸田恵子へ。



アニメ放送前にはフジテレビ「月曜ドラマランド」枠で実写特撮TV映画もあった。製作はもちろん東映だ。歌もアニメと同じ、目玉親父も同じ声優でファンを喜ばせた。



◀講談社ポケット百科『ゲゲゲの鬼太郎妖怪大事典』。

アニメの第3作はすべてを一新するという前提で企画されたが、主題歌はリニューアル版（歌／吉幾三）として残され、目玉親父の声だけは変わらなかった。13年のブランクによる視聴者層の世代交代を考慮した完全な新作がスタートしたのである。

▼沢山の挿入歌を収録したLP（徳間ジャパン）。



掲載は講談社各誌

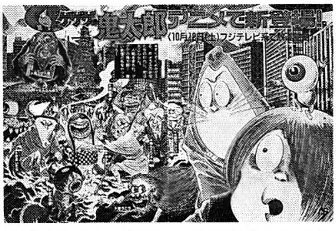
原作の独占掲載権が再び講談社となった。既に『テレビマガジン』『コミックボンボン』の企画・構成を受け、鬼太郎復活へのプロジェクトにも参加していた当時は、これらの出版物に多く関わった。

特に『コミックボンボン』版の漫画「最新版ゲゲゲの鬼太郎」では全話のシナリオを書いている（但しクレジットは水木プロだけで名前を出していない）。



▲18年ぶりに鬼太郎が表紙を飾った『週刊少年マガジン』。

放送はフジテレビ・秋の新番組、土曜夜6時30分からと決定。製作はもちろん東映（東映動画）である。代理店は読売広告社でバンダイ、森永製菓、講談社他各社が提供。シリーズ第1作、第2作とは比較にならない規模のマーチャンダイジングが行われた。



▲『テレビマガジン』の口絵は2年以上にわたって構成した。



▲『コミックボンボン』でも水木氏は筆を入れていた。

シリーズ第3作の鬼太郎は、地球環境問題が騒がれ始めた'80年代にマッチした世界観となり、自然との共存や仲間同士の協調が大きく描かれた。また、人間と妖怪の関わり合いを強くするために、水木原作にはないアニメオリジナルのキャラ＝天童ユメコとその一家を設定し、後半からはペットキャラのチビ妖怪シーサーも登場。シリーズ第2作とは一変してファンシー的なアニメとなった。

それまでの水木ファンは少なからず違和感を覚えたようだが、中心視聴者層が幼児を中心としたファミリーであり、当然の選択と言えるだろう。



▲登場キャラクターの解説が入った番宣ポスター。

その結果、最高視聴率29・8パーセントの大ヒット。キャラクターグッズも、女児を含めた幅広いファンを獲得。好成績を収めた。

ストーリーは過去の原作のリメイクが中心だったが、途中からは新連載の『週刊少年マガジン』『コミックボンボン』、そして水木短編作品などもシナリオ化され、全108話、劇場用新作4本が製作された。

▼講談社のアニメムック。


▼ビデオオリジナルの実写版第2弾。


▼シリーズ第3作の商品は最も売れた。


ゲゲゲの鬼太郎「地獄編」

●スペシャルシリーズ(全7話・1988年2/8〜3/26放送)



瞼の母と地獄童子

アニメシリーズ第3作には、実は本編108本の後に7本の特別編があった。一部地方ではオンエアされなかったのでご覧になっていないファンも多いようだ。メインタイトルに「地獄編」と添えられたこのスペシャルシリーズは『月刊少年マガジン』に連載された「鬼太郎地獄編・母を求めて地獄旅」のテレビ化であり、水木氏も以前から構想を練っていた題材で従来の一話完結による鬼太郎ストーリーとは異なる。

アニメではこの原作に、妖怪総大将ぬらりひょんの野望と『コミックボンボン』のエピソード等を配して自由な脚色が加えられた。既にこの時期は2年以上関わってきたアニメ製作側も、生みの親の原作者側も〝永遠に終わらない鬼太郎〟に一つの区切りをつけたかったに違いない。

この頃になると鬼太郎は水木氏の手を離れて様々なメディアで独り歩きを始めていた。あの墓場の鬼太郎がファンシー商品化されるまでになっていたのだ。変化していく鬼太郎世界に送り手側からも一石を投じたかったのだろう(何とアニメの母は美形!)。そんな特別版的な作品が「地獄編」、つまりゲゲゲの鬼太郎外伝である。

また、このアニメ「地獄編」には、水木プロに在籍していた森野達弥氏とで考えたオリジナルキャラクター、地獄童子も登場している。

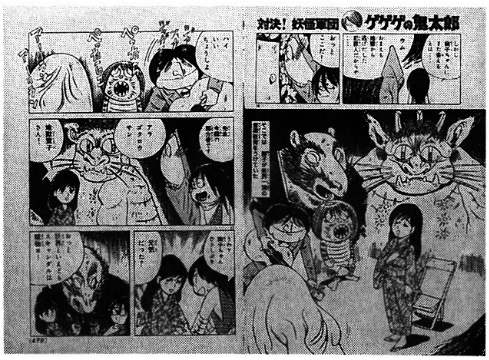
これは水木氏もまったくノータッチのキャラクターで、アクションの重視を要求された『コミックボンボン』の「最新版ゲゲゲの鬼太郎」に登場させたライバルだ。

こちらも同様に鬼太郎世界の新しい〝スパイス〟として出したわけだが、アニメ版地獄編でもけっこう重要な役で出演した(何しろ鬼太郎と同じ血を引く幽霊族なのだから……)。

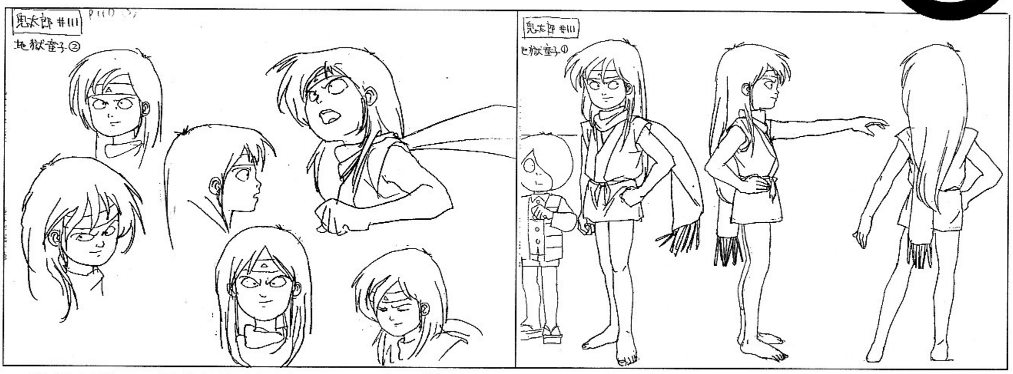
当時、原案を担当したアニメ「トランスフォーマー超神マスターフォース」も鬼太郎のスタッフで製作されていた。



▶現在は講談社コミックスで単行本化。



▶地獄童子以外にも『コミックボンボン』版のキャラクターがアニメ「地獄編」に登場。



▲「聖闘士星矢」の堀川亮氏が声をあてた地獄童子(第3話からレギュラー)。当初は鬼太郎と同じ位の等身を設定していた。

ともあれ、鬼太郎と母も一度だけの再会、地獄童子も地獄編だけのアニメ出演。以後鬼太郎の母は原作に出ないし、地獄童子は、水木氏公認のも



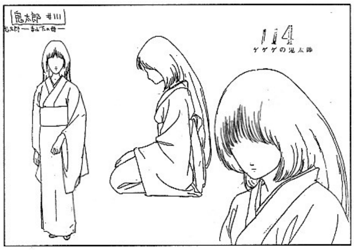
▲「地獄編」を特集した『テレビマガジン』昭和63年４月号。



▲地獄童子と鬼太郎の比較特集。パワーは互角だ。

とに二人の著作物として独立した。美形の母も、美少年ライバルも実際の水木漫画にはタブーである。確立した世界に大きな変化が生じるのは、アニメスペシャルだけで良いだろう。

シリーズ第3作が最後に残した〝独り歩き〟の世界を水木氏はどう思われていたのだろうか。



▲原作とはまるで違う母のイメージ。

アニメ版誕生編？

アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」地獄編では少しだけ鬼太郎誕生のエピソードも挿入された。シリーズ第3作が最後にだした結論は、鬼太郎が人間（母）と妖怪（父）のハーフだということである。だから鬼太郎は人間と妖怪の共存を願っていた、というのがアニメ版のオリジナル誕生秘話であった。

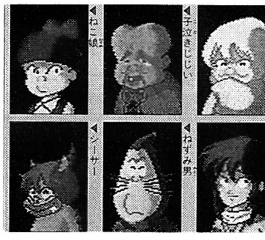


▲テレビとは別にテレビマガジンカラースペシャル『ゲゲゲの鬼太郎 超ひみつ大図鑑』で描かれた誕生編（絵／山口泰弘、松本朋之、東映動画）。

鬼太郎ムーブメント

広がる鬼太郎世界

シリーズ第3作以降、キャラクターメディアは驚くほどに発展し、鬼太郎も去っていく場所がなくなっていた。鬼太郎は、日本を代表するパーマネントキャラの代表に落ち着いたのだ。漫画の地位が確立された時代ならではの王座であろう。TVゲームやファンシーグッズにも幅を利かせた鬼太郎は、もう水木漫画の枠では計れない巨大な存在だ。30年前のシリーズ第1作。それ以前のレコード化の時点で既に原作を飛び出していたのだ。



▲TVゲームの鬼太郎、子泣き、砂かけ、ねずみ男、ねこ娘、地獄童子。



▲鬼太郎と地獄童子のゲーム漫画。

実は'90年代に突入してすぐにも鬼太郎4度目のアニメ復活が持ち上がった。

水木氏が新たな構想で練った『コミックボンボン』連載の「鬼太郎国盗り物語」のTV企画で、『テレビマガジン』でも特集記事や絵物語の連載が行われたが残念ながら実現には至らなかった。

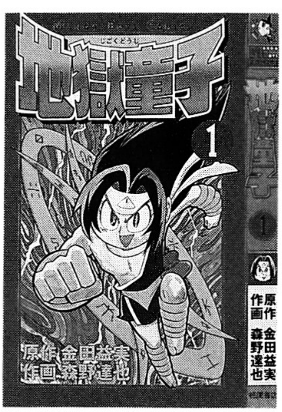


▲平成2年から連載された「鬼太郎国盗り物語」。



▲鬼太郎ファンによる自主製作アニメ「女禍」。

水木氏は、テレビは一種のお祭りという。「たまにお祭りがあると盛り上がるのですわ」と笑っておられた。そう何度もリメイクされることはまずない。もちろん4度もあるはずはなかった……。



▲鬼太郎世界から独立した「地獄童子」。



▶美少年の鬼太郎が大半を占める同人誌。シリーズ第3作からのファンたちが中心だ。

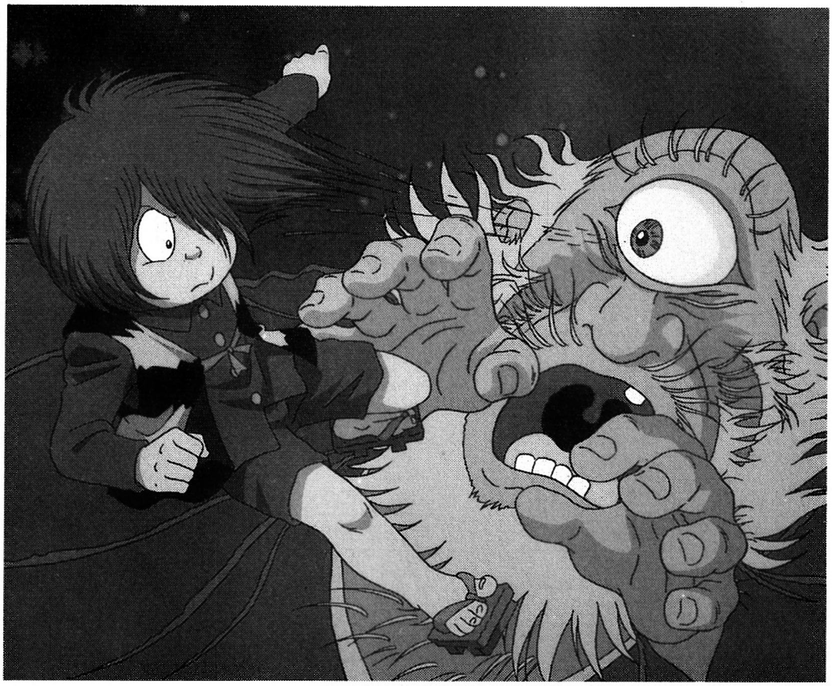
▼同人誌で描かれた本。鬼太郎と地獄童子。





平成・鬼太郎

●シリーズ第4作（1996年1／7〜97年12／28［101話］〜）



▶鬼太郎の声は松岡洋子。3代目鬼太郎声優の誕生だ。

シリーズ第4作の放送が突然決定した。今回は時代が呼んだというよりは、もはや〝恒例の行事〟、お祭りとしての復活だろう。しかし「国盗り物語」のアニメ化ではない。また新連載の原作も描かれていない。それにもかかわらずTVアニメの新作がスタートした。同一原作のアニメ化は、例えば「見上げ入道」一つをとっても第1、第3、そしてこのシリーズ第4作で30年間に3バージョンも放送されたことになる。



▲テレビとは異なる『コミックボンボン』のオリジナル特集。



▲東映太秦映画村で公開された「妖怪城」。

'90年代の鬼太郎アニメシリーズは、映画「学校の怪談」に代表される子供たちのホラー人気を重要視。〝本家〟が出ればヒット間違いなしというわけだ（鬼太郎は〝ホラー〟ではないと思うが……）。

今回は原作個々の妖怪を生かしながら異なったストーリーでシナリオ化。一方キャラ的には、原作に近いレトロムードを漂わせている。しかし、製作システムにおいては、革命的なデジタル化が推進され、'90年代後半の新作アニメであることを実感させた。

シリーズ第4作は早くも100本を越えているが、そんなに放送したという気がしないのはなぜか。主題歌（今回は憂歌団）が同じで、目玉親父の声も同じ。恒例の行事だから何の疑いもなく安心して見ていられるからに違いない。先人の習わしを大切に守り続ける鬼太郎アニメこそ、まさにお祭りである。ゲゲゲのメロディーが歌い継がれる限り、鬼太郎の存在は確実に保証されるだろう。

しかし、あのニヒルな「墓場の鬼太郎」はもういない。でも歌詞の中には、30年以上も〝墓場〟が生き続けていたのだ……。

●シリーズ第1作

■放送時間■〈モノクロ作品〉毎週水曜日午後6時15分～6時45分（第1話～第13話）、毎週日曜日午後6時30分～7時（第14話～65話）

放送No.	題名	脚本	演出	放送日
1	おばけナイター	辻 真先	山口 康男	'68年1／3
2	夜叉	高久 進	黒田 昌郎	10
3	妖怪城	若井 基成	白根 徳重	17
4	吸血鬼ラ・セーヌ	雪室 俊一	高見 義雄	24
5	大海獣（前）	辻 真先	設楽 博	31
6	〃（後）	辻 真先	設楽 博	2／7
7	ゆうれい電車	鈴樹三千夫	村山 鎮雄	14
8	鏡爺	安藤 豊弘	明比 正行	21
9	見上げ入道	雪室 俊一	白根 徳重	28
10	妖怪大戦争（前）	雪室 俊一	茂野 一清	3／6
11	〃（後）	雪室 俊一	茂野 一清	13
12	妖怪ぬらりひょん	安藤 豊弘	西沢 信孝	20
13	地獄流し	鈴樹三千夫	久岡 敬史	27
14	水虎	高久 進	村山 鎮雄	4／7
15	吸血鬼エリート（前）	鈴樹三千夫	黒田 昌郎	14
16	〃（後）	鈴樹三千夫	黒田 昌郎	21
17	猫仙人	安藤 豊弘	山口 康男	28
18	魔女人形	安藤 豊弘	村山 鎮雄	5／5
19	吸血木	辻 真先	白根 徳重	12
20	猫娘とねずみ男	雪室 俊一	高見 義雄	19
21	妖怪獣（前）	高久 進	明比 正行	26
22	〃（後）	高久 進	明比 正行	6／2
23	峠の妖怪	辻 真先	白根 徳重	9
24	白山坊	雪室 俊一	久岡 敬史	16
25	電気妖怪	安藤 豊弘	高見 義雄	23
26	海座頭	鈴樹三千夫	村山 鎮雄	30
27	おどろおどろ	鈴樹三千夫	白根 徳重	7／7
28	まくら返し	辻 真先	村山 鎮雄	14
29	鏡合戦	雪室 俊一	西沢 信孝	21
30	悪魔ベリアル	鈴樹三千夫	村山 鎮雄	28
31	もうりょう	安藤 豊弘	永樹 凡人	8／4
32	妖花	辻 真先	白根 徳重	11
33	さざえ鬼	雪室 俊一	古沢日出夫	18
34	さら小僧	辻 真先	久岡 敬史	25
35	こま妖怪	鈴樹三千夫	白根 徳重	9／1
36	ダイヤモンド妖怪	安藤 豊弘	明比 正行	8
37	手の目	安藤 豊弘	村山 鎮雄	15
38	おりたたみ入道	雪室 俊一	古沢日出夫	22
39	妖怪軍団	鈴樹三千夫	設楽 博	29
40	おべべ沼の妖怪	鈴樹三千夫	白根 徳重	10／6
41	ばけ猫	鈴樹三千夫	茂野 一清	'68年10／13
42	人食い島	雪室 俊一	明比 正行	20
43	ひでりがみ	安藤 豊弘	山口 康男	27
44	げた合戦	雪室 俊一	白根 徳重	11／3
45	のっぺらぼう	雪室 俊一	古沢日出夫	10
46	うぶめ	安藤 豊弘	久岡 敬史	17
47	天邪鬼	雪室 俊一	勝間田具治	24
48	雪ん子	辻 真先	明比 正行	12／1
49	天狐	安藤 豊弘	宮崎 一哉	8
50	妖怪関ケ原	辻 真先	新田 義方	15
51	穴ぐら入道	鈴樹三千夫	山口 康男	22
52	吸血妖怪軍団	安藤 豊弘	高見 義雄	29
53	妖怪大統領	小沢 洋	山口 康男	'69年1／5
54	妖怪ラリー	雪室 俊一	勝間田具治	12
55	妖怪毛羽毛現	辻 真先	西沢 信孝	19
56	磯女	小沢 洋	古沢日出夫	26
57	隠形魔法	雪室 俊一	設楽 博	2／2
58	おぼろぐるま	辻 真先	勝間田具治	9
59	だるま	雪室 俊一	宮崎 一哉	16
60	笠地蔵	雪室 俊一	明比 正行	23
61	後神	小沢 洋	古沢日出夫	3／2
62	海じじい	雪室 俊一	高畑 勲	9
63	なまはげ	辻 真先	西沢 信孝	16
64	陰摩羅鬼	雪室 俊一	宮崎 一哉	23
65	妖怪ほうこう	鈴樹三千夫	勝間田具治	30

劇場版

1	ゲゲゲの鬼太郎	辻 真先	設楽 博	'68年7／21

●シリーズ第2作

■放送時間■〈カラー作品〉毎週木曜日午後7時～7時30分

放送No.	題名	脚本	演出	放送日
1	妖怪復活	雪室 俊一	白根 徳重	'71年10／7
2	妖怪反物	安藤 豊弘	西沢 信孝	14
3	妖怪大裁判	三芳 加也	山口 康男	21
4	雨ふり天狗	辻 真先	田宮 武	28
5	あしまがり	柴田 夏余	高畑 勲	11／4
6	死人つき	安藤 豊弘	茂野 一清	11
7	猫又	雪室 俊一	新田 義方	18
8	マンモスフラワー	辻 真先	蕪木登喜司	25
9	髪さま	柴田 夏余	山口 康男	12／2
10	アンコールワットの亡霊	雪室 俊一	西沢 信孝	9
11	土ころび	安藤 豊弘	白根 徳重	16
12	やまたのおろち	辻 真先	茂野 一清	23

7	子連れ妖怪・磯女	武上　純希	芝田　浩樹	'85年11／23
8	だるま妖怪相談所	星山　博之	西沢　信孝	30
9	不死身の妖怪水虎	並木　敏	石田　昌久	12／7
10	悪魔のメロディー夜叉	武上　純希	葛西　治 棚沢　隆	14
11	妖怪キツネ・白山坊	大橋　志吉	芝田　浩樹	21
12	ざしきわらしと笠地蔵	星山　博之	今沢　哲男	28
13	おりたたみ入道	武上　純希	芹川　有吾	'86年1／4
14	不老不死?!妖怪さざえ鬼	武上　純希	西沢　信孝	11
15	冷凍妖怪・雪ん子	大橋　志吉	小山　崑 福留　政彦	18
16	妖怪のっぺらぼう	星山　博之	芝田　浩樹	25
17	古代妖怪・毛羽毛現	大橋　志吉	石田　政久	2／1
18	妖怪天狐・地底王国の逆襲	星山　博之	棚沢　隆	8
19	ゆめ妖怪・まくらがえし	武上　純希	今沢　哲男	15
20	半魚人の恋	武上　純希	芹川　有吾	22
21	コマ妖怪・あまめはぎ	並木　敏	白土　武 山寺　昭夫	3／1
22	いじわる妖怪・天邪鬼	大橋　志吉	芝田　浩樹	8
23	電気妖怪かみなり	武上　純希	石田　昌久	15
24	子供が消える?!妖怪うぶめ	山崎　晴哉	西沢　信孝	22
25	妖怪ぶるぶる	武上　純希	棚沢　隆	29
26	おばけナイター	星山　博之	今沢　哲男	4／5
27	妖怪ふくろさげ	大橋　志吉	芝田　浩樹	12
28	田を返せ!!妖怪泥田坊	山崎　晴哉	白土　武 山寺　昭夫	19
29	妖怪ひでり神	武上　純希	芹川　有吾	5／3
30	妖怪見上げ入道	星山　博之	石田　昌久	10
31	オベベ沼の妖怪	大橋　志吉	芝田　浩樹	17
32	鬼太郎危うし!妖怪大裁判	武上　純希	明比　正行	24
33	妖怪あかなめ 哀しみの逆襲	星山　博之	永丘　昭典 今沢　哲男	31
34	ばけ猫国道0号線	星山　博之	芝田　浩樹	6／14
35	妖怪赤舌の千年王国	大橋　志吉	葛西　治	28
36	異次元妖怪かまなり	武上　純希	山寺　昭夫	7／5
37	妖怪おどろおどろ	星山　博之	石田　昌久	12
38	タタリだ～?!妖怪土ころび	大橋　志吉	生頼　昭憲	19
39	三途の河のだつえばばあ	武上　純希	明比　正行	8／2
40	富士山大噴火?!妖怪大首	大橋　志吉	今沢　哲男	9
41	激戦!妖怪関ケ原	武上　純希	葛西　治	23
42	妖怪牛鬼	星山　博之	石田　昌久	30
43	さら小僧・妖怪歌謡大賞	武上　純希	白土　武	9／6
44	あの世からの使者・死神	大橋　志吉	生頼　昭憲	13
45	妖怪花を救え!!	星山　博之	明比　正行	20
46	妖怪大統領・こうもり猫	大橋　志吉	葛西　治	27
47	妖怪のびあがりと吸血木	武上　純希	今沢　哲男	10／4
48	妖怪いやみ	星山　博之	石田　昌久	11
49	妖怪殺人事件 おんもらき	武上　純希	明比　正行	18

13	かまぼこ	柴田　夏余	設楽　博	'71年12／30
14	怪自動車	三芳　加也	山本　寛己	'72年1／6
15	牛鬼	安藤　豊弘	西沢　信孝	13
16	南からの招き	辻　真先	山口　康男	20
17	縁切り虫	雪室　俊一	設楽　博	27
18	幸福という名の怪物	安藤　豊弘	茂野　一清	2／3
19	釜鳴り	辻　真先	山本　寛己	10
20	ふくろさげ	柴田　夏余	西沢　信孝	17
21	心配屋	柴田　夏余	白根　徳重	24
22	地獄の水	雪室　俊一	山口　康男	3／2
23	逆餅殺し	安藤　豊弘	白根　徳重	9
24	傘ばけ	辻　真先	笠井　由勝	23
25	まぼろしの汽車	柴田　夏余	茂野　一清	30
26	大首	雪室　俊一	西沢　信孝	4／6
27	いやみ	安藤　豊弘	山本　寛己	13
28	あかなめ	辻　真先	設楽　博	20
29	ダイダラボッチ	柴田　夏余	山口　康男	27
30	死神	雪室　俊一	蕪木登喜司	5／4
31	赤舌	安藤　豊弘	高見　義雄	11
32	目目連	辻　真先	白根　徳重	25
33	悪魔ブエル	柴田　夏余	新田　義方	6／1
34	死神とサトリ	雪室　俊一	西沢　信孝	15
35	イースター島奇談	安藤　豊弘	茂野　一清	22
36	妖怪屋敷	辻　真先	設楽　博	29
37	地相眼	柴田　夏余	笠井　由勝	7／13
38	隠れ里の死神	雪室　俊一	山口　康男	20
39	妖怪水車	安藤　豊弘	高見　義雄	27
40	原始さん	辻　真先	白根　徳重	8／10
41	霊形手術	柴田　夏余	新田　義方	17
42	死神と貧乏神	雪室　俊一	西沢　信孝	24
43	足跡の怪	安藤　豊弘	茂野　一清	9／7
44	雨神ユムチャック	辻　真先	及部　保雄	21
45	死神のノルマ	雪室　俊一	中村　一	28

劇場版

1	ゲゲゲの鬼太郎・地相眼	柴田　夏余	笠井　由勝	'80年7／12

●シリーズ第3作

■放送時間■〈カラー作品〉毎週土曜日午後6時30分～7時

放送No.	題名	脚本	演出	放送日
1	謎の妖怪城出現!!	星山　博之	葛西　治	'85年10／12
2	鏡じじい	武上　純希	芝田　浩樹	19
3	ネコ仙人	武上　純希	棚沢　隆	26
4	妖怪ぬらりひょん	大橋　志吉	今沢　哲男	11／2
5	ダイヤ妖怪・輪入道	並木　敏	葛西　治	9
6	地獄行!幽霊電車!!	星山　博之	石田　昌久	16

50	妖怪海座頭の怒り	大橋　志吉	生頼　昭憲	'86年10／25
51	世界妖怪ラリー	星山　博之	白土　武	11／1
52	燃えるネズミ男・げた合戦	武上　純希	葛西　治	8
53	皿屋敷の妖怪モウリョウ	大橋　志吉	芝田　浩樹	15
54	悪魔ベリアル	武上　純希	石田　昌久	22
55	㊙指令!!ねずみ男は死刑だ	星山　博之	今沢　哲男	29
56	タヌキ軍団・日本征服!!〈前編〉	星山　博之	芹川　有吾	12／6
57	タヌキ軍団・日本征服!!〈後編〉	星山　博之	芹川　有吾	13
58	妖怪城の目目連	大橋　志吉	生頼　昭憲	20
59	宵待ち草の後神	大橋　志吉	白土　武	27
60	巨人妖怪ダイダラボッチ	星山　博之	石田　昌久	'87年1／3
61	まぼろしの汽車	大橋　志吉	葛西　治	10
62	妖怪火車・逆モチ殺し!!	武上　純希	明比　正行	17
63	悪魔ブェルとヤカンズル	星山　博之	今沢　哲男	24
64	妖怪穴ぐら入道	大橋　志吉	芹川　有吾	31
65	妖怪百目・地獄流し	武上　純希	生頼　昭憲	2／7
66	韓国妖怪・ぬっぺらぼう	大橋　志吉	山寺　昭夫	14
67	密林の大海獣	星山　博之	葛西　治	21
68	大海獣・怒りの逆襲	星山　博之	葛西　治	28
69	妖怪風の又三郎	武上　純希	明比　正行	3／7
70	鏡地獄！妖怪うんがい鏡	武上　純希	芹川　有吾	14
71	妖怪の森のがしゃどくろ	大橋　志吉	岡崎　稔	21
72	ケ・け・毛！妖怪大髪様	星山　博之	石田　昌久	28
73	シーサー登場!!沖縄大決戦	武上　純希	生頼　昭憲	4／4
74	妖怪万年竹	星山　博之	白土　武	11
75	妖怪小豆連合軍	大橋　志吉	芝田　浩樹	18
76	人喰い島と海和尚	武上　純希	芹川　有吾	25
77	妖怪手の目と地獄の餓鬼	星山　博之	明比　正行	5／2
78	マンモスフラワーと山男	武上　純希	葛西　治	16
79	妖怪やまたのおろち	大橋　志吉	石田　昌久	23
80	妖怪吹消婆プロレス地獄	武上　純希	生頼　昭憲	30
81	コンビ妖怪・手長足長	星山　博之	岡崎　稔	6／6
82	妖怪串刺し入道	大橋　志吉	芹川　有吾	13
83	雨神ユムチャック伝説	武上　純希	芝田　浩樹	20
84	地獄一周!!妖怪マラソン	星山　博之	白土　武	27
85	河童一族とたくろう火	大橋　志吉	石田　昌久	7／4
86	妖怪香炉・悪夢の軍団	武上　純希	葛西　治	11
87	寄生妖怪・ペナンガラン	星山　博之	生頼　昭憲	25
88	不思議な妖犬タロー	大橋　志吉	芹川　有吾	8／1
89	木の子と妖怪山天狗	武上　純希	岡崎　稔	15
90	妖怪ニクスの青い涙	星山　博之 金巻　兼一	芝田　浩樹	22
91	妖怪ハンター・ヒー族！	武上　純希	葛西　治	29
92	人喰い家と妖怪家鳴	大橋　志吉	芹川　有吾	9／26
93	進化妖怪かぶそ	武上　純希	芝田　浩樹	10／3
94	高熱妖怪・ぬけ首	星山　博之	白土　武	10
95	笑い妖怪ヘンラヘラヘラ	大橋　志吉	今沢　哲男	'87年10／17
96	血戦!!妖怪吸血軍団	武上　純希	芹川　有吾	24
97	夫婦妖怪?!皿数え	星山　博之	石田　昌久	31
98	津波妖怪・猛霊はっさん	大橋　志吉	山寺　昭夫	11／7
99	はきもの妖怪化けぞうり	山崎　晴哉	芹川　有吾	14
100	鬼巫女の鬼太郎抹殺作戦	武上　純希	今沢　哲男	21
101	妖怪捕物帖・猫騒動	星山　博之	明比　正行	12／12
102	おてんば魔女ジニヤー	大橋　志吉	葛西　治	19
103	純愛ヌリカベとおしろい娘	武上　純希	葛西　治	26
104	謎の妖怪狩りツァー	星山　博之	芹川　有吾	'88年1／9
105	妖怪めんこ天狗	星山　博之	白土　武	16
106	とうふ小僧と山神	大橋　志吉	芝田　浩樹	23
107	煙妖怪えんらえんら	武上　純希	岡崎　稔	30
108	鬼太郎ファミリーは永遠に	星山　博之	葛西　治	2／6

地獄編

1	母を求めて地獄旅	武上　純希	芝田　浩樹	'88年2／8
2	血戦三途の川	武上　純希	葛西　治	15
3	鬼太郎VS地獄童子	武上　純希	岡崎　稔	22
4	二大妖怪の罠	大橋　志吉	白土　武	29
5	地獄武者の処刑作戦!!	武上　純希	芹川　有吾	3／7
6	血の池妖怪ヌルリ坊	武上　純希	芝田　浩樹	14
7	鬼太郎最後の出会い!!	武上　純希	葛西　治	21

劇場版

1	ゲゲゲの鬼太郎	星山　博之	白土　武	'85年12／21
2	〃　妖怪大戦争	星山　博之	葛西　治	'86年3／15
3	〃 最強妖怪軍団！日本上陸!!	星山　博之	芹川　有吾	7／12
4	〃 激突!!異次元妖怪の大反乱	武上　純希	芝田　浩樹	12／20

●シリーズ第4作

■放送時間■〈カラー作品〉毎週日曜日午前9時～9時30分

放送No.	題名	脚本	演出	放送日
1	妖怪！見上げ入道	武上　純希	西尾　大介	'96年1／7
2	妖怪目目連の涙！	橋本　裕志	明比　正行	14
3	ギターの戦慄！夜叉	雪室　俊一	貝澤　幸男	21
4	恐怖！鏡の国の鏡爺	武上　純希	川田　武範	28
5	ダイヤ妖怪・輪入道	橋本　裕志	吉沢　孝男	2／4
6	暴走！鬼太郎牛鬼	武上　純希	明比　正行	11
7	妖怪のっぺらぼう！	橋本　裕志	宇田鋼之介	18
8	妖怪かに坊主と河童	武上　純希	川田　武範	25
9	爆走！鬼太郎機関車	雪室　俊一	吉沢　孝男	3／3
10	怪奇！妖怪万年竹	島田　満	西尾　大介	10
11	毛羽毛現とがしゃどくろ	武上　純希	宇田鋼之介	17
12	陰謀！猫仙人の猫王国	橋本　裕志	明比　正行	24
13	妖怪屋敷へいらっしゃい	島田　満	川田　武範	31
14	蜃気楼海竜・みずち	武上　純希	吉沢　孝男	4／7

61	妖怪いやみにご用心	田村　竜	吉沢　孝男	'97年3／16
62	怪奇！ばけ猫街道	雪室　俊一	明比　正行	23
63	メンソーレ！妖怪ホテル	武上　純希	勝間田具治	30
64	激争！妖怪ラリー	橋本　裕志	宇田鋼之介	4／6
65	驚異！マンモスフラワー	矢島　大輔	吉沢　孝男	13
66	風雲！妖怪城（前編）	橋本　裕志	川田　武範	20
67	風雲！妖怪城（後編）	橋本　裕志	明比　正行	27
68	荒海の伝説・磯女！	大橋　志吉	境　宗之	5／4
69	悪魔ブエルとやかんづる	田村　竜	宇田鋼之介	11
70	怪気象！妖怪ぐわごぜ	矢島　大輔	吉沢　孝男	18
71	オベベ沼の妖怪！	武上　純希	川田　武範	25
72	出現！天狐の地底王国	矢島　大輔	明比　正行	6／1
73	爆進！怒りの土ころび	田村　竜	勝間田具治	8
74	大蛇神ヤマタノオロチ！	矢島　大輔	吉沢　孝男	15
75	妖術・鏡合戦！	雪室　俊一	川田　武範	22
76	灼熱の妖怪！ひでり神	おおいとしのぶ	境　宗久	29
77	海和尚と船幽霊！	武上　純希	明比　正行	7／6
78	ぬらりひょんと蛇骨婆	田村　竜	佐藤　順一	13
79	中国妖怪襲来！（前編）	矢島　大輔	川田　武範	20
80	中国妖怪襲来！（後編）	矢島　大輔	勝間田具治	8／3
81	子育て妖怪！うぶめ	小林千賀子	明比　正行	10
82	古代妖怪・大首！	武上　純希	境　宗久	17
83	ゲタ合戦！妖怪逆柱	矢島　大輔	川田　武範	24
84	怪奇！人食い肖像画	大橋　志吉	佐藤　順一	31
85	魔境・土蜘蛛の山！	田村　竜	明比　正行	9／7
86	死の使い・モウリョウ	おおいとしのぶ	吉沢　孝男	14
87	迷い家の倉ぼっこ	大橋　志吉	芝田　浩樹	21
88	妖怪ふくろさげの罠！	武上　純希	川田　武範	28
89	髪の毛地獄！ラクシャサ	小中　千昭	角銅　博之	10／5
90	峠の妖怪・ぶるぶる	田村　竜	明比　正行	12
91	夜の怪！百鬼夜行の鬼	大橋　志吉	境　宗久	19
92	百目とぬらりひょん	おおいとしのぶ	吉沢　孝男	26
93	月よりの妖怪・桂男！	矢島　大輔	川田　武範	11／2
94	鬼太郎魚と置いてけ堀	武上　純希	細田　守	9
95	妖力泥棒・釜なり！	大橋　志吉	芝田　浩樹	16
96	妖怪王・ぬらりひょん	矢島　大輔	明比　正行	23
97	追撃！西洋妖怪四天王	矢島　大輔	吉沢　孝男	30
98	試練・妖魔城への道！	橋本　裕志	川田　武範	12／7
99	決戦！妖怪王対鬼太郎	橋本　裕志	境　宗之	14
100	暗闇の招き・妖怪影女	田村　竜	芝田　浩樹	21
101	言霊使いの罠！	京極　夏彦	角銅　博之	28

劇場版

1	ゲゲゲの鬼太郎大海獣	星山　博之	勝間田具治	'96年7／6
2	〃　おばけナイター	島田　満	佐藤　順一	'97年3／8
3	〃　妖怪特急!!まぼろしの汽車	大橋　志吉	吉沢　孝男	7／12

15	悪夢！妖怪まくら返し	大橋　志吉	明比　正行	'96年4／14
16	あかなめと白うねり	武上　純希	宇田鋼之介	21
17	海奇！妖怪さざえ鬼	大橋　志吉	西尾　大介	28
18	深海の奇跡！化け鯨	大橋　志吉	川田　武範	5／5
19	恐怖！妖怪くびれ鬼	武上　純希	吉沢　孝男	12
20	冒険！絶海の人食い島	橋本　裕志	明比　正行	19
21	白粉婆とのっぺらぼう	大橋　志吉	宇田鋼之介	26
22	蜂起！妖怪泥田坊	武上　純希	川田　武範	6／2
23	風魔！妖怪雨ふり天狗	大橋　志吉	吉沢　孝男	9
24	怪談！妖怪陰摩羅鬼	武上　純希	佐藤　順一	16
25	古都の妖怪・おぼろ車	大橋　志吉	宇田鋼之介	23
26	復活！妖怪天邪鬼	雪室　俊一	西尾　大介	30
27	吸魔！妖怪野づち	武上　純希	明比　正行	7／7
28	幻想譚・猫町切符	大橋　志吉	吉沢　孝男	21
29	巨人伝説ダイダラボッチ	橋本　裕志	川田　武範	28
30	妖花！夏の日の記憶	島田　満	明比　正行	8／4
31	妖怪変化！傘化け	武上　純希	宇田鋼之介	11
32	電気妖怪カミナリ！	大橋　志吉	吉沢　孝男	18
33	逆襲！妖怪さら小僧	武上　純希	佐藤　順一	25
34	流浪！妖怪あずきとぎ	大橋　志吉	明比　正行	9／1
35	鬼太郎の地獄流し	島田　満	宇田鋼之介	8
36	仰天！おりたたみ入道	大橋　志吉	川田　武範	15
37	大追跡！妖怪自動車	武上　純希	吉沢　孝男	22
38	血闘！おどろおどろ	橋本　裕志	明比　正行	29
39	妖狐・白山坊の花嫁	島田　満	佐藤　順一	10／6
40	夜の墓場は運動会！	大橋　志吉	宇田鋼之介	13
41	つけもの妖怪ほうこう！	武上　純希	吉沢　孝男	20
42	がんぎ小僧とねずみ男！	大橋　志吉	明比　正行	27
43	反乱！妖怪化けぞうり	武上　純希	川田　武範	11／3
44	西洋悪魔・ベリアル！	大橋　志吉	宇田鋼之介	10
45	もち殺し！妖怪火車	矢島　大輔	佐藤　順一	17
46	妖怪大裁判（前編）	武上　純希	明比　正行	24
47	妖怪大裁判（後編）	武上　純希	吉沢　孝男	12／1
48	えんま大王とねこ娘	小林千賀子	宇田鋼之介	8
49	水妖怪赤舌の疾走！	矢島　大輔	川田　武範	15
50	遊園地の吹き消し婆！	大橋　志吉	吉沢　孝男	22
51	雪コンコン！笠地蔵	武上　純希	佐藤　順一	29
52	コマ妖怪・あまめはぎ！	矢島　大輔	明比　正行	'97年1／12
53	霊園行・幽霊電車！	大橋　志吉	宇田鋼之介	19
54	妖怪邪魅とガマ仙人！	大橋　志吉	吉沢　孝男	26
55	座敷童子と妖怪後神！	武上　純希	川田　武範	2／2
56	水変化！妖怪水虎	矢島　大輔	明比　正行	9
57	吸血鬼エリート！	橋本　裕志	吉沢　孝男	16
58	冷凍妖怪・雪ん子！	雪室　俊一	勝間田具治	23
59	妖怪オバリヨン！	大橋　志吉	宇田鋼之介	3／2
60	ぬらりひょんの陰謀！	矢島　大輔	川田　武範	9

「少年マガジン版鬼太郎」扉絵全集

『墓場の鬼太郎からゲゲゲの鬼太郎へ』

編／平林重雄（関東水木会）



▶毎号連載開始当時のマガジン表紙。鬼太郎のそばに「大海獣」の文字が見える。



▶本格連載の開始とともに、鬼太郎は文字通り〝マガジンの顔〟に成長していった。

マンガ版の「鬼太郎」、その全貌を知るのは容易ではない。時代とともに枝分かれし、設定・内容・絵ともにまさに千変万化。ここでは、そんな「鬼太郎」マンガの源流にして本流である貸本→初期少年マガジン版の全表紙&扉絵をコレクションしてみた。

幽霊族としての鬼太郎、鬼太郎誕生、目玉の親父やねずみ男など、鬼太郎世界の土台となる設定がすでに確立していたのが〝前史〟というべき貸本時代。その発行形態や版元事情などから、物語のつながりにやや疑問の残るエピソードもあるが、怪奇と恐怖、そしてペーソスの色濃い貸本時代の作品は、ある意味もっとも鬼太郎らしい作品群といえるだろう。

そしてマガジンでの連載――初期の「墓場の鬼太郎」は、貸本時代のエッセンスをもとにリメイクしたというニュアンスが強い。夜叉、猫仙人、そして大海獣などはその典型。鬼太郎自身もいまだ定住の家をもたず、我々の知るポピュラーな鬼太郎像はアニメ放映に伴う「ゲゲゲの鬼太郎」への衣替えまで待たなければならなかった。



▶「墓場」から「ゲゲゲ」へ、テレビ化とともに妖怪ブームは頂点に達していく。

鬼太郎前史／貸本時代（1960〜64年）
………全表紙絵ギャラリー………

1960年



妖奇伝（1）「幽霊一家」68P／兎月書房



妖奇伝（2）「幽霊一家・墓場鬼太郎」／64P／兎月書房

＊キャプション：タイトル／ページ数／出版社


鬼太郎夜話　第１話「吸血鬼と猫娘」
176P／三洋社



第３話「あう時はいつも死人」
100P／兎月書房



第２話「下宿宿」
95P／兎月書房



墓場鬼太郎夜話「地獄の片道切符」
32P／兎月書房



第４話「顔の中の敵」
160P／三洋社



第３話「水神様が町へやってきた」
159P／三洋社



鬼太郎夜話　第２話「地獄の散歩道」
175P／三洋社

1961年

1964年



「霧の中のジョニー」
133P／兎月書房



「怪奇一番勝負」
135P／兎月書房

1962年



「ないしょの話」
135P／東考社



「怪奇オリンピック　アホな男」
130P／佐藤プロ



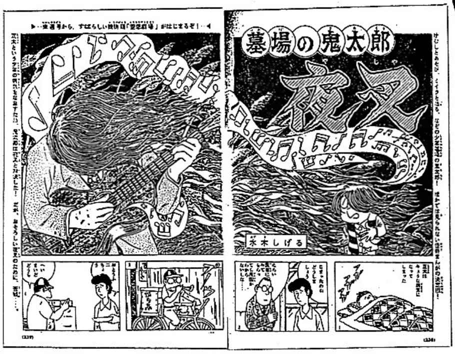
「ぼくは新入生」
130P／佐藤プロ



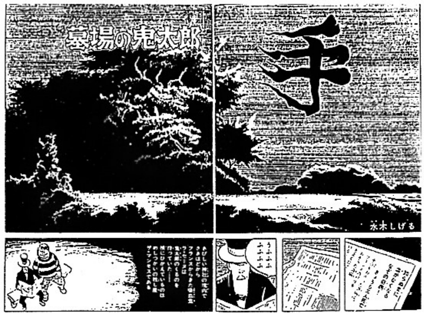
「おかしな奴」
132P／佐藤プロ

少年マガジン連載(1965〜69年)
………全扉絵ギャラリー………

墓場の鬼太郎 1965年 シリーズ



「夜叉」
15P／9月12日／No.38



「手」
15P／8月1日／No.32



「おばけナイター」
16P／11月7日／No.46



「猫仙人」（後編）
15P／10月31日／No.45

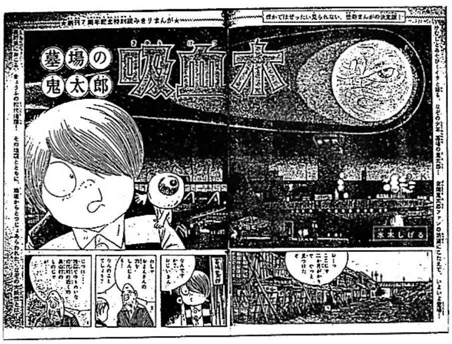


「猫仙人」（前編）
15P／10月24日／No.44



「地獄流し」
16P／10月10日／No.42

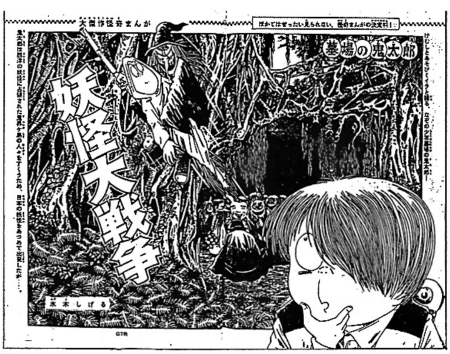
墓場の鬼太郎 1966年 シリーズ



「吸血木」
24P／4月3日／No.13



「水虎」
15P／1月15日／別冊・お正月特大号



「妖怪大戦争」（第2回）
15P／4月24日／No.16

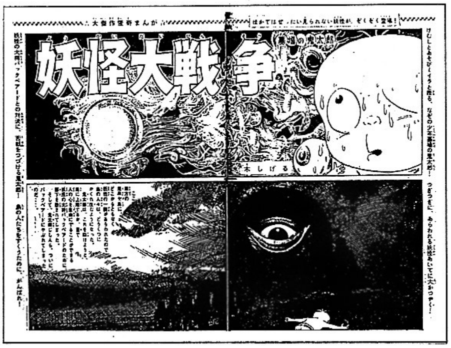


「妖怪大戦争」（第1回）
15P／4月17日／No.15



「ゆうれい電車」
16P／4月15日／別冊・春休み特大号

＊キャプション上段：タイトル、下段：ページ数／発行日／掲載号数



「妖怪大戦争」（第４回）
15P／５月８日／No.18



「妖怪大戦争」（第３回）
15P／５月１日／No.17



「大海獣」（第３回）
15P／６月５日／No.22



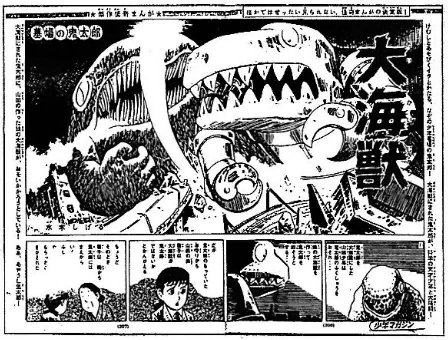
「大海獣」（第２回）
16P／５月29日／No.21



「大海獣」（第１回）
15P／５月22日／No.20



「大海獣」（第６回）
15P／６月26日／No.25



「大海獣」（第５回）
15P／６月19日／No.24



「大海獣」（第４回）
15P／６月12日／No.23



「妖怪城」（前編）
22P／10月９日／No.40



「だるま」
16P／8月1日／別冊・夏休み特大号



「大海獣」（第７回）
15P／７月３日／No.26



墓場の鬼太郎傑作集２「手」（再録）
１５Ｐ／１１月１日／別冊・秋の特大号



墓場の鬼太郎傑作集１「夜叉」（再録）
15P／11月1日／別冊・秋の特大号



「妖怪城」（後編）
22P／10月16日／No.41

墓場の
鬼太郎
1967年
シリーズ



「吸血鬼エリートの巻」（第２回）
１５Ｐ／５月14日／No.20



第１話「吸血鬼エリートの巻」（第１回）
１５Ｐ／５月７日／No.19



「鏡爺」
16P／4月1日／別冊・春休み特大号



「吸血鬼エリートの巻」（第６回）
１５Ｐ／６月11日／No.24



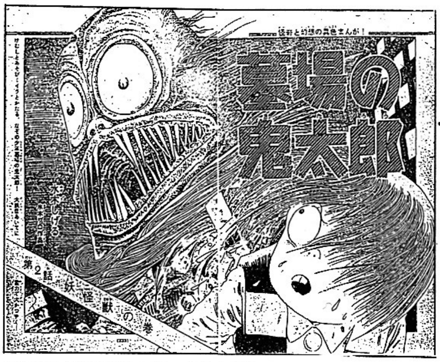
「吸血鬼エリートの巻」（第５回）
１５Ｐ／６月４日／No.23



「吸血鬼エリートの巻」（第４回）
１５Ｐ／５月28日／No.22



「吸血鬼エリートの巻」（第３回）
１５Ｐ／５月21日／No.21



第２話「妖怪獣の巻」（第１回）
１５Ｐ／７月２日／No.27



「吸血鬼エリートの巻」（第８回）
１５Ｐ／６月25日／No.26



「吸血鬼エリートの巻」（第，回）
１５Ｐ／６月18日／No.25



「妖怪獣の巻」（第５回）
15P／７月30日／No.31



「妖怪獣の巻」（第４回）
14P／７月23日／No.30



「妖怪獣の巻」（第３回）
14P／７月16日／No.29



「妖怪獣の巻」（第２回）
15P／７月９日／No.28



「水虎」（再録）
16P／8月22日／臨時増刊　狼小僧



「妖怪獣の巻」（第８回）
15P／８月20日／No.34



「妖怪獣の巻」（第７回）
15P／８月13日／No.33



「妖怪獣の巻」（第６回）
15P／８月６日／No.32



第３話「見上げ入道の巻」（前編）
15P／９月10日／No.37



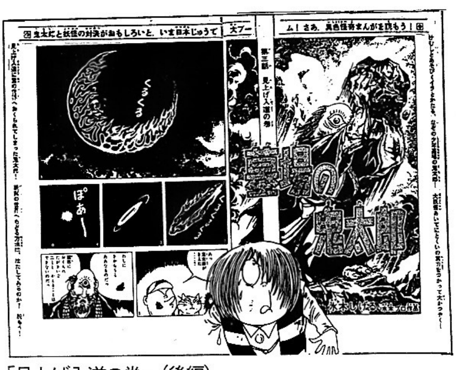
「妖怪獣の巻」（第10回）
15P／９月３日／No.36



「猫娘とねずみ男の巻」
16P／９月１日／別冊・初秋特大号



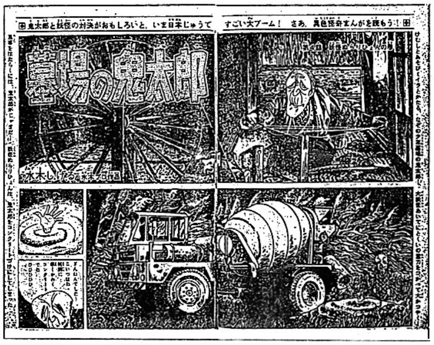
「妖怪獣の巻」（第９回）
15P／８月27日／No.35



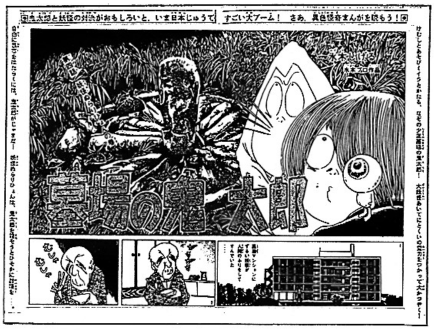
「見上げ入道の巻」（後編）
15P／９月24日／No.39



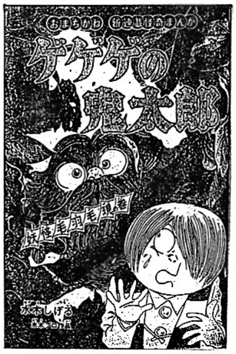
「見上げ入道の巻」（中編）
15P／９月17日／No.38



「妖怪ぬらりひょんの巻」（後編）
15P／10月８日／No.41



第４話「妖怪ぬらりひょんの巻」（前編）
15P／10月１日／No.40



「妖怪毛羽毛現の巻」
15P／11月12日／No.46

ゲゲゲの鬼太郎 1967年 シリーズ

当初は単発の不定期連載だった「墓場の鬼太郎」は、'66年５月22日号からの「大海獣」で毎週連載を実現。本格的連載開始は'67年５月７日号の「吸血鬼エリート」からで、その扉には“第１話”の文字が見える。そして'67年秋、「ゲゲゲの鬼太郎」への衣替えが決定した。



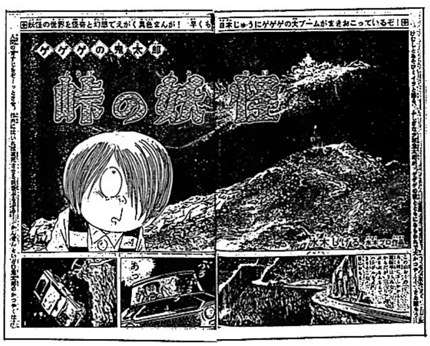
特別絵物語「魔女人形」
8P／11月1日／別冊・秋の特大号



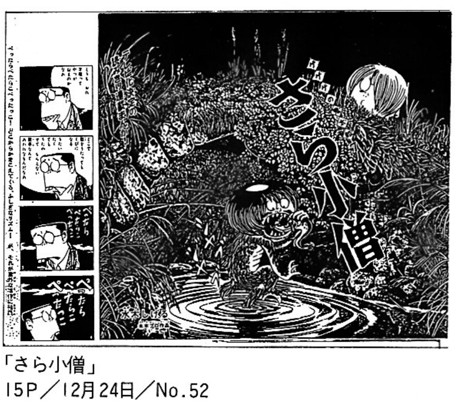
「ダイヤモンド妖怪」
16P／12月３日／No.49



「電気妖怪」
15P／11月26日／No.48



「峠の妖怪」
15P／11月19日／No.47



「さら小僧」
15P／12月24日／No.52

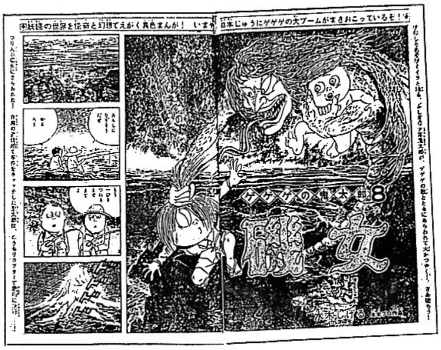


「海座頭」
15P／12月17日／No.51



「白山坊」
15P／12月10日／No.50

ゲゲゲの鬼太郎 1968年 シリーズ



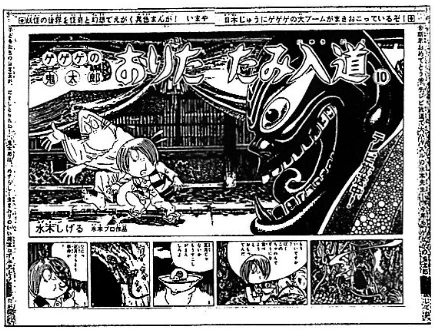
「磯女」
15P／1月1日／No.1



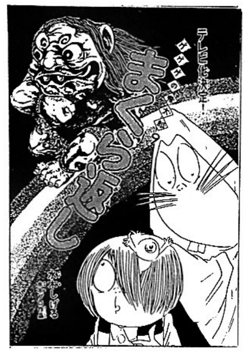
「笠地蔵」
16P／1月1日／別冊・お正月特大号



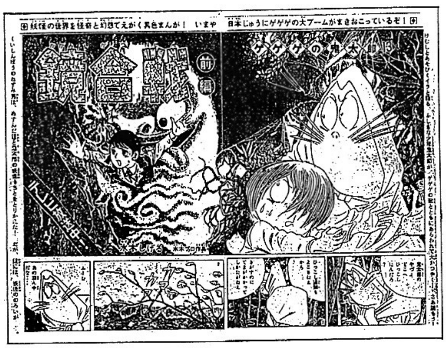
「おどろおどろ」
23P／1月28日／No.5



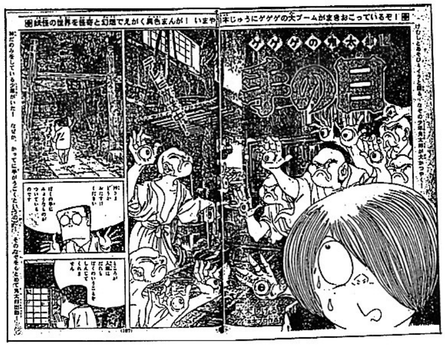
「おりたたみ入道」
15P／1月21日／No.4



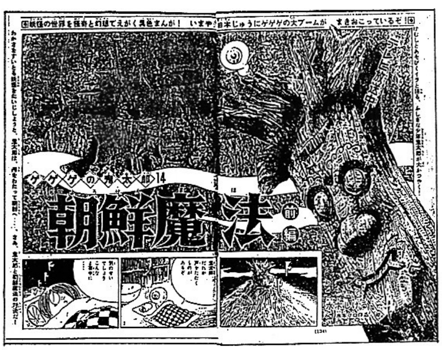
「まくら返し」
15P／1月7・14日／No.2・3



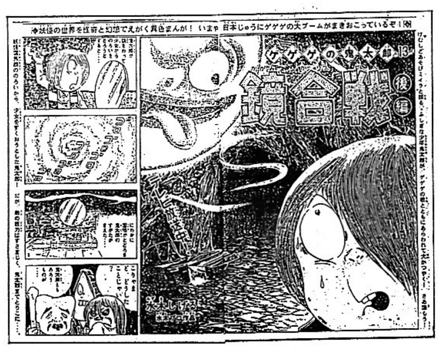
「鏡合戦」（前編）
15P／2月11日／No.7



「手の目」
15P／2月4日／No.6



「朝鮮魔法」（前編）
15P／2月25日／No.9



「鏡合戦」（後編）
15P／2月18日／No.8



「朝鮮魔法」（中編）
15P／3月3日／No.10



「朝鮮魔法」（後編）
15P／3月10日／No.11



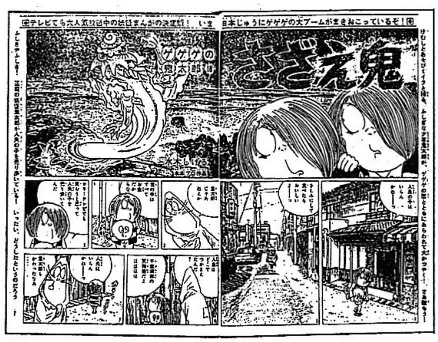
「モウリョウ」
15P／3月17日／No.12



「こま妖怪」
15P／3月24日／No.13



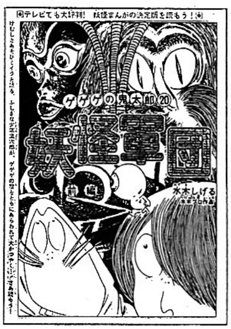
「妖花」
15P／3月31日／No.14



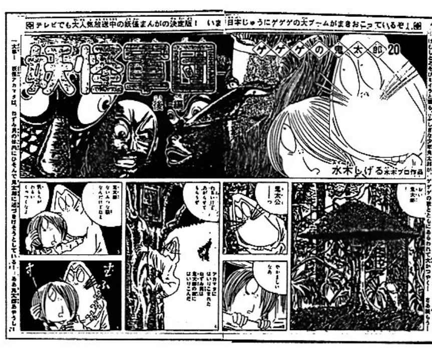
「さざえ鬼」
15P／4月7日／No.15



「悪魔ベリアル」
24P／4月14日／No.16



「妖怪軍団」（前編）
15P／4月21日／No.17



「妖怪軍団」（後編）
15P／4月28日／No.18



「人食い鳥」
40P／5月5日／No.19



「ばけ猫」
15P／5月12日／No.20



「のっぺらぼう」
15P／5月19日／No.21



「ひでりかがみ」(前編)
15P／5月26日／No.22



「ひでりかがみ」(後編)
15P／6月2日／No.23



「オベベ沼の妖怪」
15P／6月9日／No.24



「雪ん子」
15P／6月16日／No.25



「姑獲鳥」
16P／6月23日／No.26



「げた合戦」
16P／6月30日／No.27



「妖怪関ヶ原」(前編)
15P／7月7日／No.28



「妖怪関ヶ原」(後編)
14P／7月14日／No.29



「穴ぐら入道」
15P／7月21日／No.30



「天狐」
15P／7月28日／No.31



「鬼太郎の誕生」(改稿版)
45P／8月1日／別冊・夏休み特大号



「天邪鬼」(前編)
15P／8月4日／No.32



「天邪鬼」(後編)
16P／8月11日／No.33



「血戦小笠原」(前編)
16P／8月18日／No.34



「血戦小笠原」(中編)
16P／8月25日／No.35



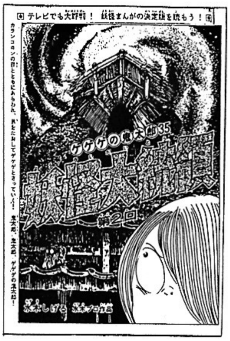
「血戦小笠原」(後編)
15P／9月1日／No.36



「妖怪ラリー」
16P／9月8日／No.37



「妖怪大統領」(第1回)
15P／9月15日／No.38



「妖怪大統領」(第2回)
15P／9月22日／No.39



「妖怪大統領」(第3回)
15P／9月29日／No.40



「朧車」(第1回)
15P／10月6日／No.41



「朧車」(第2回)
15P／10月13日／No.42



「朧車」(第3回)
15P／10月20日／No.43



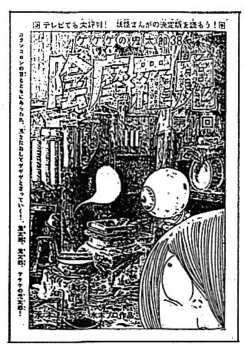
「朧車」(第4回)
15P／10月27日／No.44



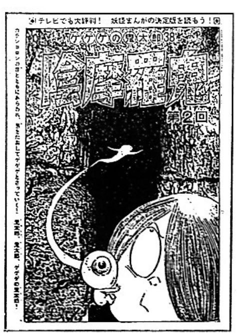
特別編「牛鬼対吸血鬼」(改稿版)
40P／11月1日／別冊・秋の特大号



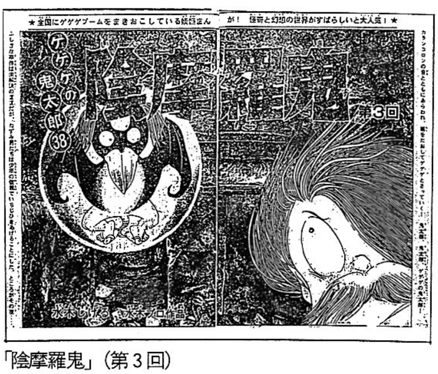
「後神」
15P／11月3日／No.45



「陰摩羅鬼」(第1回)
15P／11月10日／No.46



「陰摩羅鬼」(第2回)
15P／11月17日／No.47



「陰摩羅鬼」(第3回)
15P／11月24日／No.48



「牛鬼」（後編）
15P／12月22日／No.52



「牛鬼」（前編）
15P／12月15日／No.51



「妖怪ほうこう」（第2回）
15P／12月8日／No.50



「妖怪ほうこう」（第1回）
15P／12月1日／No.49

ゲゲゲの鬼太郎 1969年 シリーズ



「雨ふり天狗」
15P／1月1日／No.1



特別編「ねこ屋のきょうだい」（改稿版）
40P／1月1日／別冊・お正月特大号



「妖怪大裁判」（第2回）
15P／2月2日／No.6



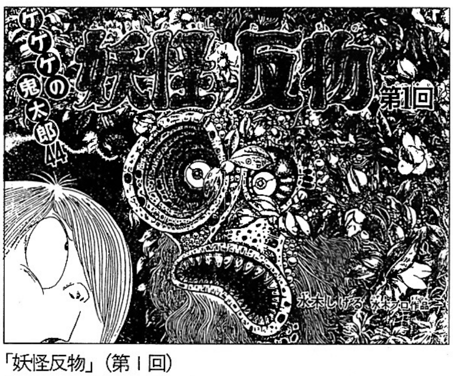
「妖怪大裁判」（第1回）
15P／1月19・26日／No.4・5



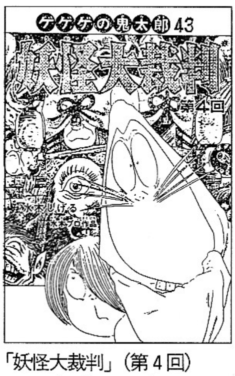
「髪さま」（後編）
15P／1月15日／No.3



「髪さま」（前編）
15P／1月8日／No.2



「妖怪反物」（第1回）
15P／2月23日／No.9



「妖怪大裁判」（第4回）
15P／2月16日／No.8



「妖怪大裁判」（第3回）
15P／2月9日／No.7



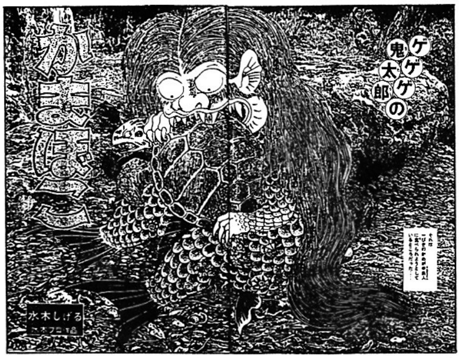
「妖怪反物」（第４回）
15P／３月16日／No.12



「妖怪反物」（第３回）
15P／３月９日／No.11



「妖怪反物」（第２回）
13P／３月２日／No.10



「かまぼこ」
22P／４月１日／月刊別冊・４月創刊号



「妖怪反物」（第５回）
14P／３月23日／No.13



「その後のゲゲゲの鬼太郎」
47P／1970年７月１日／別冊・７月号



「土ころび」
23P／7月1日／月刊別冊・7月号



「妖怪あしまがり」
23P／6月1日／月刊別冊・6月号



「泥田坊」
22P／5月1日／月刊別冊・5月号

'68年１月からのテレビ化決定に伴い、５週の準備期間をおいて、'67年11月12日号からは連載も「ゲゲゲの鬼太郎」へとリニューアル。以後、対妖怪の黄金パターンが確立する。また水木氏自身、これにさきだち石燕の妖怪画と本格的に出会い、登場妖怪も格段にバラエティ豊かになった。しかし、それも終盤には登場妖怪探しに四苦八苦、連載多数の精神的肉体的疲労もあり、ブームのさなか'69年３月23日号で連載はひとまず終了した。

▶'70年別冊7月号掲載の「その後の鬼太郎」。すでに鬼太郎は一人歩きを始めていた。



GE-GE-GE PRESENTS

第4章

【綴じ込み特別付録】

水木しげる「幻の名作」お宝復刻！

GE-GE-GE PRESENTS

付録解説

本章には綴じ込み付録として、幻の豆本「雨の夜の恐怖」、幻の鬼太郎「特別絵物語／墓場の鬼太郎・魔女人形」、そして幻の漫画講座「武良茂／マンガの描き方」の3アイテムを収録した。
◆まず「雨の夜の恐怖」。これはいわゆる“玩菓”（お菓子とオマケが同等、あるいは逆転の関係にある形態）といわれるもののハシリであり、これをくるむ表紙に「少年ページ」と銘打った共用の表紙がついているところから、水木氏以外の作家も寄稿していたことが推測される。この当時の付録付き少年誌（「ぼくら」「少年画報」「冒険王」など）の隆盛を考えると、マンガ以外、たとえば絵物語や雑学読み物なども収録されたのかもしれない。とまれ、お菓子のオマケに豆本が喜ばれたこの時代は、マンガ&活字文化にとって幸せだったといえようか。
◆「墓場の鬼太郎・魔女人形」は、'67年11月1日発行の「少年マガジン別冊・秋のおたのしみ特大号」の巻頭に収録された絵物語。翌年1月からのテレビアニメ第1作放映にあわせ、10月8日号の本誌を最後にタイトル「墓場の鬼太郎」での連載がいったん終了（“墓場”はお茶の間にそぐわないとの理由）。11月12日号から「ゲゲゲの鬼太郎」として再開される、その合間に掲載された作品である（本書124ページ参照）。当時は山川惣治や小松崎茂が活躍し、今はほとんど見ることのない絵物語も十分うけいれる土壌があった。オリジナルは少年雑誌にはおなじみのスミと赤・青による2色印刷で、発表時のままに復刻してある。特異な形式ゆえこれまで単行本に収録されるチャンスのなかった文字通り“幻”の作品だが、アニメでは'68年5月5日にオンエアされている（第18話）。
◆「武良茂／マンガの描き方」は「ガロ」'64年11月号〜'65年4月号に掲載された水木氏の本名による連載記事。かつては、故・手塚治虫や故・石ノ森章太郎による多くのマンガ講座が少年たちの身近なテキストとなったが、この記事は掲載誌の特色ゆえか本格的にマンガ家・劇画家を志す青少年に向けて書かれた印象がある。ただしその意図とは別に、実用と無用、抽象と具象入り乱れたその内容と独特のユーモラスな筆致は立派に一篇の“鑑賞作品”であり、後年の名随筆家の片鱗をのぞかせている。“漫画”と“マンガ”、“描き方”と“書き方”、連載のたびに変わる題名も可笑しいが、「劇画小史（一）」で突然終了するあたりまさに面目躍如の観。カットももちろん本人。これを見て驚く人も多いことと思う。

切りとって作る

幻の豆本

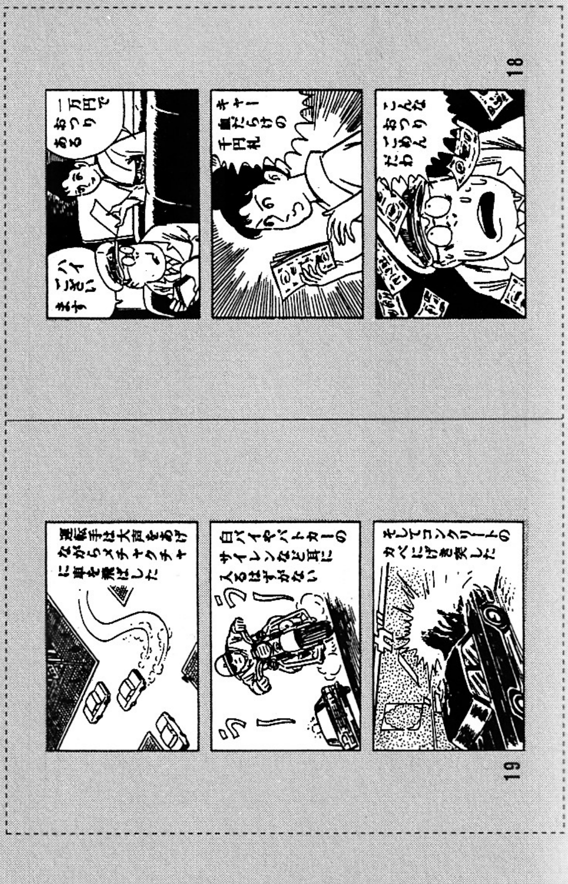
水木しげる

「雨の夜の恐怖」

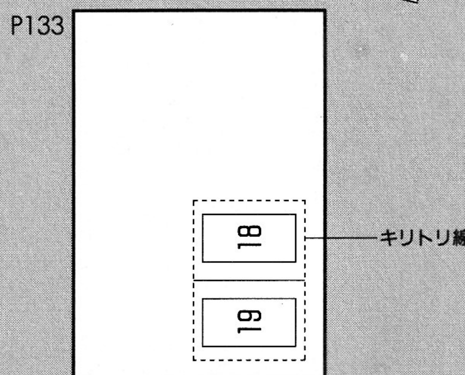
HANDMADE MIZUKI BOOK

（オリジナルは1970年、和泉製菓から発売された「ウインナチョコレート　ミニチョコマガジン『少年ページ』」に掲載（左下は現物写真）。怪奇実話風の異色の１篇だ。）



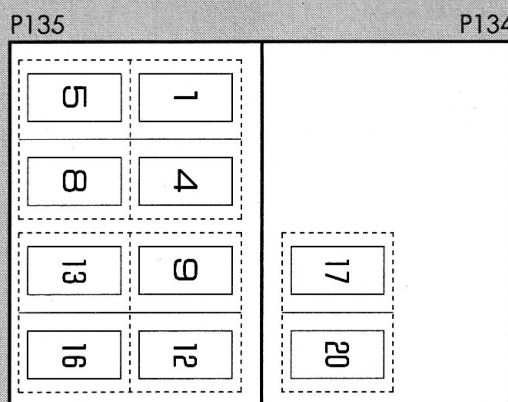


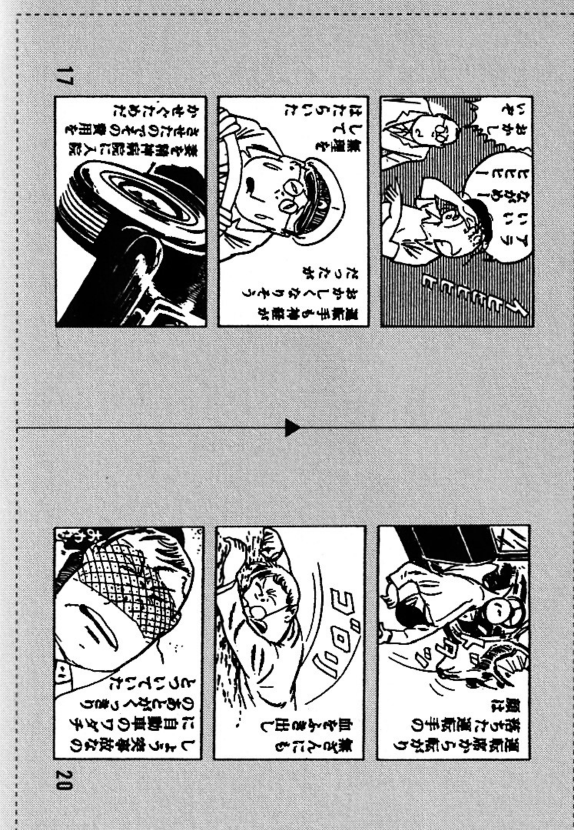


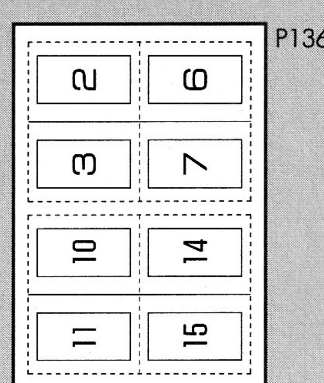


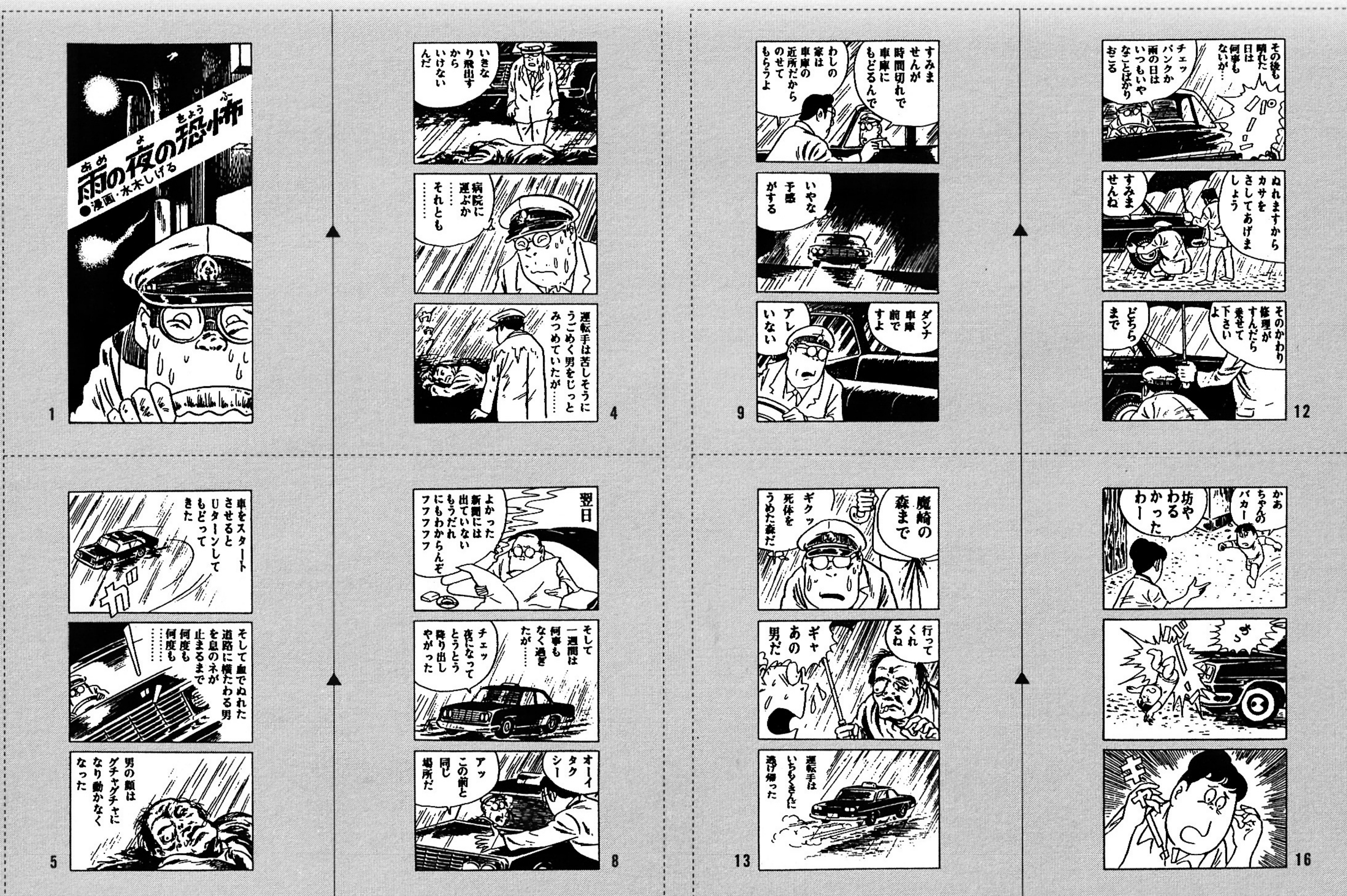
豆本の作り方

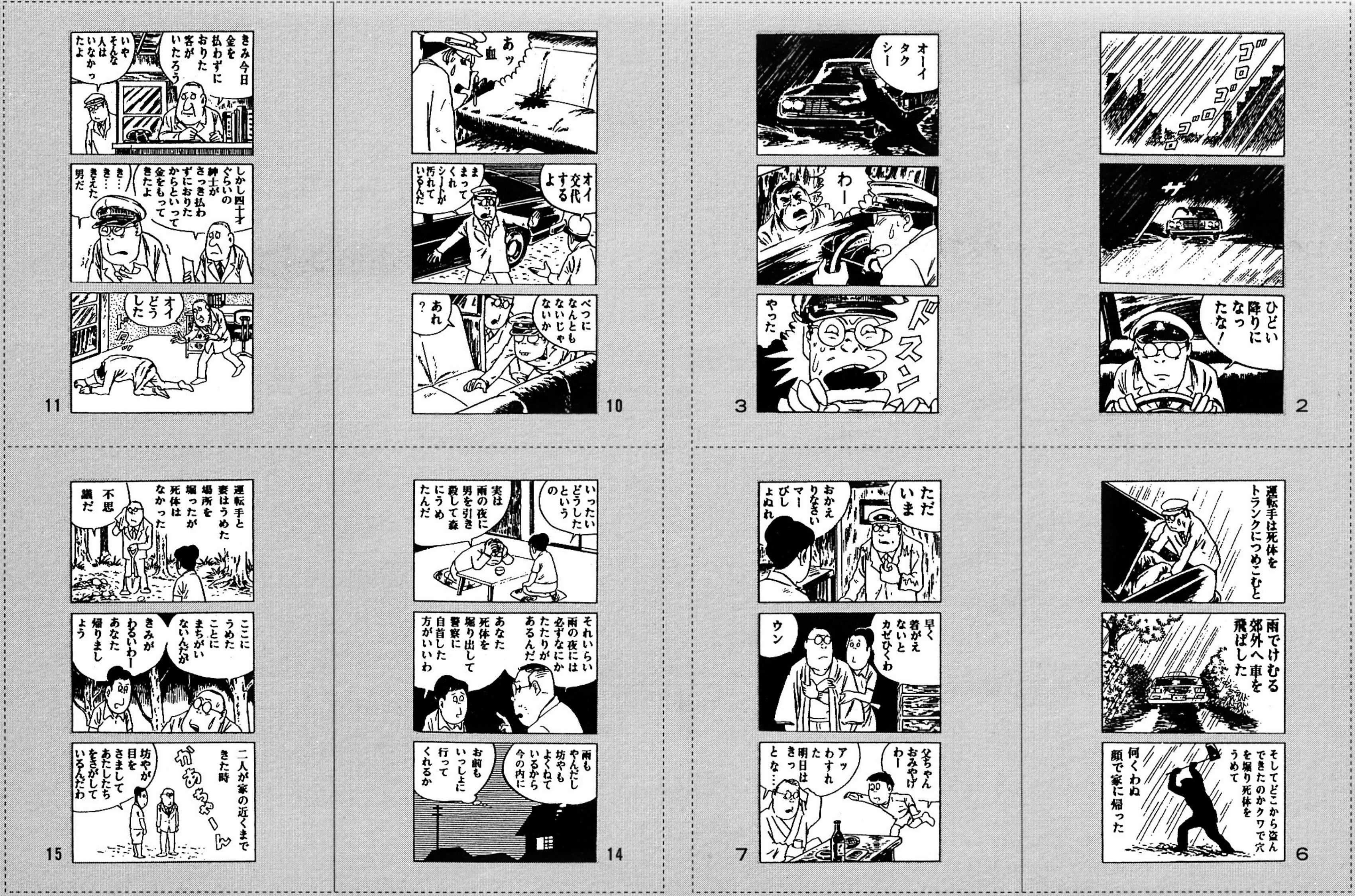
①点線にそって切りとり、▲印のついた線が外（山折り）になるように、真ん中で折る。
②上図のように、折り目を右側にしてページ番号（絵の下左側の数字）が１、５、９、13、17の順になるように重ねる。
③重ねたまま、折り目のある側をホチキスで２ヵ所とめて、完成！








雨の夜の恐怖
●漫画・水木しげる
いきなり飛出すからいけないんだ
病院に運ぶか……それとも……
運転手は苦しそうにうごめく男をじっとみつめていたが……
車をスタートさせるとUターンしてもどってきた
ガ
そして血でぬれた道路に横たわる男を息のネが止まるまで何度も何度も……
男の顔はグチャグチャになり動かなくなった
翌日
よかった新聞には出ていないもうだれにもわからんぞフフフフフ
そして一週間は何事もなく過ぎたが……
チェッ夜になってとうとう降り出しやがった
オーイタクシー
アッこの前と同じ場所だ
すみませんが時間切れで車庫にもどるんで
わしの家は車庫の近所だからのせてもらうよ
いやな予感がする
ダンナ車庫前ですよ
アレいない
その後も晴れた日は何事もないが…
チェッパンクか雨の日はいつもいやなことばかりおこる
ぬれますからカサをさしてあげましょう
すみませんね
そのかわり修理がすんだら乗せて下さいよ
どちらまで
魔崎の森まで
ギクッ死体をうめた森だ
行ってくれるね
ギャあの男だ
運転手はいちもくさんに逃げ帰った
かあちゃんのバカー
坊やわるかったわー


2
ゴロゴロゴロ
ザー
ひどい降りになったな！
3
オーイタクシー
わー
ドスン
やった
6
運転手は死体をトランクにつめこむと
雨でけむる郊外へ車を飛ばした
そしてどこから盗んできたのかクワで穴を掘り死体をうめて
何くわぬ顔で家に帰った
7
ただいま
おかえりなさい マーびしょぬれ
早く着がえないとカゼひくわ
ウン
父ちゃんおみやげわー
アッわすれた 明日はきっとな…
10
あッ
血
オイ交代するよ
ままってくれ シートが汚れているんだ
べつになんともないじゃないか
あれ？
11
きみ今日金を払わずにおりた客がいたろう
いやそんな人はいなかったよ
しかし四十才ぐらいの紳士がさっき払わずにおりたからといって金をもってきたよ
き…き…きえた男だ
オイどうした
14
いったいどうしたというの
実は雨の夜に男を引き殺して森にうめたんだ
それいらい雨の夜には必ずなにかたたりがあるんだ
あなた死体を掘り出して警察に自首した方がいいわ
雨もやんだし坊やもよくねているから今の内に
お前もいっしょに行ってくれるか
15
運転手と妻はうめた場所を掘ったが死体はなかった
不思議だ
ここにうめたことにまちがいないんだが
きみがわるいわー あなた帰りましょう
二人が家の近くまできた時
があちゃーん
坊やが目をさましてあたしたちをさがしているんだわ



特別絵物語
墓場の鬼太郎
魔女人形
★鬼太郎と魔女の息づまる
水木しげる
と水木プロ


ドドド
二、三日前から、川原でへんな音がする。尚子は、家をぬけ出して、こっそり見にいった。
「おまえを魔女にしてやろうか。おもしろいよ。」と、魔女がいった。
魔女は、尚子のたましいをぬき取り、自分のでしにした。魔女は、魔王の命令で、日本に支部をつくり、魔女をどしどしふやすために、ひそかに日本へしのびこんできたのだ。


尚子は、へんな家につれていかれて、一日じゅうほうきを作らされた。二十本できたところで、魔女がいった。「このほうきを、おまえの友だちに一本ずつくばっておいで!」
ほうきをもらった女の子たちは、なんだかうきうきしてきた。おとなのいないところで、むちゅうで遊んでいると、きゅうにほうきが、女の子をのせたまま、空中へまいあがった。

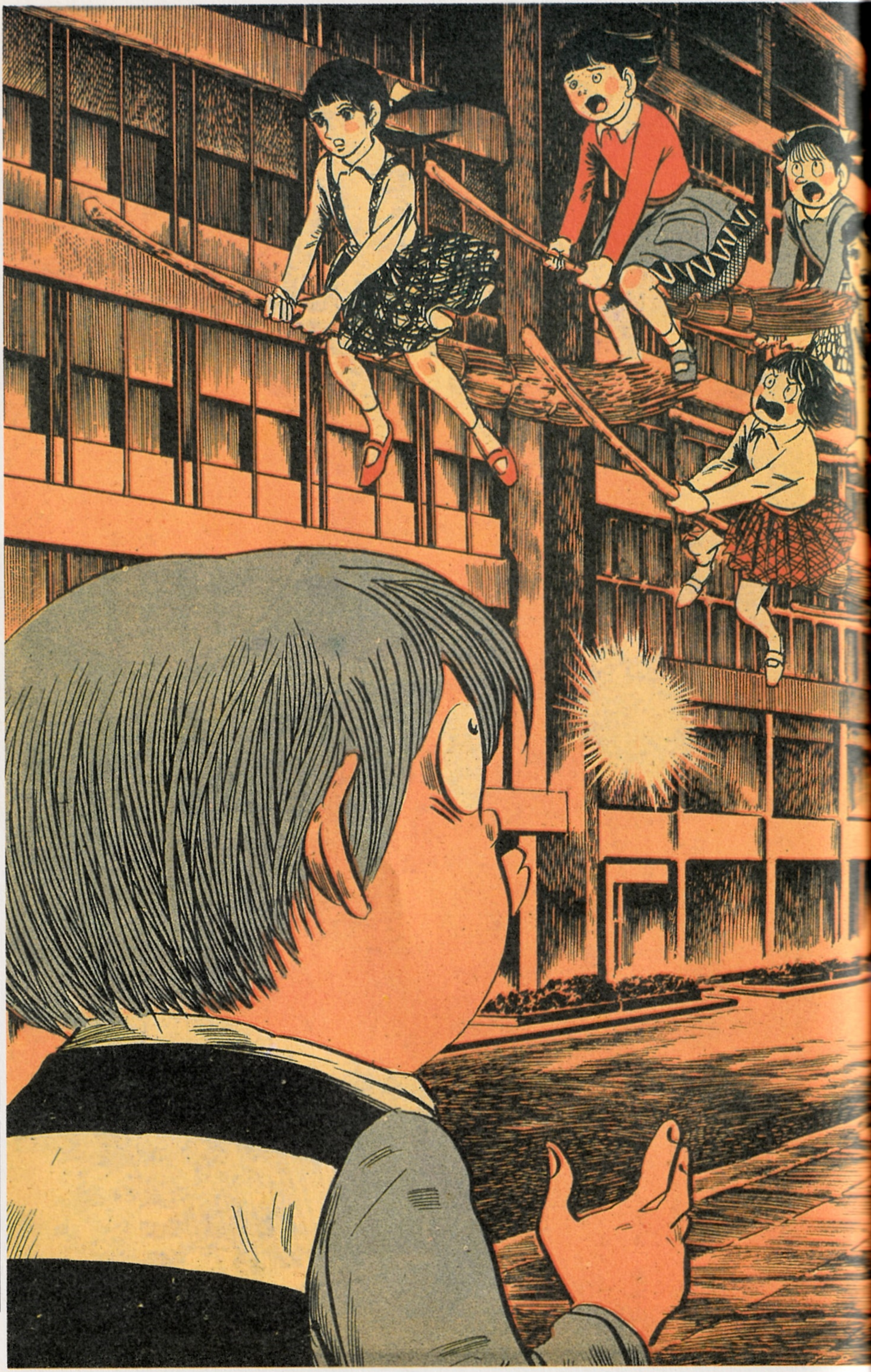


「きゃっ、たすけて！」女の子たちはすくいをもとめたが、すでに魔女の魔法がかかっているので、人間には聞えない。聞えたのは鬼太郎だけだった。

「コケコッコーッ。」

鬼太郎は、おんどりの鳴き声をまねた。すると、ほうきの魔力がなくなって、みんなばたばたとおちてきた。

鬼太郎は、女の子たちを家に送りかえし、魔女のかくれがに出かけた。




「おまえだな、わしのじゃまをしたのは！」
魔女は、ほうきにまたがって、鬼太郎におそいかかった。すかさず 鬼太郎はちゃんちゃんこを投げた。それが魔女の顔にはりつき、息ができなくなった。
ほうき 無料奉仕
魔女は、鬼太郎の霊力にかぶとをぬぎ、尚子のたましいをかえした。それから、まもなく、魔女は、ほうきを、売る荒物屋になったが、それは、鬼太郎をあざむくためであった。


魔女はかくれがで、こっそり毒薬を作りはじめた。これを少女たちにのませて、魔女にしようというのだ。しかし、鬼太郎に見つかり、毒薬をとりあげられた。そこに魔王の使者があらわれた。
がたっても、おまえは、日本の少女をひとりも魔女にできなかった。おまえのようなやつは、魔女の資格がない！」魔王の使者はおこって、魔女から魔力をうばった。


もとの人間にかえった魔女は、しかたなく、わらを集めて、おもちゃのわら人形を作った。それを祭りの露店で売ったが、さっぱり売れなかった。鬼太郎とねずみ男は、魔女がかわいそうになり、てつだうことにした。
「さあさあ、元魔女が作った〝本家魔女人形〟！ これを家にかざっておけば、魔よけになるよ。これがひょうばんをよ
本家魔女人形

親切なる………
漫画のかき方
＜その１＞　材料の巻

武良茂

武良茂（水木しげるの本名）『幻の漫画講座』（『ガロ』'64年11月号〜'65年4月号）を一挙再録!!　■タイトル・本文の表記は原文のママ。



この漫画のかき方は、ただの漫画のかき方ではない。親切なる…とあるように、そこいらの漫画のかき方とはわけが違う。これからちょいとマンガでもかいてみようかなアという人は、なにをおいてもこれを読むべきである。

さて、まず**部屋**であるが、まあこれは各人自分で建てるわけにもいかないから、現在あるものを利用するとして、まず問題となるのが**窓**である。南向きとか西向きは用心した方が良い。南とか西の直射日光は、紙に反射するととてもかきにくい。五十年使える目も二十五年でダメになる…こともある。であるから、南とか西に窓のある場合は、カーテンや板によって日光を調節しなければならない。



夜は、電気スタンドを用いればだいたいまちがいない。はじめから下らんことをいうな…という人があるかも知れんが、将来諸君がプロ作家にでもなった場合を心配して目の健康を注意したまでである

さて、次に問題になるのが**机**である。これは安物でも古くても、丈夫なのが良い。やむをえずグラグラしたのを使用するなれば釘なぞでキチンとしたものにすべきである。

次に、座るにしても椅子にかけるにしてもクッションの問題がある。日本的にいえば座布団であるが、こいつはスポンジのあついのが良い。いかに健康体でもセンベイのような座布団で十時間も座っているとたいてい腰がいたくなるものだ。

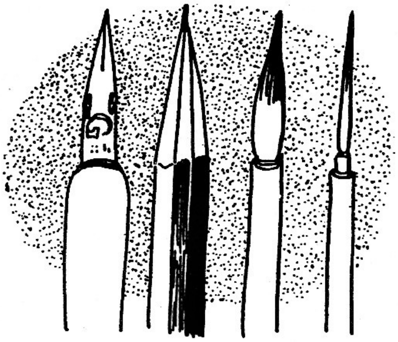
「いや、俺は生まれつきガマン強いから…」などと座布団なしで、五、六年もやると、ジが悪くなって手術しなくてはならなくなるから用心した方が良い。



いよいよ諸君は机に向かった。そこで問題になるのが**画板**である。ボール紙の安物でもよいし、製図板を使用してもよい。それは各自やりやすいものでよいが、机の上にのせる**紙**は、そこいらの文房具屋にある安物の画用紙でもよい。しかし、紙の面があまりザラザラしたものはさけた方がよい。できれば模造紙かケント紙が良いが、紙は実際に自分で二、三百枚かいてみてからその中のかきいいものに決める方がよろしい。



次は**ペンジク**であるが、これは普通の文房具店の安物でよい。要はそのペンジクがガタガタになるまでかきま



くることが肝要である。そうすれば自らどんなペンジクが自分に合っているかもわかる。次は**ペン先**。これは普通Gペン、その他色々である。私は長年ファルコンというのを使ったこともあるが、はじめはやたらと材料のより好みをせずバリバリかいてみること。そうすればペン先のこともジクのことも紙のこともわかってくる。お次は**筆**。これは普通の書道の筆の先をマッチで少し焼くか、あるいは日本画用の「彩色筆」又は「消用」という筆などがよい。ペンを使用せず筆だけでかく場合は「面相」を用いる。

小島剛夕氏は「面相」の筆の穂先をひっこめ、腰を強くして用いるそうであるが、そうすると「面相」は非常にかきやすくなる。

うっかりしていたが**鉛筆**の問題があった。これは紙の性質にもよるが、「2B」又は「B」がよい。「HB」でもよいが、あとで消しゴムで消す時に消えにくい。

ある作家は、「B」を二ダースばかりしんをとがらして作画にかかる。これは、一々下書きするときに鉛筆なぞをけずっていては妙案がにげてしまうからかもしれないが、せいぜい五、六本は絵を書く前にとがらしておくべきである。





消しゴム。

これは少し高くても、良質のものがよい。安物のケシゴムは紙の面を荒らしたり、消しにくかったりしてロクなことがない。

次に**モノサシ**。これは透明なのが良い。厚さは厚い方が扱いやすい。

それと**墨汁**。これは普通のものでよい。最近は製図用のインクを使用しているむきもある。これも悪くはないが値段が墨汁より少々高い。

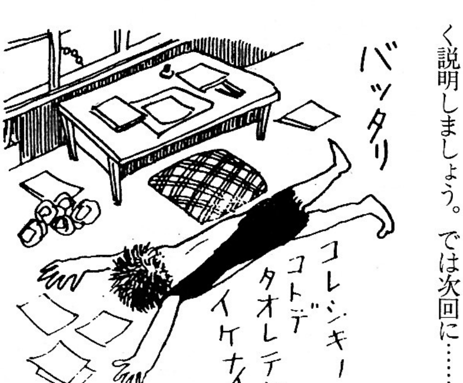
だいたいこれだけのものがあれば一応マンガをかけるが、ゼイタクをいえば次のものも必要かもしれない。

コンパス、烏口(これは少し値段が高い)。消したあとを払う「鳥の羽根」(一本百円位)。

そして、かき損じた時に使用するホワイト(ポスターカラー)。これは五十円位の小さなものでよい。

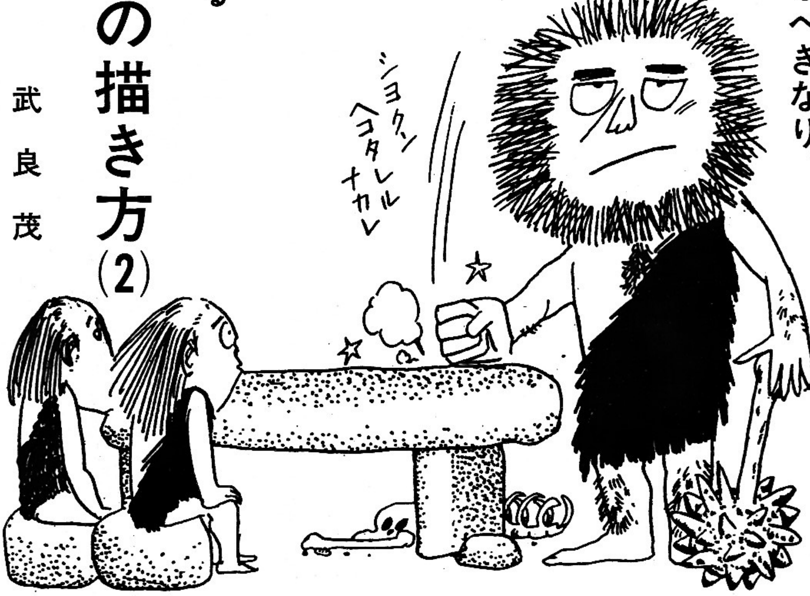
まァだいたいこんなものだが、これだけのものがそろえばなんでもかける。要はどんどんかくことだ。かきさえすれば「手」がいろいろなことを教えてくれるはずだ。

バリバリやたらとかきまくって、まずペンダコを作らなくてはプロにはなれぬ。ではなにをどうしてかくか。これは次回「下書きの巻」にくわしく説明しましょう。では次回に……。



早くうまくなる方法は一に努力二に努力三に努力と知るべきなり、

親切なる
漫画の描き方(2)
武良茂



さて前回に材料のことを説明したのであるが、材料のそろったところで下書き墨入れの話をするとつごうが良い。下書きをするには、まず何を書くかというストーリー(筋書)が決定しなくてはいけない。これがまた重要なのである。いくら絵がうまくてもストーリーが悪いと読んでも少しも面白くないものができる。いや、読まなかった方がかえってよかった、という怪作ができることに相成り、マンガ書きの生命もおしまいとなるのである。

ストーリーの立て方は、各人各様であり、またそのネタのとりかたも各人各様で、忍術の秘伝を教えるよりもむずかしい位だが、その根本は楽をして書くという考えを捨てることにある。名作を書くにはそれだけの努力をしなければいかん。近頃はなんでもインスタントジュースを作るように容易なことを述べ立てることが流行し、読者もまたそれを喜んでおるようだ。が、そういう甘い言葉の中には少しも真実がない。ある意味では不親切なのだ。大分精神訓話が入りすぎたようであるが、新人の最も手近かな短編(三、四十頁のもの)を中心にして話を進める。



まず何を書くか、主題を決定しておかなくてはいけない。自分自身が何をかくのかハッキリしないようでは、とてもじゃないが読者がナットクするものはできない。自分が感動したものを主題にするのが一番好ましいと思う。初めにどうしても自分でストーリーが立てにくい場合は、人の原作を利用してもかまわない。但し、この場合、人の作を何の感動もなく受入れてマンガにするのはよくない。強調するべきポイントは強調し、とにかくその原作をマンガにする前に、七、八回読み返し、自分





の脳ミソの中におりたたんで、下書をする時は原作をみずに書く。自分でこうしたらいいと思うことがあれば、その時に自分の好きなようにストーリーを変更してもよい。

要は、人の原作でも自分の創作でもかまわない。その中に自分の魂が入っていると、人を引きつける力が出てくるものなのである。しかし、自分で物語に感動しすぎて、無理な表現をするようなことはつつしまねばならない。とにかくだいたいのストーリーが頭の中にできたら、鉛筆をとりコマワリをする。だいたいの人物と、セリフを入れる。三十頁物なれば、三十頁分のセリフを入れるのである。一度できたコマワリは、すぐにあわててペン入れをすることなくひとばん寝て、あくる日もう一度調べて、修正してからやるのが好ましい方法である。

だいたいのコマワリができると、こんどは一コマずつ人物を鉛筆でていねいに書いてゆく。この場合、コマ数が多いからといって、いいかげんな書き方は禁物である。いいかげんに書く人は最後までいいかげんである。一コマの人物を完全に書くのには大変骨がおれて、イヤになるものであるが、我慢してなっとくのゆくまで消ゴムを使ってなおすのである。その努力をせずに、ポイポイと三十頁書いても少しも上達しない。よく、「漫画の描き方」などに、遊びながら上達するようなことが書いてあるが、残念ながら、マンガには努力なくして上達する方法はない。（もっとも始めから遊ぶ気持ちでやっている人は別であるが）

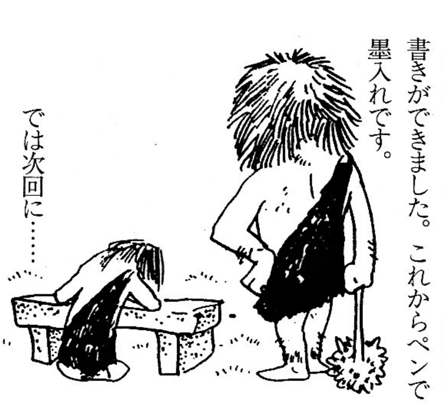
どうしても自分でうまく形がとれない時は、自分の好きな作家の絵をみて書くのも良いであろう。しかし



うまくなったら、人真似はさけた方が良い。一般に、コマ割の方法は、まず、物語のはじまる場所を読者に知らせるために、風景をかく。これで、読者はだいたい物語の始まる場所を知る。次に、家で事件が発展するならば、家、それから人物に入ってゆけば分りやすい。「いつどこでなにが行われるか……」ということはできれば初めに説明しておくとつごうがよい。「どこで何者が何をやりつつある」のか分らないのは、一番読者をイライラさせる。



また、二、三頁上半身の絵でうめたりするのも良くない。出来得れば、遠景、中景、近景とおりまぜるのが画面に変化ができてよい。強調するべきところはアップにする。あまり強調すべきところが多すぎて、やたらにアップを使うと、カンジンのところでアップがきかなくなるから、これはほどほどに使うべきであろう。これは、新人の原稿にやたらにアップが多いので、注意するのである。要するに、アップは全身からくるよりはるかに楽だからそうなるのであろう。要するに、少しだからナマケテヤレ、という心が一番上達をさまたげるのである。そして、最後の二、三頁は物語の山場か、しめくくりにあたる部分であるから、ここに最高の力をふりそそがなくてはいけない。よく新人の原稿をみると、後半がムチャクチャである。なにも、急ぐことはないのだから後半こそ、最大の力をそそぐべきであろう。さて、これでだいたいストーリーと鉛筆の下書きができました。これからペンで墨入れです。

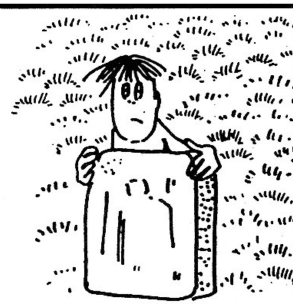


では次回に……

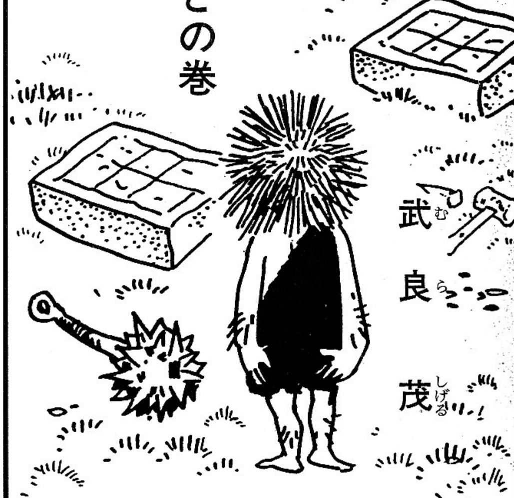
漫画講座

マンガの書き方〈その三〉

ペン入れ、表紙などの巻



武良茂（むらしげる）



材料もととのいストーリーも一応できき鉛筆で下書きを終ったところでペンを入れる。

これはプロが荒っぽくやっておるというのでわざと荒っぽくするようなことをしてはいけない、常にていねいにきれいにやるべきである。

わざと荒っぽくやりたいならきれいに細かくかけるようになってからやればよい。

将来プロになって〆切期日においまくられれば誰でも自然に荒っぽくなってしまうものだ。

常々荒っぽいものを描いていると将来限られた時間内で描くとき大変なものができてしまって誰も原稿を買ってくれる人がいなくなるかもしれんから充分注意しなければならない。

（ホントヨ）

また始めから独創的であろうとして自分の画風みたいなものを作ろうとせず初めは好きな人があればその人のまねをしていてもかまわない。

画風は長年やっていると自然にできるもので始めからムヤミに独創的である必要はない。形がキチンとしていることが大切である。

用心しなければならないのはペンを握ると新人はすぐに画家になってしまう、マンガは画家でなくて作家なのだから一コマ一コマの表現のポイントをつかんでやることがかんじんである。

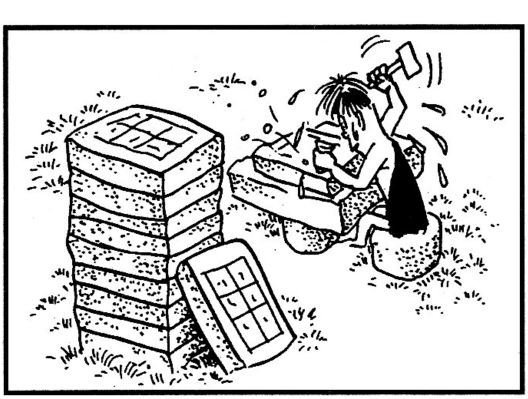
三〇頁でもよい短編ができたとする。スミがかわいてからケシゴムでよく消して読みにくい字はなおして黒いよごれはホワイトで消してきれいにする。

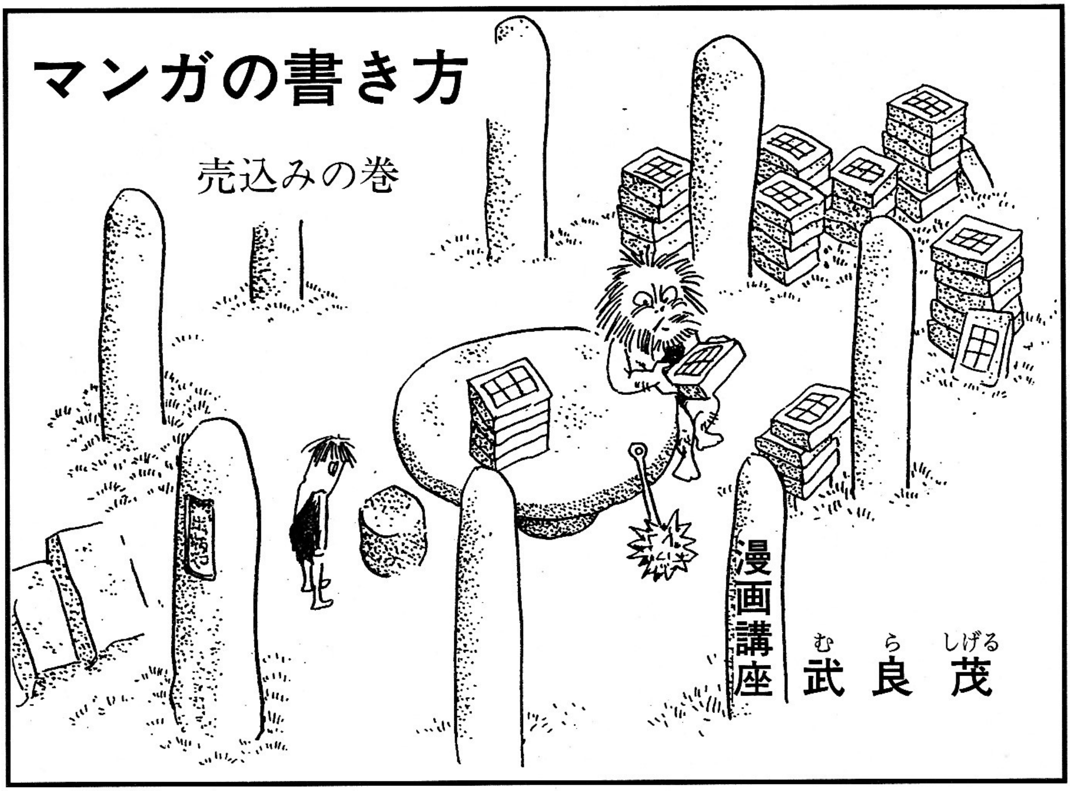
それをすぐに出版社にもってゆくようなあわてかたをせず一日位家においてあくる日も一度修正する位のゆとりがないと。どういうのか新人の原稿はあわてふためいて書いてある。

もうすこしおちついたら……と思うのは私ばかりではない。

つづいてそれを売込む、即ちその……今までの「マンガの書き方」になかった売込みの方法及び売込みに失敗した時の心得のような現実にきわめてカンジンなことに頁をさきたいと思っているがそれは次回にゆずる。

以下次号



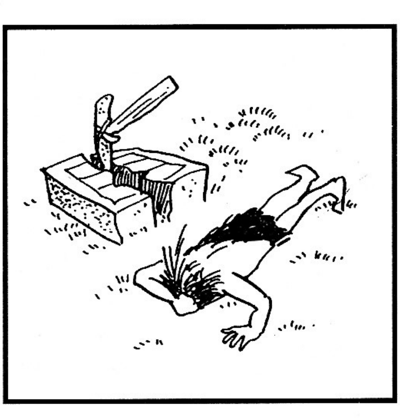


マンガの書き方

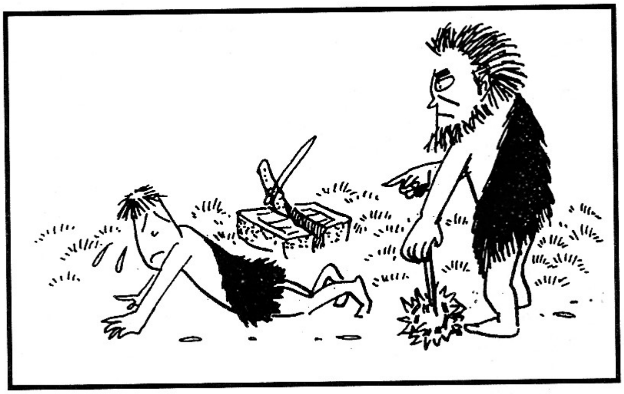
売込みの巻

漫画講座 武良茂（むらしげる）

諸君は今までで一応マンガの書き方を心得そして一冊分仕上ったとする。さてそれを押入れの中にしまってネズミにカジらせようとか女の子にみせて満足する……
というなら別だが普通健全な頭脳の持主ならそれは売込みのためにかかれたことを知っておるであろう。
まず出来上がった原稿をていねいにも一度しらべて手アカでもついていればきれいに消し、鏡をみて髪にポマードでもつけキチンとした格好をして目ざす出版屋に出かける。
ベートーベンのような髪をして、乞食のような格好も天才スタイルとしてイカサナイこともないが、
相手は編集者であるから、動くたびにシラミが一匹ずつ机の上に落ちるような不潔さではイケナイ。
私はかつてシラミこそ発生していなかったがヨレヨレのズボンをはき、三、四ヶ月サンパツしないで出版屋の門をたたいて、門前払いをくったことがあるので老婆心から清潔を強調したい。
また清潔を通りこして赤いベレーに蝶ネクタイまたショートパンツといったような超現実的なスタイルも考えものだ。

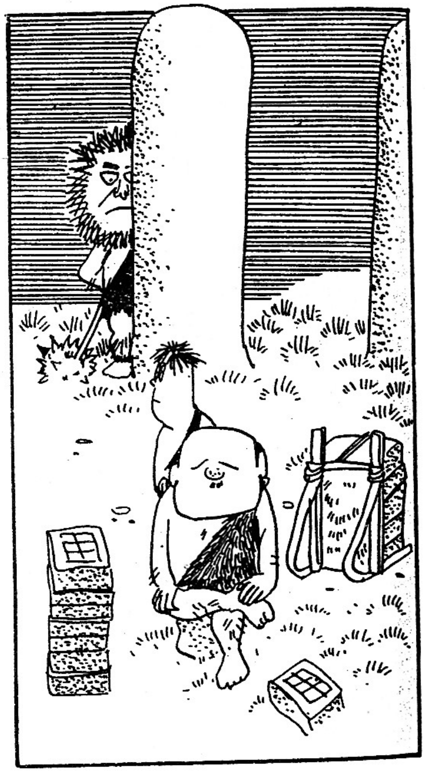


そんなのも相手をおどろかせる。
私はある大家に赤いシマのシャツにみどりのショートパンツ姿で女性の声で話された時はドキッとした。
それは女性として判定すべきか男性として判定すべきかにとまどったからである。
それが国電の中であったから人々の視線はその異様なスタイルにいっせいにそそがれた。
しかも本人は平気で女性のようなソプラノで笑いながら話しかけるのである。
マンガ家又はマンガ志望者の中にはしばしばこうした常識外の人物がおり、平気で異様なスタイルをしてい



るのによく出会うので、私はマトモなスタイルで出版屋の門をたたけと強調するのだ。

余談はそれ位にして、諸君はうすぎたない出版屋の門をたたいたとする。その時あまりエラそうにしてはいけない。受付があれば受付嬢にていねいに原稿をみせにきたといえばよい。幸いにして初対面から理解のある編集者に出会ったらしめたものである。



しかしそんな例はあまりないから、大きな困難に向うという決意をもってゆくべきだ。

いそがしいといって会わなかったり、会ってもらっても、安マンガといって原稿の上にポテンと煙草の灰をおとされただけでみてもらえなかったとしても、諸君、腹を立ててはいけないのだ。

またみてもらっても、これならどこかほかにもって行ってみなさいとかウチじゃこんなもの出せない……とか云われたとしても、ヒカンしてはいけない。何度でも何度でもゆくのだ。この根性がないと、プロになれない。諸君、断られたりバカにされたりした時にこそファイトをもやすべきだ。おそかれ早かれこの関門を突破しないとプロになれないのだから……この関門が一般のマンガマニアとプロを大きくへだてているのだから……一回や二回のノックダウンでへこたれてはいけない。

もし万一幸運にも、第一回でパスして採用されたとしても、油断してはいけない。よく二、三年でダメになる人の中には始に幸運だった人が多い。不運こそ最大のシレンであり、自分の作家魂の見せどころである。我々の大御所××△△氏は新人時代カラッキシ売れなかった。普通の人ならとっくにやめているような環境にありながら、氏はあきらめなかった。だいたい編集者の中にはマンガの分る人はあまりいない。(ホントヨ)彼等はサラリーマンなのだ。中にはマンガの好きな編集者もおるが、マンガに対する情熱の問題になってくると問題にナラン……しかし、現実にはこの編集の手を経なければプロになれないから、常にスマイル(微笑)をもって接し、時と場合によっては編集者の安物の背広のホコリを払う位の演技をしなくてはいかん。(ツライトコヨ)一ヶ所に集中攻撃をかけ、相手をホロリとさせる手もあるが、「犬もあるけば棒にあたる」、というイロハカルタではないが、やたらに広くあるき廻る手もある。社会勉強として、これも捨てたものではない。が、たいていの人は一ヶ所で断られてガクンときて、あたら才能をもちながら自信をなくしてしまいがちである。それほどノックダウンは新人のアタマにズキンとくる。精神的に立ちあがれなくなるのヨ。(ホント)しっかりしてネ。

この「マンガの書き方」は、何々先生著の遊びとしての「マンガの書き方」ではなく、真剣に勝負する者の読むマンガの書き方だからアマクナイネ。次回「プロになる三つの道」の巻、読みのがさん方がいいと思うヨ。

マンガの書き方

プロになる三つの道の巻

武良　茂



諸君は、前号の売り込みの巻で、出版屋に断られ、ガクンときて、いままでの山のような自信もあとかたもなくくずれ去り、ボーゼンと灰色の空をながめていたとする。

その時、私はキミの肩をたたく。ソンナことでダウンしていいのか。それはプロになるために誰もが味う精神的シレンなのだ。

ここで、再びファイトをもやさないようではとうていプロなぞになれない。………というのは、道はこれからけわしくなるのだ。

カラッポの頭と、カラッポの財布をもって、誰もがうちのめされてきた道なのだ。

才能は初からあるわけではない。一日一日とつみかさねるのだ。空っぽの頭に入れてゆくのだ。

労せずして充実した頭なぞありえようはずはない。

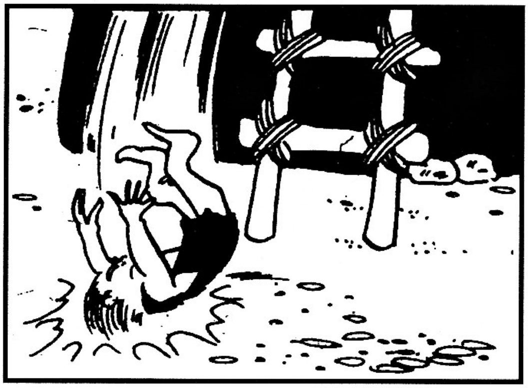
不遇の時代でも、古今東西の名作は読破しておく位の心がけをもっていなくてはいけない。

なぜこの道がエライのかというと、作家であると同時に、画家でなければならぬから、人の倍の努力が必要になってくるのである。

さて余談はこれ位にして、「プロになる三つの方法」の話にうつる。

第一は、今までのような直接の売込み。もう一つは投稿である。自分の書いた原稿を作家なり出版屋なりに送るのだ。たまに原稿をかえしてくれることもあるが、たいていはかえしてくれない。はっきりいえば、問題にされていないのだ。

だがヘコたれてはいけない。本当にプロになろうとするなら、三年位毎月送る位の情熱がないとダメである。





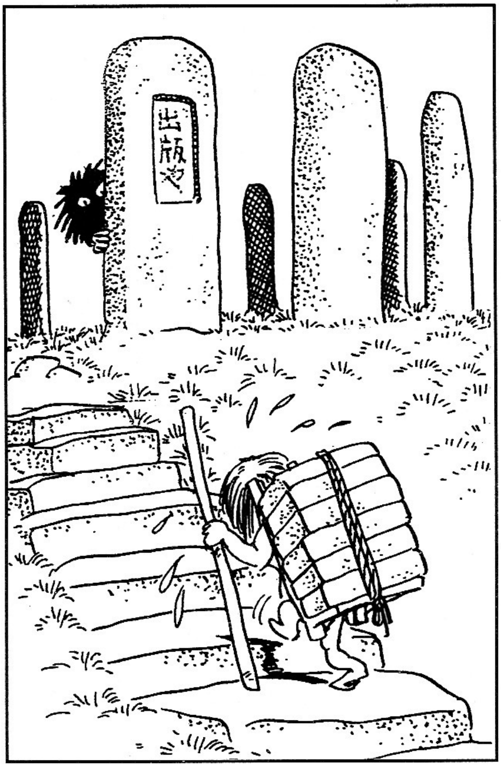
さて、最後に作家のアシスタント即ち助手になる方法がある。
これを三年ばかりガマンしてやっていれば、いろいろな出版界の様子も分り、案外かんたんにプロ入りすることもできる。
しかし、少しかけるようになったからといって、飛び出たり、早々独立しようとしたりはしない方がよい。
私は、それで失敗した多くのアシスタントたちを知っている。

アシスタントになるには、プロ作家の家を廻るか、出版屋にたのむかすればよい。
その場合、相当描けなければいかんことはもちろんである。
私はこのへんまで書くと少々タイクツになる。
……というのは正直にいってプロになったからといって決してラクではない。限られた時間、限られた生活の中で常にケッサクをかかねばならん。好きであるからやっておるとはいうもののフラフラである。
常に多忙であるから、デイトもままならず（マンガ家の中でデイトをたのしみ仕事もキチンとする者があるとすればよほど才人か天才であろう）
第一いそがしいわりにはお金が入らないから常に質屋とはヒンパンな取引が行われる。
ボヤボヤしているとパンツまで質屋にもってゆかれるといった事態になりかねない。
しかし、こんなにまでしてもマンガをかく決意と情熱がなくてはプロにはなれない。（ホントヨ）
さて私は、ここに将来の展望を持ってこの「マンガの書き方」を終りたいと思う。
いわゆる雑誌のマンガから、劇画という少し高学年も読めるマンガが登場したのは最近だ。この劇画はいわゆる低学年向の雑誌マンガとは区別すべきものだ。劇画は大人の方向に向っていま進みつつある、即ち目で見る小説として登場しようとしているわけだ。いわば新しいジャンルだ。
それには……それにはである。劇画全体のレベルが向上し、どの作家も、大人がみても子供がみてもたのしめるものができるようにならなければいけない……現在のようにあまり面白くない、ノウマクエン的ストーリーがはびこっているようでは、大人も読む気にもなれないというものだ。今までは劇画の創成期でありこれからが本当の劇画の完成期である。優秀な新人がゾクゾク現れてこの劇画という『目でみる小説』を完成させるのだ。



「マンガ講座」
「漫画の書き方」完

次回は
劇画小史



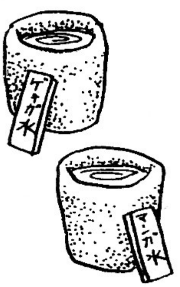
漫画講座 劇画小史(一)

武良　茂



これから劇画をかく人でも又読む人でも劇画という新しい分野がどうしておこったかという過去を知っておくこともムダではない。

それに近頃批評家が現れてマンガや劇画を批評してくれるようになった。これはまことにありがたいことでこれは始めて社会の一員として認られたような感じでウレシイことだ。



ゲキガってなんだい。と正面からいわれるとこまる。というのはマンガと劇画とは同じ水だからだ。こっちの水がマンガ、こっちの水が劇画だといったところで通らない話だが一般に貸本屋のマンガを劇画といい雑誌のマンガをマンガというようだ。

その外に劇画即ち貸本屋のマンガの中には例えば小島剛夕のような大人向のものもある。雑誌のマンガは子供に限られている。従ってストーリーのはこびも子供向である。

今から十年ばかり前は雑誌のマンガも貸本屋のマンガも同じだった。

だんだんと貸本屋の方は高学年向にうつり、大人の分野にも入ろうとしている。そのために絵もストーリーも雑誌のものとはいささか変ってきた、そのために一部の人は五、六年前から劇画と呼ぶようになりマンガと区別するようになった。

そうした空気は前からあったが、ハッキリ打出したのがたしか四、五年前………

六、七人の新人?が原稿料の安さに耐えかねてはるばる片道の汽車賃をもって東京へやってきたのだ。

これがこの劇画界に旋風を巻き起すとは誰も考えなかっただろう。



さいとうたかを、佐藤まさあき、辰巳ヨシヒロ、松本正彦、石川フミヤス、桜井昌一を主体とする一族で劇画工房と名づけ、やつぎ早に短編集を出した。これは全く当時としてはザンシンなもので大騒ぎになった。マンガから劇画への最初の一石は劇画工房によって投ぜられ、それが又売れたものだから引っぱりだこになり、あわてた出版屋はさいとうたかをに似た絵でないと門前払いを食わすようになった。だから当時の新人はあわてふためいてさいとう流のマネをした。またプロ作家の中にもさいとう流をマネるものが続出しさいとう流はいつしか劇画界の主流派にのし上り、それに似ていないものは古いときめつけられ（今でもその傾向が残っているが）原稿料は下った。この劇画工房旋風も最近ややおさまりカッコイイものよりストーリーと絵の独自性がいくらかみなおされるようになった。またさいとう流をまねた人もそれぞれ独自の画をあみ出して来た。



この劇画を真に高め広く読ませるようにした人は白土三平である。この人の業績は偉大でありいずれ後世に高く評価されるだろう。

次いで私は小島剛夕、諏訪栄、楳図かずおをあげたい。これは大人の鑑賞にも耐えるし中でも小島剛夕の長編物は立派な作品だ。

その外独自の作品を書く人に平田弘史、佐藤まさあきがある。いずれもこの劇画をささえる人達である。

これらの人の作品が果してマンガと呼ばれるべきものか………

そこから劇画という言葉が自然に生れたのである。情熱の人横山まさみち氏曰く、劇画はマンガという川から生れた一支流でありこれが発展し大河となるかまたマンガに合流するかは現役作家である我々の努力次第である…と全くその通りで劇画はいま現れ出ようとしている新しい分野なのだ。

十年前をふり返ってみれば分るように絵もストーリーもずいぶん変ってきている。十年前のマンガはおそらく批評しようにも批評の対象にならなかった。マンガ評論家も生れ批評されるようになったということはそれだけ内容が良くなったからだ。またどしどし批評してもらって下らないものはくだらぬといってもらわねばただ目先で売れるということだけを目標にしてそれを唯一の価値としてこの劇画をかく作家の多い現状では真の劇画の発展はないだろう。売れるものを書くことも大切だが真に良いものを書くことも大切だ。



……しかし……とここで私の筆はしばしとまる。

あまりゆっくり時間をかけて名作を書いても餓死するという現状だからである。一ケ月二冊のスピードがないと原稿料が安いために餓死するのである。こうした悪条件の中で売れてしかも名作をかくということは神業に等しい。そういうことにも問題があると思うのだが……論旨が横みちにそれるのでこの話はこれ位にして……

最近の劇画界にはやたらにピストルをぶっぱなす定職のない主人公がへって青春物などという非常にヒューマニティなものが登場して新しいジャンルになったことはいい傾向だ。おそらく青春物でうまい作家が出るとこの劇画界ももう一歩前進するのではないだろうか………　完

「言霊使いの罠!」制作日誌

スタッフルームの"憑かれた11カ月"

有原美千代
（プロデューサー補佐）



◆**'97年の2月某日**……春の東映アニメフェアの打ち上げの席上、鬼太郎TVシリーズの前プロデューサー・清水さんに、こんな話をした。

「鬼太郎のシナリオ、京極夏彦に書いてもらえたら、すごいですよね」

そもそもこれは、会社の仲間内の茶飲み話でぽろっとでた〝冗句〟であった。当人たちは、今回の「ゲゲゲの鬼太郎」で憂歌団や佐野史郎などの豪華ゲストを迎えて作品を作った前例を振り返り、更にその上を行く〝最強のゲスト〟は一体誰だろうと、無責任に遊び半分に、でも少しだけ真剣に考えていたのであった。

あったのだが……。

「京極夏彦にシナリオ、ねえ……」

酒の席の話だ。いくらなんでも、そんな好き者たちの与太話を清水さんが真に受けることもなかろうと、ほんの冗談のつもりで前述の話をしてみたのだ。しかし。

「面白いねえ」

清水さんの目が、憂歌団や佐野史郎さんのAR出演の話をしていた時の目になっていた。

◆**6月某日**……折しも、夏のアニメフェアの劇場版・鬼太郎の制作真っ盛り、という時。

「京極夏彦さんにね、鬼太郎のシナリオを頼んでみようと思うんだよ」

〝はい？〟と、耳を疑った。鬼太郎の新プロデューサー・蛭田さんと、アシスタントの私を前に、清水さんがこう切り出したのだ。

何ということか……清水さんは本気で京極氏にシナリオ執筆を依頼する気だ。以前話をしたときから間があったので、まさか本当に清水さんが動き出すとは思わなかった。

それに、何と言っても、あの京極氏である。「姑獲鳥の夏」を書いた京極氏である。「魍魎の匣」を書いた京極氏である。「狂骨の夢」を……ごめんなさい。

え～、とにかく、いずれにせよ……実現したら、えらいことだ。

◆**7月某日**……「京極さんね、今月末までに鬼太郎のシナリオを上げてくれることになったから」

ついに、あの京極夏彦が、鬼太郎のシナリオを書くことが決まったのだ。しかも、オリジナル・ストーリーで！（7月現在、話数未定）

ブラボーである！　ハラショーである!!　マエストロである!!!　嗚呼、鬼太郎スタッフとして、京極ファンとして、そして人として、こんなに喜ばしいことはない！

なんて狂騒状態を経て、ようやく我に返った私の脳裏に、ふとある不安が浮かんだ。

京極氏は、1作当たり〝千枚二千枚は当たり前〟という位ボリュームのある大長編を執筆される方だ。その原稿全てを広げると、東京ドーム5つ分の面積に相当するという（大嘘）……そんな京極氏が、ペラ（20×10字）60～70枚のTVアニメーションのシナリオを書く……心配するなどとは実に失礼な事なのは判っているのだが……大丈夫だろうか？

「京極夏彦にシナリオ頼んで、ペラ千枚上がってきたらどうする？」

「いや、目玉おやじが妖怪の蘊蓄を傾けるだけで30分使う話に違いない」

などと、昨年仲間うちで与太話をしていたばっかりに、ついしなくてもいい心配をしてしまう（京極先生、お馬鹿なファンで申し訳ありません）。

今からシナリオを読むのが楽しみなのだが、月末が来るのが少しだけ怖い。

◆**8月5日（火）**

この日、お台場のフジテレビ近辺で、「鬼太郎」96～99話のロケハンを行った。

この4話は、鬼太郎vs.ぬらりひょんの戦いのクライマックスとも言うべき大掛かりなシリーズで、ぬらりひょんもついに命運尽き、華々しく散ることになったのだ。スタッフ一同、今まで以上に力を入れてこの連続ものに取り組んでいる。

一方、7月末と言われていた京極氏のシナリオだったが、ついに明日、明後日中には上がることになった。わくわく。

◆**8月7日（木）**

京極夏彦氏のシナリオが上がった。

タイトルは……「言霊使いの罠！」。

清水さんからコピーを渡され、ざっと中を見た。すると……何とそのシナリオは、一見して、眼前に製本シナリオのコピーがあるのかと思うほど、完璧な〝製本シナリオ〟の書式で作られていたのだ。（別冊シナリオ参照）

今回鬼太郎の敵として現れるのが〝一刻堂〟という言霊使い。『姑獲鳥の夏』などのシリーズに登場する〝京極堂〟を彷彿とさせるキャラクターである。そして勿論、京極堂の〝あの台詞〟も本編中に登場するのだ。

特に、後半の緊迫感。対妖怪では無敵の鬼太郎が〝妖怪〟という存在そのものの有無を問いかける一刻堂の〝言葉〟に追い詰められていく様は「この世に不思議なものなどなにもない」という台詞に体現される京極世界と鬼太郎世界そのものの激突である。凄い。そして、彼を使って鬼太郎を抹殺しようと企てるぬらりひょんも登場。最近お見限りだった祐子ちゃんたちもでるし、朱の盆も……。

ぬらりひょんと朱の盆!?

◆**8月8日（金）**

大泉スタジオにて84話の初号。この回の演出・佐藤順一さんが「クレヨン王国」のシリーズ・ディレクターとなったため、これが佐藤さん最後の「鬼太郎」となった。

そして、そんな感傷に浸る間もなく、初号直後に99話の演出・境くんを捕まえる。

「ごめん……ぬらりひょん殺さないでくれる？」

……前の日、京極氏のシナリオを読み、蛭田さんや清水さんと話した結果、ぬらりひょんをこの話から削る訳にも行かないので、99話のラストを変更することになったのだ。

かくして、99話でお亡くなりになる予定だったぬらりひょん様は、しぶとくも復活されたのであった。

◆**8月12日（火）**

話数未定・演出未定のまま、京極シナリオの打ち合わせを行うことになった。

生憎フジテレビの原田氏が来れなかったため、清水さん、蛭田さん、代理店・読売広告社の木村氏、私の4名での打ち合わせである。

一番の問題は、このシナリオの長さ。といっても、本当にペラ千枚あった訳ではない。現行のTVシリーズのシナリオがペラ60～70枚、しかしこの京極シナリオはざっと見ても90枚くらいか。そのうえ長台詞が多いので、シーン丸ごとオミットするくらいでないとTVの尺に収まり切らないのである。残念だが、惜しくても削るしかない。

打ち合わせの末、一刻堂がねずみ男に鬼太郎をおびき出すよう依頼するシーンが丸まるオミット、更に冒頭でぬらりひょんが一刻堂の屋敷に上がり込むときの〝いかにもぬらりひょんらしい〟登場シーンが削られることになった。個人的には、未だTVでやったことがないぬらりひょんの登場シーンを是非見てみたかったのだが……実に残念。

◆**8月18日（月）**

「京極さんがね、一刻堂のキャラを自分で作っちゃったんだよ」

清水さんの言葉に絶句。もう、凄すぎて何

も言えない。
何でも、先週境港市にて開かれた第2回世界妖怪会議の会場で、清水さんと蛭田さんは京極氏本人に会い、その際キャラクターのラフを渡されたのだそうである。
京極氏が描き起こした〝一刻堂〟は、もう間違いなく〝京極堂〟であった（黒ずくめの扮装に手甲までつけているっ！）。しかも、表情や小道具、服装に色の指定まで、そのままキャラ設定として使えるくらいよくできている。
さらにその上、瀬戸大将と護法童子も、水木先生が新たにキャラをおこしてくださるとのことなのだから……もはや、言葉もない。生きててよかった。

◆**8月19日（火）**
とりあえず、京極シナリオの放映は年末（12月28日）の101話になった。年末年始の特番の都合上、日付は流動的であるが、ほぼ決定だろう。
ただし、演出が未定のままである。

◆**8月20日（水）**
タバックにて、100話の第1稿打ち合わせ。京極氏の101話に続き、祐子ちゃんたちがまた登場した。色々と訳有りでなかなか再登場出来なかったので、感慨もひとしおである。思わず嬉しくて、青二プロダクションのマネージャー・角さんに祐子ちゃんたちが出ることを報告。3人組の声優さんたちも喜ぶだろう。

◆**8月26日（火）**
新宿オフィスにて100話第2稿の打ち合わせ。と、シナリオが大直しとなり、祐子ちゃんたちの出番がカットされてしまった。明日、角さんに話さねばならない。
「フハッ！」の気分である。

◆**8月28日（木）**
声優さんと言えば。
一刻堂の声優の件だが……清水さんが境港にて一刻堂のキャラを受け取った時、京極氏に「是非、声優もやってみませんか」と話を持ちかけたらしい。有原、驚愕……！
「本当なんですか本気なんですかどうなんですかえっえっ？」と句読点なしで叫びながら清水さんに摑みかかってしまいそうなのを辛うじて抑えて真相をたずねると（はあはあ）、
「いや、その時は、特に返事は貰えなかったんだけどね」とのこと。だが。
「9月に推理作家協会の文士劇にも出るって話だし……ひょっとしたら……」
そんな事を呟く清水さんの目が、またあの時の目になっていたのを私は見逃さなかった。

◆**9月3日（水）**
「一刻堂の声優さんの件ね、京極さんがやってくれるって」
有原、絶句。清水さんは京極氏の声優出演交渉を、最高の形でまとめてしまったようだ。それにしても〝京極堂〟そのものといっていい〝一刻堂〟を、京極氏本人が演じることになるとは……もう実物を見る前から、アフレコの日が楽しみでしょうがない。

◆**9月5日（金）**
水木先生描き下ろしの瀬戸大将と護法童子のキャラが上がった。（巻頭三つ折り）
護法童子は、絵巻物などの諸文献に載っているものとは趣を異にして、すっかりかわいいキャラになっている。そして、瀬戸大将。鳥山石燕の絵を元に、更に愛嬌たっぷりになった水木先生の瀬戸大将をじっと見る……と、〝急須〟を背負っている。この〝急須〟、見ようによっては地面においてあるもののようにも見える。でも、ほかの文献の瀬戸大将も〝急須〟背負ってるから、やはりキャラの一部だと思うのだが……悩む。
一応、キャラ発注の際に〝急須〟を忘れず描いてもらうよう、念を押す。

◆**9月9日（火）**
京極シナリオを話の種に、OZの「ドトール」にてスタジオの先輩方と茶飲み話。以前〝京極シナリオはペラ千枚〟などと無責任に暴言を吐きまくったメンツである。
京極氏が描いた一刻堂を見ていると、演出の角銅さんが「これは〝念仏の鉄〟だ。この服装といい顔付きといい、このキャラは山崎努のイメージに違いない」とのたまった。
そうか、一刻堂……いや、京極堂は「必殺」シリーズのイメージだったのか……？

◆**9月10日（水）**
実は、諸般の事情により101話の演出が未だ決定していなかったのだが、ここ2週間ほどの話し合いの末、奇しくも本日アフレコ分の89話の演出であり、京極夏彦ファンである角銅さんに、京極シナリオをお願いすることになった。
しかし、昨日の〝念仏の鉄〟発言の直後で、こんな展開になるというのも妙な縁だ。いや、更に溯れば、角銅さんは去年、京極夏彦にシナリオを！と冗句で笑っていたメンバーの一員である。これも縁だろうか。それとも天罰だろうか……いや、宿命に違いない。

◆**9月12日（金）**
夕方より、101話演出に決まった角銅さんを交えてシナリオ打ち合わせ。もっとも事前の打ち合わせで、内容的には全く問題がないことを確認しているので、もめるようなことはない。……ただ、京極氏が一刻堂の声優をすることになりそうだと聞き、角銅さんは少し悩んでいるようだ。何せ、今回の主役とも言うべき一刻堂は、長台詞を喋りつづけている。口パクのタイミングに合わせて、演技しながら喋るのはとても大変なことだ。……果たして、アフレコ初挑戦の京極氏、大丈夫だろうか？
だがいずれにせよ、京極氏出演の件はまだ未定だ。とりあえず角銅さんは、京極氏が一刻堂を演じる事を前提に、絵コンテに取り掛かることになる。早ければ、来週末にはAパートが上がるとのこと……。

◆**9月22日（月）**
「300年もののスルメのように噛みごたえがあるね」
と語るのは角銅さん。どうやらコンテを切るのに色々と難渋しているようで、Aパートの上がりが明後日の水曜日になりそうだとのことである。

◆**9月24日（水）**
夕方、角銅さんがコンテAパートを持ってタバックに現れた。早急に京極氏のチェックをもらうため、そのまま絵コンテのコピーを送り、その後コンテをチェック……なんと、シナリオ段階で割愛した〝立ち働く人々の間を縫って現れるぬらりひょん〟の部分が復活していた。シナリオの中でも好きなシーンだったので、よかった。
それから、問題の一刻堂の〝演技〟であるが、とりあえずAパートに関しては、口パクが気にならないよう色々工夫をしてもらっているようだ。
京極氏のアフレコも、これなら何とかいけるだろうか？

◆**9月29日（月）**
荒木さんのラフキャラ4点（一刻堂、瀬戸大将、護法童子、小鬼）が上がった。
ところが、瀬戸大将の〝急須〟がなかった。やはり背景と間違ってしまったのだろうか？とにかく〝急須〟部分だけ直しをお願いする。
絵コンテBパートの上がりを待って、修正が間に合うようだったら、一緒に京極氏にチェックしてもらうようにしよう。

◆**10月1日（水）**
93話のアフレコ時、フジテレビの原田さんが来る。101話の件で「年末か正月あたまで、スペシャルとして放映したい」とのことである。
それと、今回の京極氏のシナリオを講談社から出版する話も出ている。水木先生との対談も交えたマニアックな「鬼太郎本」になるらしい……と他人事みたいに言っているが、私もその本のために、設定集めなどの準備をしなければならないようだ。

◆10月3日（金）
今日ついに、あの、水木しげる氏と京極夏彦氏にお会いする僥倖に恵まれた！「言霊使いの罠！」のシナリオ出版に伴って、水木・京極両氏の「鬼太郎対談」が企画されたのである。（P12〜鬼太郎大対談参照）
清水さん、蛭田さん、私もご挨拶かたがたその現場へ行くこととなった。吉祥寺の中華料理店「竹爐山房」。対談が一段落ついてから、ついに水木・京極両氏の対談が行われた個室へ招き入れられる。
水木先生には以前一度だけ、番組開始直前のお祓いの時、お会いしたことがあった。ますますお元気な様子である。そして今日初めてお会いする京極氏は……やはり黒い手甲（レーシンググローブか？）をつけておられる。噂どおりの〝京極堂〟ぶりである。
対談は終始和やかに進んでいたようで、水木先生は雲南省に行ったとき食されたお茶とお菓子の話などを上機嫌で話されている。
一方京極氏は、今回のテレビシリーズについて感想をうかがっているうちに、どうやら氏が今回の「鬼太郎」を全部、いや、今回どころか、鬼太郎の全シリーズ、全話、ビデオにとってご覧になっていたことが発覚。もう、頭が上がりません。凄い人だ。
あと、絵コンテへの追加注文として、Aパートでぬらりひょんが煙管に火をつけるアクションを足すこと、そしてラフの上がった一刻堂について「もう少し老けた感じに」という意見があった。

◆10月4日（土）
先日の対談の余談。
水木・京極両氏の対談終了後、講談社の入江氏、今回の本の編集取材をされる入澤氏と話をしていると、店の人が「ライターお忘れですよ」とZippoのライターを持ってきた。
どうやら、京極氏の忘れ物らしい。
店員さんから手渡されたライターを、こっそり懐へ忍ばせ……ようとするファン心理を良心で抑え、有原は速攻で店の外へ走り出て、タクシーで帰路につかんとしている京極氏にライターを手渡したのである。
有原は礼を言われた。そして、京極氏の手に少〜しだけ触れた。
……一生の思い出である。あと1カ月くらい幸せでいられる。

◆10月7日（火）
瀬戸大将の修正版キャラが上がる。結局〝急須〟は、アクションシーンがあるので水木先生の絵より若干小さめのものがつけられることになった。
あと、先週京極氏よりチェックの入った、ぬらりひょんの煙管のシーンと一刻堂の老け顔について角銅さんに伝えると「作画作業で修正して行くから」ということで決着。

◆10月12日（日）
日本推理作家協会文士劇「ぼくらの愛した二十面相」がBS2にてオンエアされる。101話の参考として、私は眼を輝かせて〝京極チェック〟を行う。
京極氏はドあたまから〝死体〟役を怪演、観客の声援も大きく、京極堂人気の高さがうかがえる。さらに、その後の再登場シーンでは、手に〝京極堂〟と書かれた提灯、経帷子に三角布というトラディショナルな（……？）幽霊スタイルで現れ、会場を沸かせていた。そのうえ「ミステリは理の文学である」と決め、朗々と京極ミステリ論を展開……そして、締めくくり。額の三角布をむしり取り、びしっと見栄を切って、
「この世に、不思議なものなどないのだよ……」
よっ、京極堂！

◆10月13日（月）
京極氏より、101話Bパートについて「鬼太郎たちの立ち位置を、コンテの位置よりも五芒星の頂点の方にずらしてほしい」とのチェックが入った。これもAパートの直し同様、作画段階で直せるようなので、問題なし。

◆10月14日（火）
午後、「鬼太郎本」出版の件で、キャラデザインの荒木さん、姫野さんと101話作画監督の木下さんへの取材が行われた。私と蛭田さんも荒木プロダクションへ。「原作に近い、可愛いけれど不気味な鬼太郎を描きたかった」と荒木さんが語っていたのが印象的だった。
その後、101話のレイアウト作業をしていた木下さんの取材。……するとなんと、木下さんが京極ファンであったことが判明。

◆10月16日（木）
シナリオ進行の事情などで遅れていた、101話以降の製本シナリオが出来上がる。ちなみに、101話のサブタイトルは、そのまま「言霊使いの罠！」。
講談社の入江さんや京極氏へシナリオを送る片手間で、中身に目を通している時、ひとつ、心底後悔したことがあった。キャスト表の〝一刻堂〟の声優の欄に「京極夏彦」と入れてしまえば良かった……！

◆10月17日（金）
一刻堂の色見本ができた。もっとも色に関しては、京極氏のキャラ表の指定どおりなので、問題はないはずだ。ただ、一刻堂の瞳を赤にしているので、違和感を感じるかもしれない。一応、京極氏にチェックのため送ることにする。

◆10月21日（火）
企画の部屋に来た角銅さんがポツリと一言「コンテ尺、3分越えたよ」とのたまった。やはり、長台詞の処理で難渋しているようだ。通常のシナリオなら「コンテ尺で3分足りなくなる」こともあるという角銅さんなのに……京極シナリオおそるべし。

◆10月27日（月）
TVシリーズ各話のシナリオは、企画営業部で別室に保管してあるので、特に手元に置かなくても「見たいときに見に行けばいい」程度で済んでいたのだ。しかし、今回ばかりは101話シナリオが欲しい！　完全に仕事に私情を差し挟んで「鬼太郎」101話シナリオをゲットすべく、シナリオの保管場所に向かうと……なかった。
本来なら、常時5〜10部くらい、各話のシナリオがストックされているはずなのに、101話はたったの1部しか棚にない。おそらく、誰か（複数のかくれ京極ファン）が持って行ってしまったに違いない。そしてさらに確認してみると、スタジオのみならず、新宿オフィスや録音スタジオのタバックでも同様の状況だった。
シナリオを持って行った人々に告ぐ……私も欲しかった。

◆11月7日（金）
この日新宿オフィスにて、音楽家の和田薫氏と、バンダイの鬼太郎担当の太田健介氏にインタビュー。「鬼太郎」の音楽や玩具に関するエピソードを語っていただいた。
その際、二人の写真を撮影したのだが、和田さんは妖怪オカリナのおもちゃ（目玉のおやじ付き）を奏でる真似をしつつ、おやじ人形を肩に乗せてポーズ。たまたま、和田さんの髪が伸びていて鬼太郎然としていたため、妙〜に絵になっていた。更にそれに触発されてか、太田さんまでもが取材用にもってきた妖怪バスを手に、仏様のようなありがたいポーズで写真撮影に臨んだ。どうも「鬼太郎」関係者は〝芸人〟が多いようだ……。
その後、今回の本で「その後の一刻堂」の描き下ろしコンテ（P94参照）を書く西尾さんも合流して、みんなで食事へ。楽しい時間を過ごす。しかし、西尾さんの描き下ろしコンテがまだ上がってないとのことだが、だ、大丈夫かな……？

◆11月10日（月）
今週のアフレコは、99、100話の2本録りのため、それぞれにつく100、101話の予告を作らねばならない。早速、演出助手の田中さんが101話の予告を作ってくれたのだが。

「田中さん、ラストの台詞、変えません？」
通常はサブタイトルのあと〝君の後ろに黒い影〟という鬼太郎の台詞が入るのだが……。
「ラスト、一刻堂に〝この世に不思議なものなどないのだよ〟って言わせてみませんか？」
京極本未読の田中さんはピンと来なかったようだが、この台詞が今回のシナリオの引用台詞であると同時に、京極作品のお約束台詞であることを説明し、なんとか田中さん説得を試みる。そう、もちろんこの台詞を、京極氏本人に言っていただくのである。
だが。
「有原の趣味だから駄目」
蛭田プロデューサーが拒否権を発動、ボツ。

◆11月11日（火）
「鬼太郎本」のため、引き続き取材に立ち会う。本日は、美術デザインの浦田さん、シリーズ・ディレクターの西尾さん、記録の小川さんのインタビューと、動画以降のコンピュータ作業を行っているメディアビジョンへの取材。が、そんな中で、なおも101話予告の件がくすぶっている有原。
確かに思いついた時点では趣味だったのだが、京極氏の声を101話アフレコ当日にしても録音作業に支障は出ないし、憂歌団や佐野史郎の時のように一寸変わった予告を流すことで、次回の「鬼太郎」がいつもと違う話であるという事を印象づけられるのだから、別に悪いことなどないと思うのだが……せめてもう一考してはもらえないだろうか？
……と、決意を固めて再び蛭田さん説得を試みるが、またも却下。

◆11月12日（水）
どうも今回の件では頑固になっているらしい。99話と100話ARの合間に、ねずみ男の抜き録りとCMのナレーション録りを行うという強行軍のなか、三度101話予告ナレーションの件を蛭田さんに交渉。我ながら無茶をする。しかし、粘った末に、ついに説得に成功！
あとは、京極氏のOKさえとれれば……予告で一刻堂の台詞が聞ける！

◆11月18日（火）
午前中、101話の棒つなぎを見る。ついに、一刻堂が画面で動いたのだ！
ちなみに、今回は結構尺をオーバーしているはずだったのだが……「2分弱オーバーしてたけど、鬼太郎の10秒くらいのモノローグをバッサリ切って、後は細かいところで帳尻合わせたから。一刻堂の台詞は変更なし」（角銅さん談）……ということであった。
そしてアフレコ前日に、いい話と悪い話がひとつずつ。悪い話は、アフレコ見学に訪れる予定だった水木先生が、都合により来れなくなってしまったこと。いい話は、京極氏が101話の予告ナレーションを快諾してくれたこと。
いよいよ明日！

◆11月19日（水）
この項、アフレコレポート（P65）参照。

◆11月26日（水）
今日は101話のダビング。アフレコ時の慌ただしさから、後半の録りをほとんど見ていなかったので、今日やっと101話を落ち着いて見られる。
……やはり今回は、Bパートの緊迫感がいい。特に今回は、予定よりも音楽の数を減らして会話部分を際立たせたので、かなりシャープな印象になった。
ただ、心残りは、いまだ101話予告の京極氏の台詞を耳にしていないことである。そればかりは100話の初号までおあずけか、トホホ……。

◆12月1日（月）
101話のリテークカットが全てはめかわった。制作作業はほぼ終了である。初号は木曜に100話、金曜に101話という形で行われるらしい。

◆12月4日（木）
午前11時半より100話の初号。そして、101話予告の京極氏の声をやっと耳にする。
……悲願達成。
一方、企画にいた人達と明日初号の101話の話題をしていると、恐ろしいことに〝京極氏の次に、だれに鬼太郎のシナリオを頼むか？〟という話題が出てきた。
「こうなったら、次のシナリオは脚本家の☆☆☆に頼もう」
「いや、作家の×××や〇〇〇がいい」
（伏せ字に、それぞれのジャンルの超人気作家の名が当てはまる）
そ、そんなにちょくちょく出来るか〜〜⁉

◆12月5日（金）
昨日と同じく午前11時半より、101話の初号ついに、ついに完成したのだ。
鳥山石燕も水木世界も京極ワールドも〝必殺〟のパロディも……すべてを内包した「鬼太郎」が完成した。
制作に携わったスタッフの皆さん、京極先生、本当にお疲れさまでした。
そして次は、だれをゲストに迎えて作りましょうか？（おいおい）

「ゲゲゲの鬼太郎」第101話
「言霊使いの罠！」
スタッフ&キャスト

〈オープニングクレジット〉
企画
原田冬彦（フジテレビ）
木村京太郎（読売広告社）
プロデューサー 蛭田成一
原作
水木しげる
コミックボンボン
テレビマガジン
たのしい幼稚園
おともだち 連載（講談社）
製作担当 岡田将介
音楽 和田薫
主題歌
オープニング
「ゲゲゲの鬼太郎」
作詞 水木しげる
作曲 いずみたく
唄・編曲 憂歌団
エンディング
「イヤンなっちゃう節」
作詞 森雪之丞
作曲 岡本朗
編曲 憂歌団withHAKABA'S
唄 憂歌団
（wea japan）
キャラクターデザイン
総作画監督
荒木伸吾 姫野美智
美術デザイン 浦田又治
シリーズ・ディレクター
西尾大介
制作 フジテレビ
読売広告社
東映

〈エンディングクレジット〉
脚本 京極夏彦
声の出演
鬼太郎 松岡洋子
目玉の親父 田の中勇
ねずみ男 千葉 繁
砂かけ婆 山本圭子
ねこ娘 西村ちなみ
子なき爺 塩屋浩三
一反木綿 龍田直樹
祐子 前田このみ
淳 沼田祐介
翔太 松井摩味
ぬらりひょん 西村知道
朱の盆 郷里大輔
木場先生 坂本正吾
一刻堂 京極夏彦
協力 青二プロダクション
原画
八島善孝 内山まさゆき
竹田欣弘 木下和栄
小原太一郎 杉本光司
石原 哲 三柴直樹
動画
石川 績 西谷優子
背景
井上徹雄 中田 愛
阿部とし子 清水哲弘
デジタル彩色
加茂静佳 本郷義弘
島 綾子 井上 香
色指定 板坂泰江
デジタル合成
メディアビジョン
上坪亮樹
オフライン編集 片桐公一
録音 今関種吉
音響効果 今野康之
選曲 西川耕祐
記録 小川真美子
プロデューサー補佐
有原美千代
演出助手 田中雅史
製作進行 坂本憲生知
美術進行 高久 博
広報 為永佐知男
（フジテレビ）
録音スタジオ タバック
オンライン編集 TOVIC
協力 東映アカデミー
美術 松宮正純
作画監督 木下和栄
演出 角銅博之

THE KITARO

編集	第三編集局　田中利雄　入江潔
編集取材	入澤誠　竹内典子
編集協力	金田益実　平林重雄（関東水木会）
函・表紙原画	水木しげる　東映動画
函・表紙デザイン	羽良多平吉&エディックス
本文デザイン	鹿島幸子
写真撮影	奥村健太郎　神谷美寛　講談社写真部
協力	水木プロダクション　フジテレビ　読売広告社　東映動画
取材・資料協力	水木プロダクション　青二プロダクション
	東映動画（清水慎治　蛭田成一　堀毛敦子　有原美千代）
	憂歌団オフィス　ワーナーミュージック・ジャパン



N.D.C.726　160p＋42p　22cm

水木（みずき）しげる&京極夏彦（きょうごくなつひこ）

ゲゲゲの鬼太郎（きたろう）

The KITARO

水木しげるvs.京極夏彦「ゲゲゲの鬼太郎解体新書」

別冊/オリジナルシナリオ付　京極夏彦「言霊使いの罠！」

1998年3月13日　第1刷発行

発行者　野間佐和子

発行所　株式会社　講談社

〒112-8001　東京都文京区音羽2-12-21

電　話　編集部　東京　03-5395-3717

販売部　東京　03-5395-3608

印刷所　共同印刷株式会社

製本所　大口製本印刷　株式会社

ISBN4-06-330048-X（三編B）

